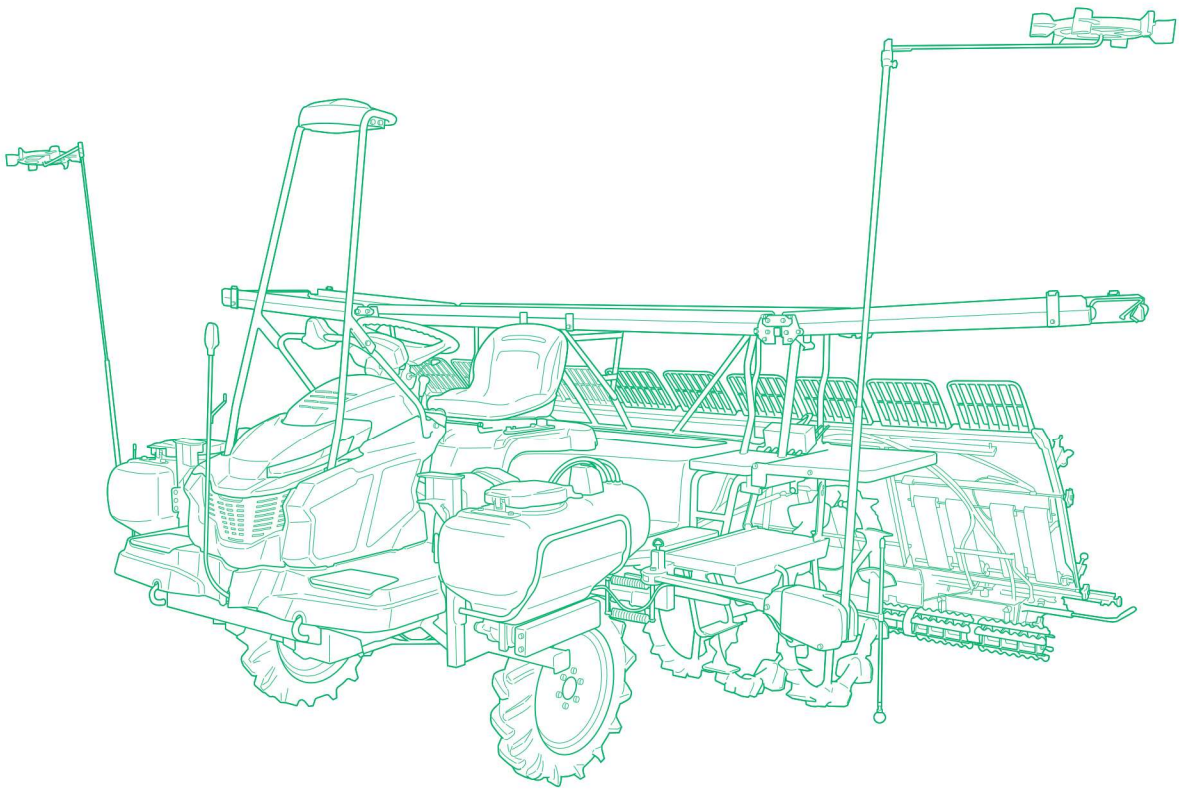
乗用田植機
取扱説明書

LRA10D



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

田植機重要ポイント

1. ほ場まで移動するときは、
   トラック等に載せて運搬します。

2. 燃料を補給するときは、
   火気厳禁とします。
   エンジンを停止し冷機状態で行います。

3. エンジンを始動するときは、
   停車ペダルを「ロック」、主変速レバーを「止」で行います。
   周囲の状況を確認してから行います。

4. トラックへ積み降ろしするときは、
   強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用します。
   スピードを落としアユミ板の中央を上り、下りします。

5. ほ場へ出入りするときは、
   スピードを落としあぜに直角に走行します。

6. 田植機や作業機を点検整備するときは、
   必ず平たんな広い場所で、油圧ロックをし、エンジンを止めます。

7. 補助者と共同作業を行うときは、
   合図をし状況を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

直進および旋回アシスト機能重要ポイント

直進および旋回アシスト機能付き田植機は、運転者が前方、周囲に注意し安全確認を行うことを前提に、ほ場内での直進植付作業および旋回作業をアシストするものであり、運転者に代わって本製品が責任を持って安全な自動運転を行うものではありません。

1. 衝突や転倒の恐れがあるため、作業中は必ず着座して、
   前方に注意しながら作業を行います。

2. 直進アシスト機能の点検整備をするときは、
   必ず安全な場所でエンジン停止して行います。

3. 補助者と共同作業を行う時は、合図をし状況を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

正しく作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも、本文の中で作業上ぜひ守っていただきたい事項を⚠を付して説明のつどとり上げております。
よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願いいたします。

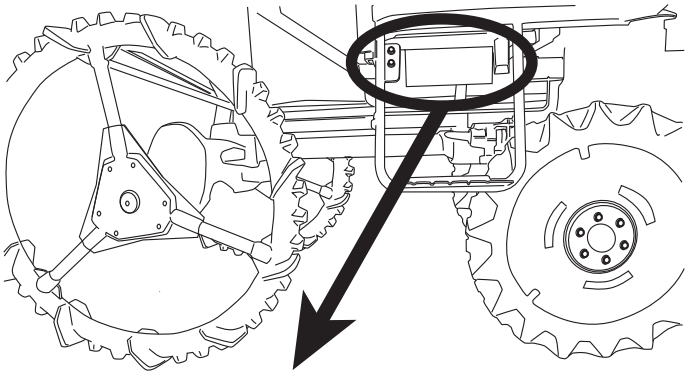
重要なお知らせ

- このたびは、三菱田植機をお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
- 本商品は、稲の苗を植付けるための作業機として使用してください。
  改造や使用目的以外の作業はしないでください。
  改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。
  （詳細は保証書をご覧ください。）
- 三菱マヒンドラ農機株式会社（以降当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、三菱田植機（以降田植機と記す）を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- この田植機の取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記載事項や田植機に表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
  よって、田植機の操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載および田植機本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては十分な配慮が必要です。
- 田植機の性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいうまでもありませんが、他方、日常の取り扱い、整備いかんによることも、また看過できません。
- この田植機は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。この田植機を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外の田植機の使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。
- 本田植機を譲渡または貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を田植機に添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容は田植機の改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本田植機とこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は、田植機内部の説明を容易にするために省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は版権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買いあげ先」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買いあげ先」へお問い合せください。

型式と装備内容について

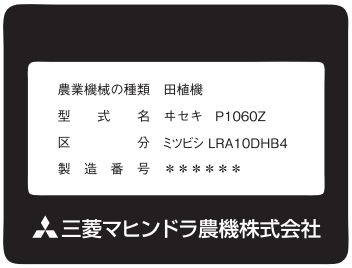
この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分の田植機について併記しています。
お買いあげいただいた田植機の型式名・区分を機体に貼付してある銘板で確認され、該当部分をお読みください。

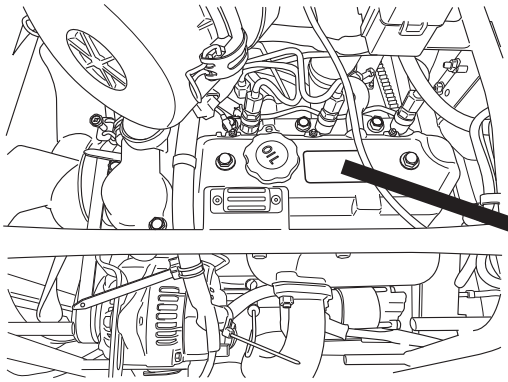
■銘板の位置



田植機右側面

〔販売型式名と製造番号〕





〔エンジン番号〕



LRA_0001

■装備内容

		基本型式	前　輪	補助車輪	植付部		施肥機
		D	4	HB	ー	W	P
エンジン	ディーゼル E3112 （最大　24.5PS）	○					
燃料タンク 容　　量	33L	○					
主 変 速 レ バ ー	DXシフトグリップ	○					
ミラクルZターン		○					
前輪サスペンション		○					
前　　輪	広幅ワイドタイヤ		○				
後　　輪	湿田用太リム （12枚ラグ）	○					
補助車輪	外付補助車輪			○			
	内付補助車輪			○			
ピタ植え		○					
ピタよせ		○					
標準新型シート		○					
シートスライド		○					
電動あぜクラッチ		○					
エンジン出力制御ダイヤル		○					
直進&旋回アシスト機能		○					
条　間	30cm				○		
	33cm					○	
植付株数 （株/1坪）	37,42,50,60,70,80				○		
	35,40,45,55,65,75					○	
横送り回数	20, 24, 28				○	○	
DXロータ					○	○	
補助苗枠	14枚	○					
側条施肥	ペースト						○

警告表示について

本田植機を正しくお使いいただくために、この取扱説明書の指示に従って操作・保守を行ってください。また、田植機で危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルを貼付しています。取扱説明書および警告ラベルでは、危険の程度を表す方法として次の表示で区分しています。

■表示の説明

⚠ 危 険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警 告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注 意	その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれがあるものを示します。
注 意	その警告に従わなかった場合、装置の破損、故障のおそれがあるものを示します。
補 足	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

■図記号の意味

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味で区分しています。

⚠	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。 （右図の場合は爆発注意）	（例）
⊘	禁止行為	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。 （右図の場合は火気厳禁）	（例）
❗	強制行為	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。 （右図の場合はメガネ着用）	（例）

目　次

重要なお知らせ …… i
型式と装備内容について …… ii
警告表示について …… iv
目　次 …… v

1. 使用上のポイント

1.1　移動走行について …… 1
1.2　使用上のご注意 …… 1
1.2.1　運転者の条件 …… 1
1.2.2　作業をする前に …… 2
1.2.3　エンジンの始動と発進 …… 3
1.2.4　走行するときは …… 4
1.2.5　トラックへの積み･降ろし …… 7
1.2.6　作業中は …… 9
1.2.7　夜間作業の禁止について …… 10
1.2.8　点検･整備 …… 10
1.2.9　格納･保管時は …… 13
1.3　電装関係を取り扱うときは …… 14
1.3.1　電気配線点検時の注意事項 …… 14
1.3.2　バッテリ取り扱い時の注意事項 …… 15
1.3.3　ブースタケーブル使用時の注意事項 …… 16
1.3.4　バッテリ液の注意事項 …… 17
1.4　直進および旋回アシスト機能とは …… 17
1.5　使用上のご注意 …… 18
1.5.1　直進および旋回アシスト機能使用時は … 18
1.6　警告ラベルについて …… 18
1.7　警告ラベル貼付位置 …… 19
1.7.1　走行部 …… 19
1.7.2　植付部 …… 21
1.7.3　GPSアンテナ部 …… 21

2. 保証とサービスについて

2.1　商品の保証 …… 22
2.2　サービスネット …… 22
2.3　補修用部品供給年限について …… 22

3. 各部の名称とはたらき

3.1　各部の名称 …… 23
3.2　計器およびスイッチのはたらき …… 27
3.2.1　スイッチのはたらき …… 27
3.2.2　モニタパネルのはたらき …… 33
3.2.3　直進アシストモニタ …… 54
3.3　レバー、ペダル、シート関係の取り扱い …… 55
3.3.1　主変速レバー …… 55
3.3.2　DXシフトグリップ(主変速レバーに付いているグリップ) …… 56
3.3.3　アクセルペダル …… 57
3.3.4　副変速レバー …… 57
3.3.5　駐車ブレーキペダル …… 58
3.3.6　ブレーキペダル …… 58
3.3.7　ロック解除ペダル …… 59
3.3.8　前輪デフロックペダル …… 59
3.3.9　座席の調節 …… 60
3.3.10　チルトレバー …… 60
3.3.11　株数切替レバー …… 61
3.3.12　株数副変速レバー …… 61
3.3.13　あぜクラッチスイッチ …… 62
3.3.14　苗取量調節レバー …… 62
3.3.15　植付深さ調節レバー …… 62
3.3.16　横送りレバー …… 63
3.3.17　苗押え …… 63
3.3.18　苗ストッパ …… 64
3.3.19　ロータ …… 64
3.3.20　ロータクラッチケース …… 65
3.3.21　ロータ伝動軸 …… 65
3.3.22　ロータ伝動ケース …… 65

4. 作業前点検

…… 66
4.1　給油、注油箇所の点検と補給 …… 67
4.1.1　燃料 …… 68
4.1.2　エンジンオイル …… 69
4.1.3　冷却水 …… 71
4.1.4　チェンジミッションオイル …… 72
4.1.5　植込杆 …… 73
4.1.6　リードメタル …… 73
4.1.7　グリース注入箇所（グリースニップル）…… 74
4.1.8　オイル注油箇所 …… 75

5. 運転のしかた

5.1　エンジンの始動と停止のしかた …… 79
5.1.1　エンジンの始動 …… 79
5.1.2　エンジンの停止 …… 81
5.1.3　燃料のエアー抜きのしかた …… 81
5.2　発進、停止、駐車のしかた …… 82
5.2.1　発進のしかた …… 82
5.2.2　停止のしかた …… 83
5.2.3　駐車のしかた …… 84
5.3　移動、運搬のしかた …… 85
5.3.1　走行前の準備 …… 85
5.3.2　各部の収納･セットのしかた …… 87
5.3.3　トラックへの積み･降ろしのしかた …… 99
5.3.4　運搬中の固定方法 …… 102
5.4　ほ場への出入りのしかた …… 104
5.4.1　ほ場への入りかた …… 105
5.4.2　ほ場からの出かた …… 106

6. 植付作業のしかた

6.1　ほ場の準備 …… 107
6.1.1　代かき …… 107
6.1.2　水深 …… 108
6.1.3　きょう雑物 …… 108
6.2　植付作業前の準備 …… 109
6.2.1　植付株数(株間)の決めかた … 109
6.2.2　株数副変速レバーと株数切替レバーの切り替えかた …… 111
6.2.3　植付深さの調節 …… 113
6.2.4　横送り量の調整 …… 114
6.2.5　苗取量の調節 …… 115
6.2.6　油圧感度調節 …… 116
6.2.7　抵抗棒の調節 …… 117
6.2.8　整地板の調節 …… 118
6.3　植付作業の手順 …… 119
6.3.1　枕地のとりかた …… 122
6.3.2　Ｚターンを使った旋回のしかた …… 123
6.3.3　Ｚターンを使わない旋回のしかた …… 124
6.3.4　ミラクルZターンを使った旋回のしかた …… 125
6.3.5　電動マーカの使いかた …… 126
6.3.6　電動マーカ両出しのしかた … 126
6.3.7　バックリフトの使いかた …… 127
6.3.8　ピタ植えの使い方 …… 127
6.3.9　苗の補給 …… 128
6.3.10　苗押えの調節 …… 130
6.3.11　ロータの動かしかた …… 131
6.3.12　ロータの高さ調整 …… 131
6.3.13　あぜクラッチの操作方法 …… 132
6.3.14　植えじまい …… 133
6.3.15　残り苗の取り出し …… 134
6.3.16　安全クラッチが作動したとき 135
6.4　直進および旋回アシスト機能の準備 ‥ 136
6.5　直進アシスト機能の使い方 …… 138

6.6　旋回アシスト機能(U ターン)
の使い方 …… 141
6.7　旋回アシスト機能(バックターン)
の使い方 …… 144
6.8　直進および旋回アシスト使用時の安心
機能 …… 147
6.8.1　直進アシスト誤操作防止機能 · 147
6.8.2　手動運転優先機能 …… 148
6.8.3　GPS ロスト時自動停車機能 ·· 148
6.8.4　ほ場逸脱防止機能 …… 148
6.8.5　あぜ接近警報およびあぜ際
停車制御機能 …… 149

7. 点検整備

7.1　定期的な点検整備 …… 150
7.1.1　点検、給油、調整一覧表 …… 151
7.1.2　エンジンオイルの交換 …… 154
7.1.3　エンジンオイルフィルタの
交換 …… 155
7.1.4　冷却水の点検 …… 156
7.1.5　ラジエータ …… 157
7.1.6　ラジエータホース …… 159
7.1.7　エアクリーナエレメントの
洗浄 …… 159
7.1.8　油圧オイルフィルタの交換 ·· 160
7.1.9　リヤミッションオイルの交換 161
7.1.10　各種ベルトの点検と
調整 …… 162
7.1.11　バッテリの点検と交換 …… 163
7.1.12　ヒューズの交換 …… 165
7.1.13　スローブローヒューズの交換 166
7.1.14　植付爪の点検･交換 …… 167
7.1.15　植込フォークの点検･交換 … 168
7.1.16　前輪広幅ワイドタイヤの
点検･調整(4型) …… 168
7.1.17　後輪車輪の点検 …… 169

8. 格納時の手入れ

8.1　日常の格納 …… 170
8.2　長期格納 …… 172

9. 不調時の処置

9.1　不調と処置 …… 174
9.2　ロータ仕様機の不調と処置 …… 176
9.3　コントローラによる設定変更と
異常表示について …… 177

10. 付表

10.1 推奨潤滑油一覧表 …… 181
10.2 主要諸元 …… 182
10.3 ロータ仕様 …… 183
10.4 機能装備一覧表 …… 184
10.5 標準付属品一覧表 …… 185
10.6 主な消耗部品一覧表 …… 186
10.7 注文部品一覧表 …… 190

11. 著作権について

11.1 著作権について …… 192

1. 使用上のポイント

本章では、田植機を効率よく正しくお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しています。十分に熟読されて、正しい作業を行ってください。

1.1 移動走行について

この田植機は、道路運送車両の保安基準に適合していませんので、法令により公道を走行できません。従って、公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

1.2 使用上のご注意

記号の説明については「警告表示について」の説明を参照してください。

1.2.1 運転者の条件

⚠ 警 告

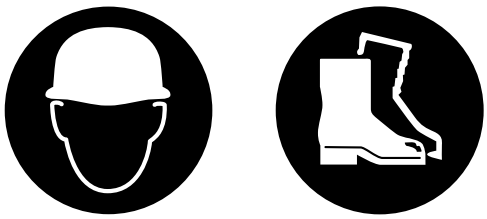
こんなときは、運転をしないでください。
- **過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき**
- **18才未満の人**
- **妊娠しているとき**
- **酒を飲んだとき**

※ 誤操作しやすく思わぬ事故の原因になります。



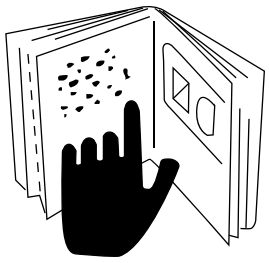
作業に適した服を着用してください。
はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。
ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具等をつけて、だぶつきのない服装をしてください。

※ 機械に巻き込まれたり、すべって転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 注 意

機械を貸すときは正しい使い方を指導してください。
取り扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。



1.2.2　作業をする前に

⚠ 危険

燃料を補給するときは、くわえタバコ等の火気は厳禁です。

※　守らないと、火災の原因となります。



⚠ 注意

無理のないゆとりある作業計画をたててください。

※　無理な作業計画は、あせり等から傷害事故を引き起こすことがあります。



作業する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検は必ず行ってください。

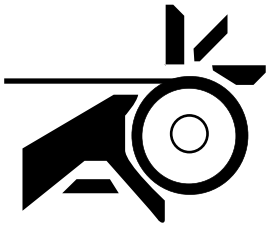
特に、ブレーキは、忘れないでください。

※　点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり走行中や作業中の傷害事故につながります。



ステップや保護カバー類が外されたままになっていないか確認してください。

※　外したままエンジンをかけたとき、むき出しになった回転部や過熱部が、傷害事故の原因となります。



1.2.3 エンジンの始動と発進

⚠ 警 告

室内で運転するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。

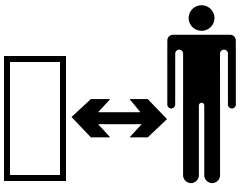
※ 換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



発進するときは、周囲の状況を確認して、ゆっくり発進してください。

特に子供に注意してください。

※ 急発進すると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、ブレーキペダル、主変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の状況を確認してから行ってください。

※ 確認を怠ると、急発進して傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1.2.4 走行するときは

⚠ 警 告

田植機を草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、エンジンを高回転にしないでください。

※ 排気管の熱や排気ガスにより、ワラ等に着火し、火災の原因となるおそれがあります。



ステアリング（ハンドル）やブレーキは、正しく操作し、わき見運転や片手運転をしないでください。

※ 守らないと、衝突、転倒、転落事故を引き起こすおそれがあります。



ブレーキペダルを踏むときは、まず主変速レバーでエンジン回転を低速にしてから、踏み込んでください。

※ 守らないと、衝突、転倒、転落事故を引き起こすおそれがあります。



田植作業以外のときは、デフロックペダルを使用しないでください。

※ 使用すると衝突、転落事故を引き起こすおそれがあります。



田植作業以外のときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。またブレーキは必ず左右同時にきくよう定期的に点検してください。

※ 連結していないと、ブレーキが片ぎきして転倒事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警 告

田植機の上や連結部には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。

※ 守らないと、人が転落するおそれがあります。



高速で急旋回しないでください。

※ 急旋回すると転倒事故につながるおそれがあります。



凸凹の激しい場所、地面の軟弱な場所、傾斜地等での高速運転はしないでください。地面状況に応じた適切な速度で走行してください。

※ 守らないと、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。



坂道では、急な旋回をしないでください。

※ 急旋回すると、転倒事故の原因となります。



⚠ 警 告

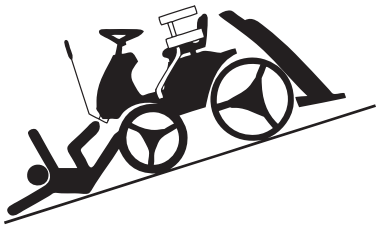
坂道では決して、副変速レバーを「PTO」位置にしないでください。
坂道を上るときは、低速でゆっくりと、下るときは、エンジンブレーキをかけてください。
※ 守らないと、急加速して転倒事故を引き起こすおそれがあります。



側溝のある農道や両側が傾斜している農道を走行するときは、速度を落とし十分注意して走行してください。
※ 守らないと、路肩が崩れて転倒するおそれがあります。

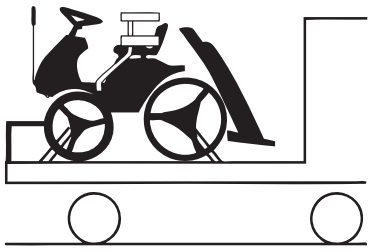


田植機から離れるときは、エンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜き取り、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。また、止めるところは、地面の硬い広くて平坦な場所を選んでください。
※ 田植機が、自然に動き出したりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 注 意

ほ場等への移動は、必ずトラック等に載せて移動してください。
この田植機は、道路運送車両の保安基準に適合していませんので、法令により公道は走行できません。
※ 道路を走行することは違法行為になり交通事故を引き起こす危険があります。

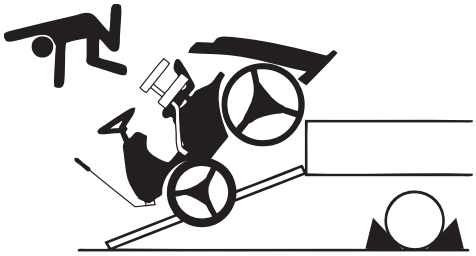


1.2.5　トラックへの積み・降ろし

⚠ 警 告

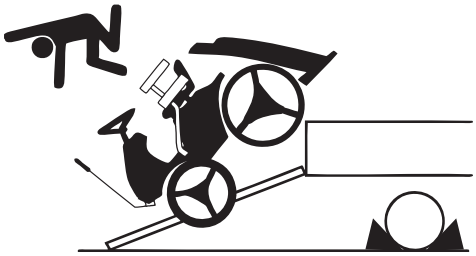
積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速を「1速」または［R］位置にし、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行ってください。

※　守らないと、積み込みや積み降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。



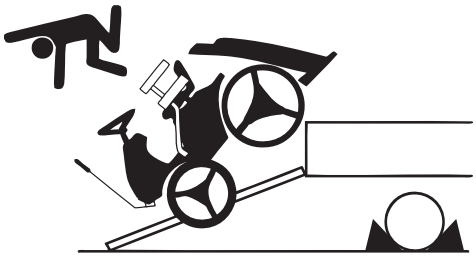
積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、積み込みは「後進」、積み降ろしは「前進」で､ゆっくり行ってください。

※　守らないと、転落事故の原因となります。



ステアリング（ハンドル）を左右に大きくきったり、ブレーキペダルを踏み込んだりしないでください。

※　守らないと、田植機が横ブレして、転落事故の原因となります。

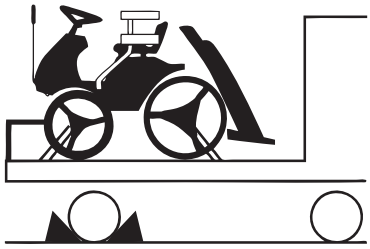


⚠ 注 意

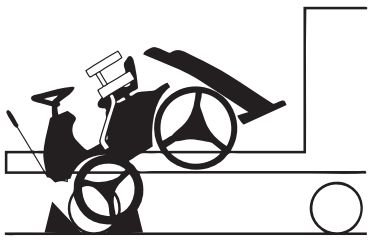
誘導者を付けて、周囲の状況を十分確認して行ってください。
田植機の直前や直後には、絶対に立たないでください。
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。



トラック等で運搬するときは必ずロープ等で荷台に固定してください。
※ 守らないと、田植機が移動し転落事故の原因となります。



運搬中は、不必要な急発進・急旋回・急ブレーキはしないでください。
※ 守らないと、田植機が移動し転落事故の原因となります。



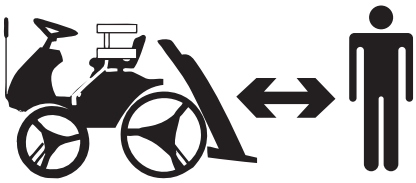
1.2.6 作業中は

気象条件等に注意して、作業実施の判断、作業方法や装備の選択に十分配慮してください。

⚠ 警 告

作業中は、作業者以外の人（特に子供）を田植機に近づけないでください。

※ 田植機自体や、作業による飛散物等で、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、お互いに合図してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故の原因となります。



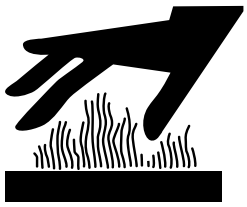
あぜの高さが高いところでのほ場の出入りや、やむを得ずあぜを横断する時は、かならずアユミ板を使用してください。

※ 守らないと、スリップや転倒する恐れがあり、傷害事故の原因となります。



運転中は、植付爪・苗送り等の回転部や、エンジン・マフラ等の過熱部、バッテリ端子等の通電部等には手を触れないでください。

※ 傷害事故の原因となります。



ピタ植え、ピタよせ作動時、副変速レバーを植付、移動に入れないでください。

※ 急に走行し事故を引き起こすおそれがあります。

1.2.7 夜間作業の禁止について

⚠ 警 告

夜間作業は危険なので行わないでください。

※ この田植機は、作業灯は装備していませんので、暗くなるまで作業をしていると、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。



1.2.8 点検・整備

⚠ 警 告

点検・整備するときは、マフラ等の過熱部分のゴミ・ホコリは完全に取り除いておいてください。

※ 怠ると、作業中に発火して火災を引き起こすおそれがあります。



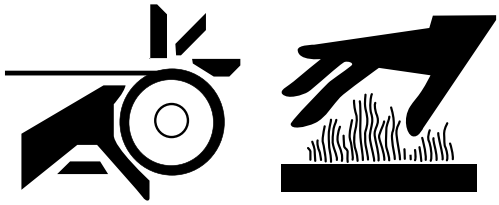
点検・整備をするときは、平たんな広い場所で行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



点検や整備をするときは、十分な明るさを確保してください。

※ 暗い所で行っていると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



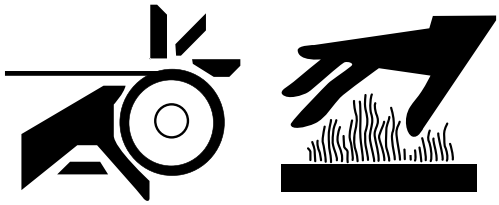
⚠ 注 意

カバーを開ける時はエンジンを停止してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

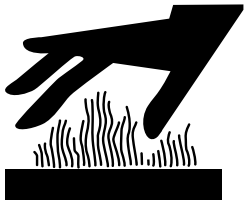
点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。

※ 外したままエンジンをかけたとき、むき出しになった回転部や過熱部が、傷害事故の原因となります。

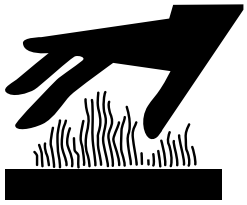


⚠ 警 告

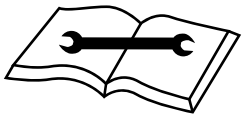
エンジンを切ってすぐに点検・整備をしないでください。
エンジン等の過熱部分が完全に冷えてから行ってください。
※ 守らないと、やけど等の原因となります。



ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。
運転停止後しばらくたってよく冷えてから、注意しながら開けてください。
※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。



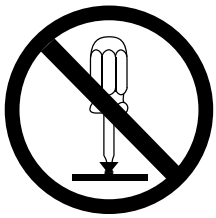
点検・整備するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、植付部を降ろすか植付部の油圧を「油圧ロック」位置にしてから行ってください。
※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。



⚠ 警告

指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は、絶対にしないでください。

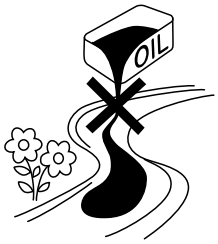
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。



⚠ 注意

機械から廃液を抜く場合は、十分な容量がある容器に受けてください。
地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
廃液、燃料、冷却水（不凍液）、溶剤フィルタ、バッテリ、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、健康被害を引き起こすおそれがあります。

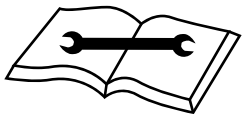


傷害や火災のおそれがある場合は、救急箱や消火器を準備してください。

※ 万一、傷害や火災が起きても大事に至ることを防ぎます。

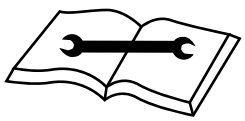
点検・整備を行うときは、適正な工具を正しく使用して行ってください。

※ 守らないと、整備中の傷害事故や整備不良による傷害事故を引き起こすおそれがあります。



取扱説明書に従って定期点検を実施してください。

※ 正しく効率的な作業が行え、傷害事故の防止になります。



1.2.9 格納・保管時は

⚠ 危険

作業が終了して、シートカバー等を田植機にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。



長期格納する場合は、バッテリケーブルを外しておいてください。

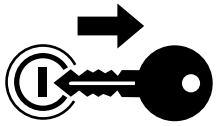
※ 外しておかないと、ネズミ等がかじって、ケーブルがショートし、発火して火災の原因となります。



⚠ 警告

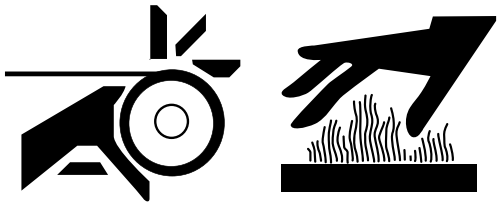
保管時は、メインスイッチのキーを抜いてください。

※ 守らないと、いたずら等で重大な傷害事故になることがあります。



田植機の格納場所は、十分な明るさを確保してください。

※ 点検や移動等のとき、暗い所で行っていると傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1.3　電装関係を取り扱うときは

1.3.1　電気配線点検時の注意事項

⚠ 危 険

バッテリ、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミ等は、取り除いてください。

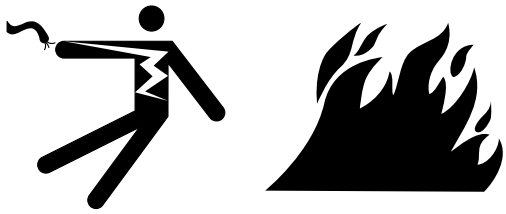
※　これを怠ると火災の原因となります。



⚠ 警 告

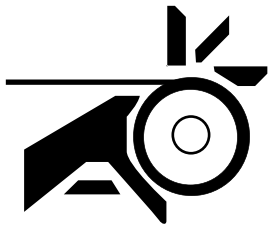
傷んだ配線は、すぐに交換・修理してください。

※　配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、ショート（短絡）・漏電の原因となり火災事故や感電事故になるおそれがあります。



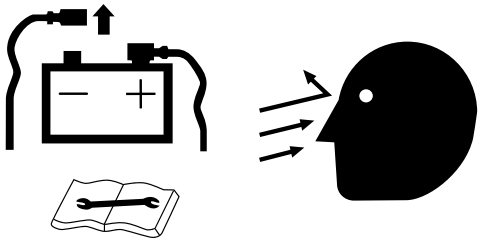
電気配線の点検は、必ずエンジンを停止して行ってください。

※　エンジンをかけた状態での点検は、手や衣服を回転部に巻き込まれたりして、傷害事故の原因となります。



接続部の点検は、メインスイッチを「切」にし、バッテリの⊖コードを外して行ってください。

※　これを怠ると、火花がとんだり、感電したり傷害事故を引き起こすおそれがあります。

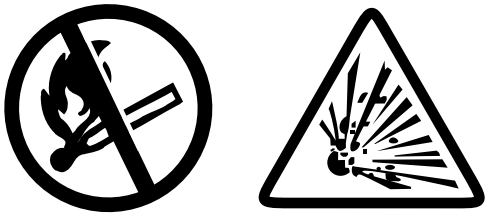


1.3.2 バッテリ取り扱い時の注意事項

⚠ 危険

ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また充電は、通風のよいところで行ってください。

※ 守らないと、引火爆発の原因となります。



バッテリ液を身体や衣服に付けないようにしてください。

バッテリ液（電解液）は希硫酸で劇物です。

※ 失明や、やけどをするおそれがあります。

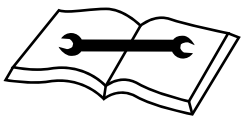
もし、目・皮膚・衣服に付いたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。



⚠ 警告

バッテリの脱着および点検をするときは、エンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。

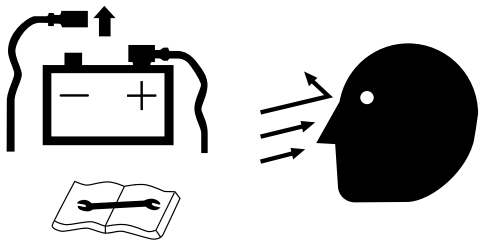
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 注意

バッテリコード（端子）を取り外すときは、⊖のコードを先に取り外してください。バッテリコードを取り付けるときは、⊕コードを先に取り付けてください。

※ 守らないと、火花がとび傷害事故のおそれがあります。



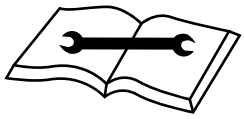
1.3.3　ブースタケーブル使用時の注意事項

ブースタケーブル使用時には、危険のないように取り扱ってください。

⚠ 警 告

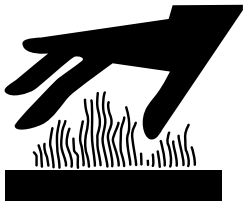
ブースタケーブル接続前に、エンジンを停止してください。

※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。

※　通電容量が小さすぎると、ブースタケーブルが熱をもったり、焼損し、傷害事故のおそれがあります。



1.3.4 バッテリ液の注意事項

バッテリ液量の点検は作業前に必ず実施してください。

⚠ 危 険

バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電しないでください。

※ バッテリの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。



1.4 直進および旋回アシスト機能とは

この田植機で使用している直進および旋回アシスト機能とは、GPS（Global Positioning System）の電波を利用し、現在地の測定、基準線の作成を行った後直進アシスト機能を「入」にした位置から、基準線に対して平行に走行するようにステアリング操作を制御する直進アシスト機能と直進アシスト機能を用いて、自動走行を行ったあと手動であぜに近づき、旋回アシスト機能を「入」にした位置から、自動で旋回を開始し、旋回終了付近からGPS（Global Positioning System）の電波を利用し旋回前に取得しておいた目標線に向かってステアリング操作を制御する機能を備えた機能です。安全に作業するために次の事柄を理解し必ず守ってください。

- 直進および旋回アシスト田植機は、運転者が前方、周囲に注意し安全確認を行うことを前提に、ほ場内での直進植付作業および旋回条合わせ作業をアシストするものであり、運転者に代わって本製品が責任を持って安全な自動運転を行うものではありません。よって、作業中は必ず運転席に座り、前方に注意しながら作業を行ってください。また、緊急時には手動でステアリング操作を行い危険を回避してください。(直進および旋回アシスト機能が「入」の状態でも手動でのステアリング操作は可能です。)
- 直進および旋回アシスト田植機に搭載されている安心機能(☞147ページ)は、ほ場外であやまって直進および旋回アシスト機能を使用したり、あぜに衝突、のりあげたりすることにより事故が発生することを防止する目的で設計されていますが、あらゆる状況においてこれらの事故の発生を防ぐことを保証するものではありません。作業中は、常に周囲やあぜとの距離に注意しながら運転者が、加減速、停車操作を行い安全な作業を行ってください。

1.5　使用上のご注意

1.5.1　直進および旋回アシスト機能使用時は

⚠ 警 告

作業中は必ず運転席に座ってください。直進および旋回アシスト機能使用時に運転席から立ち上がると、急な揺れにより転倒したり機体から落下する恐れがあります。

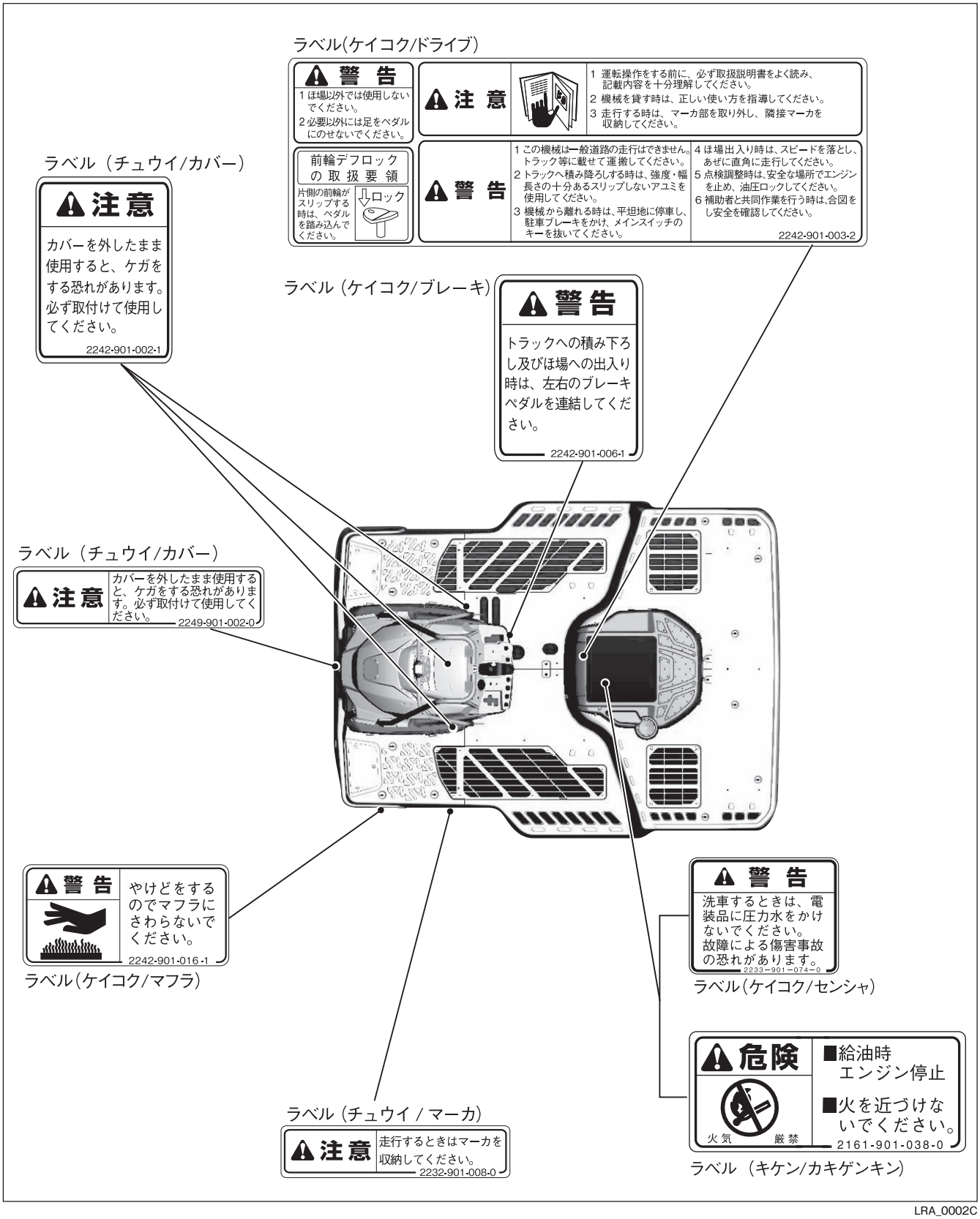
作業中は周囲や前方に注意して作業してください。注意を怠ると障害物やあぜに衝突する恐れがあります。
緊急時は手動でハンドル操作を行い危険を回避してください。(直進および旋回アシスト機能「入」の状態でも手動でのハンドル操作は可能です。)
下記のような条件では、直進および旋回アシスト機能を使用せず、手動運転で作業を行ってください。
直進および旋回アシスト機能と安心機能が本来の機能を発揮できないことがあります。
●ほ場内に人がいる場合。
●ほ場が変形している場合。
●ほ場のあぜが崩れやすい場合。
●ほ場内に障害物がある場合。
●周り植えを行う場合。

1.6　警告ラベルについて

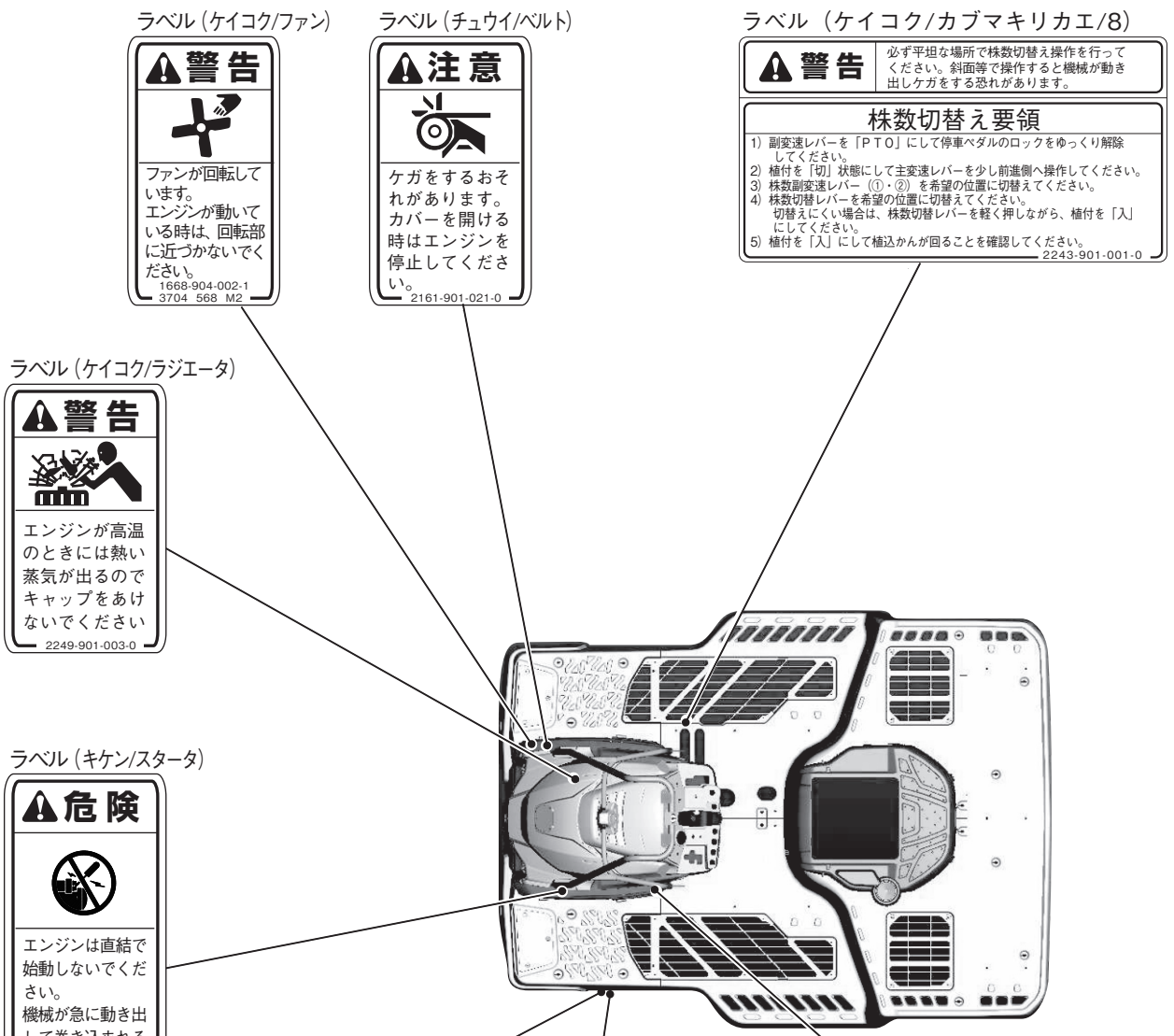
- 本田植機には、正しく作業をしていただくため、警告ラベルが貼付してあります。必ずよく読み、これらの注意に従ってください。
- 警告ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。警告ラベルは、お買いあげ先へご注文ください。
- 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
- 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に警告ラベルをお買いあげ先へご注文ください。
- ラベルには、洗車時に直接圧力水をかけないでください。

1.7 警告ラベル貼付位置

1.7.1 走行部

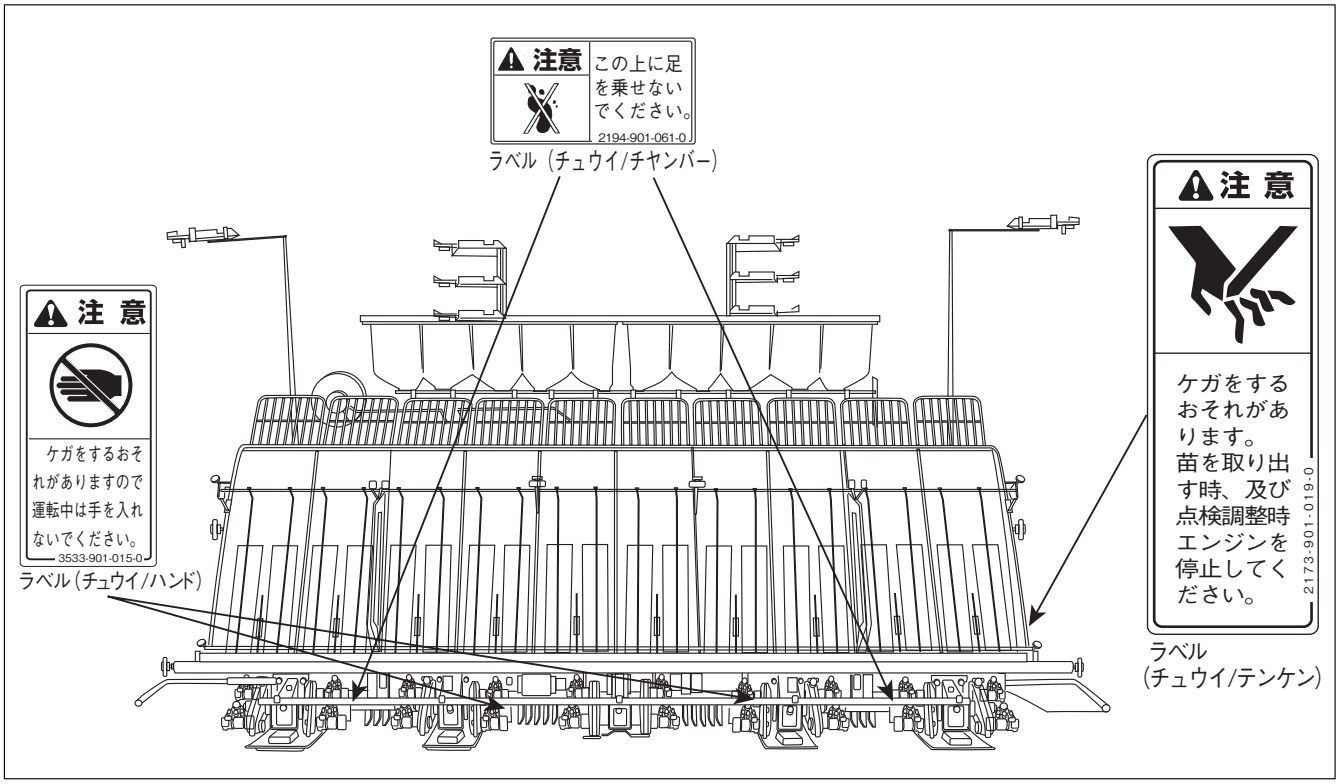


LRA_0002C


ラベル（ケイコク/ファン）
警告
ファンが回転しています。
エンジンが動いている時は、回転部に近づかないでください。
1668-904-002-1
3704 568 M2
ラベル（チュウイ/ベルト）
注意
ケガをするおそれがあります。
カバーを開ける時はエンジンを停止してください。
2161-901-021-0
ラベル（ケイコク/カブマキリカエ/8）
警告
必ず平坦な場所で株数切替え操作を行ってください。斜面等で操作すると機械が動き出しケガをする恐れがあります。
株数切替え要領
1) 副変速レバーを「PTO」にして停車ペダルのロックをゆっくり解除してください。
2) 植付を「切」状態にして主変速レバーを少し前進側へ操作してください。
3) 株数副変速レバー（①・②）を希望の位置に切替えてください。
4) 株数切替レバーを希望の位置に切替えてください。
切替えにくい場合は、株数切替レバーを軽く押しながら、植付を「入」にしてください。
5) 植付を「入」にして植込かんが回ることを確認してください。
2243-901-001-0
ラベル（ケイコク/ラジエータ）
警告
エンジンが高温のときには熱い蒸気が出るのでキャップをあけないでください
2249-901-003-0
ラベル（キケン/スタータ）
危険
エンジンは直結で始動しないでください。
機械が急に動き出して巻き込まれる危険があります。
2249-912-009-0
注意
1 バッテリ端子を取り外す時は、メインスイッチ『切』にし、バッテリの⊖側から取り外してください。
2 取り付ける時は、バッテリの⊕側から取り付けてください。
バッテリ取扱い上の注意
1 エンジン運転中は、バッテリ端子を外さないでください。
2 バッテリ端子を外したままブースタケーブルで他のバッテリと接続しないでください。
上記取扱いを誤ると、電装品が破損します。
2161-901-028-2
ラベル（チュウイ/バッテリ）
火気禁止 メガネ着用 こども禁止 硫酸注意 説明書熟読 爆発注意
危険DANGER KEEP SPARKS, FLAME, CIGARETTES AWAAY.
ELOIGNEZLES ÉTINCELLES, FLAMME, CIGARETTES.
（バッテリに貼付）
警告
ピタ植え、ピタよせ作動時、副変速レバーを植付、移動に入れないでください。
急に走行し事故を引き起こす恐れがあります。
2242-901-005-1
ラベル（ケイコク/ピタウエ）

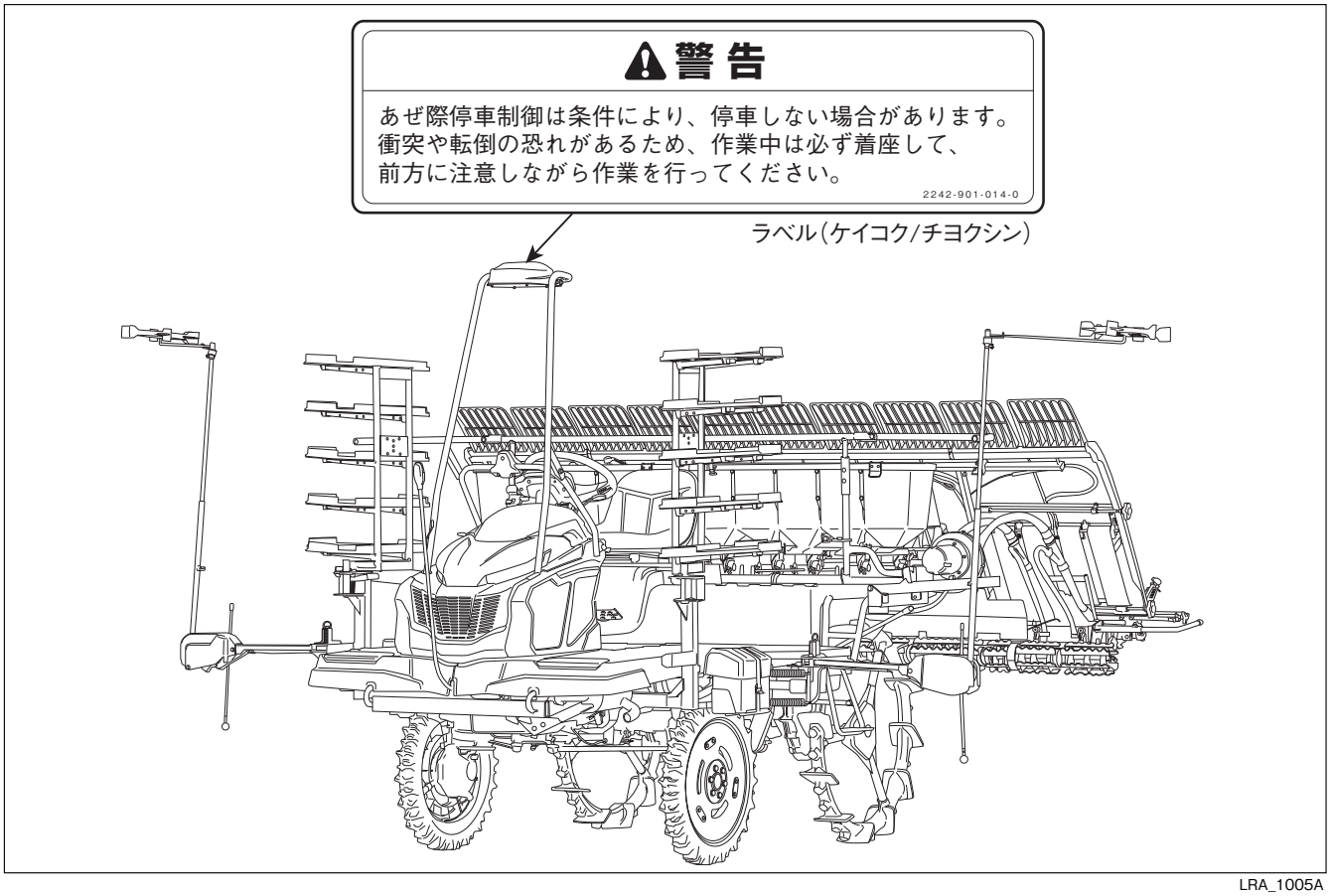
LRA_0003

1.7.2 植付部



LRA_1004A

1.7.3 GPSアンテナ部



LRA_1005A

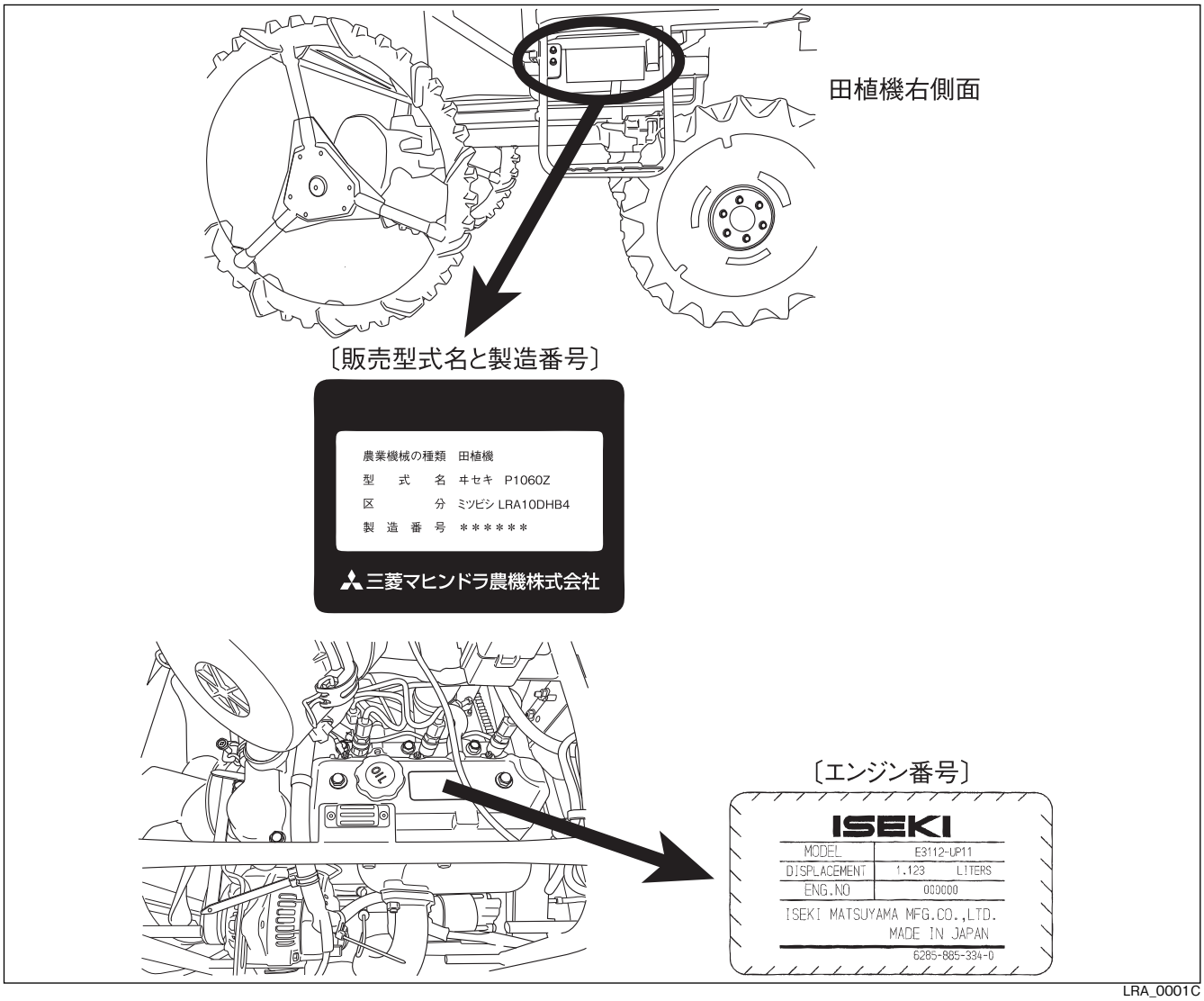
2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証

この商品には、三菱保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

2.2 サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命はお買いあげ先へお気軽にご相談ください。
その際は、
(1) 販売型式名と製造番号
(2) エンジン型式とエンジン機関番号
をあわせてご連絡ください。



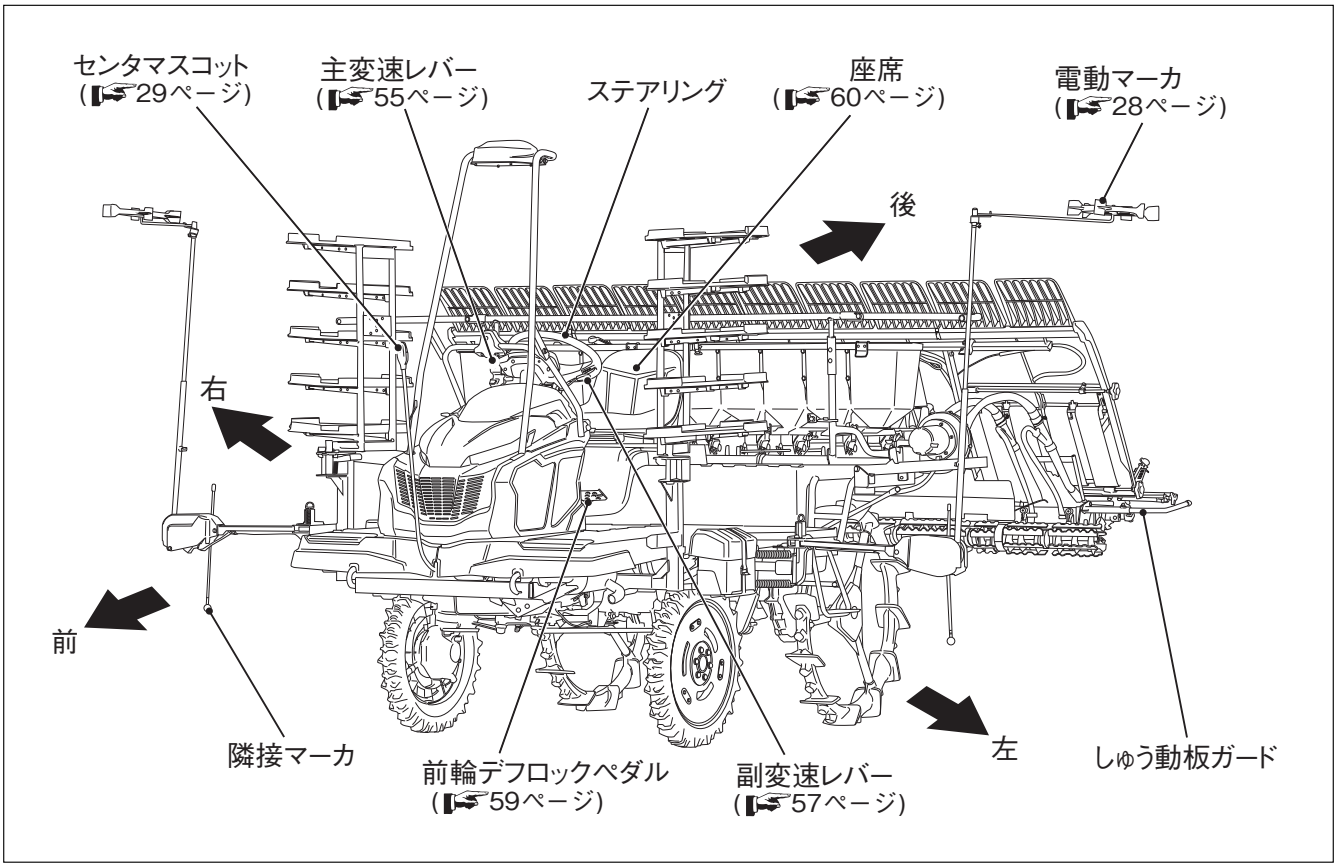
LRA_0001C

2.3 補修用部品供給年限について

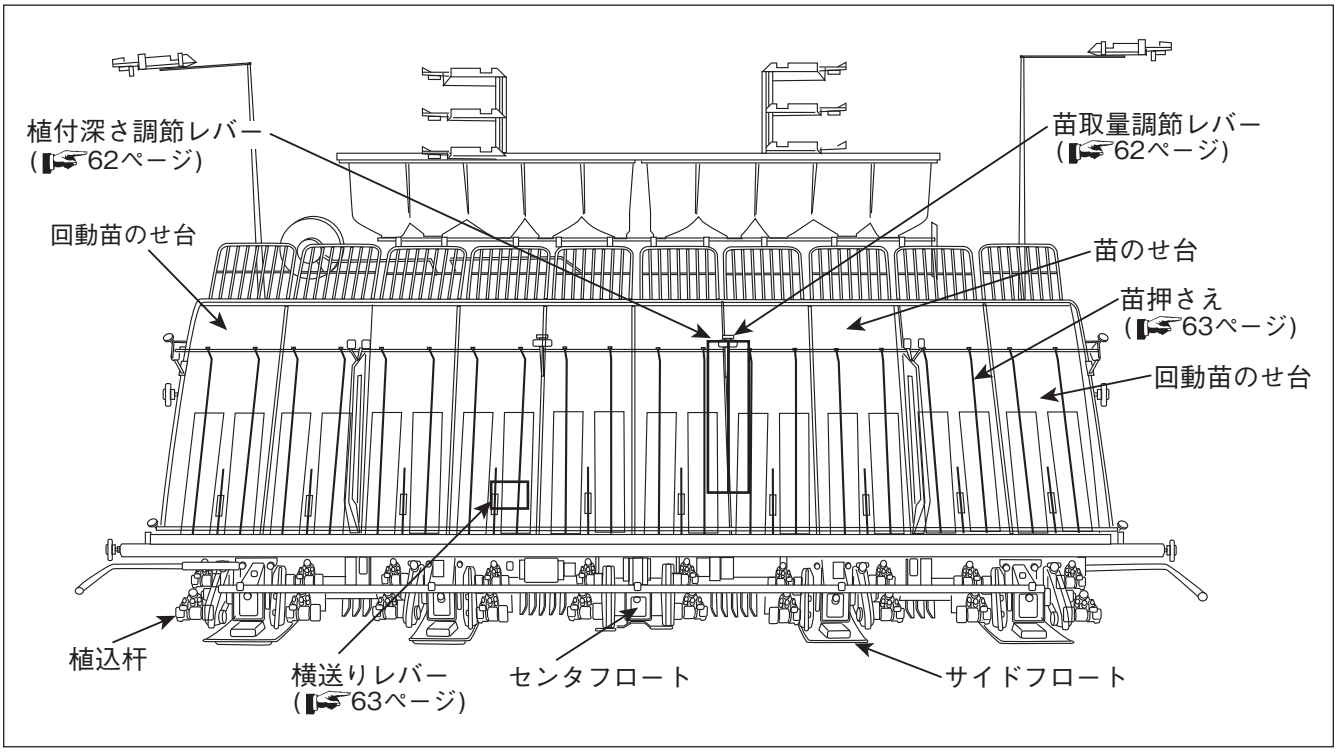
- この商品の補修用部品の供給年限（期限）は、製造打ち切り後9年といたします。
  ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
- 補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

3. 各部の名称とはたらき

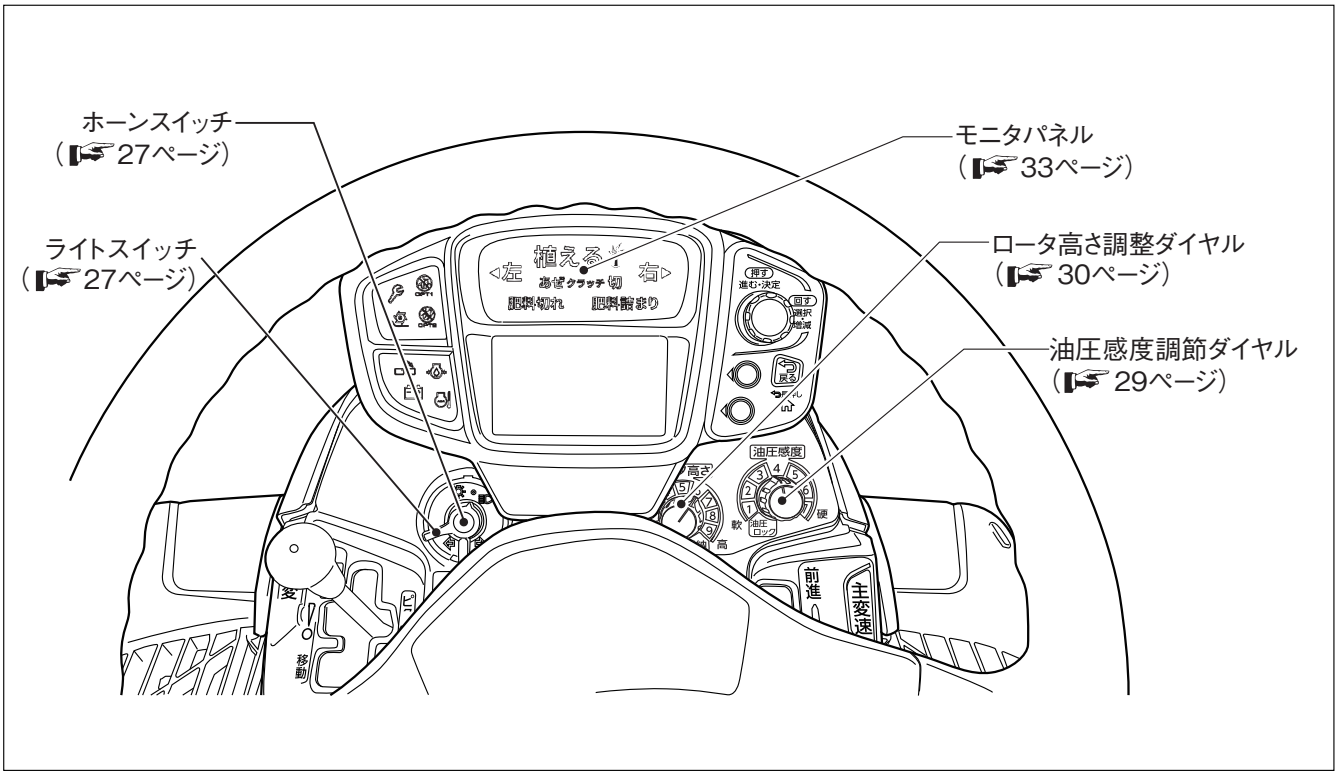
3.1 各部の名称



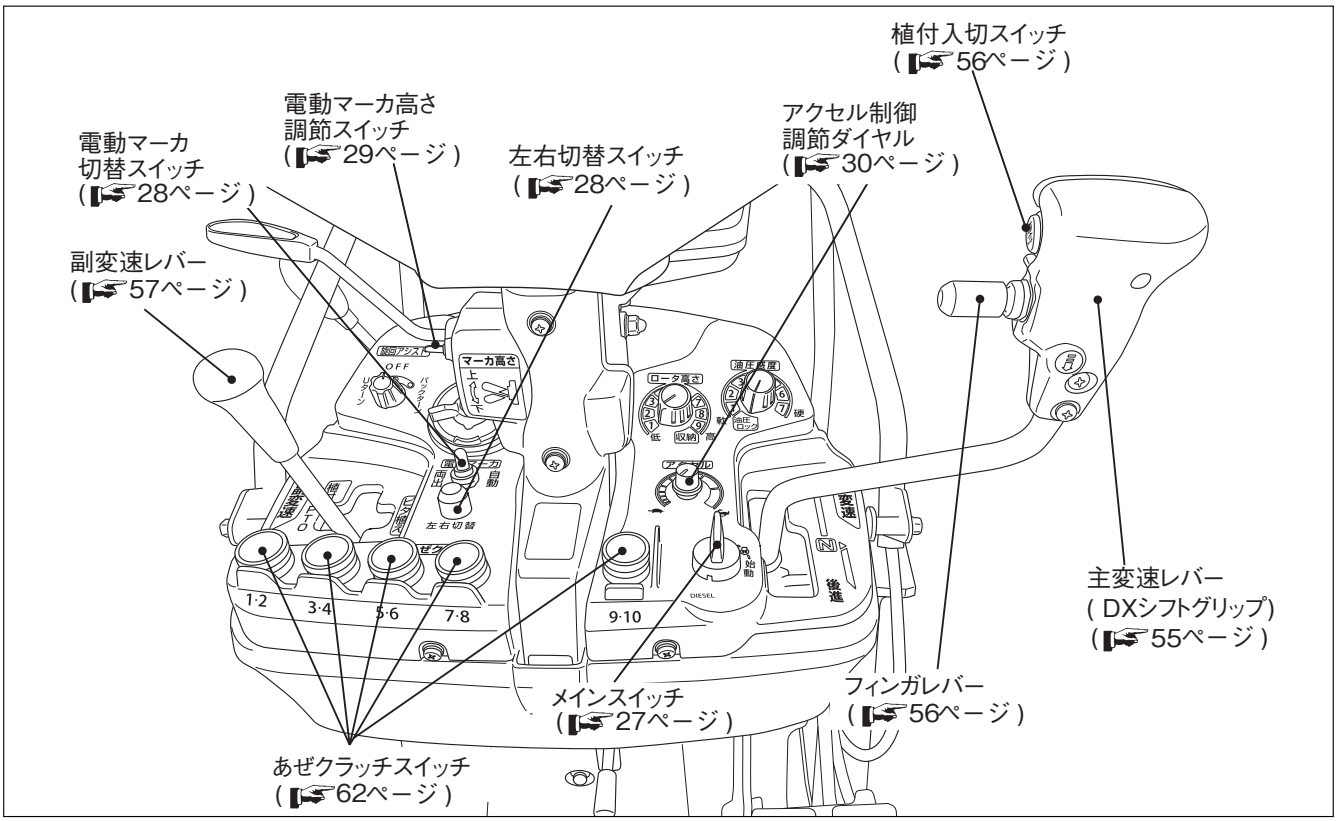
LRA_1031



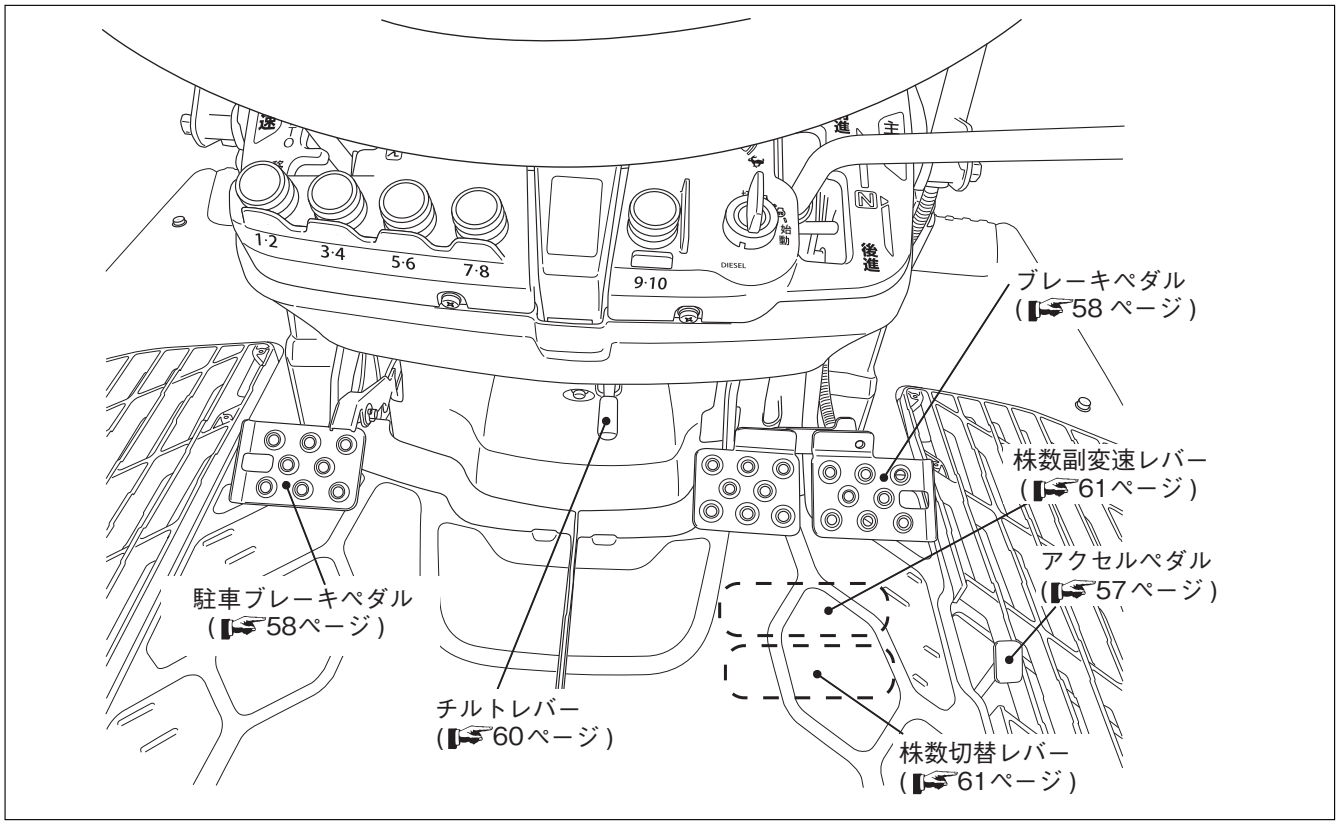
PJ10_1006A



LRA_1033

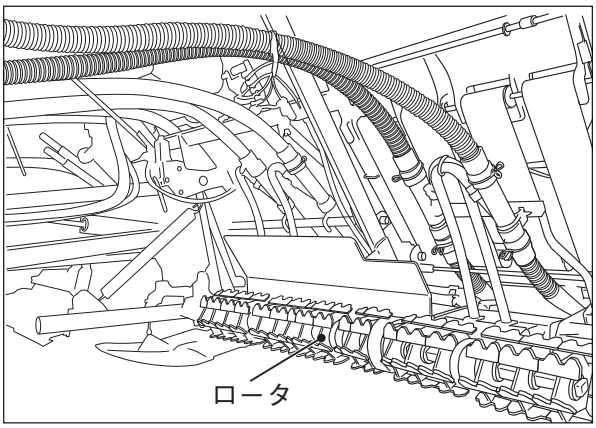


PJ10_1034

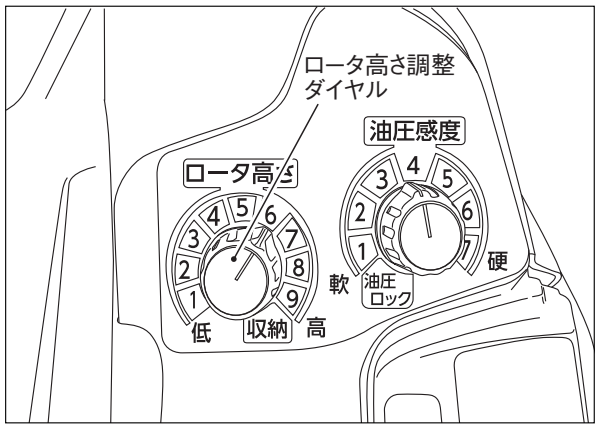


PJ10_00305

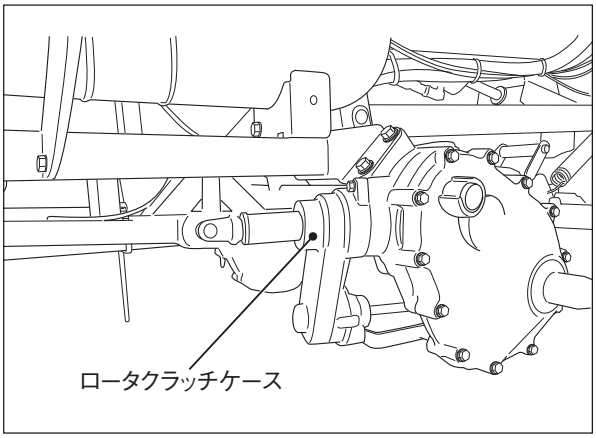
■ロータ



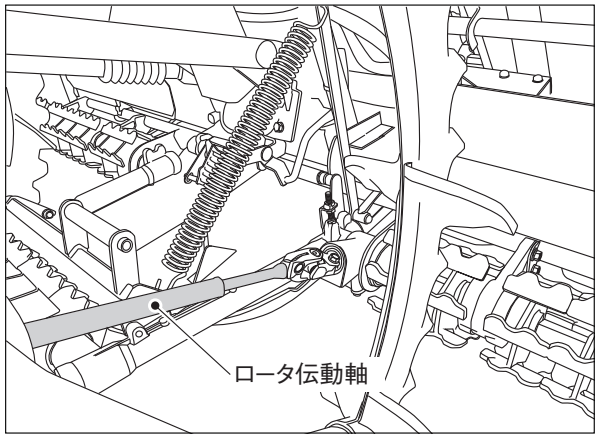
PJ10_00306



PRJ8_00307C

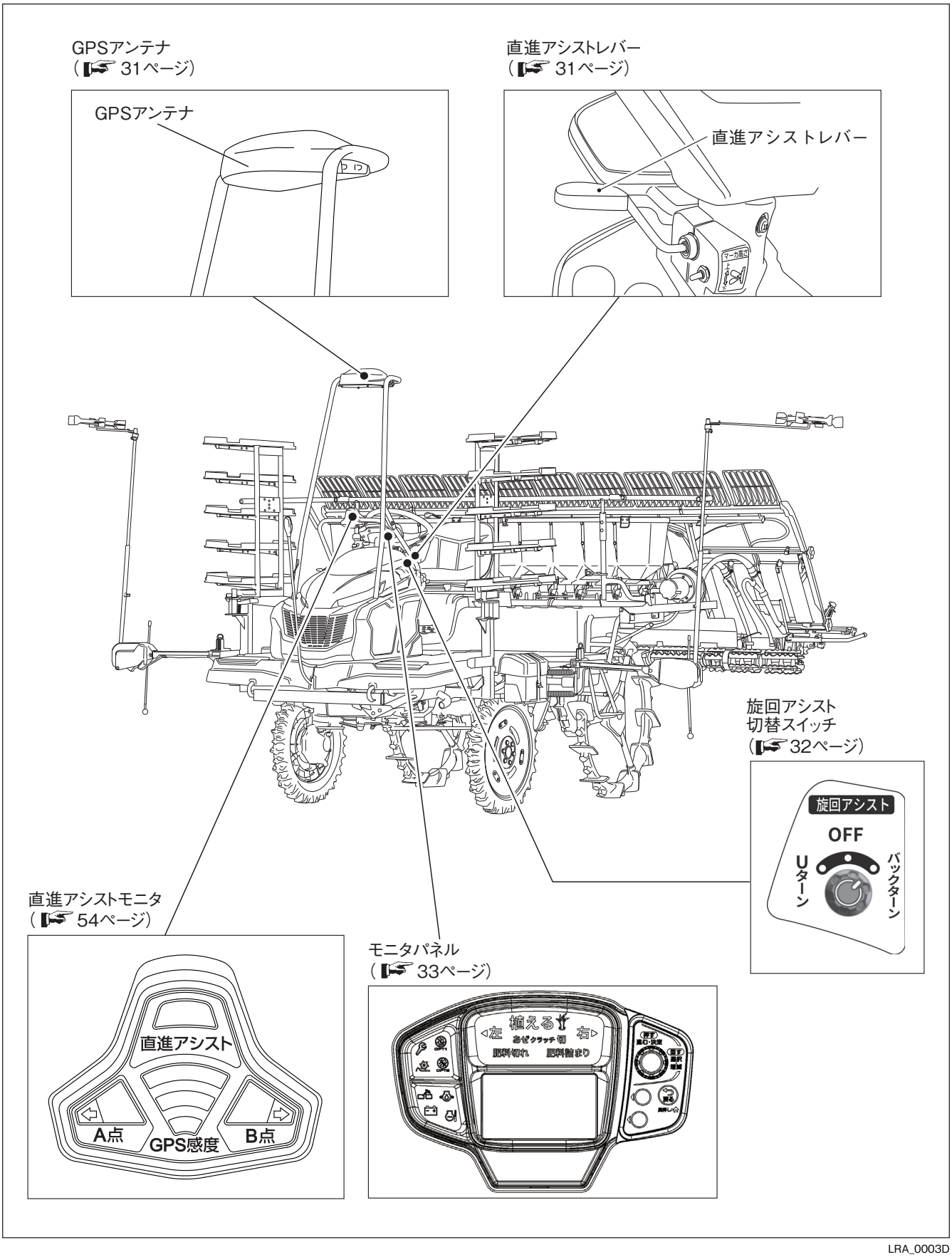


PJ10_00308



PRJ8_00309

■直進および旋回アシスト



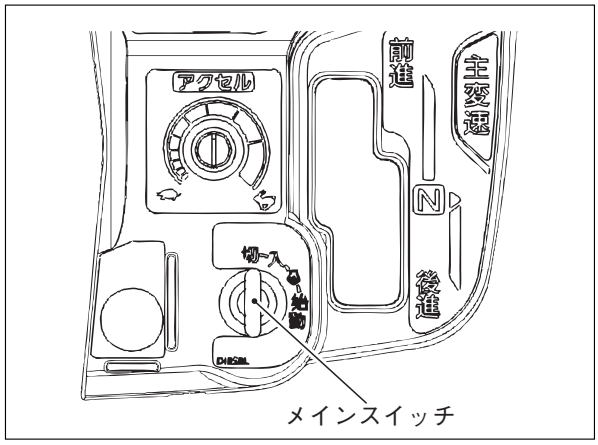
LRA_0003D

3.2 計器およびスイッチのはたらき

3.2.1 スイッチのはたらき

■メインスイッチ

「切」…… エンジンが停止します。
「入」…… エンジンが回転中の位置です。
「⏻」…… 自動的に予熱します。5秒間保持した後、「始動」位置に回してください。
「始動」…… 駐車ブレーキペダルをいっぱい踏み込んで、「始動」位置にするとエンジンが始動します。手を離すと、「入」位置に戻ります。



PJ10_00310

補 足

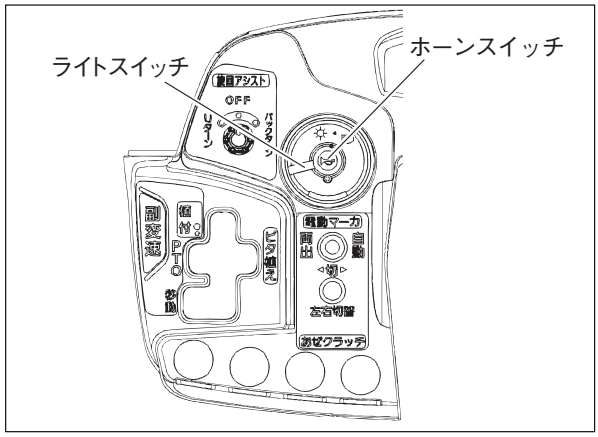
- **エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」位置にしないでください。**
- **メインスイッチの作動は1回10秒程度とし、始動しないときは30秒程度停止してから、再び操作を繰り返してください。**

■ホーンスイッチ

メインスイッチが「入」位置のとき、ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

■ライトスイッチ

メインスイッチが「入」位置のとき、ライトスイッチを上方向に回すとライトが点灯します。



PJ10_06325C

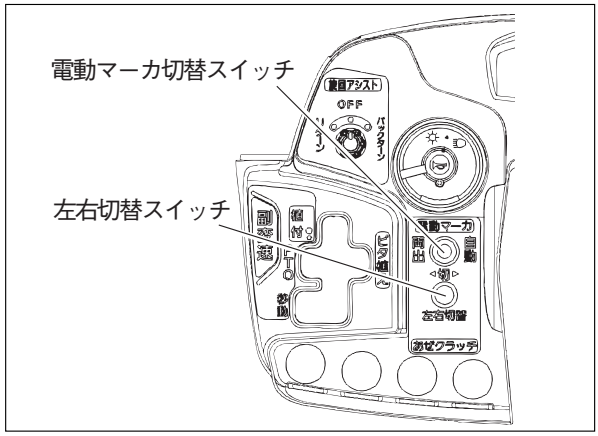
■電動マーカのスイッチ

「自動」…… 電動マーカが交互に出るようになります。電動マーカモニタが点灯している側のマーカが出ます。

「切」…… 電動マーカは出ません。

「両出」…… 左右の電動マーカが同時に出るようになります。このとき、電動マーカモニタは左右とも点灯します。

「左右切替スイッチ」… スイッチを押すとマーカの出る方向が交互に入れ替わります。



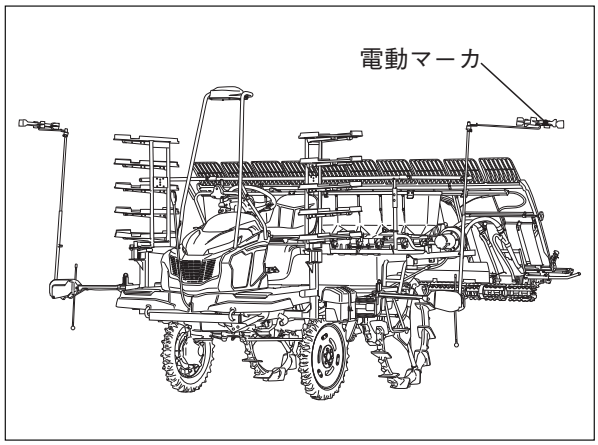
PJ10_06325D

■電動マーカ

旋回操作に連動して、マーカの出る方向を自動的に切り替え、電動で収納、開放を行います。

補 足

- **電動マーカ上昇時、障害物等で電動マーカが上がらないときは、モータの保護機能がはたらき、モータが停止します。**
  保護機能がはたらいたときは機体を停車させ、障害物を取り除いてください。また、復帰には30秒程度時間がかかるため、この間電動マーカは作動しません。



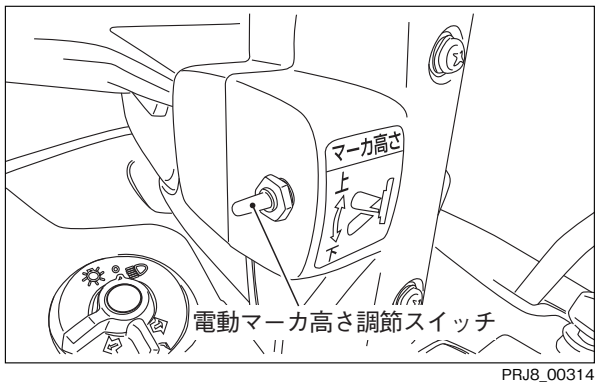
LRA_00313

■電動マーカ高さ調節スイッチ

植付部が「下」のとき、このスイッチを操作するとマーカの高さを変えることができます。
ほ場の条件により、マーカが接地しないときに使用してください。

補 足

- **電動マーカ高さ調節スイッチで調節したマーカの高さは、メインスイッチを「切」にするまで保持されます。再度「入」にすると工場出荷時の高さに戻ります。**



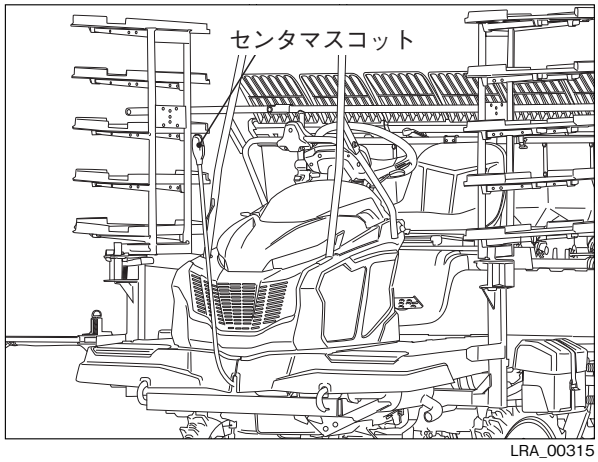
PRJ8_00314

■センタマスコット

(1) 植付クラッチが「入」で緑ランプが点灯します。
(2) 苗のせ台の苗が一定量までなくなると赤ランプが点滅します。
(3) 植付クラッチが「切」のときは点滅しません。
(4) 電動マーカの引いた跡にセンタマスコットを合せて植付けると、適正な隣接条間が保てます。直進の目安になり楽に直進できます。

補 足

- **センタマスコットは、前後に回動します。見やすい位置にセットしてください。**



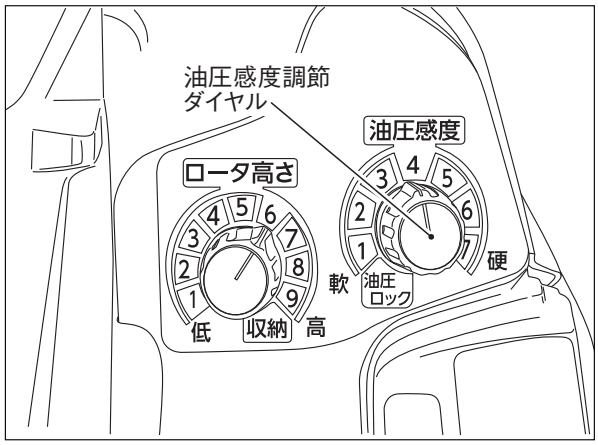
LRA_00315

■油圧感度調節ダイヤル

ほ場の硬軟に応じて油圧感度を変更することができます。
「油圧ロック」位置にすると、植付部がロックされ昇降しません。又、バックリフトも作動しません。

補 足

- **納屋に入れる時など、バックリフト（バックで自動的に植付部が上がる）を作動させたくない時は「油圧ロック」位置にしてください。**



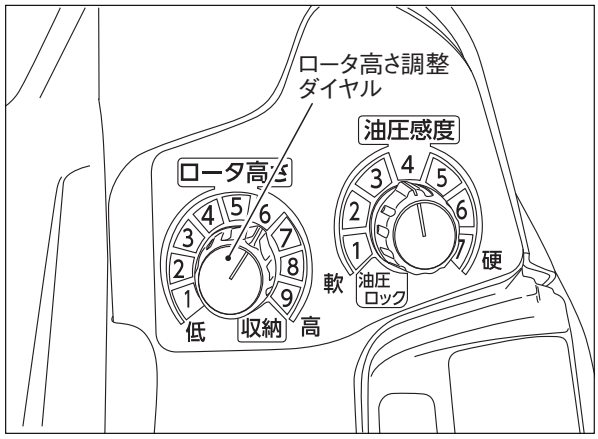
PRJ8_00316

■ロータ高さ調整ダイヤル

・ロータの高さを調節するときに使います。

補 足

- **ダイヤルを「収納」位置にしても、ロータは回転します。**



PRJ8_00307C

■ピタ植えレバー

⚠ 警 告

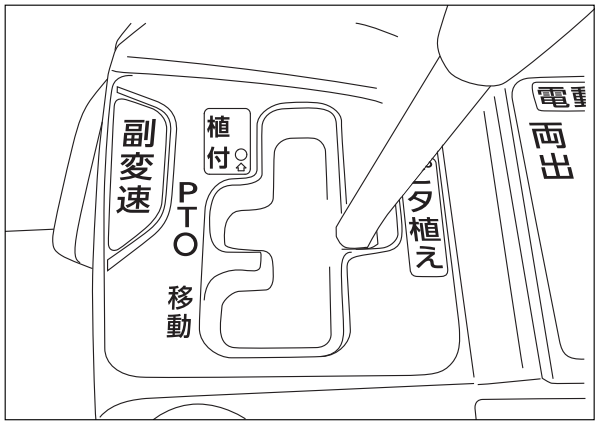
ピタ植え動作中のブザーが鳴っている間に、副変速レバーを「植付」、「移動」には入れないでください。機体が走り出すことがあります。

※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

植付部を下げた状態で副変速レバーをピタ植え側へ倒すと、植込杆が回転し1株または2株苗を植えつけます。

補 足

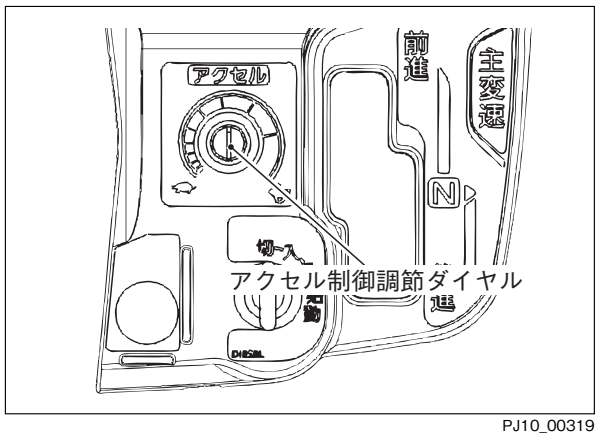
- **ピタ植え作動中はブザーが鳴ります。このとき、センタマスコットの緑、赤色が点滅します。**
- **ブザーが鳴っている間はレバーをピタ植え側へ倒し続けてください。ピタ植え作動中にレバーを離すと植込杆が停止します。**



PRJ8_00364C

■アクセル制御調節ダイヤル

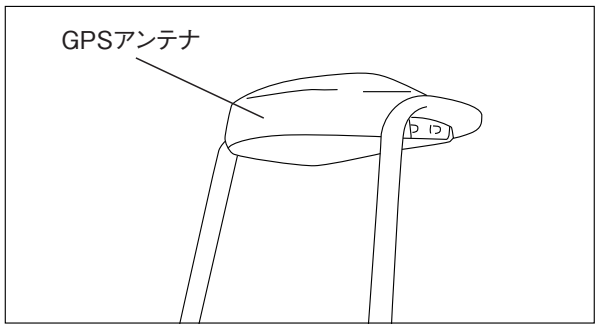
ダイヤルを左（🐢）側から右（🐇）側に回すとエンジン回転が上がります。エンジン回転数は主変速レバーに連動して増減する機構（オートアクセル）ですが、任意にエンジン回転を上げる時に、ダイヤルを右（🐇）側に回すとエンジン回転数を上げることができます。



PJ10_00319

■GPSアンテナ

GPSアンテナは、GPS(Global Positioning System)からの電波を受信するアンテナです。受信した電波情報から田植機の位置情報を取得します。



PJ10_0004

補 足

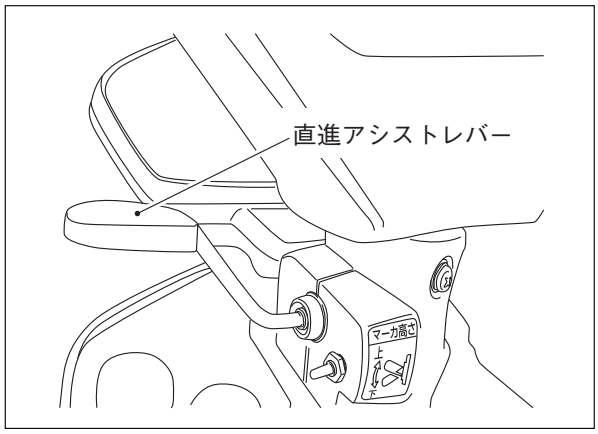
- **GPSからの電波は建物や樹木を透過しないため、下記のような場所では受信できない、または位置情報の精度が低下し、直進および旋回アシスト機能が正常に機能しない場合がありますのでご注意ください。**
  - **・屋内やトンネルなど屋根のある場所**
  - **・近くに高い建物がある場所**
  - **・近くに山や高い木のある場所**

■直進アシストレバー

基準線の取得および直進アシスト機能の「入・切」を行います。

(1) レバーを下に下げる
　１回目：Ａ点(始点)の取得
　２回目：Ｂ点(終点)の取得
　Ａ点とＢ点を結んだ直線が基準線となります。

(2) レバーを上にあげると直進アシストを「入・切」できます。



PJ10_0005

補 足

- **レバーを下に長押しすることで取得した基準線を消去することが出来ます。**
- **レバーを上に長押しすることで各種センサの再調整ができます。エンジン始動直後に機体が揺れる等した場合、センサ調整が正常に出来ていないおそれがあります。平坦な場所で直進アシストレバーを上に長押しして、センサの再調整を行ってください。**

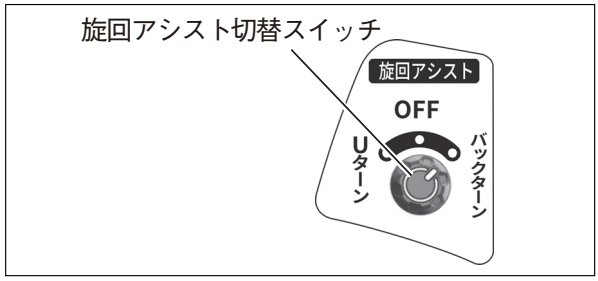
■旋回アシスト切替スイッチ

旋回アシスト機能を切り替えることができます。

「ＯＦＦ」……旋回アシスト機能は作動しません。

「Uターン」……旋回アシスト機能（Uターン）が作動します。（ ☞ 141ページ）

「バックターン」…旋回アシスト機能（バックターン）が作動します。（ ☞ 144ページ）



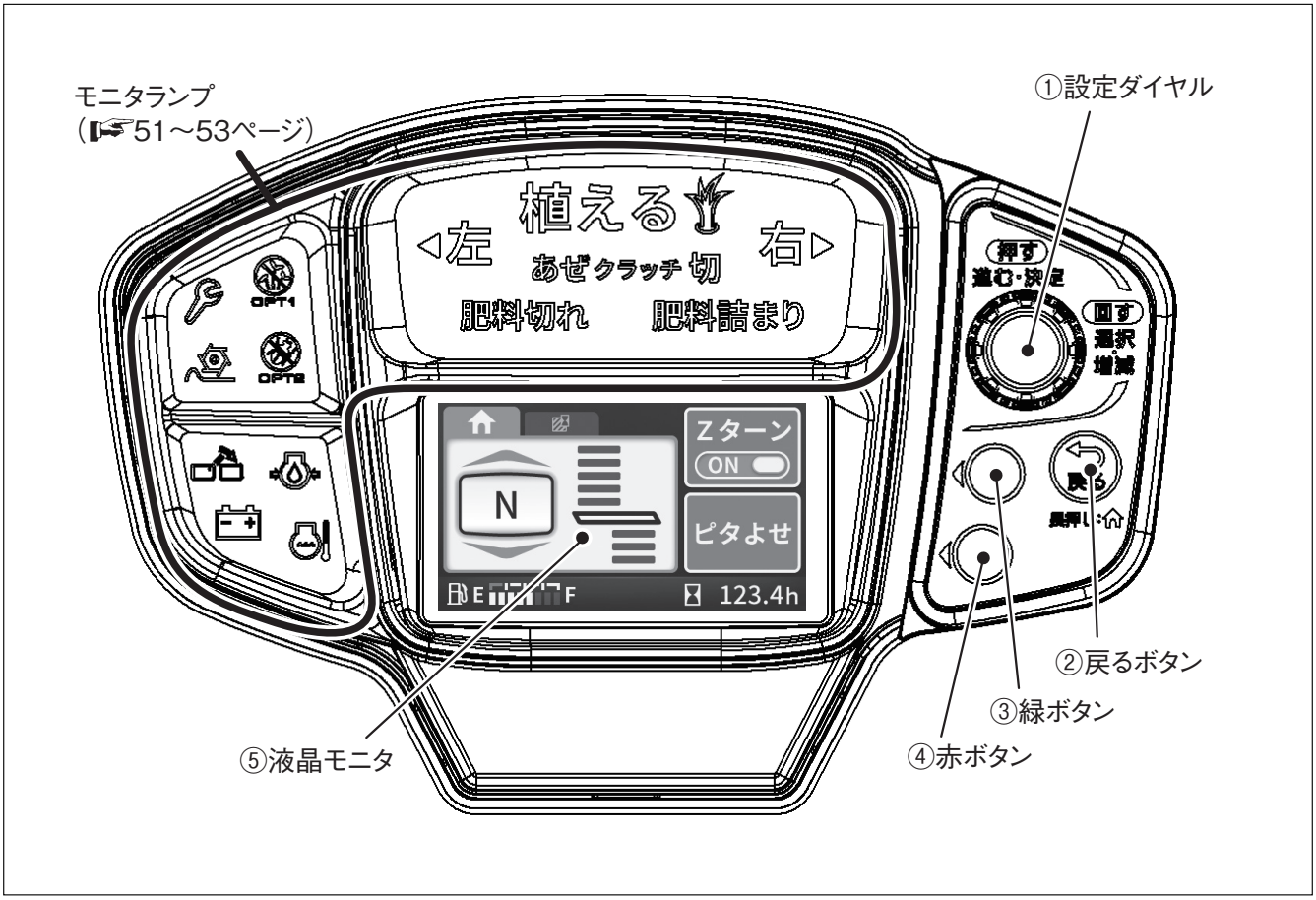
PJ10_0019C

補 足

- **直進アシスト機能は旋回アシスト切替スイッチがいずれの位置でも使用できます。**
- **旋回アシスト中に旋回アシスト切替スイッチ「ＯＦＦ」にすると旋回アシストが「切」になります。**
- **ミラクルZターン搭載型式で旋回アシストを使用する場合は、ポンピング機能が「ＯＦＦ」になります。ポンピング機能を使用するときは、旋回アシストを「ＯＦＦ」にしてください。**

3.2.2 モニタパネルのはたらき

■各部の名称



モニタパネルの各部の名称

LRA_00320

①設定ダイヤル

ダイヤルを押す・回すことにより、液晶モニタに表示される画面を操作できます。

押す：メニュー画面の表示、選択した操作の決定に使用します。

長押し：ホーム画面(作業) で区間作業記録リセットに使用します。(☞ 50ページ)

回す：画面の切り替え、カーソルの移動、設定値の増減に使用します。

②戻るボタン

一つ前の画面へ戻ることができます。長押しすることでホーム画面へ戻ります。

③緑ボタン

Zターンの入切、ホーム画面（OPT）での除草剤散布機（粒状）用電源の入切、エラー履歴削除に使用します。Zターンの入切はホーム画面でのみ行えます。

④赤ボタン

ピタよせの入切、ホーム画面（OPT）での殺虫殺菌剤散布機用電源の入切に使用します。ピタよせの入切はホーム画面でのみ行えます。

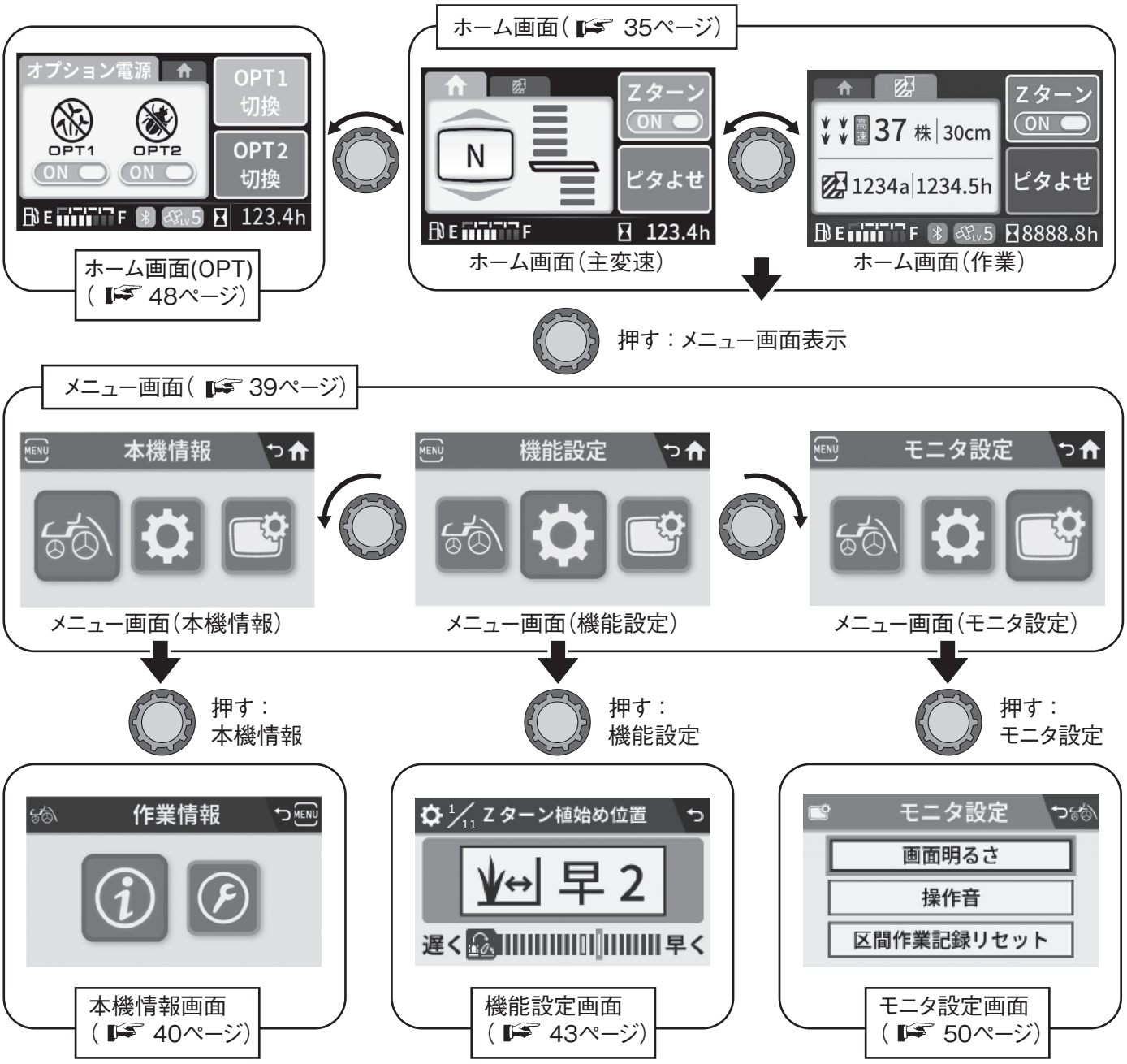
⑤液晶モニタ

田植機の状態を表示します。(☞ 34ページ)

■液晶モニタの画面移動

メインスイッチを「切」から「入」の位置にすることで、液晶モニタの表示が始まります。
画面の移動には、設定ダイヤル、戻るボタンを使用します。

・設定ダイヤルを回すことで、画面の切り替えが行えます。また、設定ダイヤルを押すことで、画面の移動、選択した操作の決定を行なえます。
・戻るボタンを押すことで、一つ前の画面に戻ります。また、長押しすることでホーム画面へ戻ります。



■ホーム画面

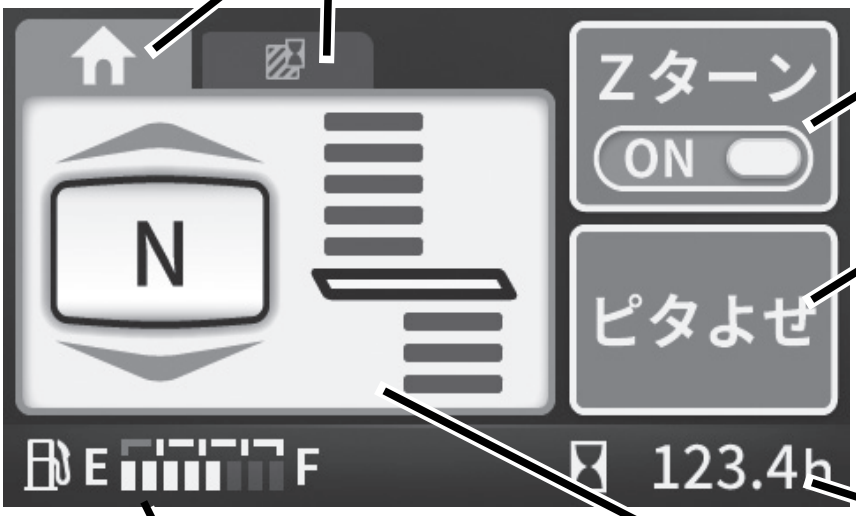
ホーム画面（主変速）

メインスイッチを「切」から「入」の位置にすると、液晶モニタの画面がホーム画面（主変速）へ移動します。

ホーム画面タブ
現在表示している画面を示します。ホーム画面は設定ダイヤルを回すことで、ホーム画面（作業）と切り替えができます。

Zターンスイッチ
Zターンの状態を表示します。「OFF」の時、または点滅状態の時は、Zターンは使用できません。緑ボタンでON・OFFの切り替えができます。
（☞ 38ページ）

ピタよせスイッチ
ピタよせの状態を表示します。赤ボタンでON・OFFの切り替えができます。
（☞ 38ページ）



ホーム画面 (主変速)

アワメータ
田植機の現在の稼働時間を表示します。

燃料計
モニタ液晶内の左下に表示され、ランプの点灯数で燃料の残り量を表示します。
8つ点灯……燃料満量
4つ点灯……燃料1/2残量
1つ点滅……燃料少量（早めに補給してください）

主変速レバー段数表示
モニタ液晶中央に表示され、バーの位置と枠内の文字で主変速レバーの状態と位置を表示します。
主変速レバーは、「N」、「前進」5段階、「後進」3段階で表示されます。

ホーム画面（作業）

ホーム画面（主変速）で設定ダイヤルを右へ回すと、ホーム画面（作業）へ移動します。

ホーム画面タブ

現在表示している画面を示します。ホーム画面は設定ダイヤルを回すことで、ホーム画面（主変速）と切り替えができます。

植付株数表示

現在の植付株数を表示します。植付株数は、株数切替レバー、株数副変速レバーで切り替えができます。

（ ☞ 61ページ）



ホーム画面 (作業)

区間作業記録表示

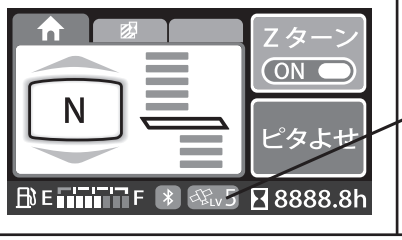
現在までの区間作業記録を表示します。左側に区間植付面積、右側に区間植付時間を表示します。
区間作業記録はリセットが可能です（ ☞ 50ページ）。
リセットは、ホーム画面（作業）で設定ダイヤルを長押しすることでも可能です。

補 足

- **区間作業面積はあくまで目安です。ほ場条件や車速等によって影響を受けるため、実際のほ場面積とは異なります。**

直進アシスト関係

モニタパネルカラー液晶部にＧＰＳ受信レベルの情報を表示しています。また、状態に合わせて割り込み画面にて告知を行います。



受信レベル表示

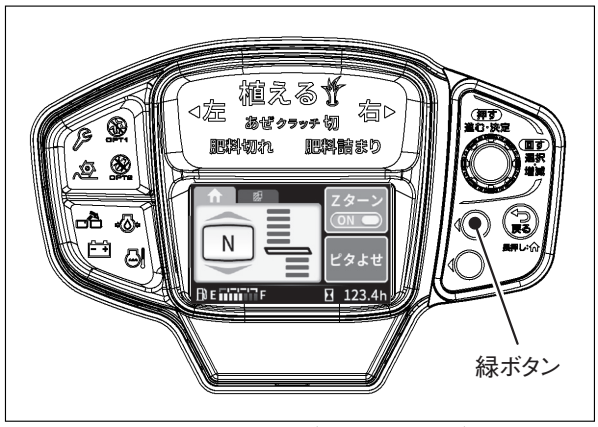


受信レベル LV1の時は手動運転にて作業を行ってください。

割り込み画面	告知内容
	GPS信号調整中です
	５m以上走行してください
	植付部を下げてください
	副変速を植付速にしてください
	A・B点を取得してください
	あぜ際停止中です。主変速レバーを中立に戻してください
	あぜ際停車が「切」になっています
	直進アシストモニタの点滅方向に機体を向けてください
	ステアリングを直進状態にしてください
	前進してください

■Zターンスイッチ

(1) ホーム画面でモニタパネルの緑ボタンを押すと、Zターンスイッチの入切を行なえます。
(2) Zターンスイッチを「ON」(液晶モニタのZターンスイッチが緑に点灯) にすると旋回時、ステアリング(ハンドル) をいっぱい回すことにより、植付が自動で「切」になり、植付部が自動で上昇します。
(3) 旋回が終わると、植付部が自動で下がり、植付位置まで進むと自動で植付クラッチが「入」になります。



モニタパネル（ホーム画面） LRA_00324

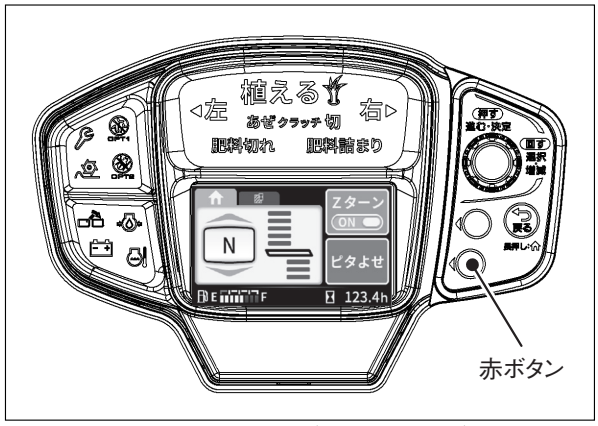
補 足

- **変形ほ場等で植始め位置が揃わない時は「切」で使用してください。**

■ピタよせスイッチ(苗のせ台端寄せスイッチ)

植え付け作業始めに苗のせ台へ苗をのせる際など苗のせ台を端に寄せる際に使用すると便利です。

①主変速レバーを「N」、副変速レバーを「PTO」位置にしてから、ホーム画面で赤ボタンを押します。(液晶モニタのピタよせスイッチ点灯)
②植付入切スイッチを押し、主変速レバーを前進側へブザーが鳴る位置まで倒すとピタよせが作動し、苗のせ台が左端の位置で停止します。



モニタパネル（ホーム画面） LRA_00325

補 足

- **ピタよせ作動中はブザーが鳴り、センタマスコットの赤色が点滅します。**
- **ピタよせ作動中に主変速レバーを戻す、ピタよせスイッチを押す、植付入切スイッチを押すいずれかの操作でピタよせ動作は停止します。**
- **ピタよせは、植付株数や横送り回数によっては、停止位置がずれることがあります。**

■メニュー画面

メニュー画面では､「本機情報」､「機能設定」､「モニタ設定」のアイコンが表示されます。
選択されているアイコンは、設定ダイヤルを回すことで切り替えることができます。
また、設定ダイヤルを押すことで、選択されているアイコンに対応したページへ移動します。

■本機情報

本機情報のアイコンを選択した状態で、設定ダイヤルを押すと、作業情報、エラー履歴を確認できる画面へ移動します｡(☞ 40ページ)



メニュー画面 (本機情報アイコン) PRJ8_00326

■機能設定

機能設定のアイコンを選択した状態で、設定ダイヤルを押すと、各種センサの感度調節など変更・調節できる画面へ移動します｡(☞ 43ページ)



メニュー画面 (機能設定アイコン) PRJ8_00327

■モニタ設定

モニタ設定のアイコンを選択した状態で、設定ダイヤルを押すと、モニタの明るさ、操作音の設定の変更、または作業記録のリセットができる画面へ移動します。(☞ 50ページ)



メニュー画面 (モニタ設定アイコン) PRJ8_00328

■本機情報画面

本機情報画面では､「作業情報」､「エラー履歴」のアイコンが表示されます。
選択されているアイコンは、設定ダイヤルを回すことで切り替えることができます。
また、設定ダイヤルを押すことで、選択されているアイコンに対応したページへ移動します。

■作業情報

作業情報のアイコンを選択した状態で、設定ダイヤルを押すと、作業時間、作業面積を確認できる画面へ移動します｡(☞ 41ページ)



本機情報画面 (作業情報アイコン) PRJ8_00329

■エラー履歴

エラー履歴のアイコンを選択した状態で、設定ダイヤルを押すと、各種センサの異常が発生した場合のエラーコード、およびエラー発生時間を確認できる画面へ移動します｡(☞ 42ページ)



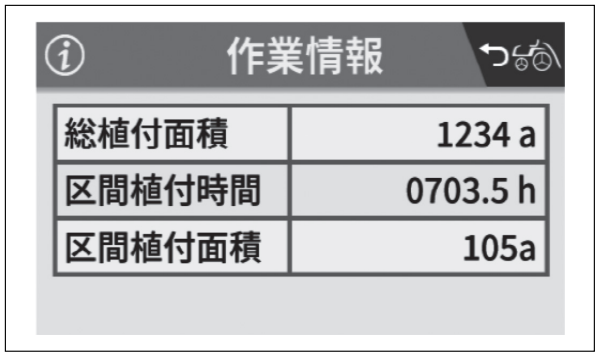
本機情報画面 (エラー履歴アイコン) PRJ8_00330

■作業情報画面

作業情報画面では､「総植付面積」､「区間植付時間」､「区間植付面積」が表示されます。

補 足

- **植付面積はあくまで目安です。ほ場条件や作業速度によって影響を受けるため、実際のほ場面積と異なります。**



作業情報画面 PRJ8_00331

■総植付面積

田植機が現在までに行った植付作業面積の合計が表示されます。この値はリセット不可です。

■区間植付時間

田植機の植付作業時間を表示します。この値はリセットすることが可能です。(☞ 50ページ)

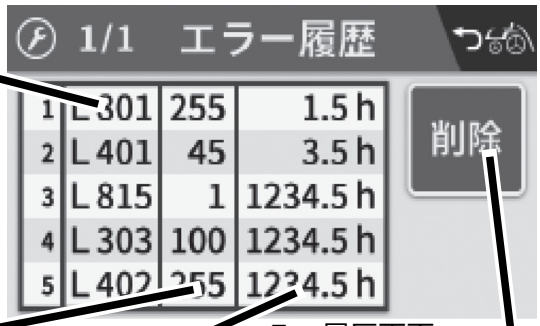
■区間植付面積

田植機の植付作業面積を表示します。この値はリセットすることが可能です。(☞ 50ページ)

■エラー履歴画面

エラー履歴画面では、異常の発生したセンサの､「エラー発生場所」､「現在のセンサ値」､「発生時間」を見ることができます。設定ダイヤルを回すことにより、6行目以降のエラー履歴のページへ移動する事ができます。また、緑ボタンを押すと、エラー履歴を削除することができます。

エラー発生場所
エラー発生場所のコードを表示します。コードについては下記表を参照ください。



エラー履歴画面

現在のセンサ値
異常の発生したセンサの現在のセンサ値を表示します。

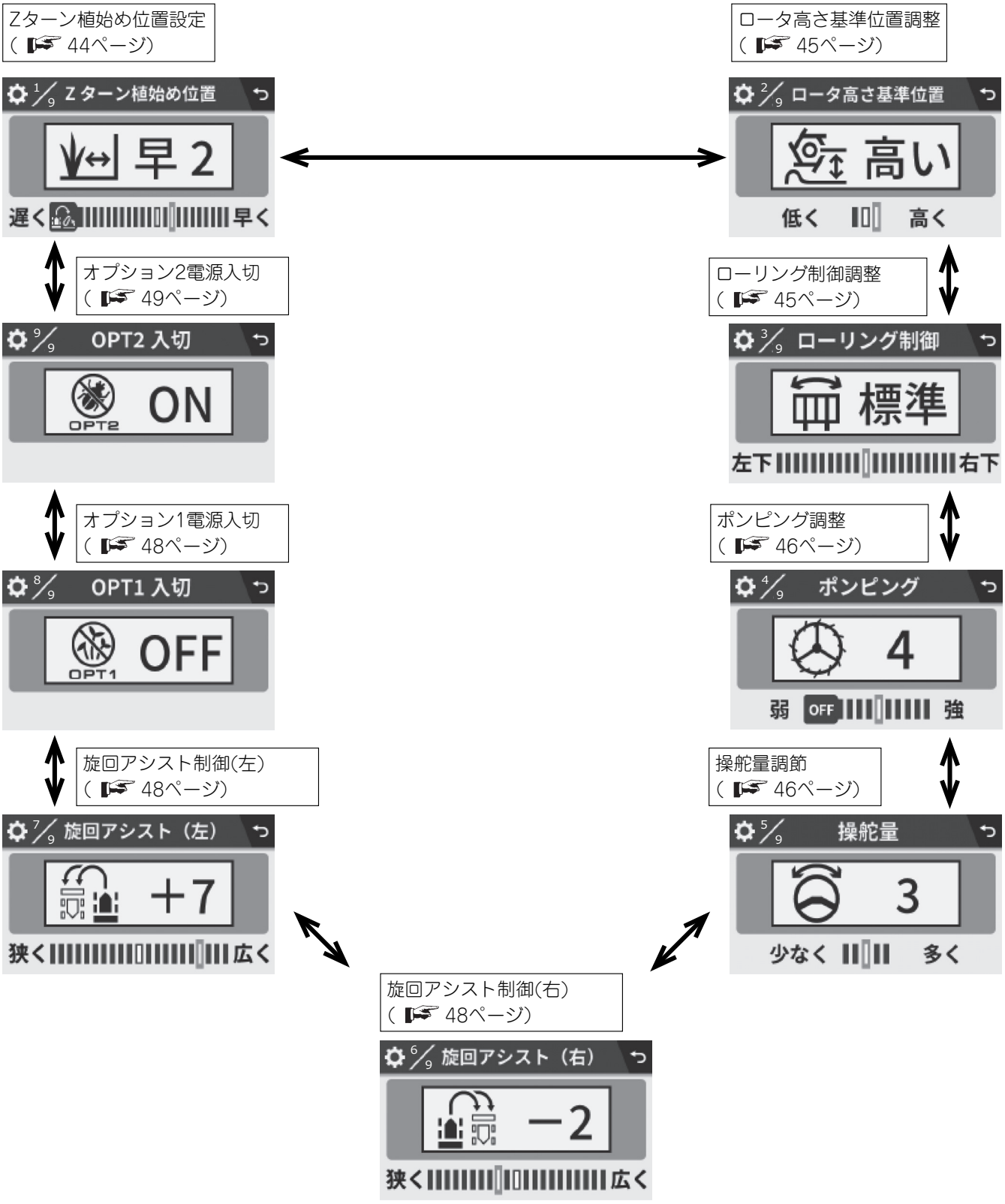
発生時間
異常の発生した最新の時間を表示します。

エラー削除ボタン
緑ボタンを押すと、エラー履歴を削除するか選択できます。

No	項目名	エラー発生個所	対象型式
1	L101	DXシフトグリップ	全て
2	L201	ステアリング切れ角センサ	全て
3	L202	右回転センサ	全て
4	L203	左回転センサ	全て
5	L205	HSTレバー位置センサ	全て
6	L206	HSTトラニオン中立位置センサ	全て
7	L207	HST中立位置センサ	全て
8	L208	株数位置センサ	全て
9	L211	直進アシストレバー	全て
10	L222	GNSSアンテナ	全て
11	L223	直進アシスト用モータドライバ	全て
12	L224	直進アシスト用モータ	全て
13	L225	GNSSインターフェース	全て
14	L301	ローリング傾斜センサ	全て
15	L302	ローリングアームセンサ	全て
16	L303	ローリング角速度センサ	全て
17	L502	フロートセンサ	全て
18	L601	リンクセンサ	全て
19	L701	スロットル位置センサ	全て
20	L801	植付クラッチセンサ	全て
21	L804	左あぜクラッチセンサ	全て
22	L805	右あぜクラッチセンサ	全て
34	L901	ロータ位置センサ	全て

■機能設定画面

機能設定画面では、各種センサの感度調節や、設定値の変更ができます。設定ダイヤルを回すことにより、設定項目の切り替えを行うことができます。また、設定ダイヤルを押すことで表示している項目の設定変更画面へ移動します。



■Zターン植え始め位置設定

Zターン植え始め位置設定画面ではZターン「入」時、旋回後、植付クラッチが「入」になるタイミングを調節することができます。
設定ダイヤルを右に回すと､「植付入」タイミングを早くします。
設定ダイヤルを左に回すと､「植付入」タイミングを遅くします。
1目盛あたり、約10cmタイミングが変わります。
オートリフトの表示のある位置（「遅く」側の一番端の位置）に合わすとステアリング（ハンドル）を切ると植付部が上昇する（オートリフト）のみ作動します。このとき、ホーム画面のＺターンスイッチが点滅します。



Ｚターン植始め位置設定画面 LRA_00334



Zターン植始め位置設定画面 LRA_00335

■ロータ高さ基準位置調整

ロータ高さ基準位置調整画面では、ロータ高さ調整ダイヤルの基準位置を変更できます（☞ 131ページ 6. 3. 12 ロータの高さ調整）。
設定ダイヤルを右に回すと、ロータ高さ基準位置を高くします。
設定ダイヤルを左に回すと、ロータ高さ基準位置を低くします。
高い：ロータ高さ基準位置＋10mm
低い：ロータ高さ基準位置－10mm



ロータ高さ基準位置調整画面 LRA_00336

■ローリング制御調整

ローリング制御調整画面では、植付部のローリング基準位置を変更できます。

（1） 植付中、左右どちらかが浮きぎみ、または沈みぎみ傾向のときにこの画面で調整します。
（2） 「標準」位置が植付部の水平位置です。通常はこの位置で作業します。
（3） ダイヤルを右に回すと右下がりに、左に回すと左下がりに植付部の傾きを調節できます。
（4） あぜ際等で、少し傾けて植え付けたいときにも使用してください。



ローリング制御調整画面 LRA_00337

■ポンピング調整

ポンピング調整画面では、ポンピングクラッチの入切、及びクラッチタイミングの変更が可能です。
ポンピングクラッチを使用すると、植付作業旋回時に旋回内側後輪の動力をつないだり切ったりすることで、車輪の穴掘り、補助車輪間の泥抱きを軽減します。



ポンピング調整画面 LRA_00339

・「強」側に回すと旋回内側後輪に動力をつなぐ時間が長くなります。
・「弱」側に回すと旋回内側後輪に動力をつなぐ時間が短くなります。
・「OFF」に合わせるとポンピングは作動しません。

補 足

- **副変速が移動位置のときは、ポンピングは作動しません。**
- **ポンピングを使用する時は、Zターンの作動タイミングが正常に機能しません。Zターンスイッチを「OFF」にし、Zターンを使わない旋回の仕方で植付作業してください。**

■操舵量調節

操舵量調節画面では、直進アシスト中の操舵量を変更することができます。
①直進アシスト中の操舵量を大きくしたい時
→様子を見ながら1段ずつ「多く」側へ回してください。
②直進アシスト中の操舵量を小さくしたい時
→様子を見ながら1段ずつ「少なく」側へ回してください。



操舵量調節画面 LRA_00340

補 足

- **下記ほ場の傾向に合わせて調節すると直進性が向上します。**

「少なく」側	「多く」側
ほ場が浅い	ほ場が深い
表土が固い	表土がやわらかい
わだちが少ない	わだちが多い

- **ほ場条件によっては、操舵量調節を「多く」側へ回しすぎると直進性が悪くなる場合があります。その場合、車速を落とす、または、操舵量調節を「少なく」側へ変更し、様子を見ながら調節してください。**

■旋回アシスト制御

旋回アシスト制御画面では、旋回アシスト時の左右の目標旋回半径を変更することができます。

①旋回半径が狭い場合

→様子を見ながら１段階ずつ「広く」側へ回してください。

②旋回半径が広い場合

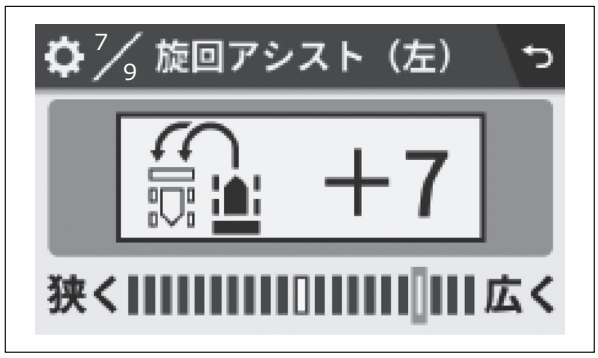
→様子を見ながら１段階ずつ「狭く」側へ回してください。

補 足

- **旋回アシスト制御は右旋回と左旋回でそれぞれ別の設定を行います。**



旋回アシスト (右) 制御画面 LRA_00341



旋回アシスト (左) 制御画面 LRA_00342

■オプション１電源入切

オプション１電源入切画面では、除草剤散布機(粒剤)用電源の入切を行うことができます。

オプション１電源入切画面は、除草剤散布機を取り付けただけでは表示されません。コントローラ設定変更により、表示することができます。

(☞ 177ページ)

補 足

- **除草剤散布機(粒剤) 本体の電源が入っていない場合、オプション1電源入切画面で電源を「ON」にしても除草剤散布機は作動しません。**
- **OPT1が表示されている場合、ホーム画面の左側にホーム画面(OPT)が追加されます。ホーム画面(OPT)表示中に緑ボタンを押すと除草剤散布機(粒剤)用電源の入切を行うことができます。**



オプション 1 電源入切画面 LRA_00343



ホーム画面 (OPT) PRJ8_10301B

■オプション２電源入切

オプション２電源入切画面では、殺虫殺菌剤散布機用電源の入切を行うことができます。
オプション２電源入切画面は、殺虫殺菌剤散布機を取り付けただけでは表示されません。コントローラ設定変更により、表示することができます。
(☞ 177ページ)

補 足

- **殺虫殺菌剤散布機本体の電源が入っていない場合、オプション2電源入切画面で電源を「ON」にしても殺虫殺菌剤散布機は作動しません。**
- **OPT2が表示されている場合、ホーム画面の左側にホーム画面(OPT)が追加されます。ホーム画面(OPT)表示中に赤ボタンを押すと殺虫殺菌剤散布機用電源の入切を行うことができます。**



オプション２電源入切画面 LRA_00344



ホーム画面 (OPT) PRJ8_10302B

■モニタ設定画面

モニタ設定画面では､「画面明るさ変更」「操作音切替」､「区間作業記録リセット」を行うことができます。設定ダイヤルを押すことで表示している項目の設定変更画面へ移動します。



モニタ設定画面 PRJ8_00346

■画面明るさ変更

画面明るさ変更画面では、液晶モニタのバックライトの明るさを変更することができます。
設定ダイヤルを右に回すと明るく、設定ダイヤルを左に回すと暗くなります。



画面明るさ変更画面 PRJ8_00347

■操作音切替

操作音切替画面では、モニタパネルのボタンとダイヤルの操作時の音の入切を設定できます。



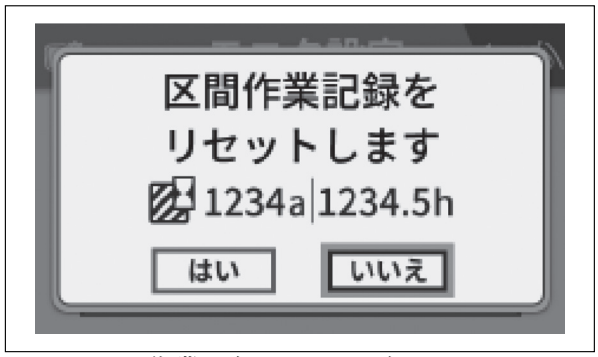
操作音切替画面 PRJ8_00348

■区間作業記録リセット

区間作業記録リセット画面では、前回リセットから現在までの田植機の区間植付時間・区間植付面積の情報をリセットすることができます。
ホーム画面(作業)で設定ダイヤルを長押しすることでも区間作業記録のリセットが可能です（ ☞ 36ページ)。

補 足

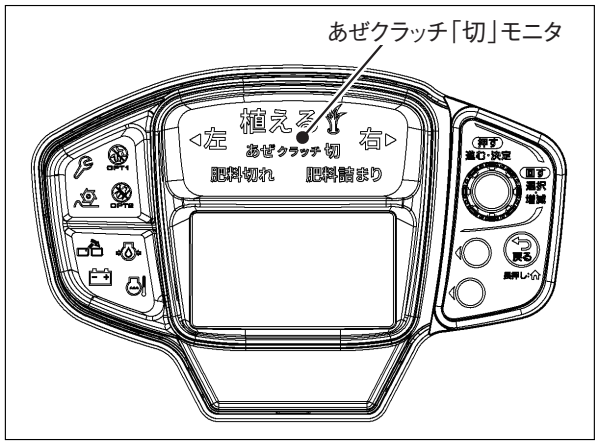
- **アワメータ・総植付面積はリセットされません。**



区間作業記録リセット確認画面 PRJ8_00349

■あぜクラッチ「切」モニタ

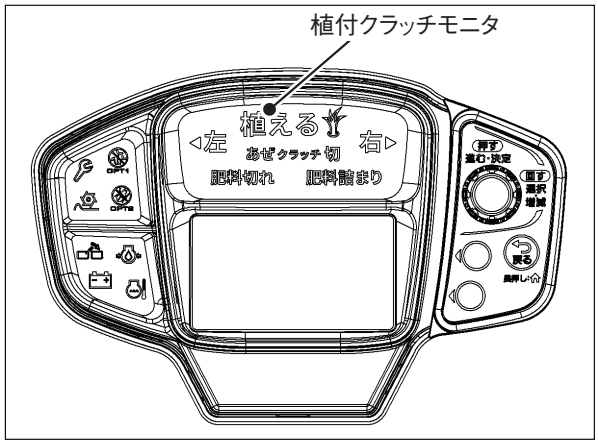
あぜクラッチが「切」位置のときに点滅します。



モニタパネル全体図 LRA_00350

■植付クラッチモニタ

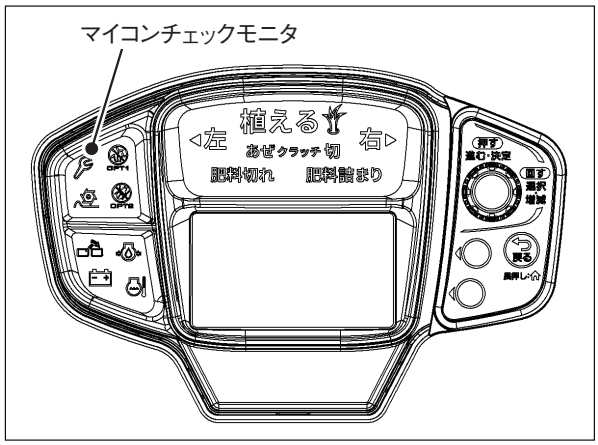
植付入切スイッチで、植付クラッチを「入」にすると点灯します。



モニタパネル全体図 LRA_00351

■マイコンチェックモニタ

各センサの回路が断線等の異常をきたしたときには点灯します。



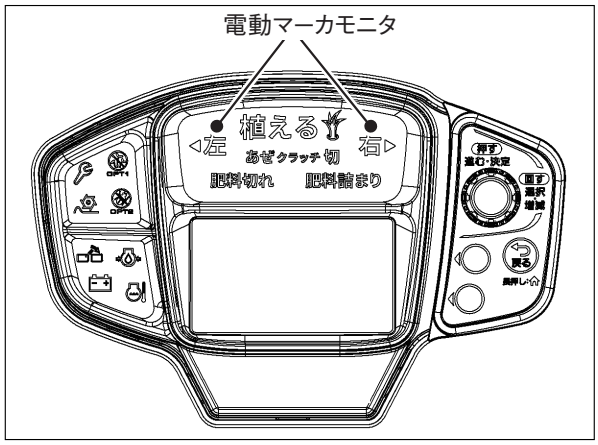
モニタパネル全体図 LRA_00352

■電動マーカモニタ（旋回アシストモニタ）

電動マーカ切替スイッチ「自動」又は､「両出」の時、電動マーカが出る側のモニタが点灯します。
旋回アシスト機能使用時は表示機能が拡張されます。

(1) 旋回アシスト機能(Uターン）が使用可能な時、マーカが出ている側のランプが点灯から点滅に変わり、旋回する方向を示します。
（旋回アシストの詳しい説明は、☞141ページ 6. 6旋回アシスト機能(Uターン）の使い方を参照）

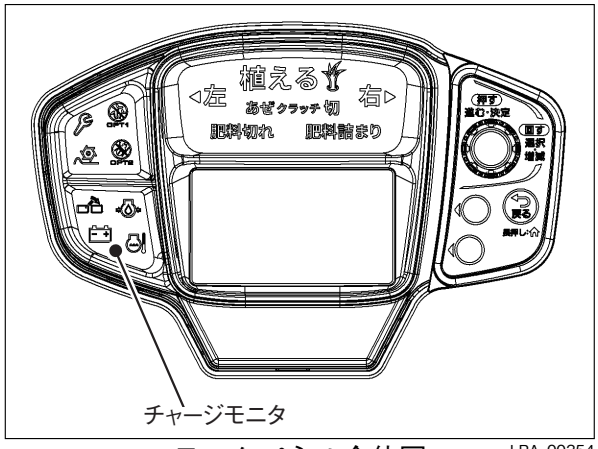
(2) 旋回アシスト機能(バックターン）が使用可能な時、マーカが出ている側のランプが点灯から点滅に変わり、旋回する方向を示します。
（旋回アシストの詳しい説明は、☞ 144ページ 6. 7旋回アシスト機能(バックターン）の使い方を参照）



モニタパネル全体図 LRA_00353

■チャージモニタ

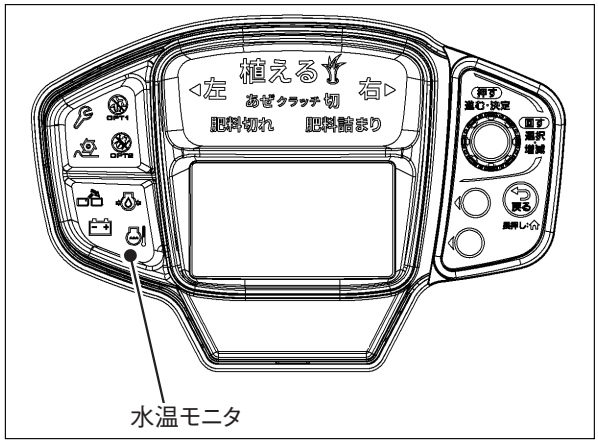
エンジン回転中、充電回路に異常があると点灯します。



モニタパネル全体図 LRA_00354

■水温モニタ

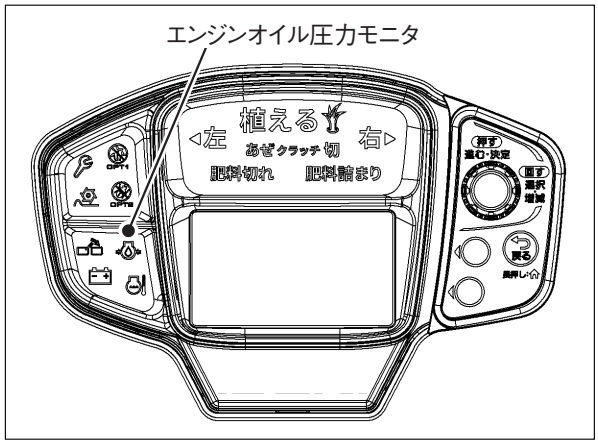
ラジエータ冷却水の温度が高くなると点灯します。点灯したままのときは、ラジエータ水量のチェック、冷却ファンの点検、フィンの点検清掃などを行ってください。(点検等は、運転停止後しばらくたってエンジンがよく冷えてから行ってください。)



モニタパネル全体図 LRA_00355

■エンジンオイル圧力モニタ

エンジン回転中、オイル潤滑系統が異常のとき点灯します。点灯したままのときは、エンジンオイル量およびオイル潤滑系統を点検してください。(点検は、運転停止後しばらくたってエンジンがよく冷えてから行ってください。)



モニタパネル全体図 LRA_00356

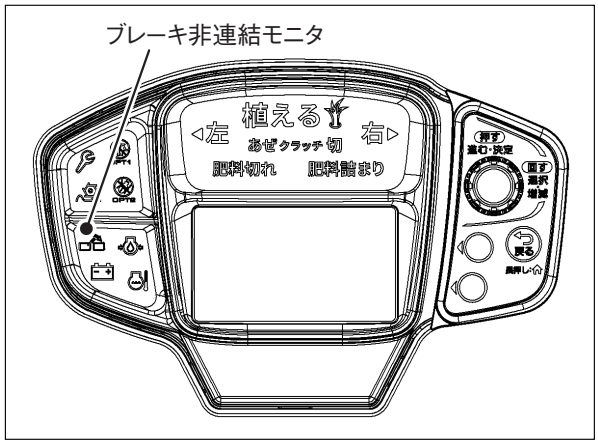
■ブレーキ非連結モニタ

⚠ 警 告

田植作業以外のときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。また、ブレーキは必ず左右同時にきくよう定期的に点検してください。

※ 連結していないと、ブレーキが片ぎきして転倒事故を引き起こすおそれがあります。

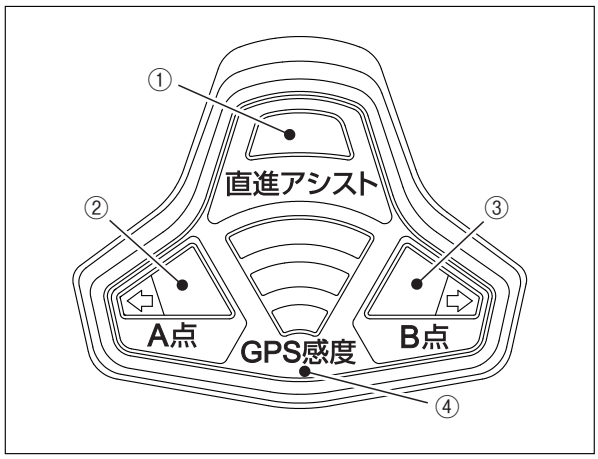
ブレーキペダルの連結金具が連結されていないときに点灯します。



モニタパネル全体図 LRA_00357

3.2.3 直進アシストモニタ

直進アシストモニタは、直進および旋回アシスト機能に関する情報を表示しています。各ランプのはたらきは以下の通りです。



PRJ8Z0006

①直進アシストランプ

点滅：直進および旋回アシスト作業ができる状態の時に点滅します。消灯時に直進および旋回アシスト作業はできません。

点灯：直進および旋回アシスト機能が「入」状態の時点灯します。

②A点ランプおよび左方向誘導ランプ

基準線を未取得時

点滅：A点取得可能な状態

点灯：A点取得済みの状態

基準線を取得済み時

点滅：機体を左方向への誘導指示

（ステアリングを左方向へきって方向修正してください）

③B点ランプおよび右方向誘導ランプ

基準線を未取得時

点滅：B点取得可能な状態

点灯：B点取得済みの状態

基準線を取得済み時

点滅：機体を右方向への誘導指示

（ステアリングを右方向へきって方向修正してください）

④ＧＰＳ感度ランプ

ＧＰＳ感度ランプは、直進アシスト機能の直進精度の目安をＬＶ1～ＬＶ5で表示しています。

ＧＰＳ感度ランプ表示	モニタ表示	直進精度
青ランプ点灯		GPS測位レベルは十分です。
青ランプ点滅		GPS測位レベルは十分ですが、まれに直進精度が悪化する恐れがあります。
橙ランプ点灯		GPS測位レベルは十分ですが、直進精度が悪化する恐れがあります。
橙ランプ点滅		GPS測位レベルが不十分です。直進精度が悪化しやすい状態です。
赤ランプ点灯		GPS測位不能。直進および旋回アシスト機能を使用できません。

補 足

- **ＧＰＳ感度ランプは、衛星配置による測位精度の状態を表しています。**
- **ＬＶ５の状態でも、ほ場条件やその他要因により直進および旋回アシストの精度が悪化する場合があります。直進および旋回アシスト使用時は、必要に応じて手動運転で植付作業を行ってください。**

3.3 レバー、ペダル、シート関係の取り扱い

3.3.1 主変速レバー

⚠ 警 告

田植機から離れるときや点検のときは、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキペダルを踏み込んでロックし、メインスイッチのキーを抜いておいてください。
※ 守らないと、田植機が自然に動き出すおそれがあり、傷害事故を引き起こす原因となります。

苗を補給するときは、駐車ブレーキペダルをロックしてください。
※ 守らないと、田植機が自然に動き出すおそれがあり、傷害事故を引き起こす原因となります。

発進・停止時急激な操作をしないでください。
※ 守らないと、急に動き出し、傷害事故を引き起こす原因となります。

注 意

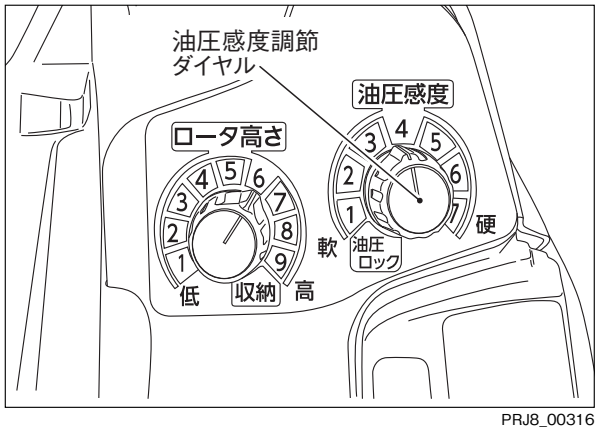
主変速レバーは、駐車ブレーキペダルを踏むと「N」位置に戻り固定されますので駐車ブレーキペダルを踏み込んだままで主変速レバーを作動させないでください。
※ 無理に作動させると主変速レバー、ブレーキの損傷につながります。

(1) 前進、後進および車速を変速できるレバーです。
(2) 「後進」位置にすると植付部が上昇します。

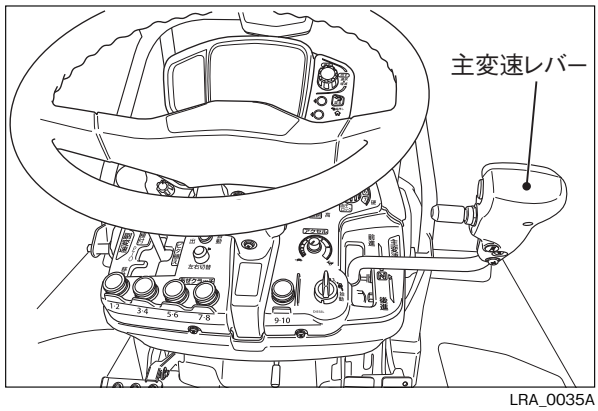
補 足

- **油圧感度調節ダイヤルが「油圧ロック」位置の時には植付部は上昇しません。**

(3) 前進、後進操作すると、連動してエンジン回転数が変化します。



PRJ8_00316

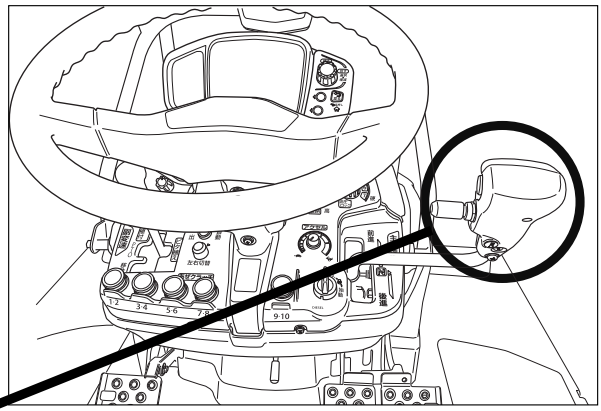


LRA_0035A

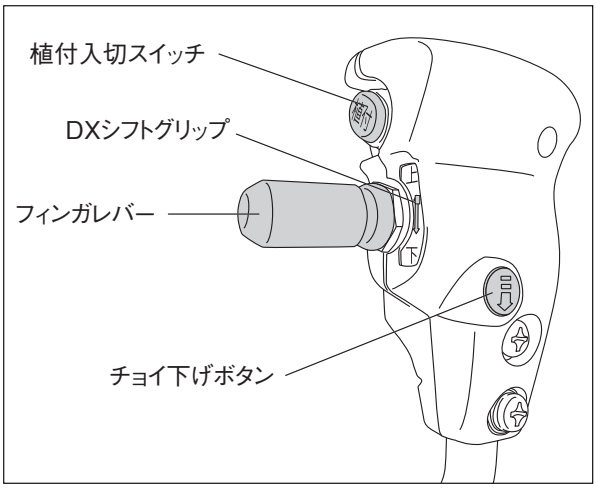
3.3.2 DXシフトグリップ（主変速レバーに付いているグリップ）

ＤＸシフトグリップは握ったまま次の3つの操作をおこなえます。

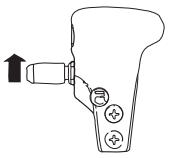
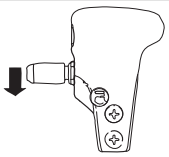
(1) 前後に操作することで前進、後進操作がおこなえます。
(2) 植付部の上昇、下降操作がおこなえます。
(3) 植付クラッチの「入」「切」操作がおこなえます。

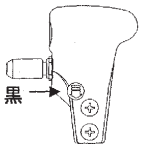
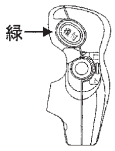


LRA_0035AB



PRJ8_00361

操　作	はたらき	
フィンガレバー	植付部	
	上昇しているとき	上昇停止
	停止しているとき	上昇する
	下降しているとき	
	植え付けているとき	植付が切れて上昇する
	上昇しているとき	下降する
	停止しているとき	
	下降しているとき	下降のまま

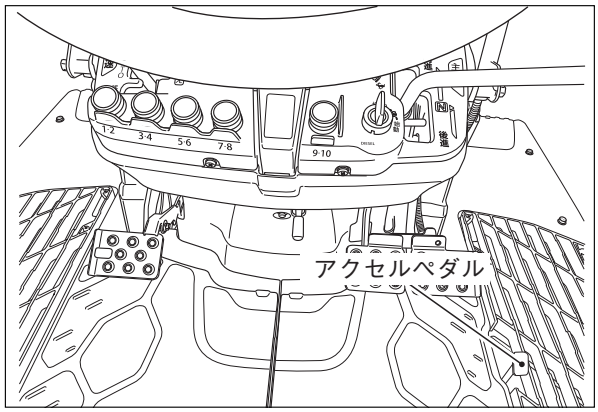
操　作	はたらき		
チョイ下げボタン	植付部		
	植付「切」のとき	停止しているとき	押している間だけ下降する
		下降しているとき	下降のまま
	植付「入」のとき	緩やかな傾斜のある箇所での植付時に使用できます。 チョイ下げボタンを１回押す度におよそ3cmほど、植付部が上昇します。	
植付入切スイッチ			
	押すたびに植付クラッチ「入」「切」を切り替えることができます。		

補 足

- **エンジンがかかっていないと植付部は上下しません。**
  植付部を上下させるには、エンジンをかけ、油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置から解除し、フィンガレバーを操作してください。
- **副変速レバー（ ☞ 57ページ）が「移動」位置の場合、植付入切スイッチを押しても植付クラッチが「入」になりません。**

3.3.3 アクセルペダル

ペダルを踏み込むとエンジン回転が上がります。
主変速レバー操作に連動し、エンジン回転は増減する機構（オートアクセル）ですが、任意にエンジン回転を上げる時に、ペダルを踏み込むとエンジン回転を上げることができます。



PJ10_00363

3.3.4 副変速レバー

⚠ 警 告

坂道では決して、副変速レバーを「PTO」にしないでください。
※ 守らないと、田植機が自然に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

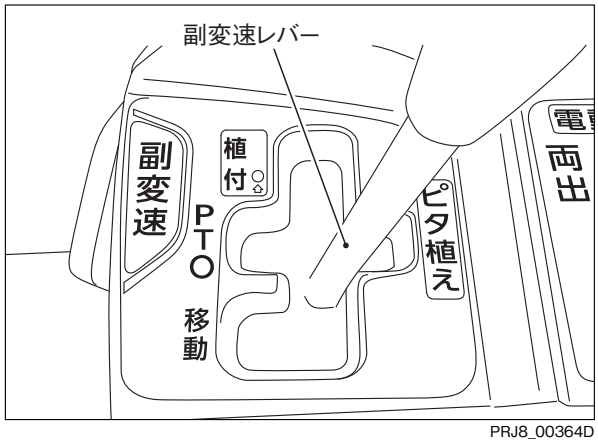
注 意

副変速レバーは、駐車ブレーキペダルを踏み、田植機が完全に停止してから操作してください。
※ 走行中に変速するとトランスミッションの損傷につながります。

移動、PTO、植付速の変速、及びピタ植えの操作をするレバーです。

補 足

- **副変速レバーが植付速に入りにくいとき、レバーをPTOにした状態で、主変速レバーを前進側へ少し倒してから中立位置にし、再度副変速レバーを植付速にしてください。**
  入りにくい場合は、この操作を繰り返し行なってください。
- **副変速レバーが「移動」位置の場合、植付入切スイッチ（ ☞ 56ページ）を押しても植付クラッチが「入」になりません。**



PRJ8_00364D

3.3.5 駐車ブレーキペダル

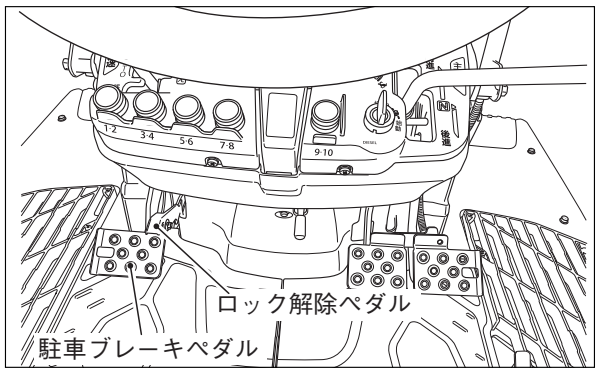
⚠ 警 告

座席から離れて作業する場合や駐車時は、必ず停車ペダルをいっぱいに踏み込み、ロックしてください。

※ 守らないと、田植機が自然に動き出すおそれがあり、傷害事故を引き起こす原因となります。

(1) 駐車ブレーキペダルを踏み込むと機体が停止し、同時に4つの車輪にブレーキがかかります。

(2) ロック解除ペダルを踏まずに駐車ブレーキペダルのみをいっぱい踏み込むと、その状態でロックされ駐車ブレーキがかかります。ロック解除ペダルを踏み込み、足を離すと駐車ブレーキペダルが戻ります。



PJ10_00366

補 足

- **エンジン始動時は踏み込まないとエンジンが始動しません。**
- **駐車ブレーキペダルを踏み込んでいる時は主変速レバーは固定されており動きません。**

3.3.6 ブレーキペダル

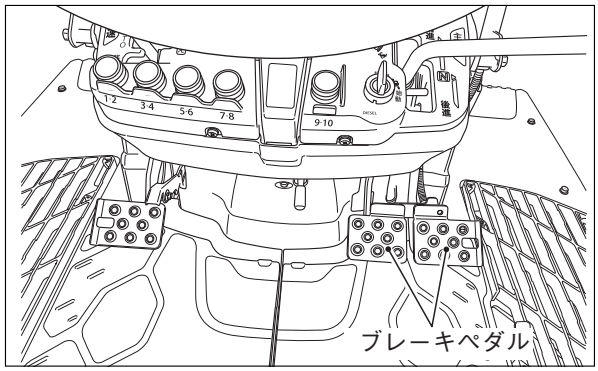
⚠ 警 告

田植作業以外のときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。またブレーキは必ず左右同時にきくよう定期的に点検してください。

※ 連結していないと、ブレーキが片ぎきして転倒事故を引き起こすおそれがあります。

(1) 左側のペダルを踏み込むと左後輪に、右側のペダルを踏み込むと右後輪にブレーキがかかります。

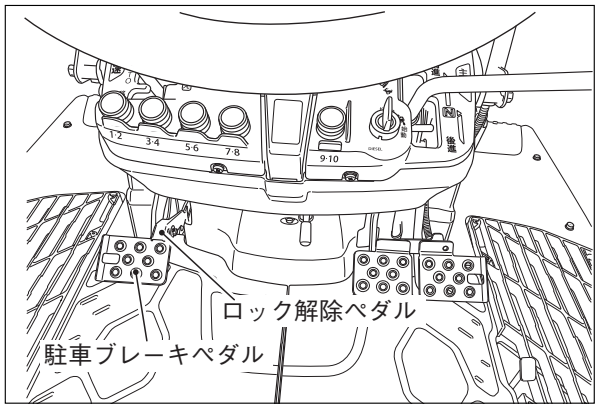
(2) 旋回する側のペダルを踏み込んでください。



PJ10_00367

3.3.7　ロック解除ペダル

(1)　駐車ブレーキのロックを解除させるペダルです。
(2)　駐車ブレーキペダルを踏み込む時、駐車ブレーキペダルをロックさせたくないときは、駐車ブレーキペダルとロック解除ペダルを同時に踏んでください。



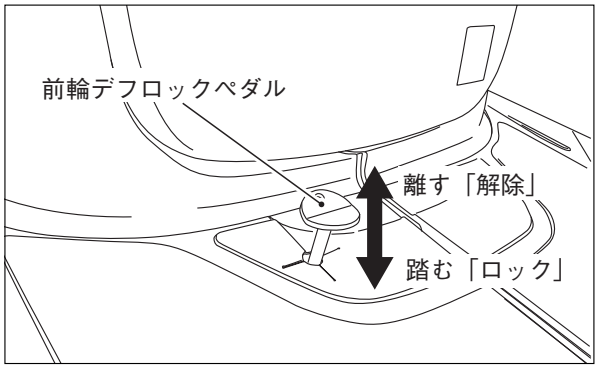
PJ10_00366

3.3.8　前輪デフロックペダル

⚠ 警 告

田植作業以外のときは、前輪デフロックペダルを使用しないでください。
※　守らないと、衝突・転落事故を引き起こすおそれがあります。

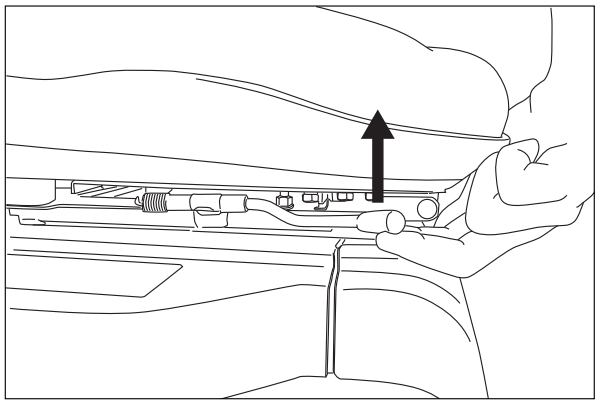
(1)　ペダルを踏み込むと左右前輪の回転が同じになります。
(2)　あぜごえ時や旋回時に前輪がスリップする場合に使用します。



PRJ8_00370

3.3.9 座席の調節

作業しやすい位置になるように、シート右下のレバーを上に引きロックを解除し、シート位置を前後に調整してください。



PRJ8_03377

3.3.10 チルトレバー

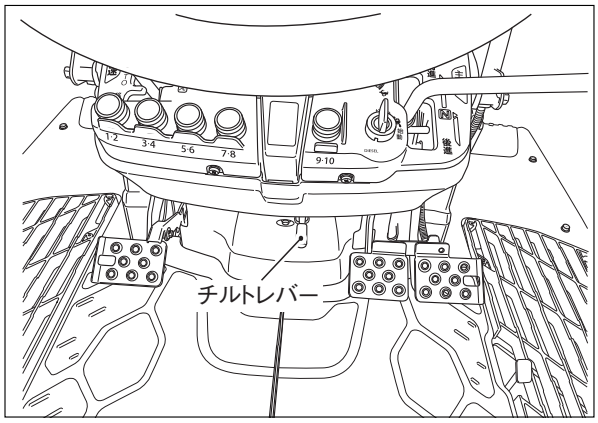
⚠ 警 告

チルトレバーの調節は停止中に行い、走行中は調節しないでください。

※ 走行中に調節すると正常な運転ができなくなり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

(1) ステアリング角度を変更するときに使用するレバーです。

(2) ステアリング角度は4段階選べます。



PJ10_03360

下記の要領で作業しやすい位置に調節してください。

1 チルトレバーを下げたままステアリング（ハンドル）を前後に動かして、運転しやすい位置にステアリング（ハンドル）を合わせます。

2 チルトレバーから手を放し、ステアリング（ハンドル）を少し前後に動かすとステアリング（ハンドル）が固定されます。

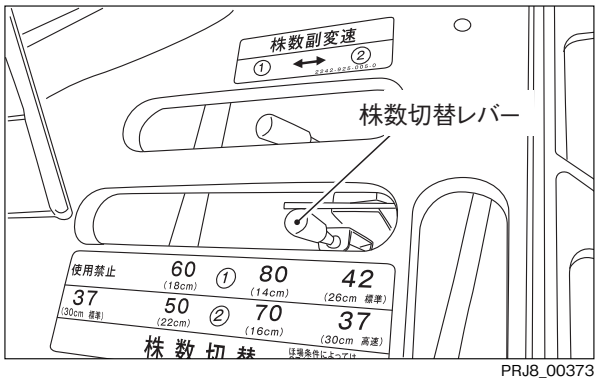
3.3.11 株数切替レバー

(1) 植付株数の切り替えをするレバーです。

(2) レバーを引き出して左右に操作することにより植付株数が変わります。

補 足

- **株数切り替え操作時は、副変速レバーをPTOで主変速レバーを少し前進側へ操作しながら切り替え操作を行ってください。**



PRJ8_00373

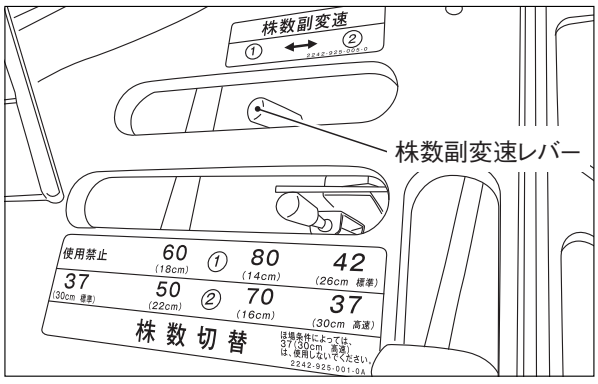
3.3.12 株数副変速レバー

(1) 植付株数の切り替えをするレバーです。

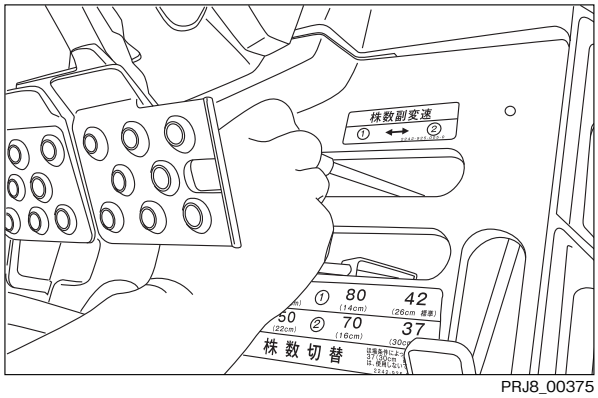
(2) レバーを右下図のように引き出して、左右に倒すことにより植付株数が変わります。

補 足

- **株数切替レバーを「37 株または35 株(30 cm標準)」、「42株または40株(26cm)」にすると、車速規制がかかり、植付作業時の最高速が規制されます。**
- **株数副変速レバーを②の位置にし、株数切替レバーを「37株または35株(30cm高速)」の位置にした場合は最高速の規制はかかりません。**
- **植付が乱れる場合は「37 株または 35 株(30cm 高速)」は使用しないでください。**
- **希望の植付株数になるように、株数切替レバーおよび株数副変速レバーを、表示ラベルの株数の位置に合せてください。**



PRJ8_00374

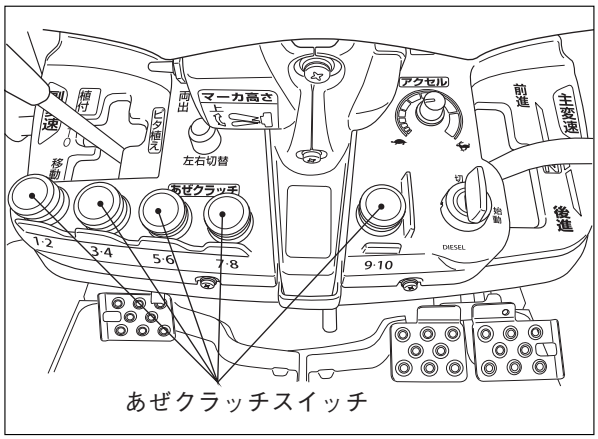


PRJ8_00375



3.3.13 あぜクラッチスイッチ

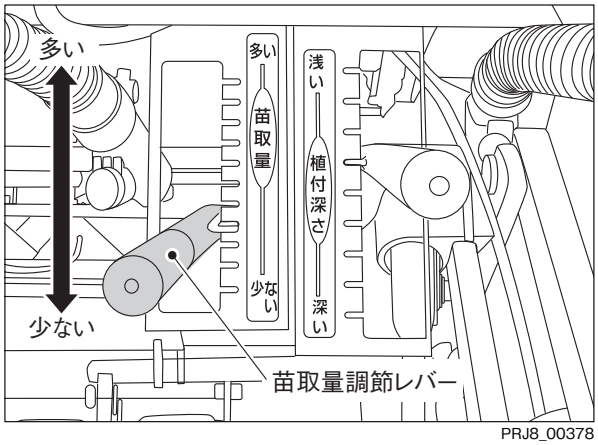
(1) 2条ごとに植付を停止させるスイッチです。
(2) 植えじまいの植付条数の調整や変形ほ場での植付時に使用します。
(3) スイッチが「入」状態の場合、モニタパネルのあぜクラッチ「切」が点滅します。
(4) あぜクラッチが切れている状態の時、その条のスイッチランプが点灯します。



PJ10_00377

3.3.14 苗取量調節レバー

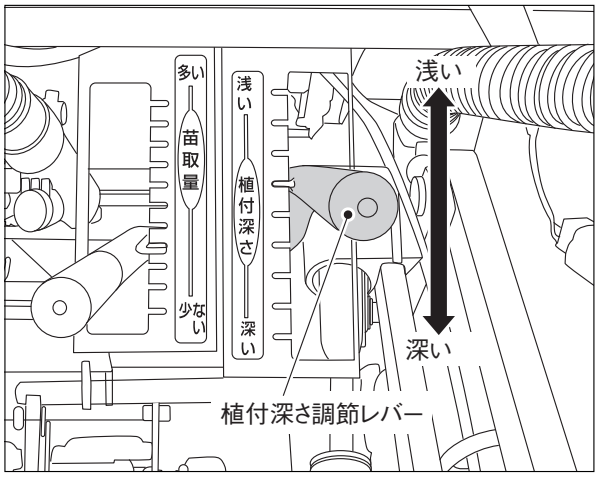
(1) 全条の苗取量を一度に調節するレバーです。
(2) レバーを上の溝にセットすると苗取量は多くなり、下の溝にセットすると苗取量は少なくなります。



PRJ8_00378

3.3.15 植付深さ調節レバー

(1) 植付深さを調節するレバーです。
(2) レバーを上の溝にセットすると浅植えとなり、下の溝にセットすると深植えとなります。



PRJ8_00379

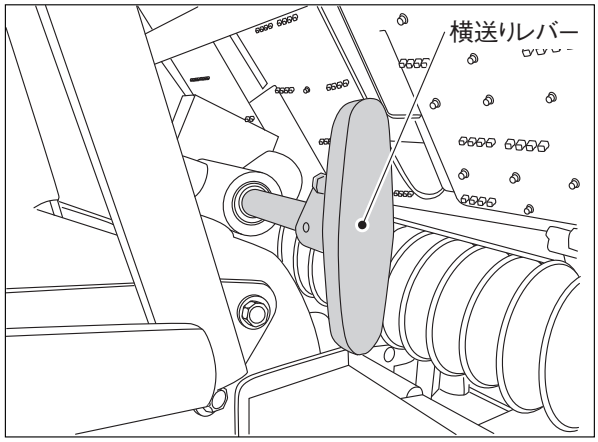
3.3.16　横送りレバー

⚠ 注 意

切り替えはエンジンを停止し、油圧ロック状態で行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

レバーを押し引きすることにより苗のせ台の横送り量を切り替えることが出来ます。

押す	28回送り
中	24回送り
引く	20回送り



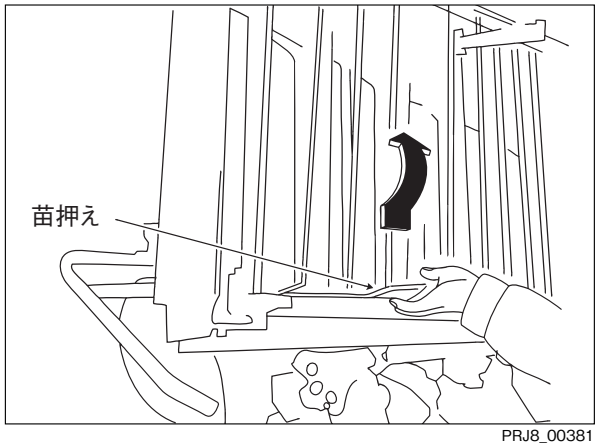
PRJ8_00380

3.3.17　苗押え

⚠ 警 告

苗の取り出しは、エンジンを停止して行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

残り苗を取り出すときに、苗押えを上に引き抜き上側に回すと苗が取り出しやすくなります。



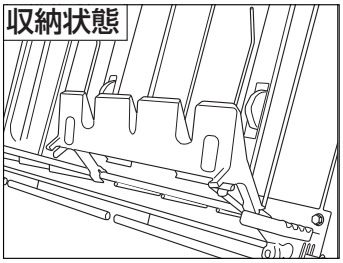
PRJ8_00381

3.3.18 苗ストッパ

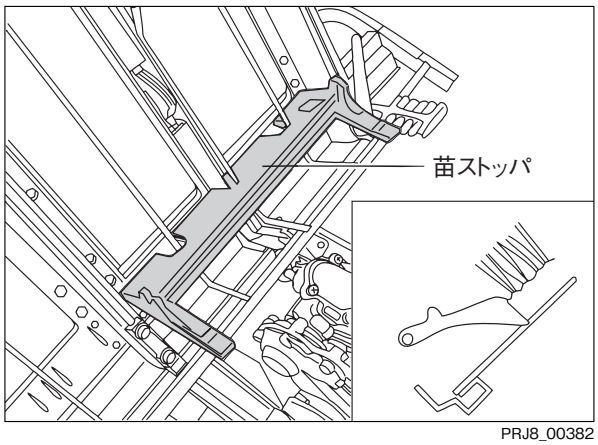
1条ごとに植付を停止したいときに使用します。あぜクラッチスイッチと組み合せて使用してください。

補 足

- **苗ストッパは苗のせ台の右端に収納します。**
- **苗ストッパを使用した後は、必ずもとの位置に戻してください。**



PRJ8_00383



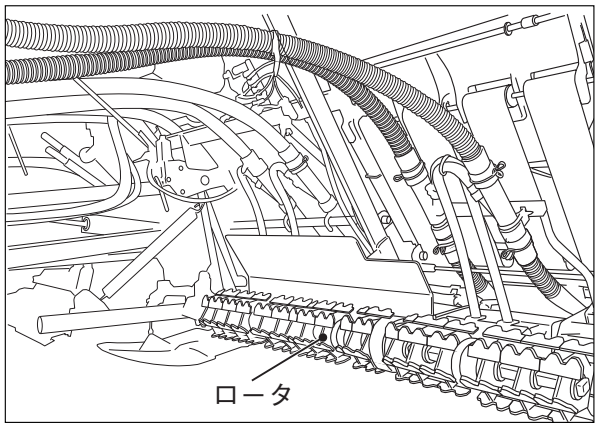
PRJ8_00382

3.3.19 ロータ

・植付けと同時に田面をならし均一にします。

補 足

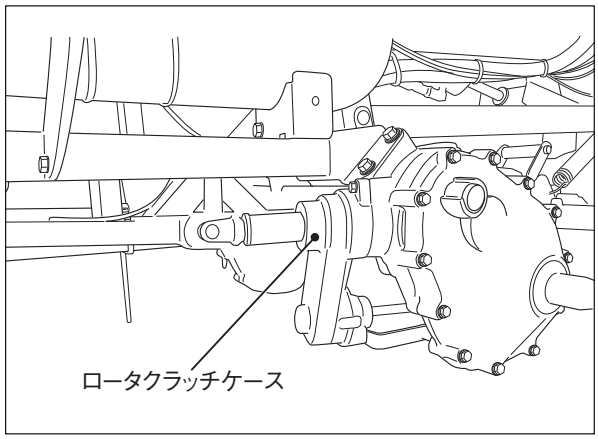
- **ロータは後車輪に連動していますので、走行すると回転します。**
- **ロータ駆動は植付部の昇降と連動してクラッチの「入」「切」をします。**
  フロート底面高さ約45cm未満でロータが回転します。



PJ10_00306

3.3.20　ロータクラッチケース

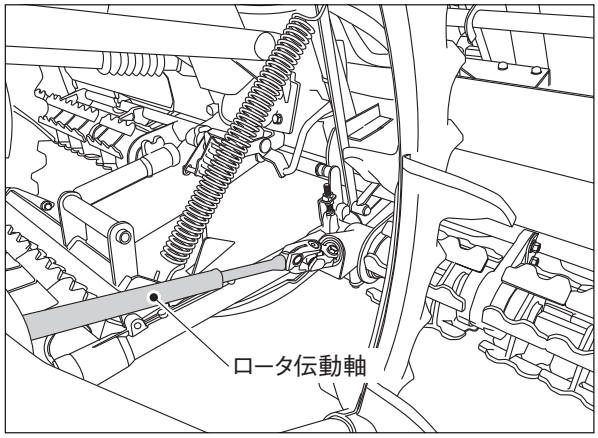
・後輪伝動軸から分岐してロータを回転させます。
この中にクラッチ「入」「切」機構が入っています。



PJ10_00308

3.3.21　ロータ伝動軸

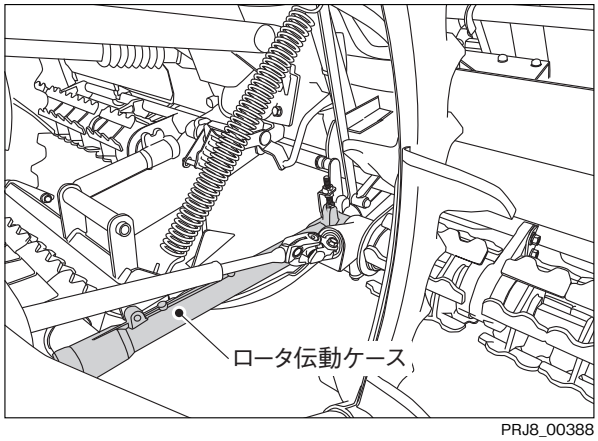
・後輪軸からの回転をロータに伝えます。



PRJ8_00387

3.3.22　ロータ伝動ケース

・中央、左右の各ロータに回転を伝えます。



PRJ8_00388

4. 作業前点検

故障を未然に防ぐには、田植機の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行ってください。

⚠ 危険

給油、注油および点検整備するときは、くわえタバコ等の火気厳禁です。
※　守らないと、火災の原因となります。

⚠ 警告

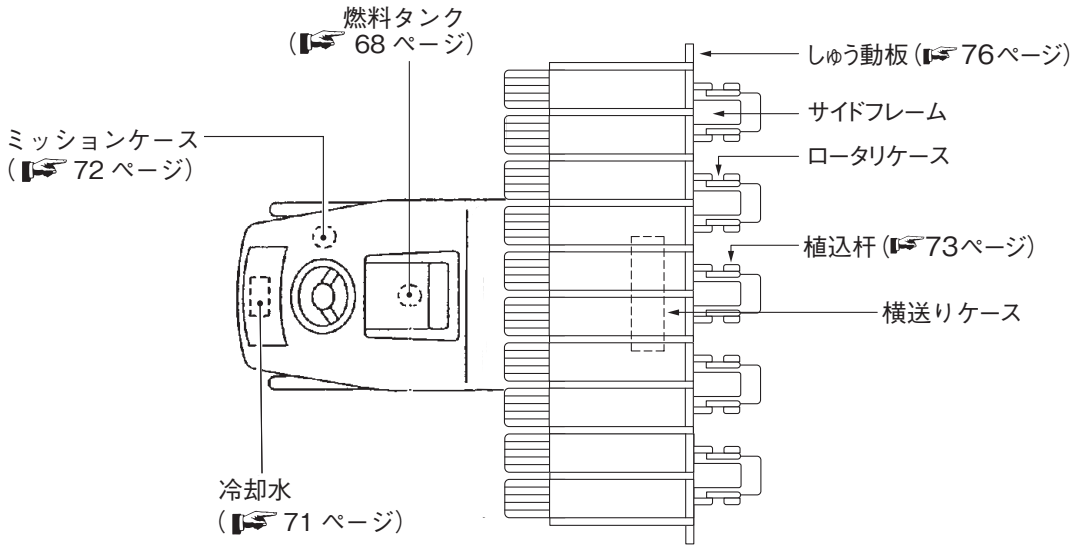
点検・整備をするときは、平たんな広い場所で行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

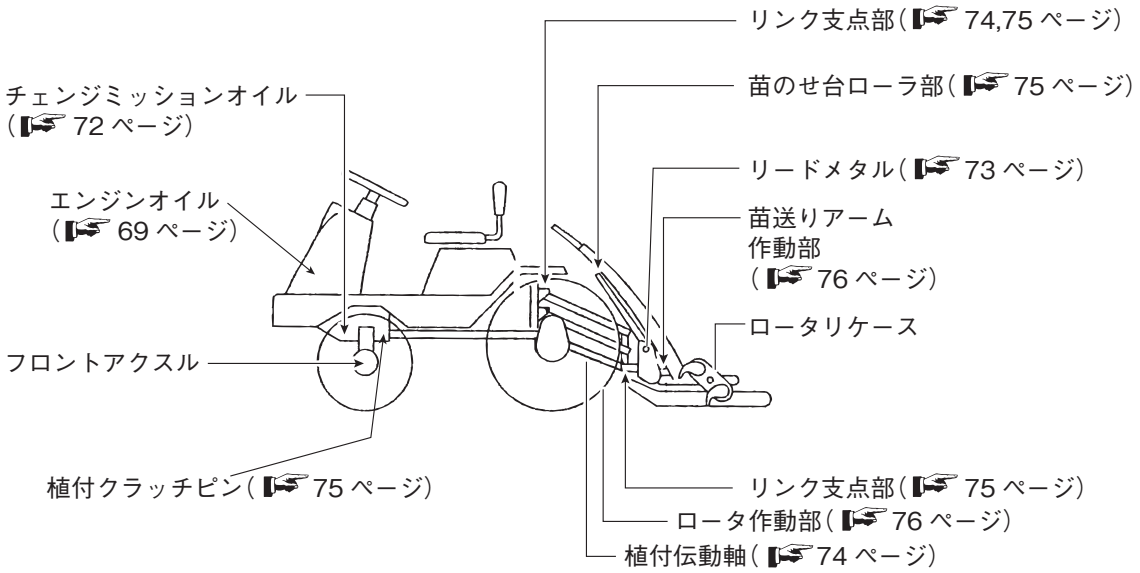
点検や整備をするときは、十分な明るさを確保してください。
※　暗い所で行っていると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキペダルをロックし、植付部を降ろすか植付部の油圧を油圧感度調節ダイヤルで「油圧ロック」位置にしてから行ってください。
※　守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

給油、注油および点検整備は、必ずエンジンを停止し、エンジン等の過熱部分が十分冷えてから行ってください。
※　守らないと、やけど等の原因となります。

4.1 給油、注油箇所の点検と補給





PJ10_00401

4.1.1 燃料

⚠ 危険

燃料を補給するときは、くわえタバコ等の火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

燃料を補給するときは、エンジンを停止し過熱部分が十分冷えてから行ってください。
※ 燃料のつぎこぼし等により、火災の原因となります。

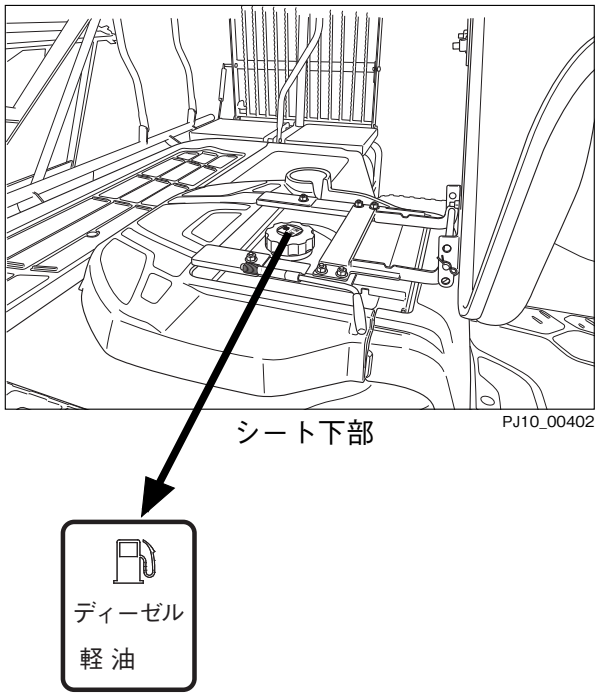
燃料をつぎこぼしたときは、きれいにふき取ってください。
※ こぼしたままエンジンを始動すると引火し、火災の原因となります。

シートを持ち上げるとタンクキャップが見えます。
タンクキャップを開け、給油口よりディーゼル軽油を給油してください。

補 足

- **燃料タンクの容量は182ページを参照してください。**

給油後はタンクキャップを閉めてください。



シート下部 PJ10_00402

- ディーゼル軽油には下表の種類があり、地域・季節により流通している種類が異なります。
  使用時期に合わせ、地域・季節に見合ったものを使用してください。

種類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特1号	＋5以下
1号	－2.5以下
2号	－7.5以下
3号	－20以下
特3号	－30以下

（JIS規格より抜粋）

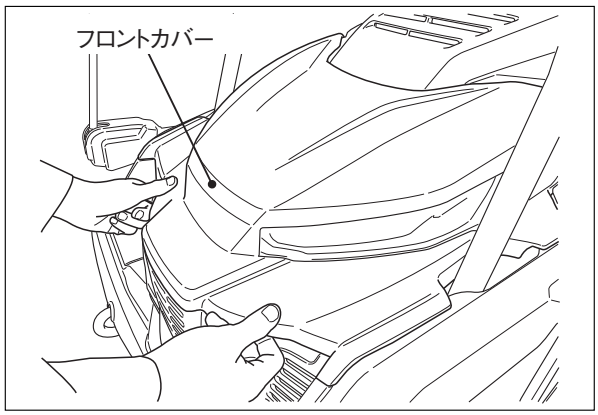
流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり、凍結などにより始動できなくなる事があります。

4.1.2 エンジンオイル

⚠ 警 告

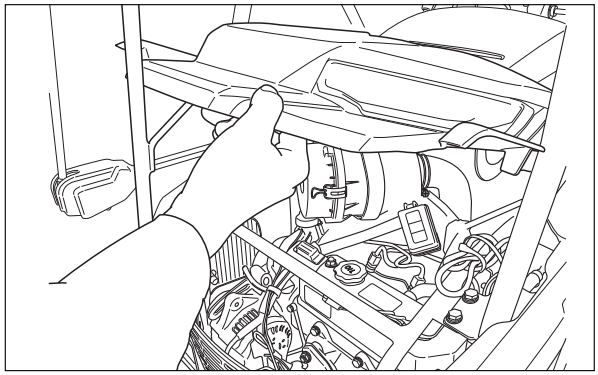
エンジンオイルの点検・補給は、必ずメインスイッチを「切」位置にしてエンジンを停止し、十分冷えてから行ってください。
※ これを怠ると、やけどをするおそれがあります。

1 フロントカバー上部を上げてください。

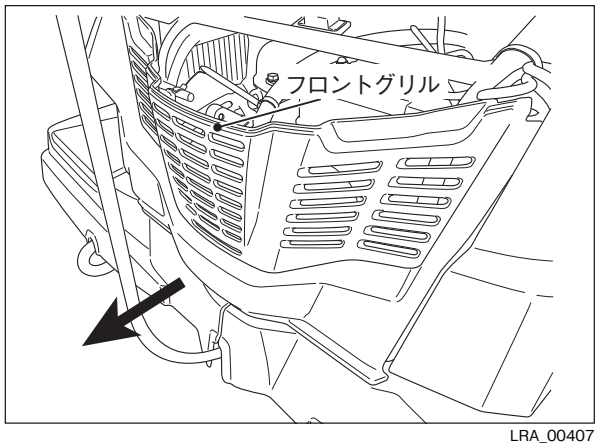


LRA_00405

2 センターマスコットにフロントカバー上部を引っ掛けてください。

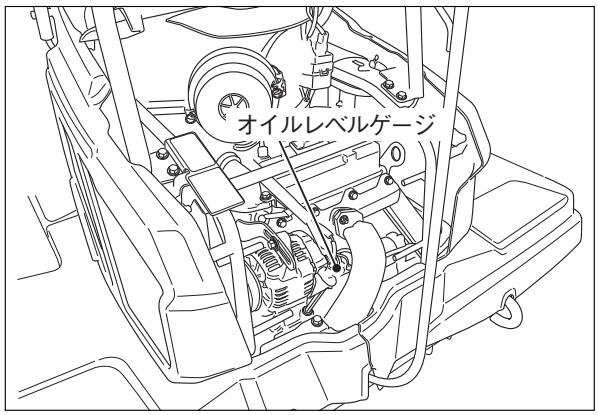

LRA_00406

3 フロントグリルを機体前方に引いて外してください。



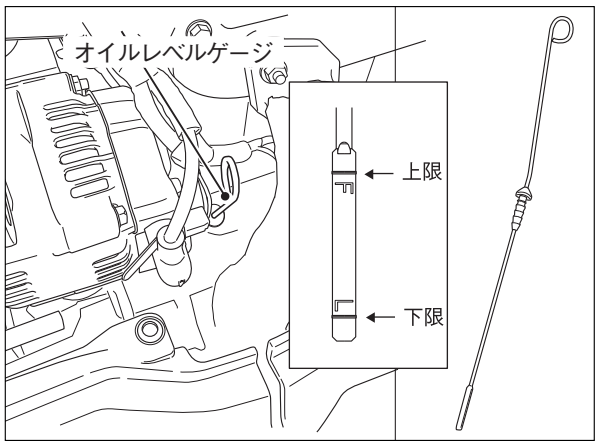
LRA_00407

4 オイルレベルゲージを抜いて先端をきれいに拭き、差し込んで再び抜き、上下刻線の間に油量があるか調べます。



PJ10_00409

5 「下限」以下の場合、純正オイル(10W-30･CF/SH)を補給してください。
エンジン上部のOILと書かれた黒いキャップから給油してください。



PJ10_00410

機種	搭載エンジン	オイル量
LRA10	E3112（ディーゼル）	3.5L（オイルフィルタ交換時　3.7L）

6 1～3の逆の手順でフードを閉じてください。

4.1.3 冷却水

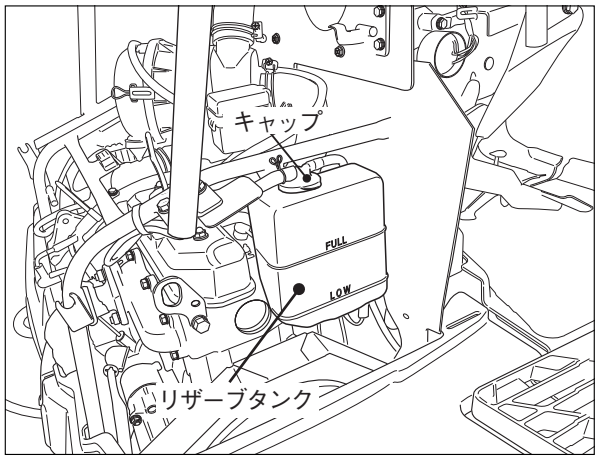
⚠ 警 告

ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。
運転停止後、過熱部分が十分冷えてから、注意しながら開けてください。
※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。

1 エンジン側方にあるリザーブタンク内の冷却水量が規定範囲内（H←→L）にあるかどうか点検し、少ない場合は補給してください。

補 足

- **冷却水が緑色をしている場合は、不凍液が入っています。**



PJ10_00415B

2 点検後はリザーブタンクのキャップを確実に閉めてください。

4.1.4 チェンジミッションオイル

■点検

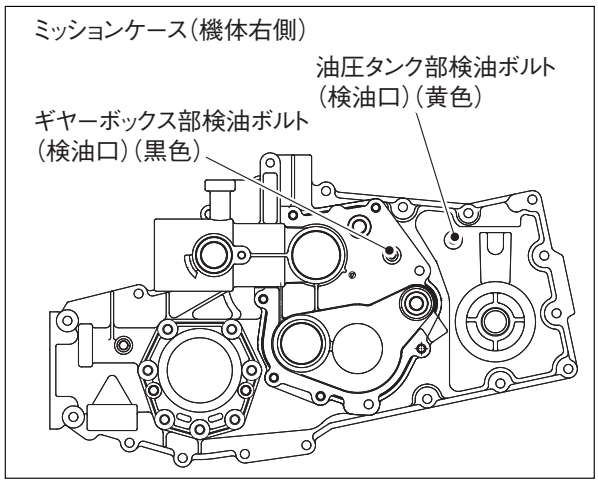
1 植付部を降ろしてください。

2 検油ボルトを外し、検油口までオイルが入っているか確認してください。

補 足

- **作業時には、念のためオイルを受ける容器を用意してから行ってください。**

3 確認が終わったら、検油ボルトを元どおりにしてください。



PJ10_00416

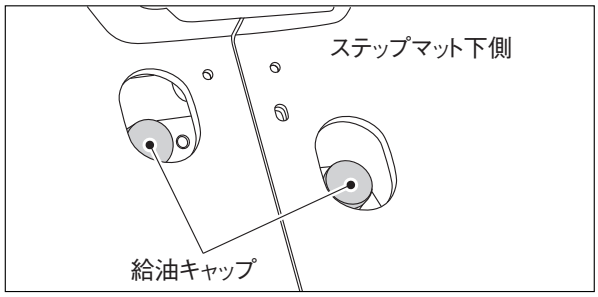
■補給

1 油量が少ない場合は、給油口のキャップを外し、検油口下面まで補給してください。

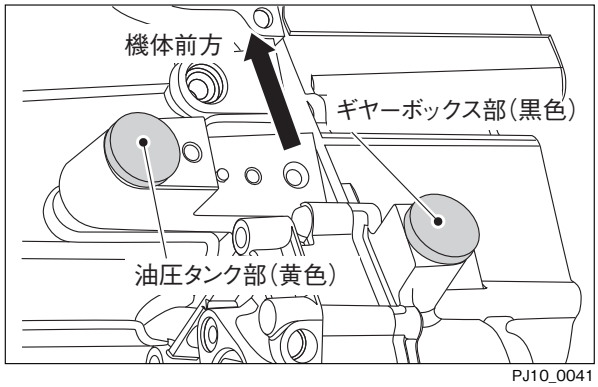
2 給油が終わったら、キャップを元どおりにしてください。

補 足

- **油圧タンク部（キャップ黄色）は、純正油又はAPI：GL-4，SAE：80Wを給油してください。**
- **ギヤーボックス部（キャップ黒色）は純正油又はAPI：GL-4，SAE：80Wを給油してください。**



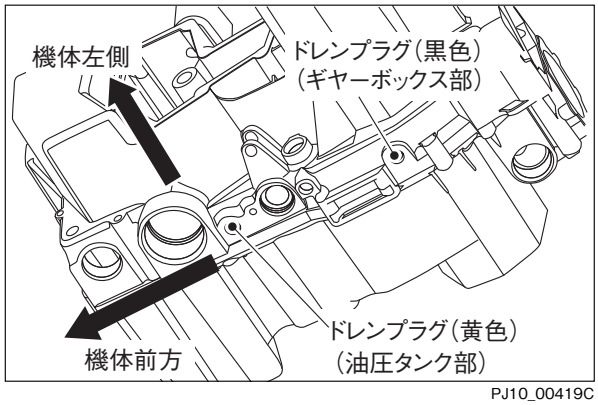
PRJ8_00417



PJ10_0041

■オイルの排出ドレン位置

『7.1 定期的な点検整備』の項目の注意事項を確認のうえ、点検整備を実施してください。

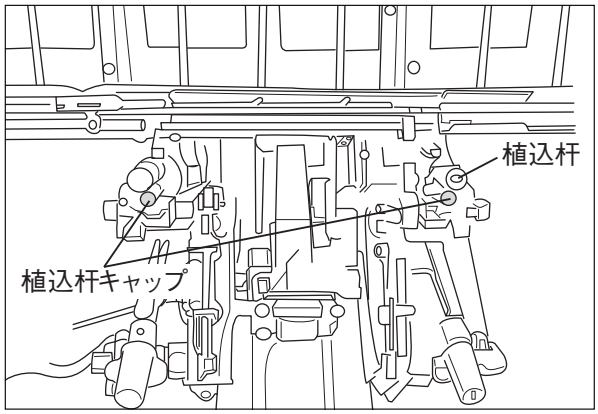


PJ10_00419C

4.1.5 植込杆

■点検

植込杆キャップを取り外し、植込杆の中にグリースがあるか確認してください。
確認後は植込杆キャップを取り付けてください。



PRJ8_00420

■補給

油量が少ない場合は、グリースを適量補給してください。
補給後は植込杆キャップを取り付けてください。
グリースについてはお買いあげ先へお問い合わせください。

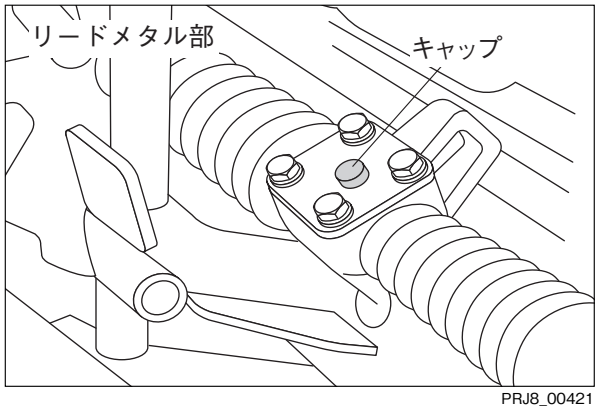
補 足

- **グリースがほとんどない場合は17.5cc程度補給してください。**
- **グリースを入れすぎるとフォークの動きが悪くなる場合がありますので注意してください。**

4.1.6 リードメタル

■点検

キャップを外し、中にグリースがあるか確認してください。
確認後はキャップを取り付けてください。



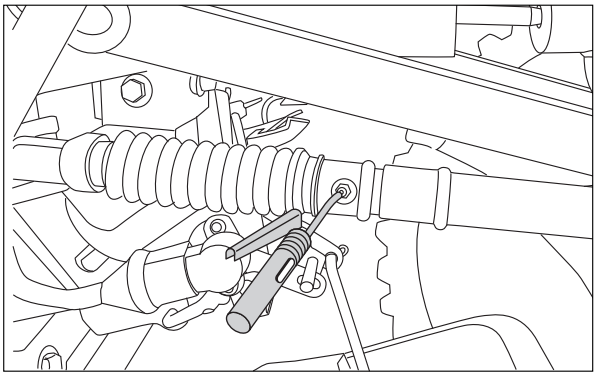
PRJ8_00421

■補給

グリースが少ない場合は、適量補給してください。
補給後はキャップを取り付けてください。
グリースについてはお買いあげ先へお問い合わせください。

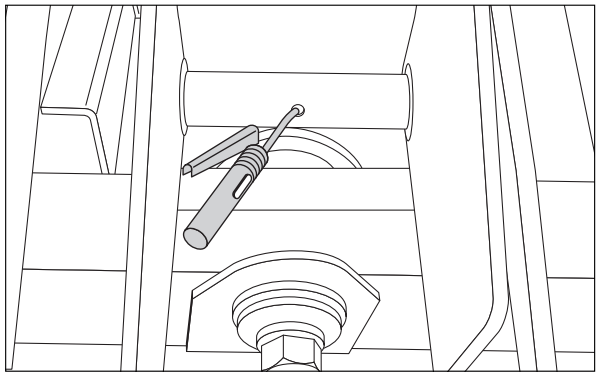
4.1.7 グリース注入箇所（グリースニップル）

■植付伝動軸シャフト部



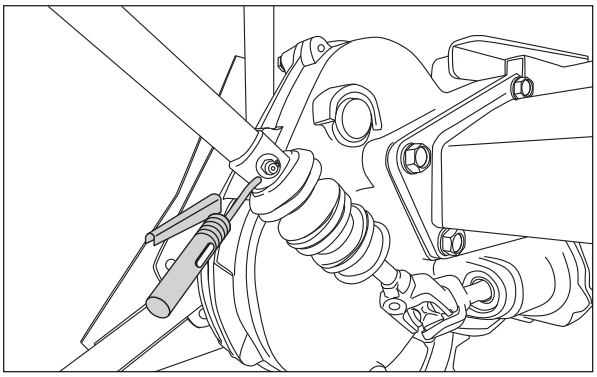
PRJ8_00422

■リンク支点部（前方下）



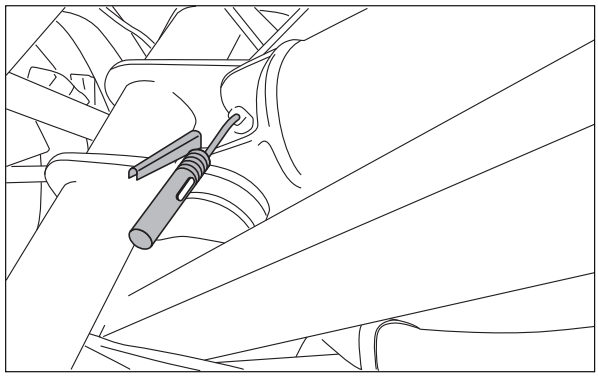
PRJ8_00423

■ロータ伝動軸シャフト部



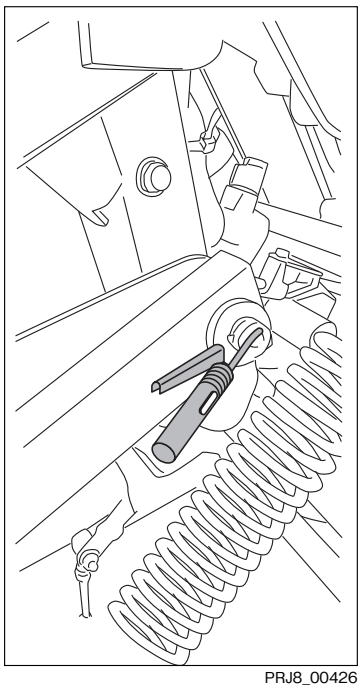
PRJ8_00424

■油圧シリンダ支点部



PRJ8_00425

■リンク支点部（後方）



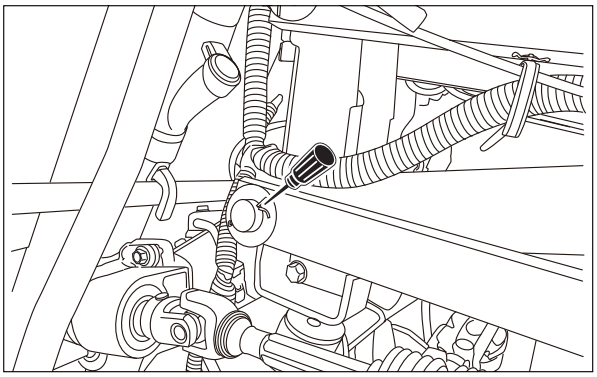
PRJ8_00426

4.1.8 オイル注油箇所

補 足

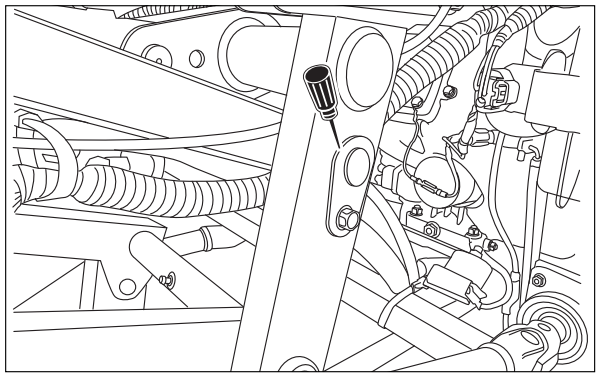
● **注油箇所には目印として黄色の塗料が塗ってあります。**

■リンク支点部（後方）



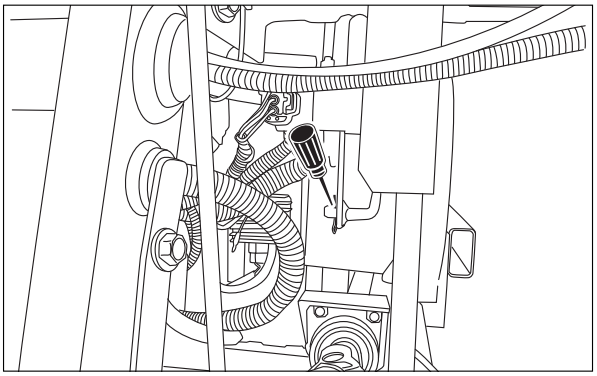
PRJ8_00427

■リンク支点部（前方上）



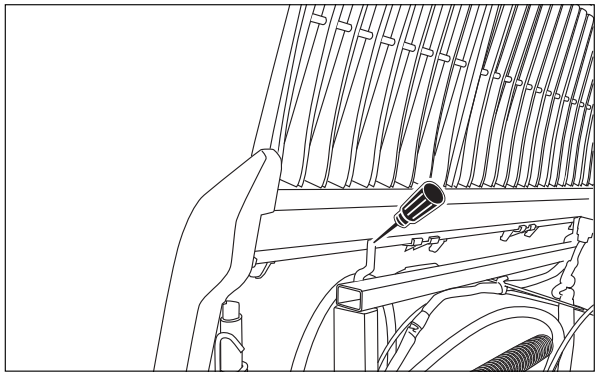
PRJ8_00428

■植付クラッチピン作動支点部



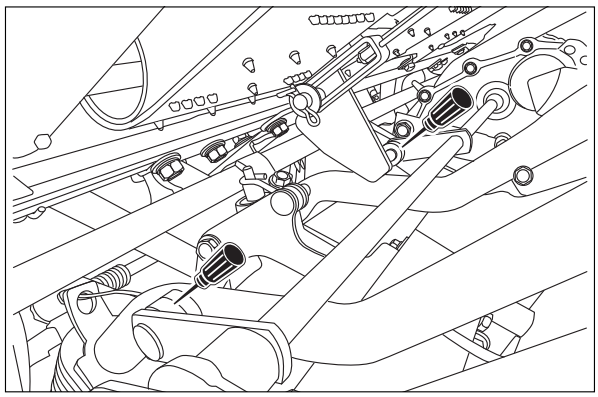
PRJ8_00429

■苗のせ台ローラ部



PRJ8_00430

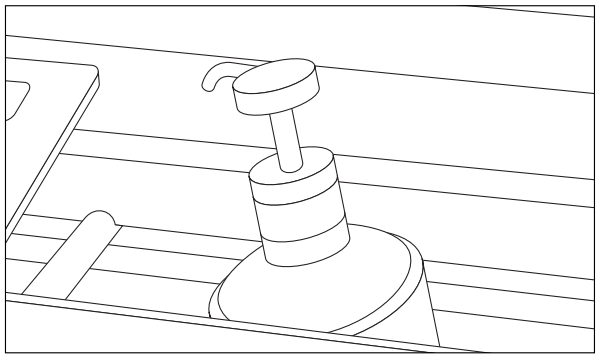
■苗送りアーム、カム関係
回動部に十分注油してください。(左右各1箇所ずつ)


PRJ8_00431

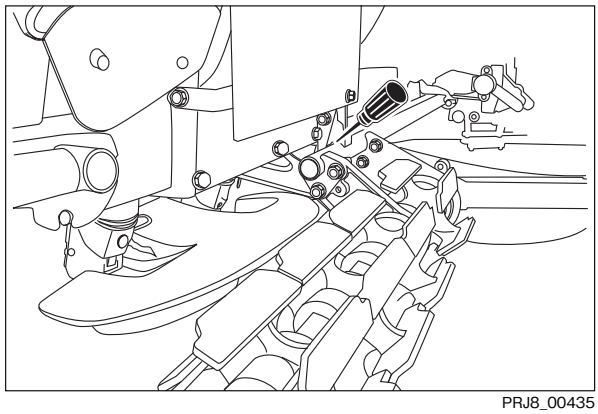
■しゅう動板
1日1回、給油ポンプを2～3回押して、注油してください。

補 足

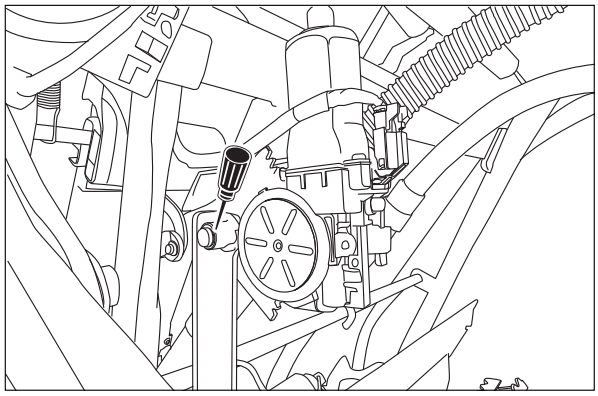
- **使用後はポンプのキャップをいっぱいまで引き上げてください。**
  引き上げないと、油が流れ出る恐れがあります。


NPJ8_00433

■アーム（ロータ）の回動部

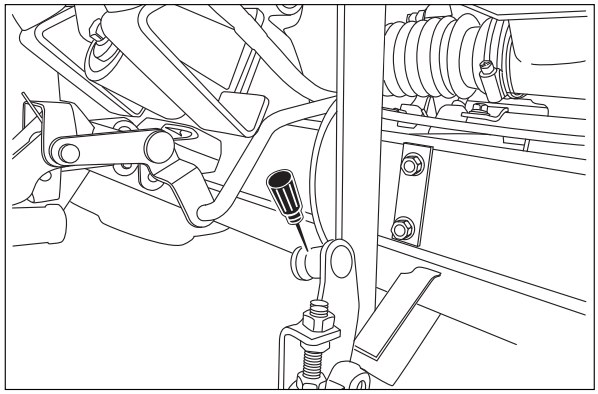

PRJ8_00435

■ロータ昇降モータ回動支点部



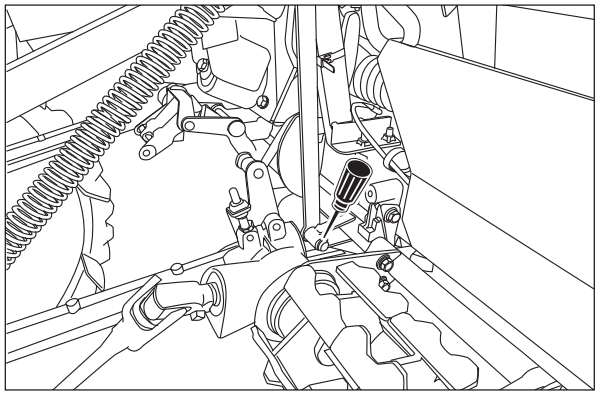
PRJ8_00436

■カム（ロータ）のローラ部



PRJ8_00437

■アーム（ロータ/モータ）回動支点部



PRJ8_00438

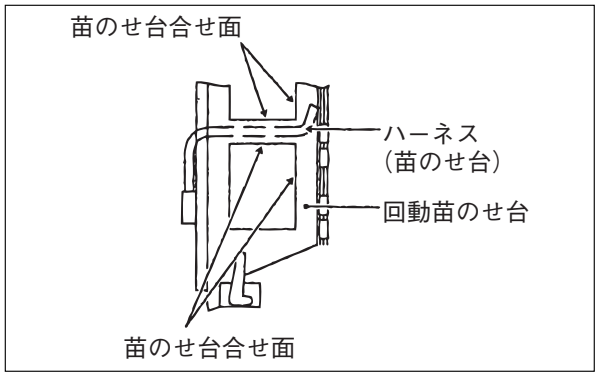
■回動苗のせ台の点検項目

注 意

回動苗のせ台を点検するときは、回動苗のせ台を下記取り扱いに注意して点検してください。

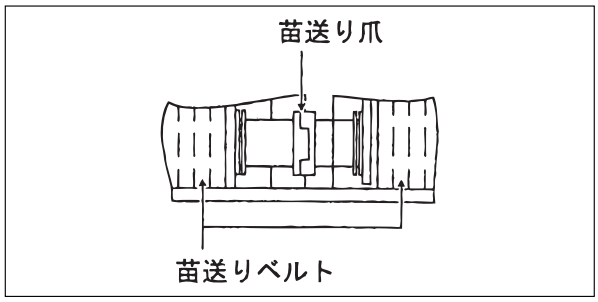
※ 故障や苗送り不良の原因となります。

(1) ハーネス（苗のせ台）が、苗のせ台合せ面で挟みこまれていないか点検してください。



PRJ8_00439

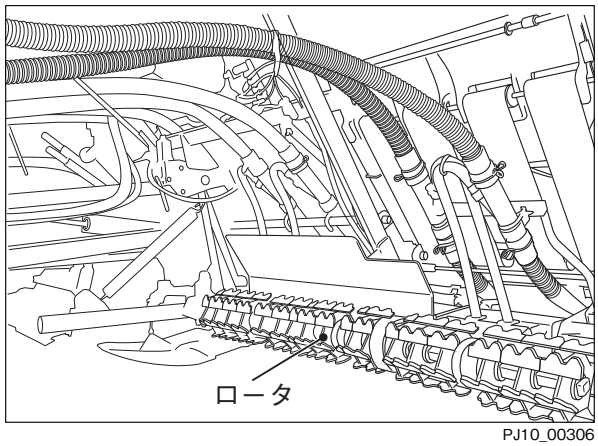
(2) 苗送り爪が、山と谷で噛み合っているか点検してください。苗送りベルトを回転させると噛み合います。



PRJ8_00440

■ロータの点検項目

・ロータが摩耗していないか、ロータに異物が巻きこんでいないか確認してください。
巻付きがある場合は取り除いてください。



PJ10_00306

5.　運転のしかた

⚠ 警 告

室内で運転するときは、窓を開けて換気を十分に行ってください。
※　換気が悪いと排気ガスによる中毒の原因となります。

エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の状況を確認してから行ってください。
※　確認を怠ると、急発進して傷害事故を引き起こすおそれがあります。

エンジンを始動するときは、周囲の人に「声」をかけ合図してください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

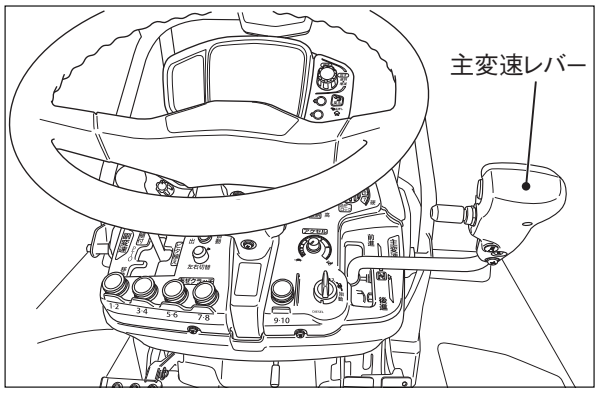
⚠ 注 意

始動する前に保護カバー類が取り付けてあるか確認してください。
※　カバー類を取り付けていないと、田植機に巻きこまれ傷害事故の原因となります。

5.1　エンジンの始動と停止のしかた

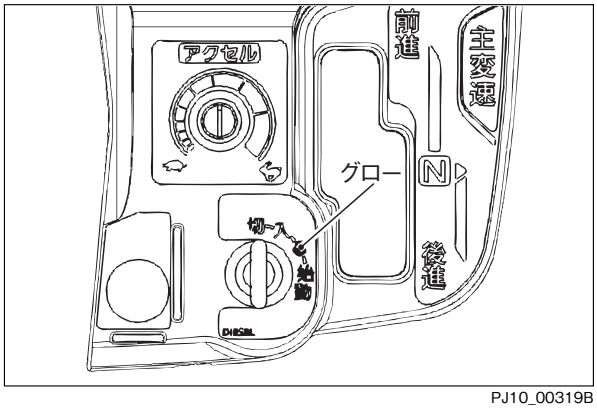
5.1.1　エンジンの始動

1 主変速レバーを「N」位置にします。



LRA_0035A

2 エンジンが冷えている状態で始動するときは、メインスイッチを「グロー」位置に回し、5～10秒間予熱を行ってください。

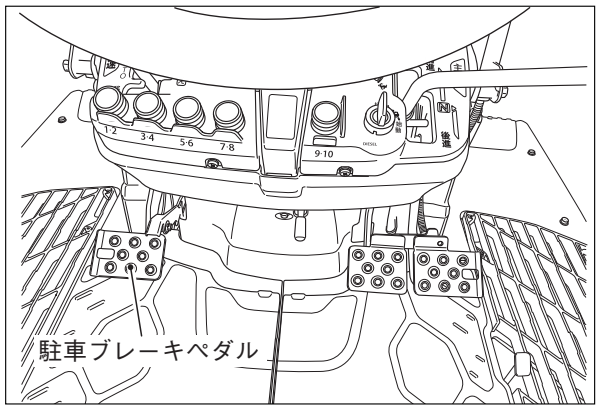


PJ10_00319B

3 駐車ブレーキペダルを踏み込んでロック状態にしてください。

補 足

- **駐車ブレーキペダルを踏み込まないとエンジンは始動しません。**
- **エンジンが始動しにくいときは、アクセルペダルを踏み込み始動してください。**



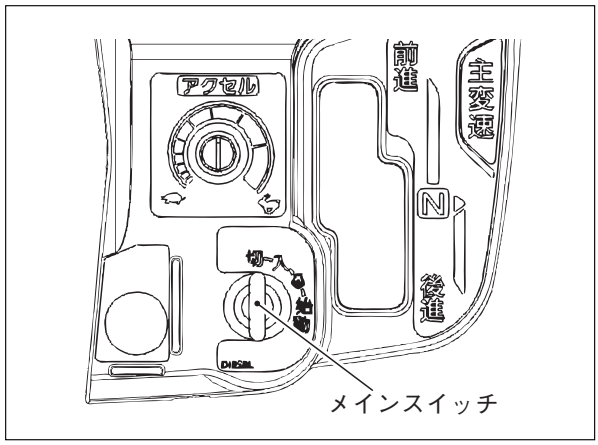
PJ10_00366B

4 メインスイッチを「始動」位置に回します。

5 エンジンが始動したら、ただちにメインスイッチから手を離してください。

補 足

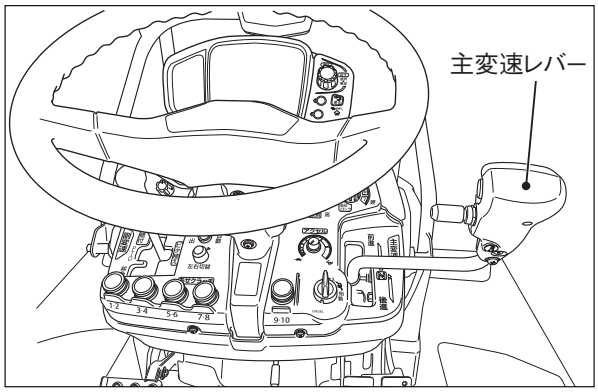
- **エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」位置にしないでください。**
- **メインスイッチの作動は1回10秒程度とし、始動しないときは30秒程度停止してから、再び操作を繰り返してください。**



PJ10_00319C

5.1.2 エンジンの停止

1 主変速レバーを「N」に戻します。
（エンジン回転が下がります。）

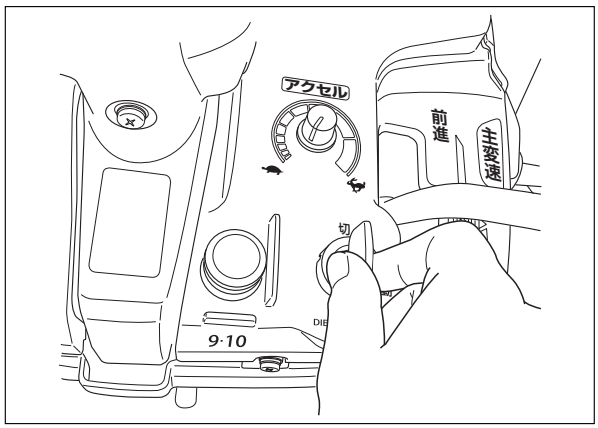


LRA_0035A

2 メインスイッチを「切」位置にするとエンジンは停止します。

補 足

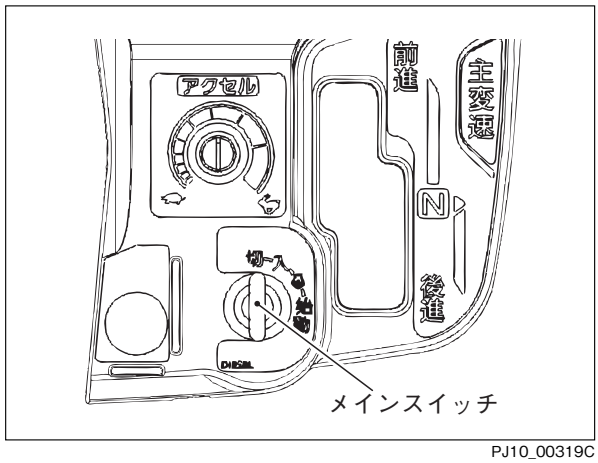
- **エンジンを高速回転のまま停止しないでください。**
- **メインスイッチを「入」位置のまま放置するとバッテリを放電させてしまいます。エンジン停止後はメインスイッチのキーを外すことをお勧めします。**



PJ10_0508

5.1.3 燃料のエアー抜きのしかた

燃料タンクが空になり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まってしまいます。もし、このようなことが起こったら燃料を満タンにしたうえで、メインスイッチを「入」位置のままで20～30秒まってから「始動」位置にしてください。自動的にエアー抜きが行われ、エンジンがかかります。



PJ10_00319C

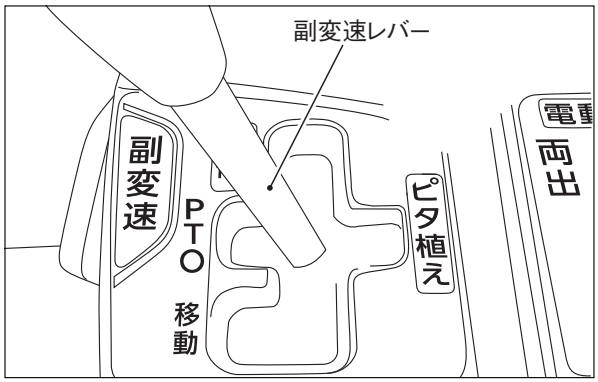
1 エンジンの始動手順に従って、メインスイッチを「入」位置にし、20～30秒待った後、メインスイッチを「始動」位置にします。

2 エンジンが始動するまで数回「始動」操作をします。

5.2 発進、停止、駐車のしかた

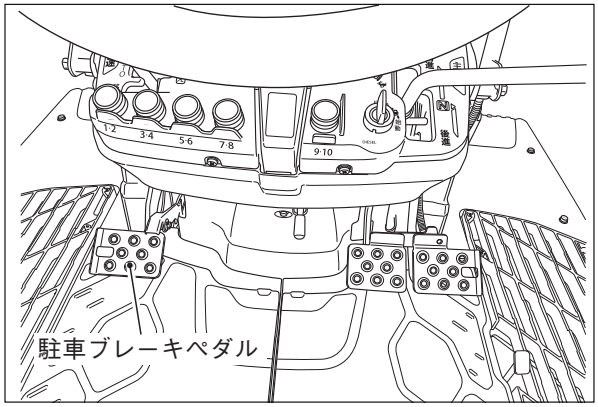
5.2.1 発進のしかた

1 副変速レバーを作業に合った位置にしてください。



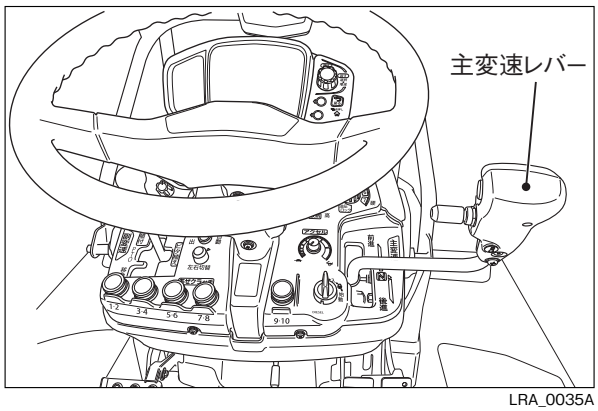
PRJ8_00364B

2 駐車ブレーキペダルとロック解除ペダルを同時に踏み込み、徐々に離してください。



PJ10_00366B

3 主変速レバーを徐々に動かして発進してください。
主変速レバーに連動して、エンジン回転も上がります。
任意にエンジン回転を上げたい時は、アクセルペダルを踏み込んでください。



LRA_0035A

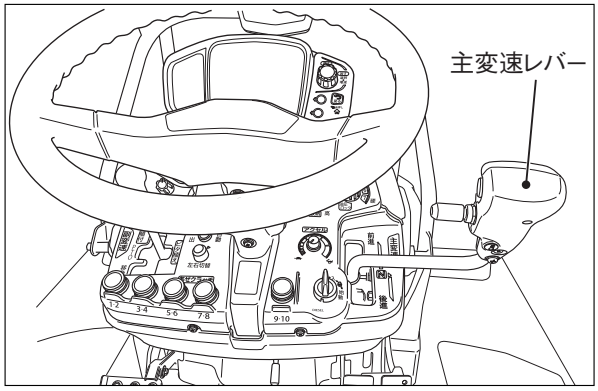
5.2.2 停止のしかた

⚠ 警 告

急ブレーキは、緊急時以外はさけてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

主変速レバーはゆっくり減速してください。
※ 急減速すると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1 主変速レバーをゆっくり「N」に戻してください。
主変速レバーに連動して、エンジン回転も下がります。
アクセル制御ダイヤル使用時はアクセル制御調節ダイヤルを戻してください。

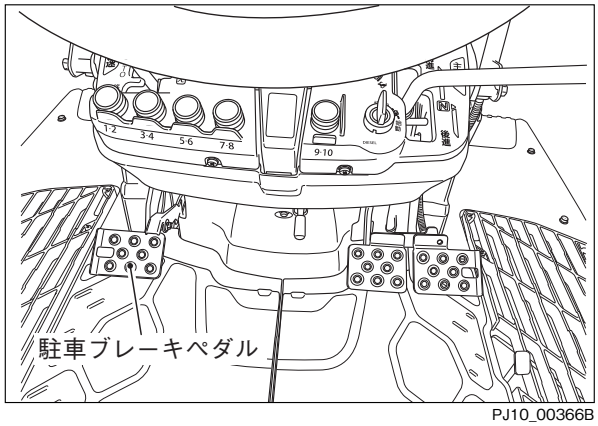


LRA_0035A

2 駐車ブレーキペダルを踏み込みます。

補 足

- **走行中に駐車ブレーキペダルを踏み込むと主変速レバーが連動して「N」位置に移動します。**



PJ10_00366B

5.2.3 駐車のしかた

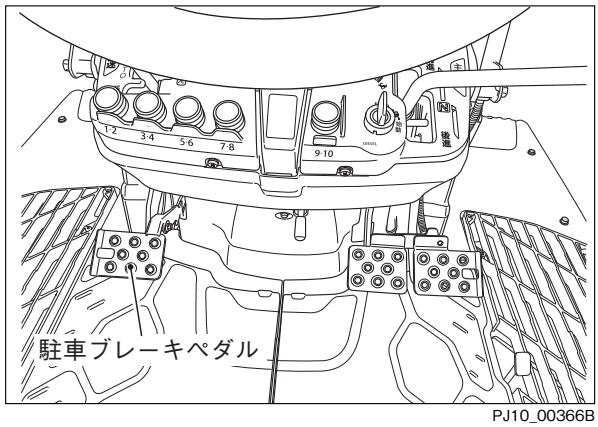
⚠ 警 告

駐車時、植付部は下げておいてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

やむを得ず坂道で駐車する場合は、車輪に必ず車輪止めをしてください。
※ 守らないと、田植機が自然に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

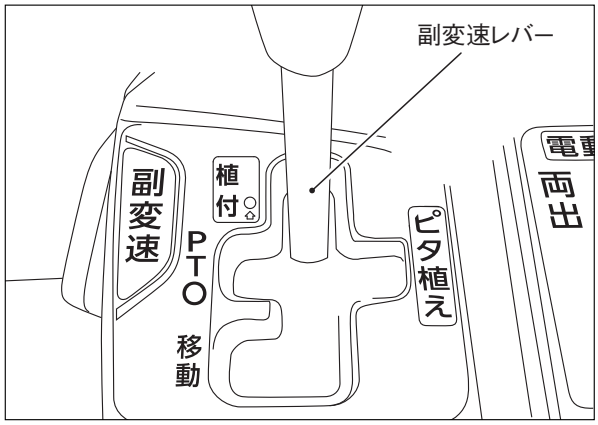
1 エンジンを停止してください。

2 駐車ブレーキペダルをいっぱい踏み込みロックしてください。



PJ10_00366B

3 副変速レバーを「植付」位置にしてください。



PRJ8_00364E

5.3 移動、運搬のしかた

5.3.1 走行前の準備

⚠ 警 告

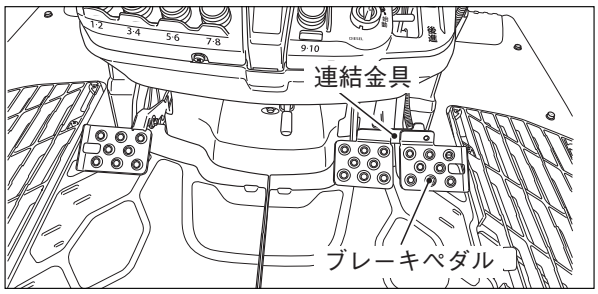
走行するときは、エンジン回転を落とし主変速レバーは低速にしてください。
また、Zターンスイッチは必ず「OFF」にしてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注 意

高さ制限が田植機全高、または田植機運搬時の自動車の高さ以下の場所は移動、運搬を行わないでください。
障害物に接触し破損するおそれがあります。

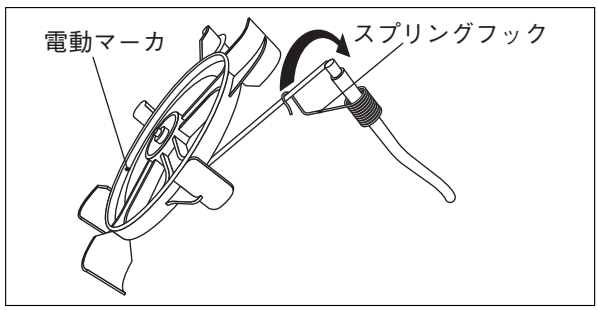
GPSアンテナステーにロープ等をかけないでください。破損する恐れがあります。

1 左右ブレーキペダルを連結金具で連結してください。



PJ10_00366C

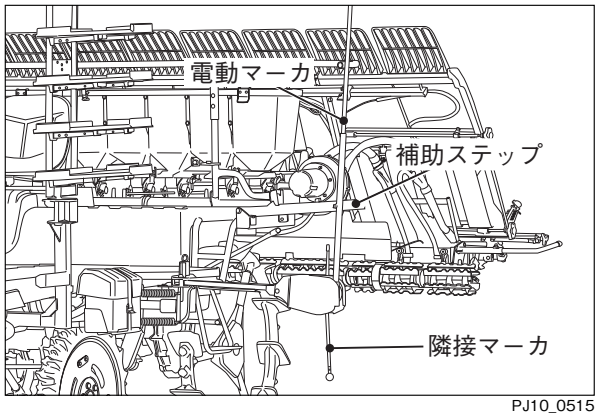
2 スプリングフックをはずし、マーカ部を取り外してください。



PRJ8_0513

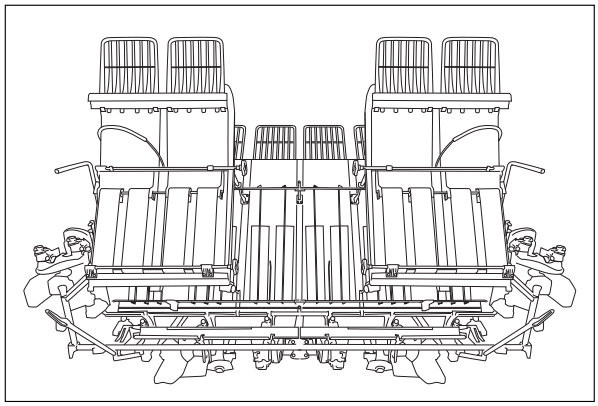
3 隣接マーカ、電動マーカを収納してください。
（☞ 97ページ）

4 補助ステップを収納してください。
（☞ 98ページ）



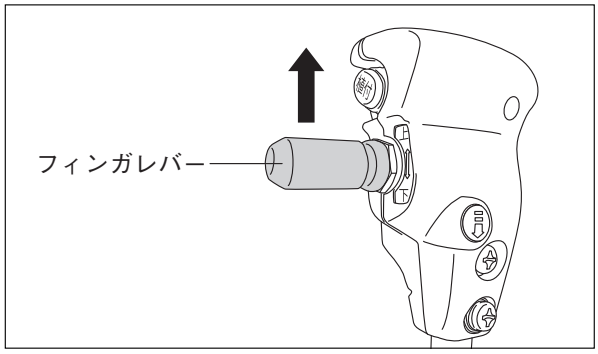
PJ10_0515

5 植付ユニットを収納してください。
（☞ 87ページ）



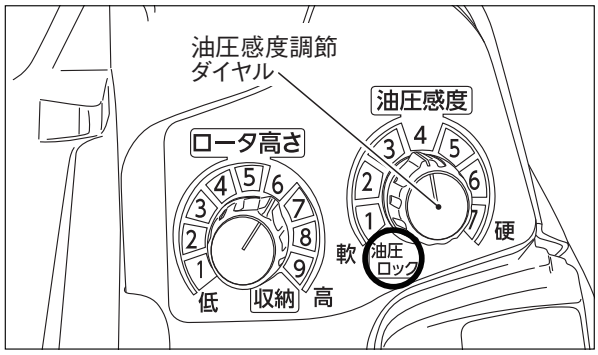
PJ10_0517B

6 エンジン始動状態でフィンガレバーを上方へ操作し、植付部をいっぱいまで上げてください。



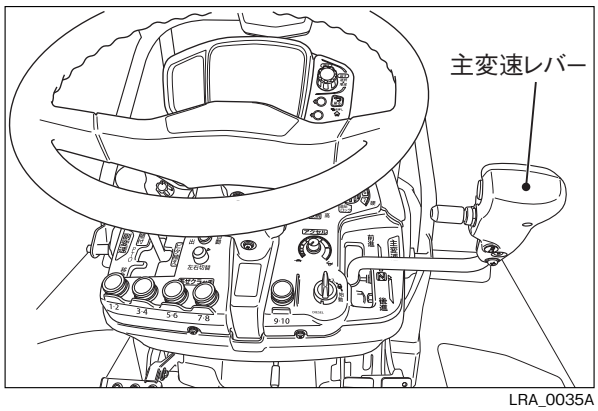
PRJ8_0520

7 油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にしてください。



PRJ8_00316C

8 走行場所に合せて、副変速レバーをセットし、主変速レバーをゆっくり動かしてください。



LRA_0035A

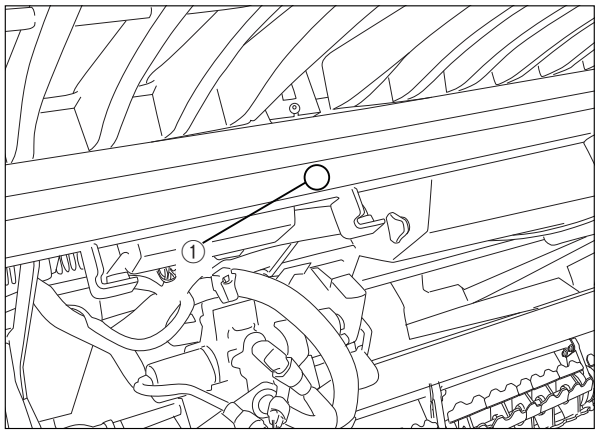
5.3.2 各部の収納・セットのしかた

■植付ユニットの収納のしかた

1 植付部をPTOで回して、苗のせ台を機体中央位置に移動させてください。

補 足

- **苗のせ台が機体中央位置に合っていないと、折りたたみができません。**

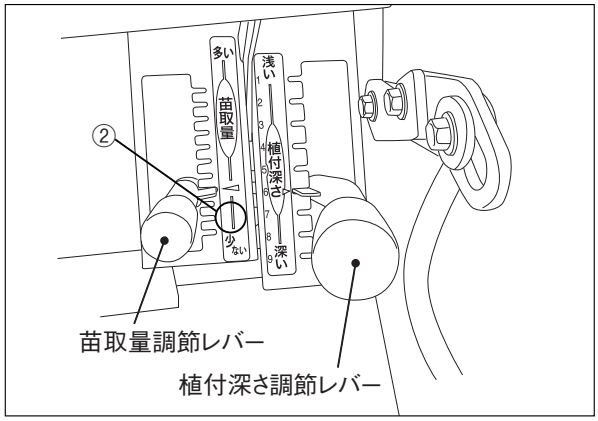


PJ10_0102B

2 苗取量調節レバー、植付深さ調節レバーを標準位置にしてください。

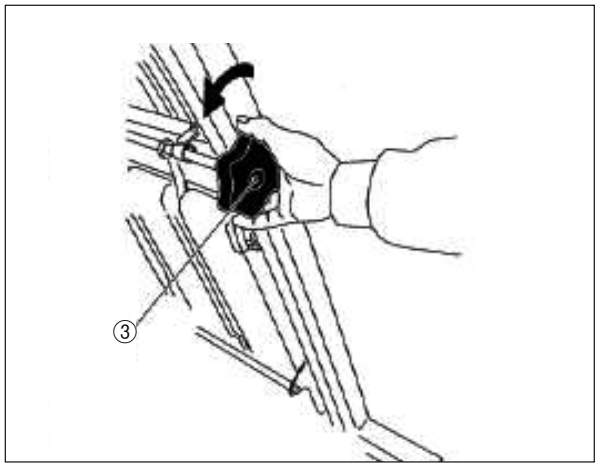
補 足

- **苗取量調節レバー、植付深さ調節レバーが標準位置にないと植付ユニット折りたたみ、作業状態セット時に回動できません。**



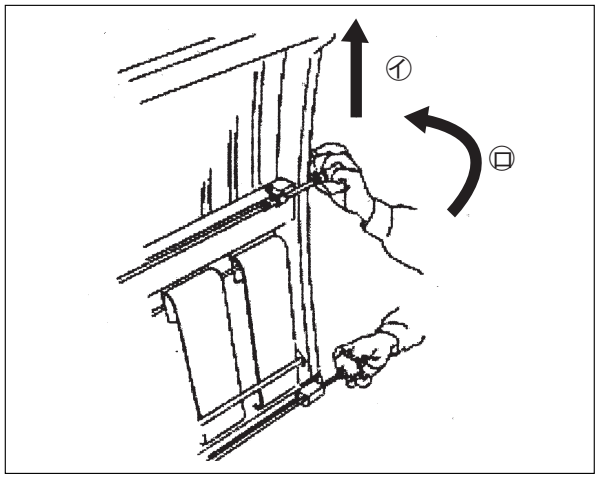
PJ10_0103

3 苗のせ台両端のノブ③を緩めてください。（左右各2ヵ所）



PJ10_0104

4 両端の苗のせ台を上側㋑に引き上げ、後方㋺に反転させてください。

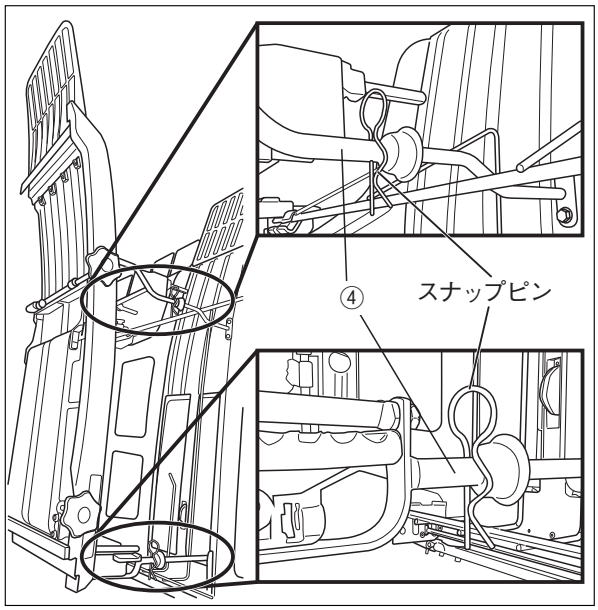


PJ10_0105

5 回動苗のせ台は、案内ガイド④内にピンを差し込み、スナップピンで固定してください。

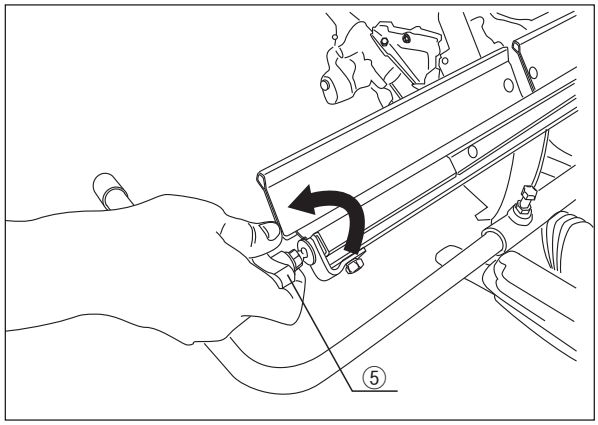
補 足

- **収納時には、必ず回動苗のせ台をスナップピンで固定してください。**



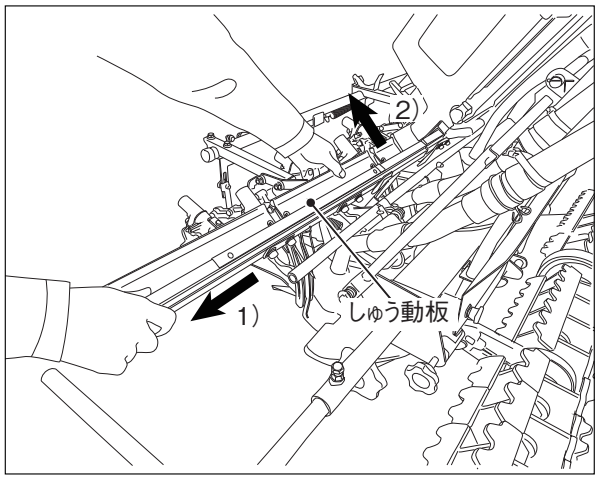
PJ10_057

6 しゅう動板両端のノブ⑤をゆるめてください。



PJ10_0107

7 しゅう動板を外側方向へ引き、上方へ持ち上げ、しゅう動板を取り外してください。

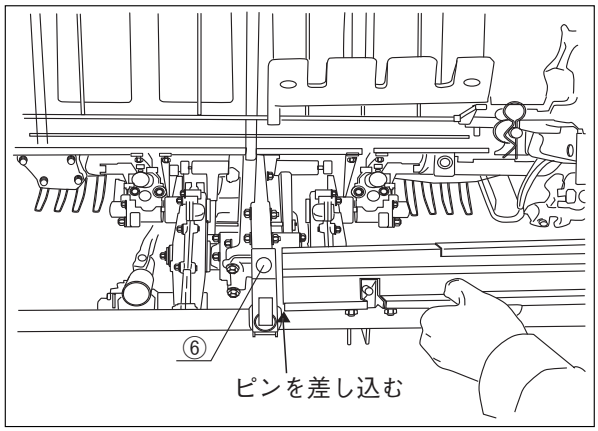


PJ10__0108

8 取り外したしゅう動板は、植込杆後方のしゅう動板ステー⑥にピンを差し込み、マグネットとノブ⑤を軽く回してしゅう動板を固定してください。

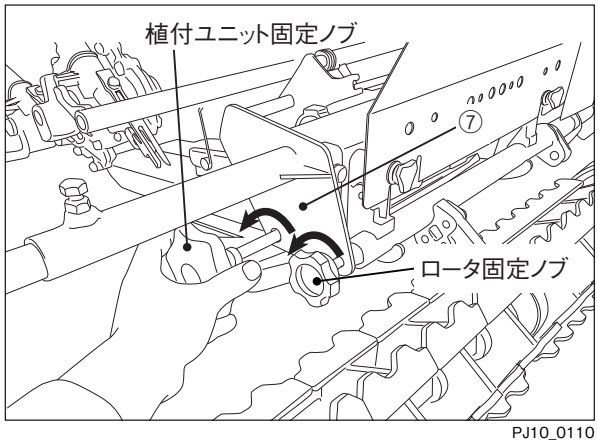
補 足

- **ノブ⑤を回しすぎると反対側のしゅう動板ステーの固定ができなくなることがあります。**



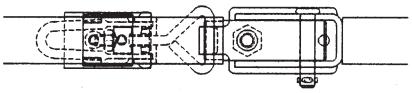
PJ10_0109

9 ⑦位置にある植付ユニット固定ノブ、ロータ固定ノブを緩めて固定を解除し、ロータと両方のノブを機体外側に引いてください。

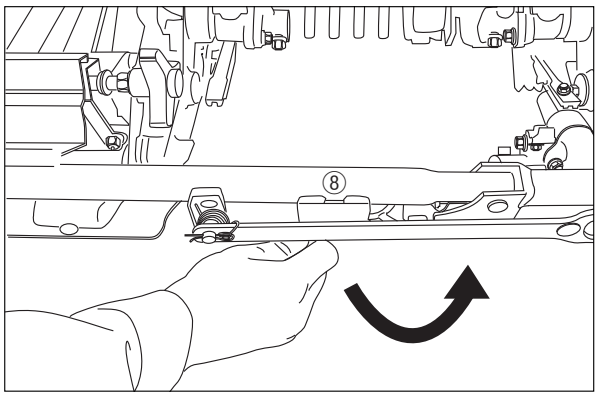


PJ10_0110

10 植付ユニット後方のパッチン⑧を下方に押し、回動支点部のロックを解除してください。

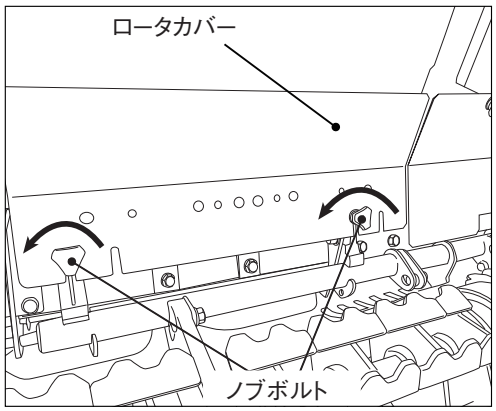


パッチン

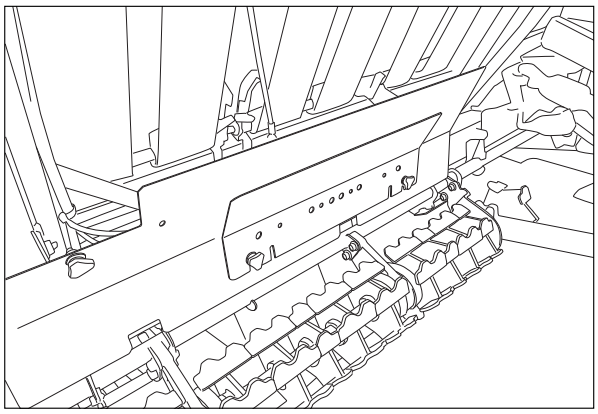


PJ10__0112

11 (1) ノブボルトを緩めてロータカバーを外し、ロータカバー本体の収納位置に収納し、ノブボルトを締めて固定してください。



PJ10_0113

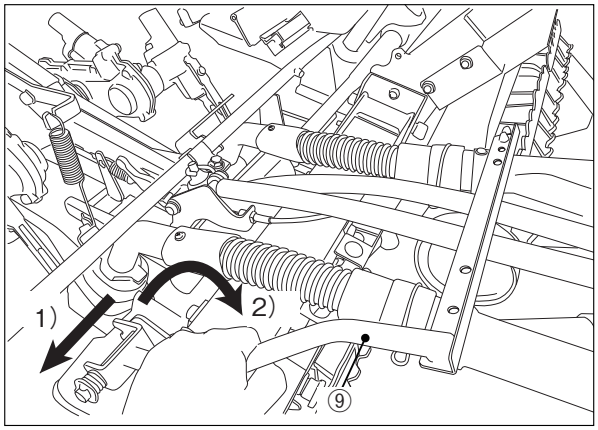


PJ10_0114

補 足

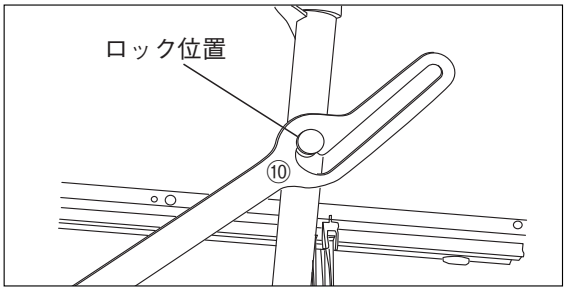
- **ロータカバー収納後、取付位置のノブボルトもしっかり締めて固定してください。**

(2) 施肥ホースステー⑨を機体外側に引き、ロックを解除して前方に倒してください。(施肥機仕様のみ)

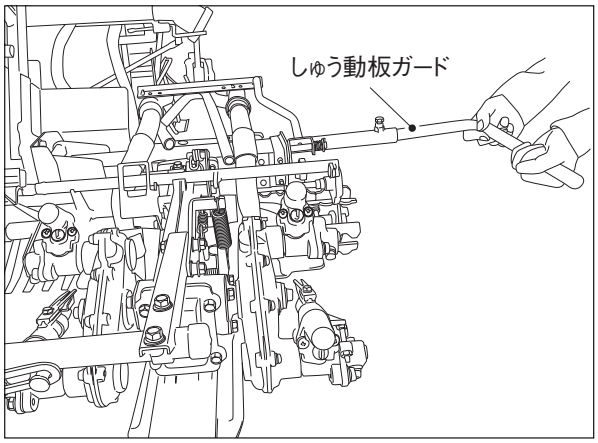


PJ10_0114

12 しゅう動板ガードを持ち、植付ユニットを上方に持ち上げ、ピンがロック⑩されるまで回動させてください。



PJ10_1115A



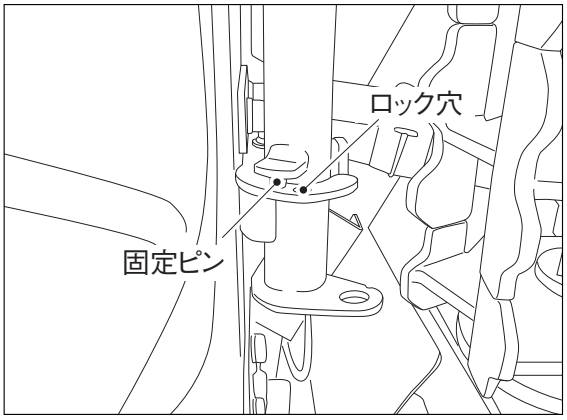
PJ10_0115

⚠ 警告

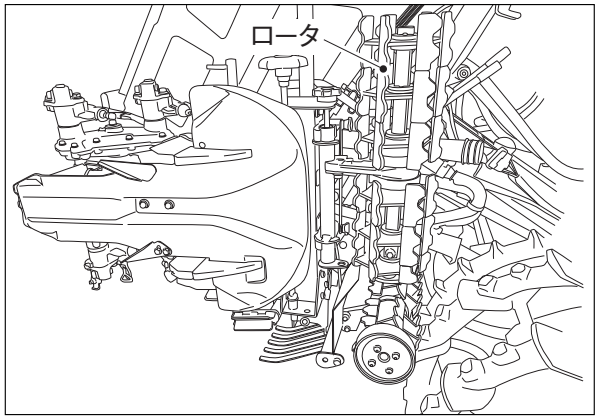
回動ロックピンは、植付ユニットの位置が合えば自動的に入り込み、ロックされる構造となっていますが、確実に回動ロックピンがロックしたことを確認するまで、絶対にしゅう動板ガードから手を離さないでください。

※ これを怠ると、重大な傷害事故の原因となります。

13 ロータを回動させ、固定ピンをロック穴にはめ込み固定してください。



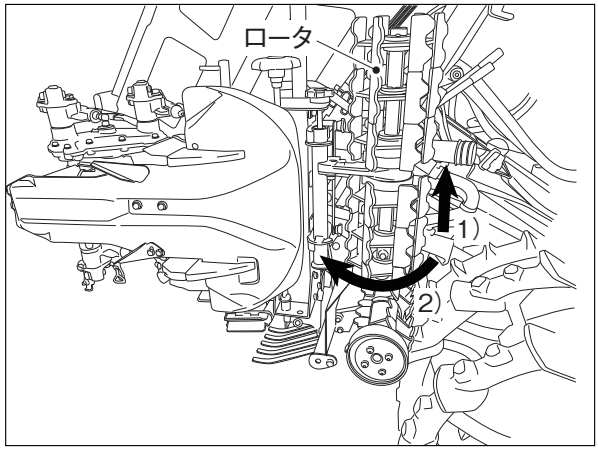
PJ10_1116



PJ10_0116

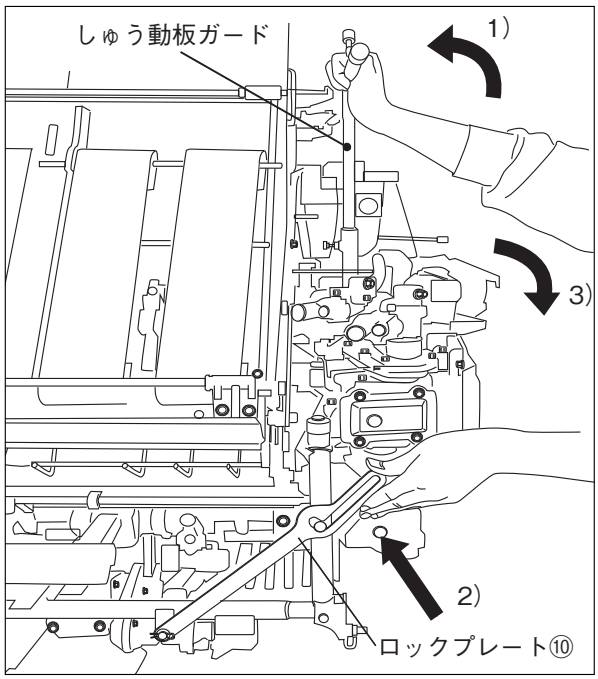
■植付ユニットの作業状態へのセットのしかた

1 ロータを持ち上げて機体後方側に回動させ、固定を解除してください。



PJ10_0116B

2 しゅう動板ガードを少し押し上げたまま、ロックプレート⑩を持ち上げロック解除し、植付ユニットをゆっくりと下ろしてください。



PJ10_0117

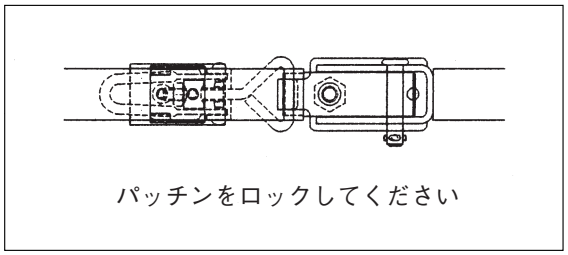
⚠ 警 告

植付ユニットを作業状態にセットする時は、しゅう動板ガードを手で持った後、ロックプレートを持ち上げ、ロックを解除してください。

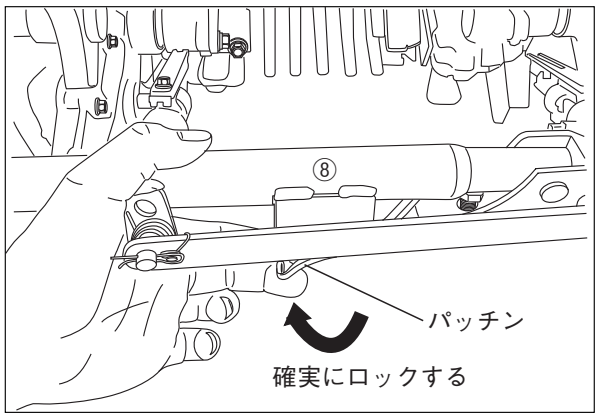
※　これを怠ると、重大な傷害事故の原因となります。

3 ■植付ユニットの収納のしかた11（☞ 90ページ）の逆の手順で施肥ホーステー（施肥機仕様のみ）、ロータカバーをセットしてください。

4 植付ユニット後方のパッチン⑧を確実にロックしてください。



PJ10_0119

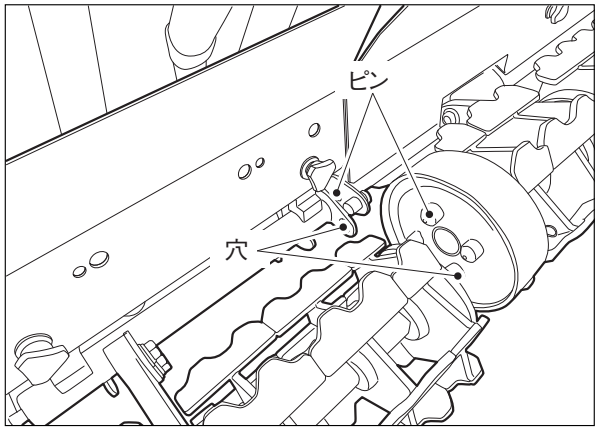


PJ10_0121

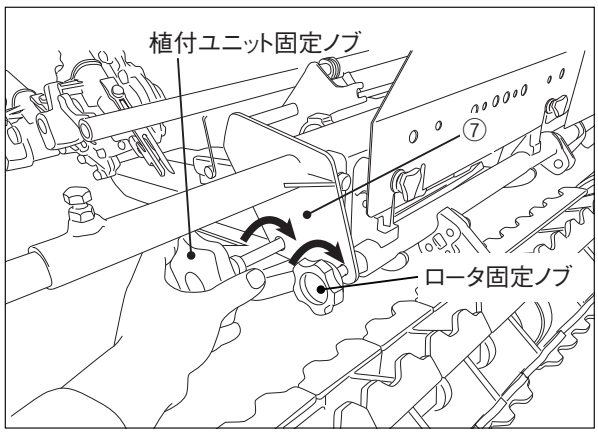
5 ロータ接続部のピンと穴（2ヵ所）をはめ込み、⑦位置にある植付ユニット固定ノブ、ロータ固定ノブを締めて固定してください。

補 足

- **植付ユニットが固定されていないと、けん制スイッチのはたらきにより、植付クラッチ操作ができませんので、必ず固定してください。**



PJ10_0121

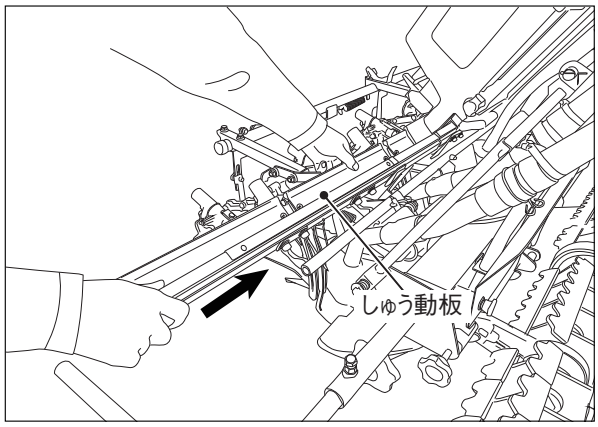


PJ10_1122B

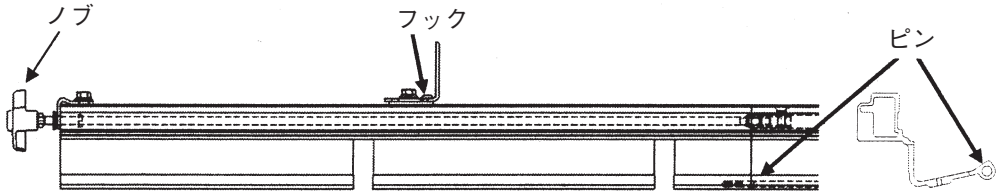
6 しゅう動板をステーから取り外し、ピンとフックを差し込みながら、植付ユニットに取り付けてください。

補 足

- **しゅう動板のピンとフックが確実に差し込まれていることを確認してください。これを怠ると作業機が破損することがあります。**



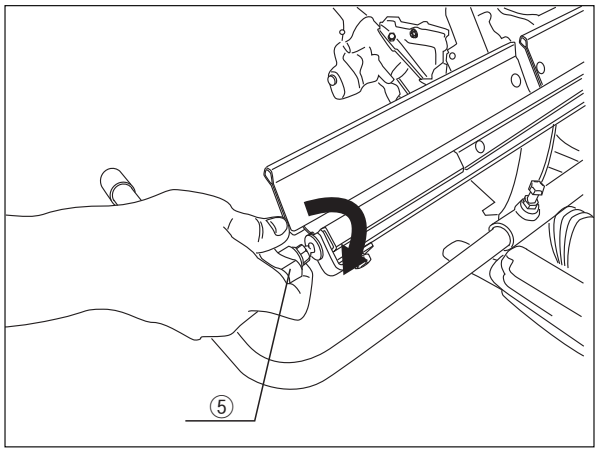
PJ10_0122B



7 しゅう動板のノブ⑤をまわし、しっかりと締め込み、植付ユニットに確実に固定してください。

補 足

- **しゅう動板のノブはしっかりと締め込んでください。これを怠ると作業機が破損することがあります。**



PJ10_0124

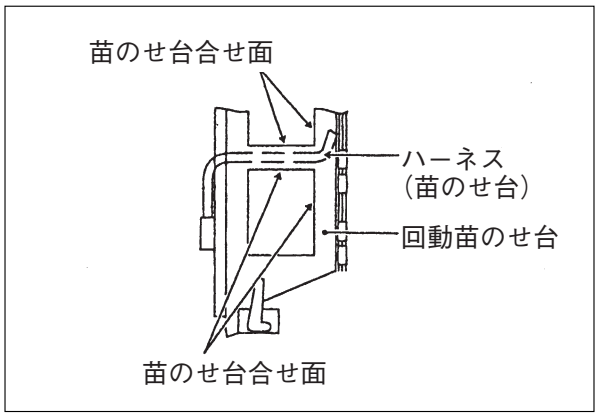
8 ■植付ユニットの収納のしかた3～5（☞87,88ページ）の逆の順で、回動苗のせ台をセットしてください。

注 意

回動苗のせ台を作業状態にするときは、回動苗のせ台を下記取り扱いに注意してセットしてください。

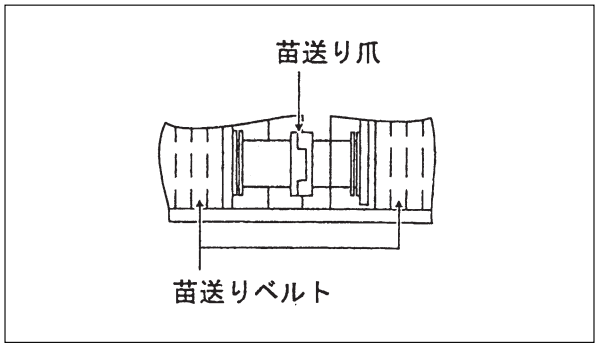
※　守らないと故障や苗送り不良の原因となります。

(1)　ハーネス（苗のせ台）は、苗のせ台合せ面で挟み込まないようにしてください。



PJ10_0125

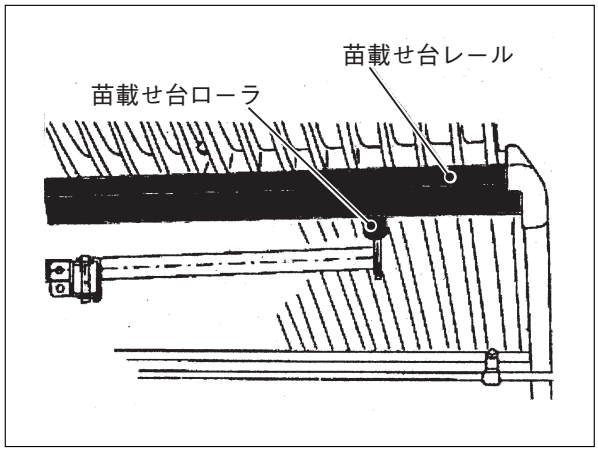
(2)　苗送り爪は、山と谷を噛み合せてください。
苗送りベルトを回転させると噛み合います。



PJ10_0126

補 足

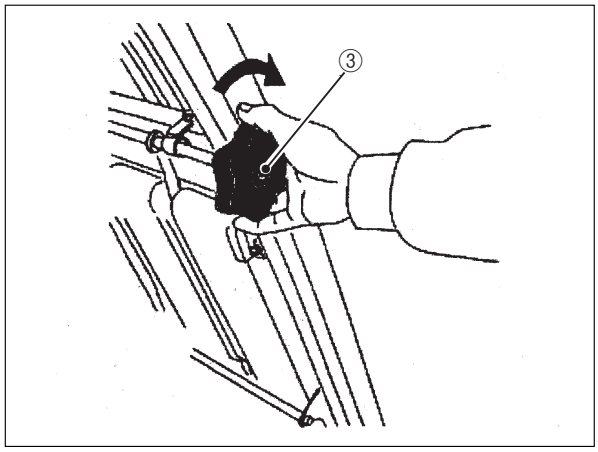
- 苗のせ台ローラは、苗のせ台レールに挿入してください。



PG10_0127

補 足

- 苗のせ台両端のノブ③は、しっかりと締め込んでください。

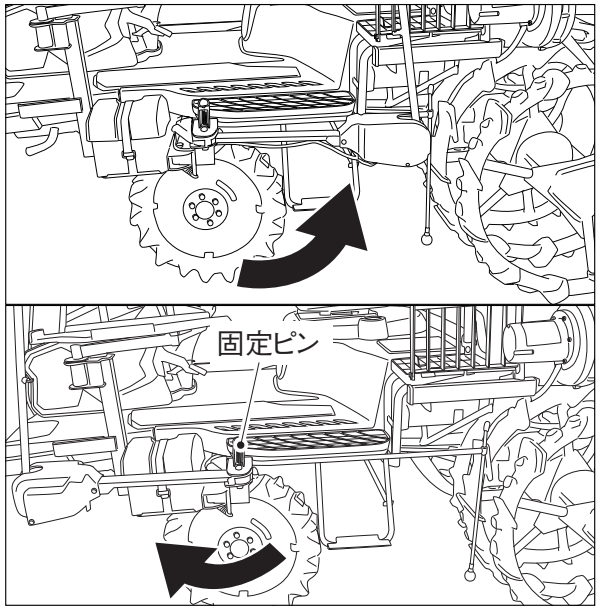


PG10_0128

■電動マーカの収納

(1) 電動マーカステーを、後方に回し収納します。

(2) 電動マーカ固定ピンを抜き、電動マーカを前方に回します。

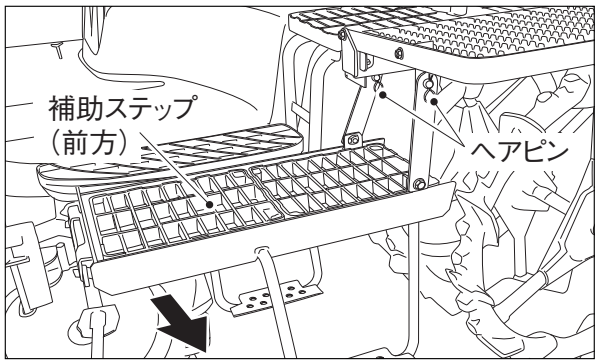


PJ10__1129

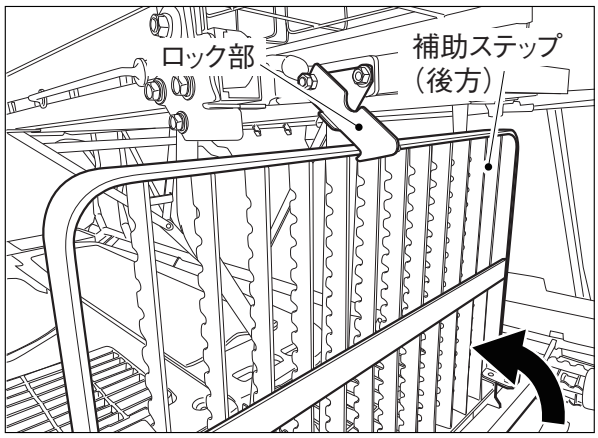
■補助ステップの収納のしかた

（1） ヘアピン（2ヵ所）を抜き、前方の補助ステップをはずしてください。

（2） 後方の補助ステップをロックがかかるまで上側に起こしてください。



PJ10_1133



PJ10_1134

5.3.3 トラックへの積み・降ろしのしかた

⚠ 警 告

平たんで広い地面の硬い場所を選んでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速レバーを「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
※ 守らないと、積み・降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。

強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、積み込みは「後進」、積み降ろしは「前進」で、ゆっくり行ってください。
※ 守らないと、転落事故の原因となります。

アユミ板のフックは、荷台に段差がないように、また、ずれないように確実に掛けてください。
※ 守らないと、転倒・転落事故の原因となります。

ステアリング（ハンドル）を左右に大きくきったり、ブレーキペダルを踏み込んだりしないでください。
※ 守らないと、田植機が横ブレして、転落事故の原因となります。

田植作業以外のときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。またブレーキは必ず左右同時にきくよう定期的に点検してください。
※ 連結していないと、ブレーキが片ぎきして転倒事故を引き起こすおそれがあります。

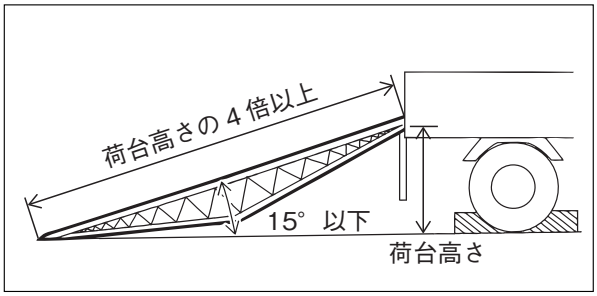
⚠ 注 意

誘導者を付けて、周囲の状況を十分確認して行ってください。
田植機の直前や直後には、絶対に立たないでください。
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。



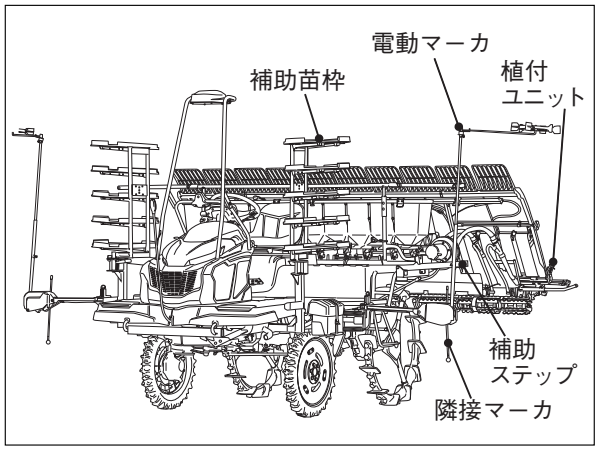
補 足

- アユミ板の条件
  長さ …… 車の荷台高さの4倍以上
  幅 …… 30cm以上
  数量 …… 2枚
  強度 …… 1枚の強度が1000kg以上
  すべり止めのあるもの



PRJ8_0529

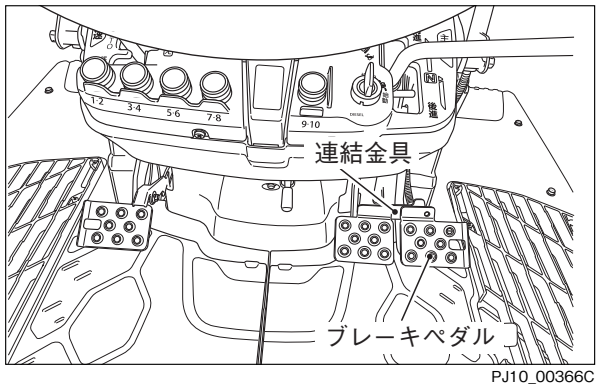
1 電動マーカ、隣接マーカ、植付ユニット、補助ステップを収納してください。



LRA_0530

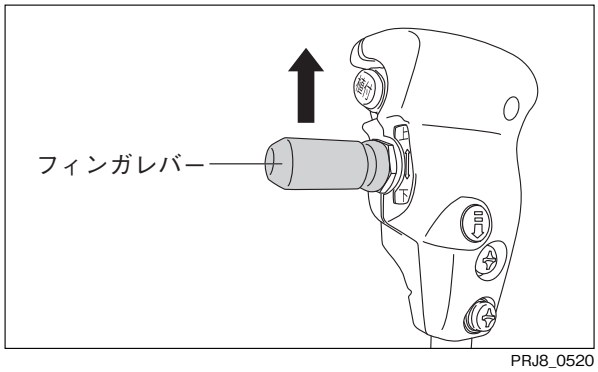
2 補助苗枠を収納してください。

3 左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。



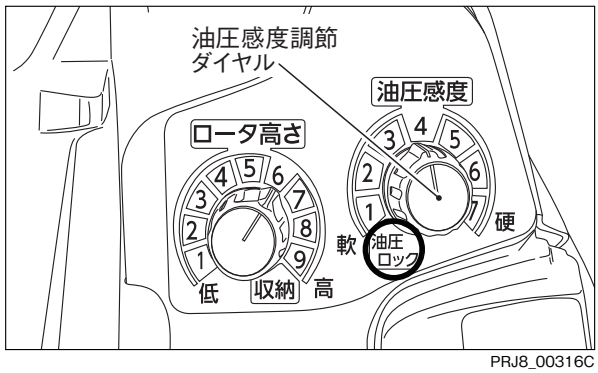
PJ10_00366C

4 エンジン始動状態でフィンガレバーを上方へ操作し、植付部をいっぱいまで上げてください。



PRJ8_0520

5 油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にしてください。

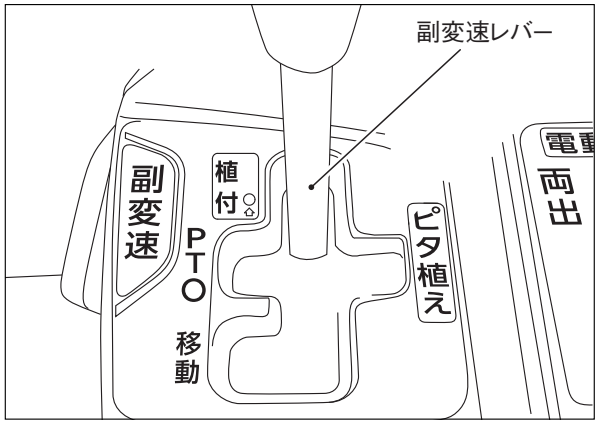


PRJ8_00316C

7 次の操作で積み降ろししてください。

(1) 副変速レバーを「植付」位置にしてください。

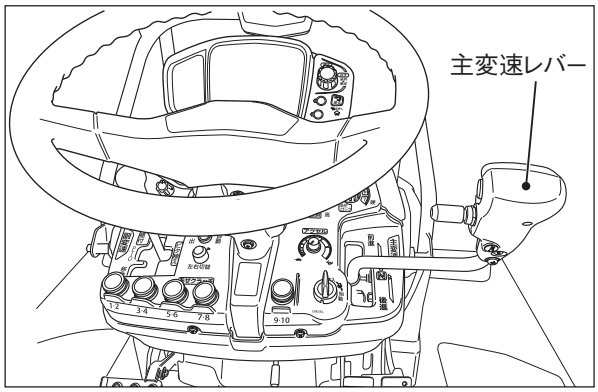
(2) トラックに載せるときは、主変速レバーを「後進」にして最低速で行ってください。
また、トラックより降ろすときは、主変速レバーを「前進」にして最低速で行ってください。



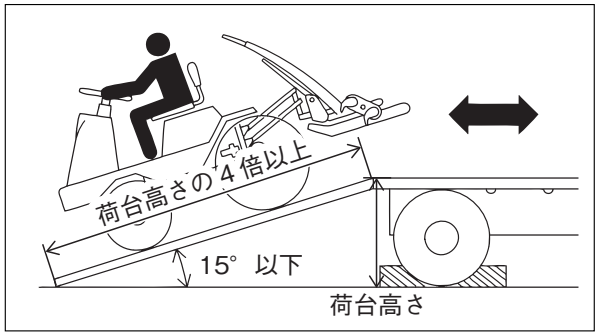
PRJ8_00364E

補 足

● **アユミ板の条件**
長さ …… 車の荷台高さの4倍以上
幅 …… 30cm以上
数量 …… 2枚
強度 …… 1枚の強度が1000kg以上
すべり止めのあるもの



LRA_0035A



PRJ8_0532

5.3.4 運搬中の固定方法

1 前輪を車の後部に引きつけて、ロープで固定してください。

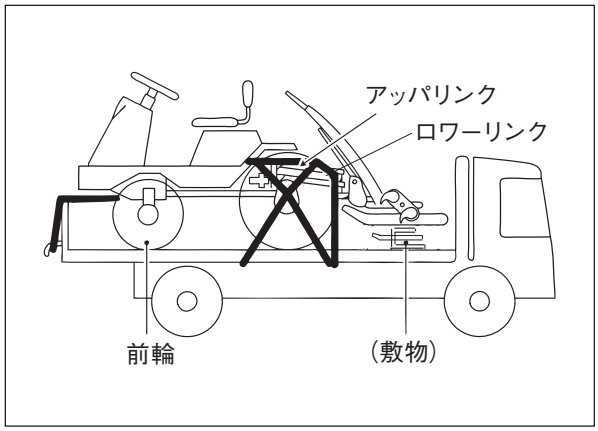
2 後輪をロープでたすき掛けにして固定してください。

3 フロートの下に敷物を置いて植付部を降ろしてください。

4 アッパリンク又はロワーリンクにロープをかけ、植付部がバウンドしないように、固定してください。

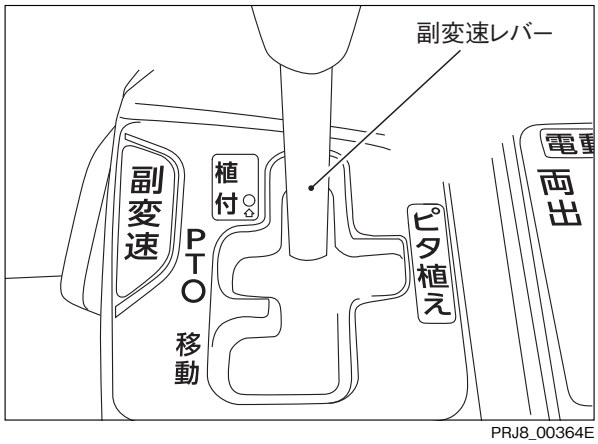
補 足

- **植付部を上昇したままやリンクにバウンド防止のロープ掛けをしなかった場合、リンクや植付部の損傷につながります。**



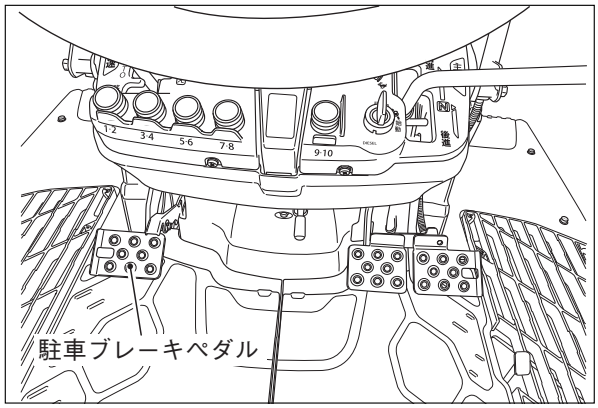
PJ10_0533

5 副変速レバーを「植付」位置にしてください。



PRJ8_00364E

6 駐車ブレーキペダルを踏み込み、ロックしてください。



PJ10_00366B

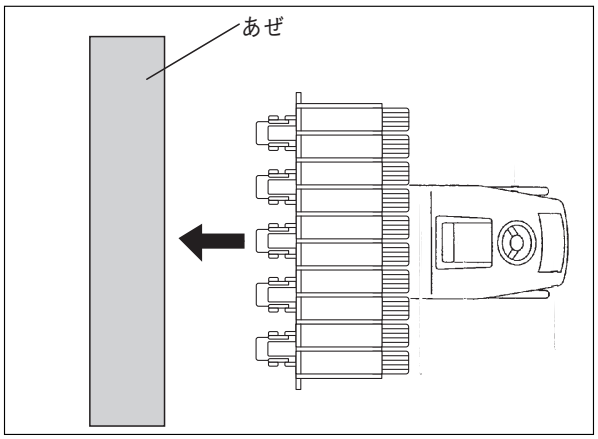
5.4 ほ場への出入りのしかた

⚠ 警 告

ほ場との高低差が大きいときは、アユミ板を使用してください。
※ 守らないと、転倒・転落事故等を引き起こすおそれがあります。

ほ場への出入りのときは、補助苗枠および苗のせ台には、苗を乗せないでください。また田植機に荷物を積まないでください。
※ 守らないと、転倒・転落事故等を引き起こすおそれがあります。

ほ場への出入りやあぜごえをする場合には、必ずあぜに直角にゆっくり進んでください。
※ 守らないと、転倒・転落事故等を引き起こすおそれがあります。

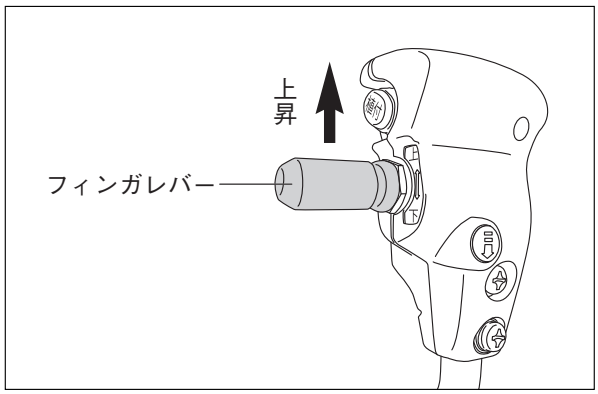


PJ10_00370

田植作業以外のときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。またブレーキは必ず左右同時にきくよう定期的に点検してください。
※ 連結していないと、ブレーキが片ぎきして転倒事故を引き起こすおそれがあります。

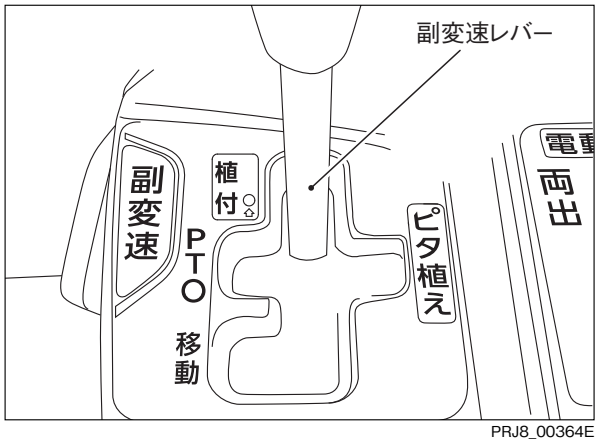
5.4.1 ほ場への入りかた

1 フィンガレバーを上方へ操作し、植付部をいっぱいまで上げてください。



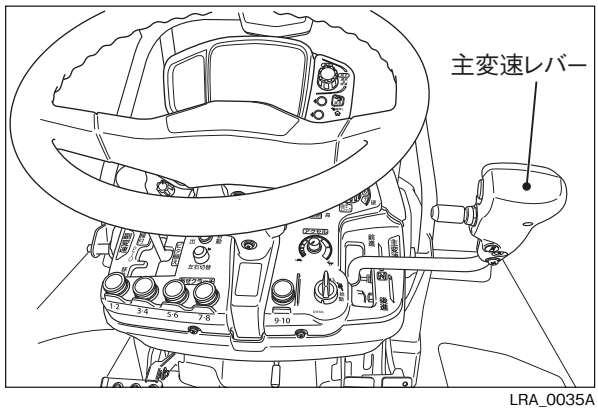
PRJ8_00371

2 副変速レバーを「植付」位置にしてください。



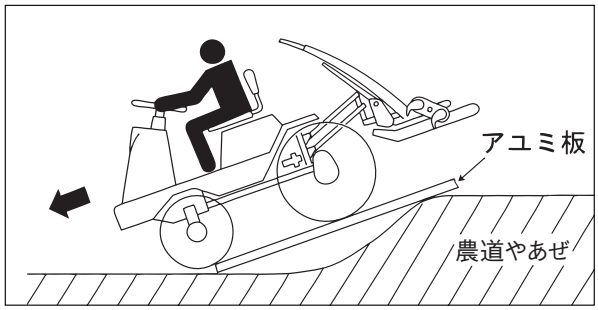
PRJ8_00364E

3 主変速レバーで速度を調整してください。



LRA_0035A

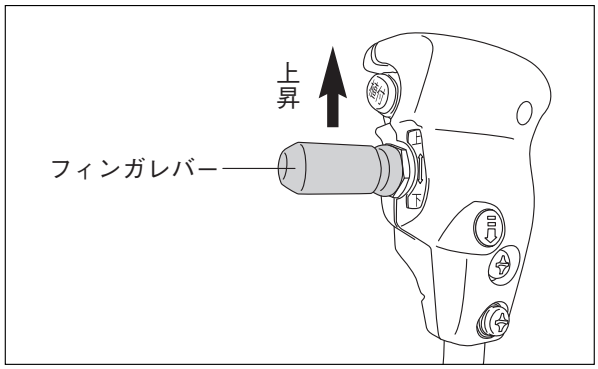
4 前進でゆっくりとほ場に入ってください。



PRJ8_00374

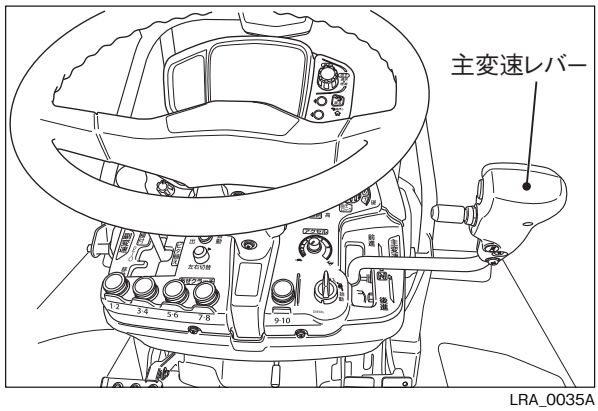
5.4.2 ほ場からの出かた

1 フィンガレバーを上方へ操作し、植付部をいっぱいまで上げてください。



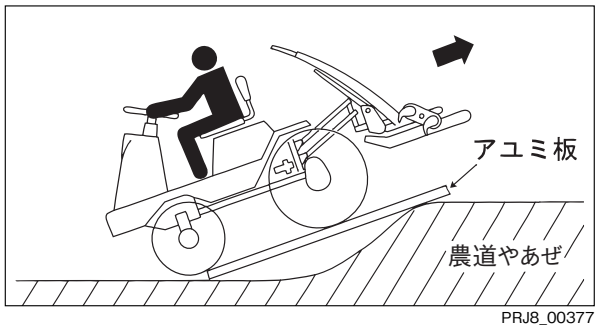
PRJ8_00375

2 主変速レバーで速度を調整してください。



LRA_0035A

3 後進でゆっくりとほ場から出てください。



PRJ8_00377

6. 植付作業のしかた

⚠ 警 告

作業中は、作業者以外の人（特に子供）を田植機に近づけないでください。
※　田植機自体や、作業による飛散物等で、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

運転中は、植付爪・苗送り等の回転部や、エンジン・マフラ等の過熱部、バッテリ端子等の通電部等には手を触れないでください。
※　傷害事故の原因となります。

作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、合図してから行ってください。
※　守らないと、傷害事故の原因となります。

あぜの高さが高いところでのほ場の出入りや、やむを得ずあぜを横断する時は、かならずアユミ板を使用してください。
※　守らないと、スリップや転倒する恐れがあり、傷害事故の原因となります。

衝突や転倒の恐れがあるため、作業中は必ず着座して前方に注意しながら作業を行ってください。

直進アシスト使用中、障害物など危険を感じた時は手動でハンドルを操作して危険回避してください。

下記のような条件では直進および旋回アシスト機能を使用せず、手動運転で作業を行ってください。
●ほ場内に人がいる場合。
●ほ場が変形している場合。
●ほ場のあぜが崩れやすい場合。
●ほ場内に障害物がある場合。
●周り植えを行う場合。

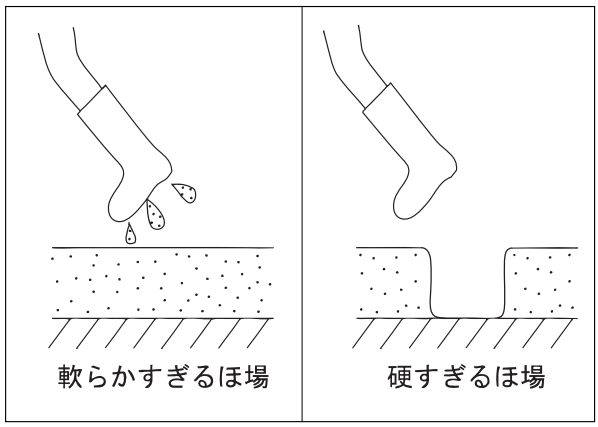
6.1　ほ場の準備

6.1.1　代かき

代かきは、ほ場の表面の凸凹をなくすようにていねいにしてください。

補 足

- **ほ場は、やや軟らか目の硬さが最適です。歩いても足跡がすぐ埋まるような軟らかいほ場や、足跡が完全に残るような硬いほ場では、きれいな植付ができないことがあります。**



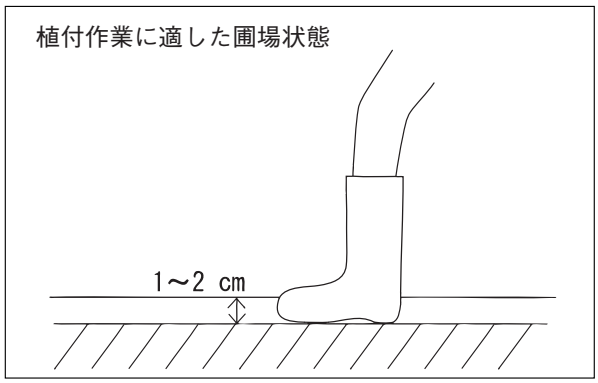
PRJ8_0160

6.1.2 水深

水深は1～2 cm程度の全面浅水が最適です。

補 足

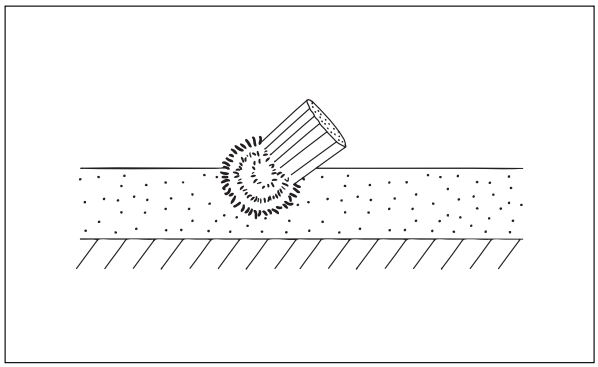
- **水深が2cm以上のほ場や、反対に水気のないほ場では、きれいな植付ができないことがあります。**



PRJ8_0161

6.1.3 きょう雑物

刈り株・排ワラ等のきょう雑物はできるだけ取り除いてください。



PRJ8_0162

6.2 植付作業前の準備

6.2.1 植付株数（株間）の決めかた

■マット苗

植付株数は、株数切替レバーと株数副変速レバーの切り替えで変更できます。
下表を参考に当地に合った植付株数にセットしてください。

補 足

- **出荷時の植付株数は70株（株数副変速レバーは[②]の位置）です。(W型は65株)**
- **植付株数により使用箱数が変わります。植付株数に合った箱数を準備してください。なお、実際には10aあたり2箱程度の予備苗を準備することをおすすめします。**
- **植付株数や苗取量を途中で変更すると所要箱数が変わります。**
- **株数副変速切替**

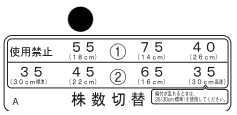
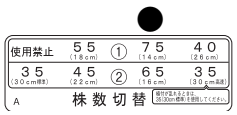


- **株数切替レバーが「使用禁止」の位置では使用しないでください。**

■標準型（条間30cm仕様）

株数副変速レバー位置 ＼ 株数切替レバー位置		●	●	●	●
①	株　　数	使用禁止	60	80	42
	株　間（cm）		18	14	26
②	株　　数	37	50	70	37
	株　間（cm）	30cm標準	22	16	30cm高速

■W型（条間33cm仕様）

株数副変速レバー位置 ＼ 株数切替レバー位置					
①	株数	使用禁止	55	75	40
	株間（cm）		18	14	26
②	株数	35	45	65	35
	株間（cm）	30cm標準	22	16	30cm高速

注 意

「使用禁止」位置では設定株間以外の植付けになるため、植付けが乱れます。株数切替レバーを操作する時は、充分注意してください。

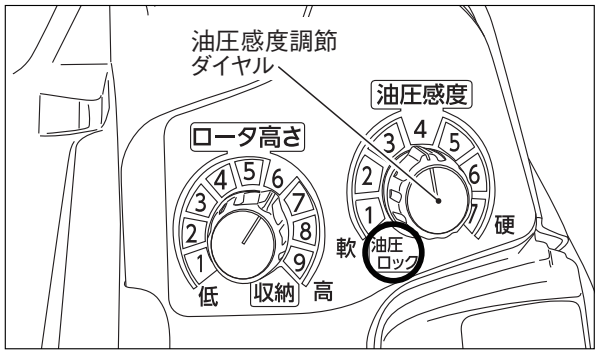
- **株間副変速レバーを②の位置にし、株数切替レバーを「37株又は35株(30cm高速)」の位置にした場合は、最高速の規制はかかりません。**
- **植付が乱れる場合「37株又は35株(30cm高速)」は使用しないでください。**

6.2.2 株数副変速レバーと株数切替レバーの切り替えかた

⚠ 警 告

ほ場の出入口等の傾斜面で副変速レバーを「PTO」にしないでください。
※ 田植機が自然に動き出し、傷害事故の原因となります。

1 エンジン始動状態で、植付部をいっぱいまで上げ、油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にします。

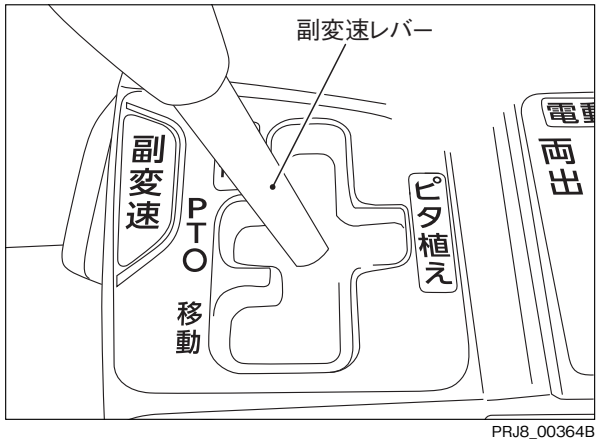


PRJ8_00316C

補 足

- **ほ場内の場合は、植付部は下がったままでもかまいません。**
- **ほ場以外で操作する時には、平坦な所で行ってください。**

2 副変速レバーを「PTO」位置にします。

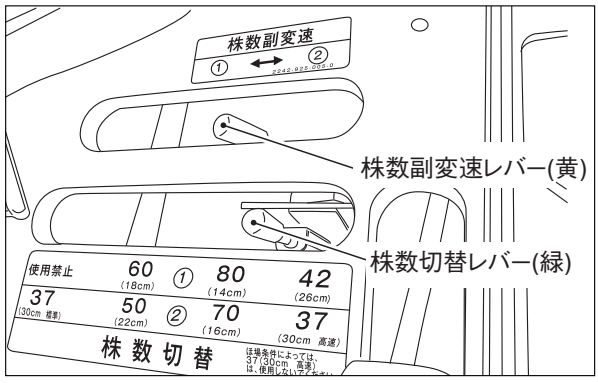


PRJ8_00364B

3 植付クラッチが「切」の状態で、駐車ブレーキペダルを解除後、主変速レバーを前進側に少し動かします。

4 株数副変速レバーを希望の位置にしてください。





PRJ8_00374B

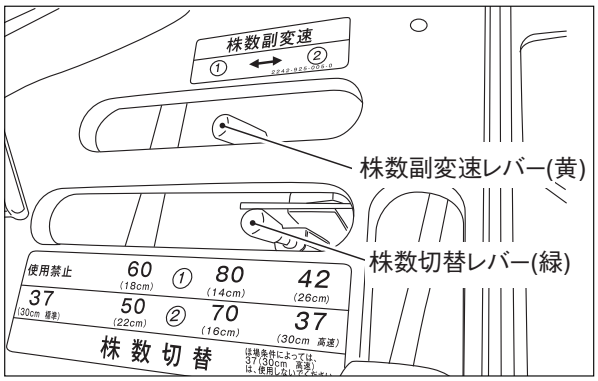
補 足

- **株数切替レバーを「37株または35株(30cm標準)」、「42株または40株(26cm)」にすると、車速規制により、植付作業時の最高速が規制されます。**

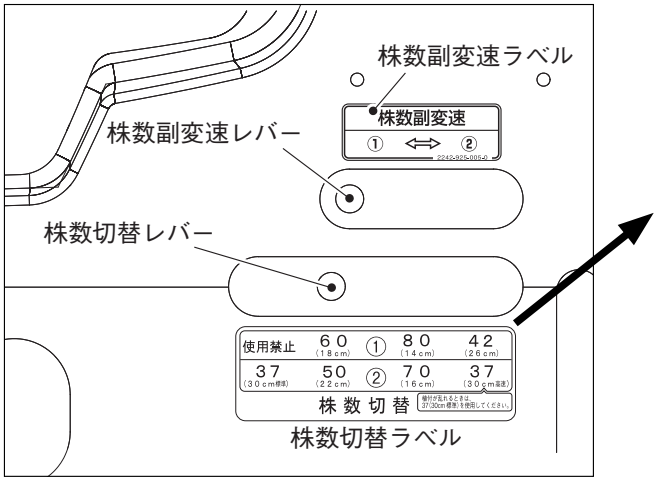
5 株数切替レバーを動かし、希望の位置にセットします。

補 足

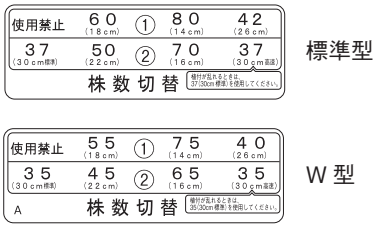
- **レバーの調節後、植込杆が回っていることを確認してください。**
- **切り替えにくい場合は、株数切替レバーを軽く押しながら、植付を「入」にしてください。**
- **株数副変速レバーを②の位置にし株数切替レバーを「37株又は35株(30cm高速)」の位置にした場合は最高速の規制はかかりません。**
- **植付が乱れる場合は「37株または35株(30cm高速)」は使用しないでください。**



PRJ8_00374B



PRJ8_0166A

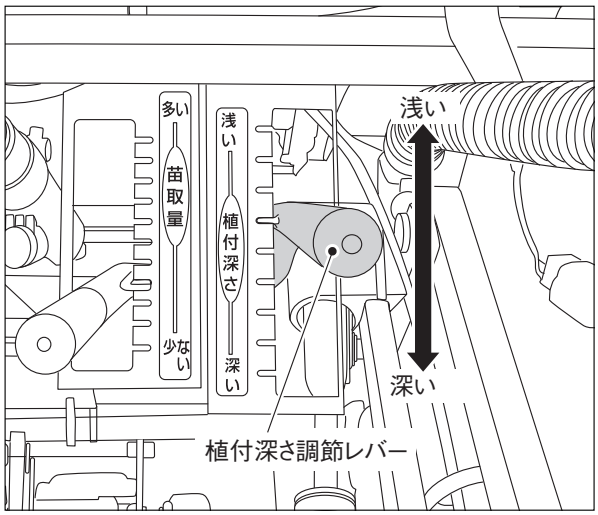


注 意

「使用禁止」位置では設定株間以外の植付けになるため、植付けが乱れます。株数切替レバーを操作する時は、充分注意してください。

6.2.3 植付深さの調節

(1) 植付深さ調節レバーのセット位置を変えることにより、植付深さは9段階に選べます。

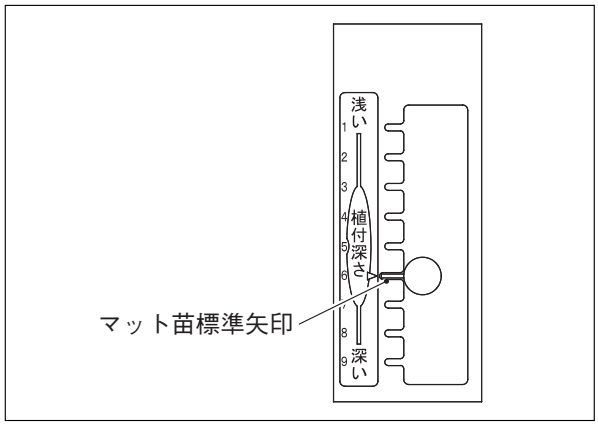


PRJ8_0056

(2) 植付深さの標準は、マット苗標準矢印の位置です。植付深さを深くしたいときは深い側へ、浅くしたいときは浅い側へ植付深さ調節レバーを移動させてください。

補 足

- **植付深さは、必ずほ場で試し植えをして確認してください。**



PRJ8_6168B

6.2.4 横送り量の調整

⚠ 注 意

切り替えはエンジンを停止し油圧ロック状態で行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

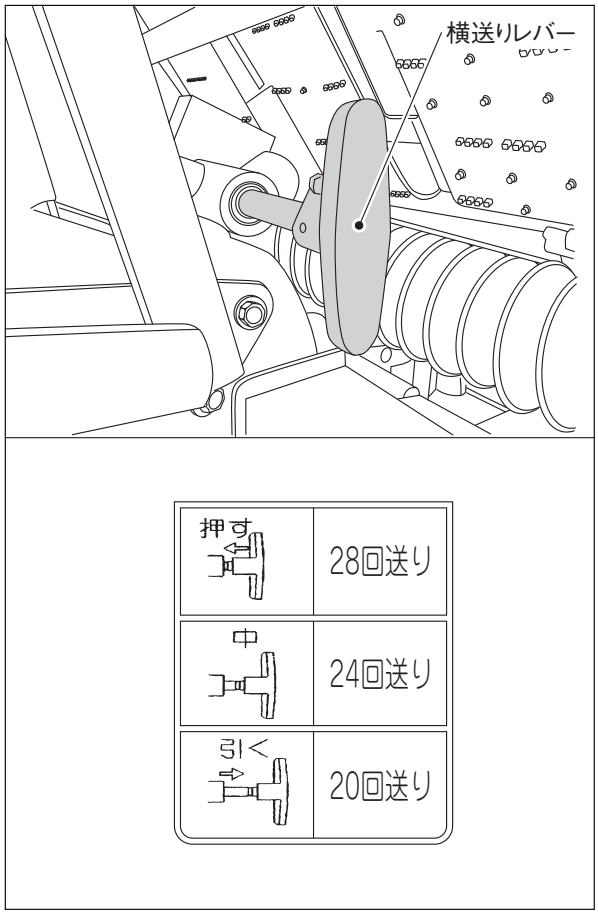
苗の種類によって、横送り量の切り替えを行ってください。

横送りの回数	苗の種類
28回	稚苗（密播）
24回	稚苗
20回	中苗

(1) 横送り回数を変更するときは油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にし、エンジンを止めてから希望の横送り回数に変更してください。
(2) 横送りレバーで苗の種類に合った位置に切り替えてください。

補 足

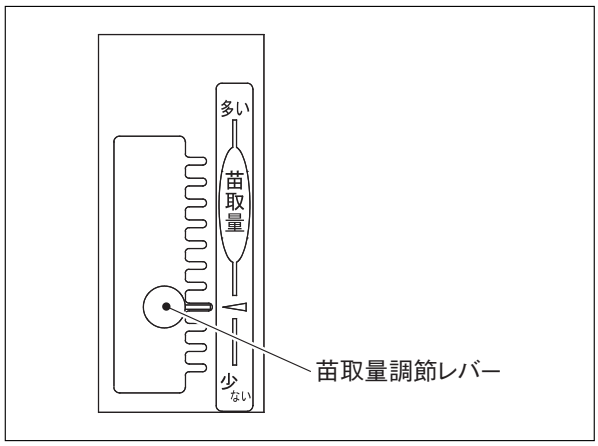
- **切り替え後は、必ず希望の位置に入っていることを植込杆を回して確認してください。**



PJ10_0169

6.2.5 苗取量の調節

(1) 苗取量調節レバーのセット位置を上下に調節することにより全条の苗取量を一度に変えることができます。
(2) 苗取量の標準は、11mmです。
(3) ガイド溝1段で苗取量は約1mm変わります。



PRJ8_0170

補 足

- **苗箱1箱当り種籾300～320cc、乾籾150～160g、催芽籾190～200gの場合です。**
  標準で3～5本の苗がとれます。
- **フィンガの摩耗等により、苗取量がばらつく場合は、標準付属品の苗取口ゲージを使って取量の調整をしてください。**
- **レバー位置を変更する場合は、必ず苗取り量を多い側へ動かしてから、目的の位置まで変えるようにしてください。目的の位置を通り過ぎてしまった場合は、もう一度苗取り量を多い側へ上げてから目的の位置まで変えてください。**

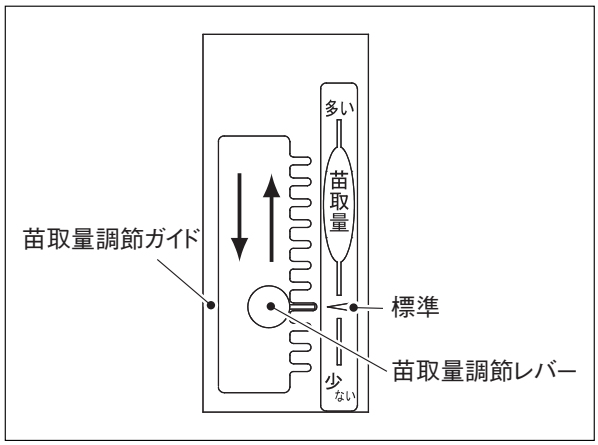
■調整

1 エンジンを始動し、植付部を上昇させます。油圧感度調整ダイヤルを「油圧ロック」位置にし、エンジンを停止します。

2 苗取量調節レバーのガタを取るため、苗取量調節レバーを「多い」側に動かした後、苗取量調節レバーを「標準」位置にセットします。

3 しゅう動板の取り口位置に苗取口ゲージを置き、植込杆のフィンガ先端が苗取口ゲージに軽く当たるまで、ロータリケースを手で回します。
※手をけがしないように、注意してください。

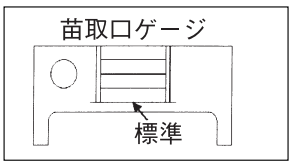
4 フィンガ先端が苗取口ゲージの標準の線（切り欠き上の長い線）からずれていないか確認します。ずれている場合は植込杆の植込杆固定ボルト(M8)2本とロックナット(M6)、セットボルト（M6）をゆるめます。

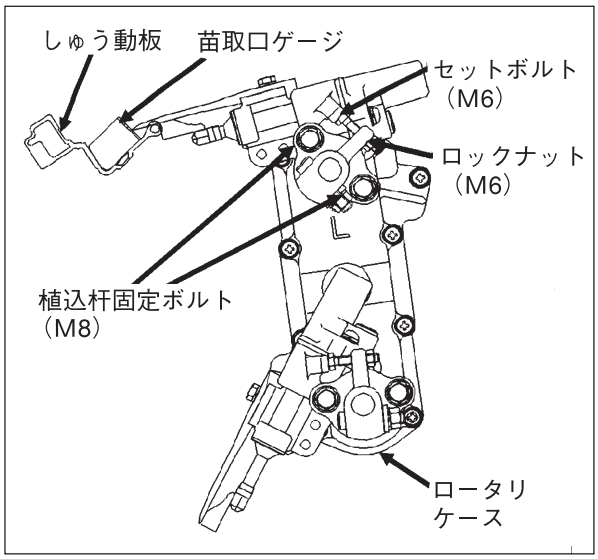


PRJ8_0263

5 植込杆のフィンガ先端を手で引き上げて、セットボルト（M6）を締めながらフィンガ先端を下げ、苗取口ゲージの標準の線（切り欠き上の長い線）に合わせます。ロックナット（M6）をロックします。

6 セットボルト（M6）が植込杆に当たっていることを確認して、植込杆固定ボルト（M8）2本を締め付けます。





PRJ8_0264

6.2.6 油圧感度調節

感度は、油圧感度調節ダイヤルを回すことにより7段階選べます。

補 足

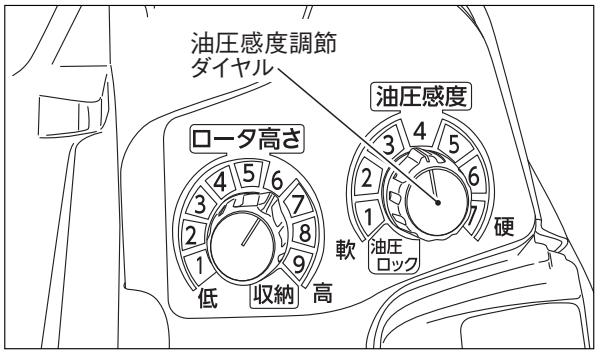
- **最初は必ずダイヤルを「4」位置にして試し植えをしてください。**

(1) フロートで泥を押す場合
ダイヤルを「4」位置から一目盛ずつ「軟」側へ回してください。

(2) 植付部がバタつく場合やフロート後部が浮く場合
ダイヤルを「4」位置から一目盛ずつ「硬」側へ回してください。

補 足

- **油圧感度調節ダイヤルの調節を行った場合は、植付深さが変わります。植付深さの確認と調節を合せて行ってください。**
- **水深が深い場合は、水の浮力で、フロートが浮きやすくなります。水深の浅い所よりも一段「硬」側にセットしてください。**
- **水深が深い場合や、ダイヤルが「軟」側のときは、植付速度をひかえ目にしてください。**
- **隣接条を、植付しないで走行する場合には、最も「軟」側にセットすると泥押しが少なく隣接条を乱しにくくなります。**



PRJ8-00316

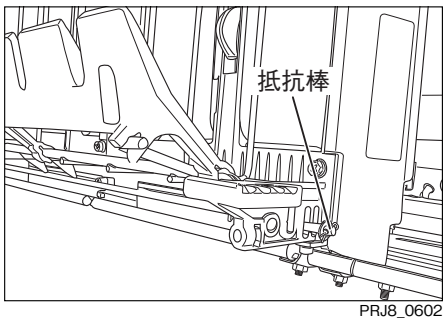
油圧感度調節ダイヤルの回転方向	植付深さ
「軟」→「硬」	深くなる
「硬」→「軟」	浅くなる

6.2.7 抵抗棒の調節

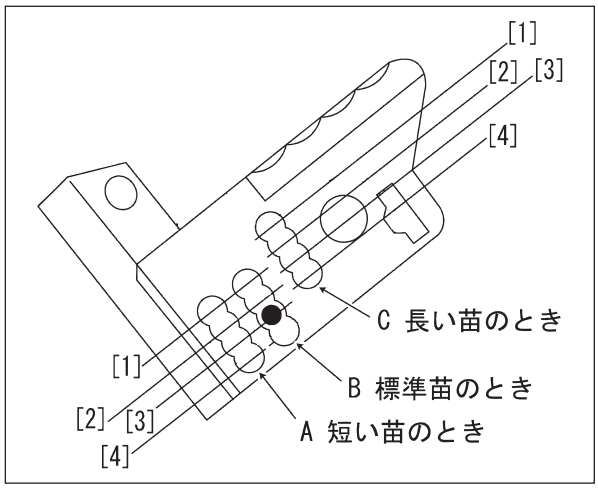
⚠ 注 意

抵抗棒の位置の変更はエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

抵抗棒の位置は、4段階の調節ができます。
また、苗の長さにより3段階の調節ができます。
その場合は、スナップピンを抜いて抵抗棒を差し替えてください。
抵抗棒の標準（出荷）位置は標準苗位置Bでの[3]の位置です。

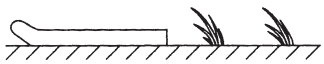
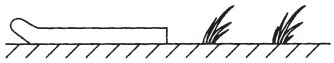
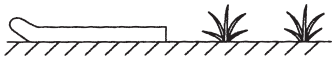


PRJ8_0602



PRJ8_0172

標準位置で試し植えをして、不調時は下記要領で調節してください。

不調な場合の現象		抵抗棒の位置 マット苗の場合
植付けた苗が前だおれになる。		[4]（Bの位置）またはCの位置 [1]～[4]
植付けた苗が後だおれになる。		[1]～[2]（Bの位置）またはAの位置[1]～[4]
植付けた苗がおおぎ状になる。		[1]～[2]（Bの位置）またはAの位置[1]～[4]
苗が植付爪より離れない。		[4]（Bの位置）またはCの位置 [1]～[4]
苗が一､二本だけ離れ植付が乱れる。		[4]（Bの位置）またはCの位置 [1]～[4]

補 足

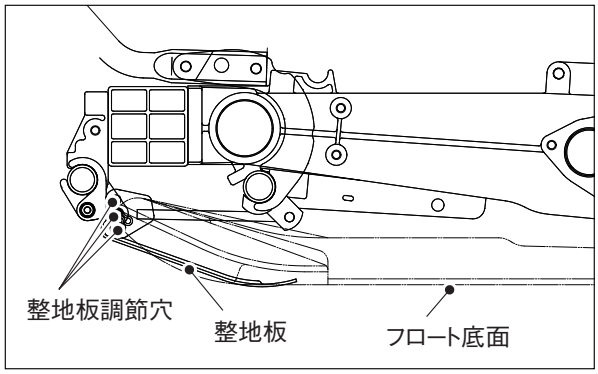
- **抵抗棒の位置を変更する場合は、最初に同じ長穴の中で抵抗棒の位置を変えて調節してください。それでも直らない場合は抵抗棒の差し替えで抵抗棒の位置を変更してください。**
- **抵抗棒の位置を変更後は、全条同じ位置に抵抗棒がセットされているか確認してください。**

6.2.8 整地板の調節

⚠ 注 意

整地板の調節は植付部を上昇させ、油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にして行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

(1) 植付深さ調節レバーの動きと連動しています。
(2) 植付深さを変更すると、整地板も高さが連動し、フロートの底面に沿う高さに調節されます。



PRJ8_0174

補 足

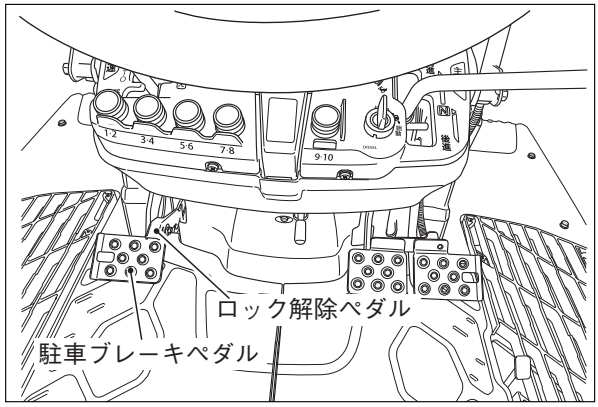
- **ほ場の水量、硬さなどの条件によって整地板の固定穴位置を変えて調節することができます。ほ場の水量が多い場合や泥を押す場合は、整地板調節穴の上に固定してください。また、ほ場の水量が少ない場合や凸凹跡が消えない場合は、整地板調節穴の下に固定してください。**

6.3 植付作業の手順

⚠ 警 告

ほ場の出入口等の傾斜面で副変速レバーを「PTO」位置にしないでください。
※ 田植機が自然に動き出し、傷害事故の原因となります。

1 駐車ブレーキペダルを踏み込み、ロックします。



PJ10_00366

2 副変速レバーを「PTO」位置にします。

3 電動マーカを収納位置から作業位置にしてください。

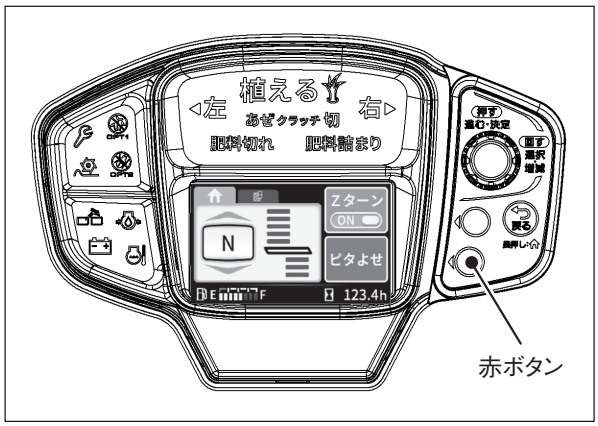
4 隣接マーカ、植付ユニット、補助ステップを作業位置にセットしてください。



PRJ8_00364B

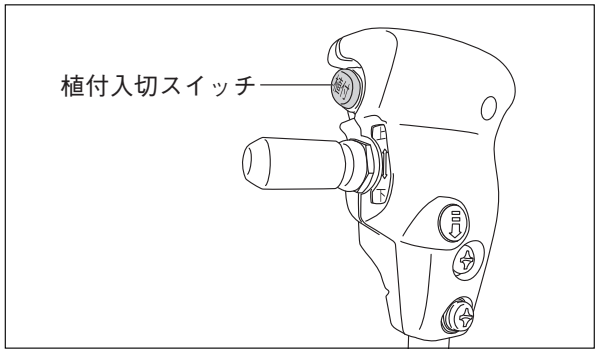
5 駐車ブレーキペダルのロックを解除します。

6 モニタパネルをホーム画面にし、赤ボタンを押すと、ピタよせボタンが点灯します。



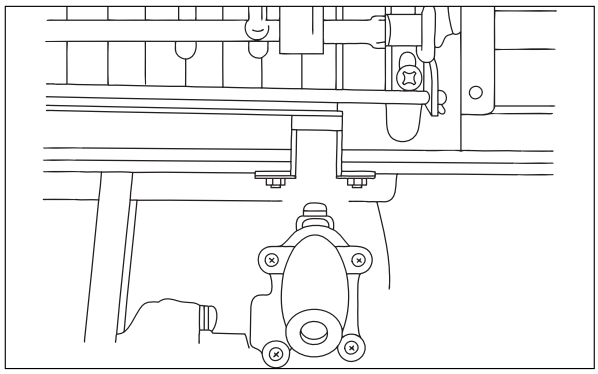
モニタパネル（ホーム画面） LRA_00325

7 植付入切スイッチを押して植付クラッチを「入」にします。



PRJ8_0177

8 主変速レバーをゆっくりと「前進」一杯に倒し、苗のせ台が左に寄っていることを確認してください。
ピタよせ中は、センタマスコットランプ(赤)が点滅し、ブザーが鳴り続けます。
ピタよせスイッチを使用しない場合、主変速レバーをゆっくりと「前進」一杯に倒し、苗のせ台が左、または右に寄ったことを確認して、主変速レバーの植付入切スイッチを押して、植付クラッチを切ってください。

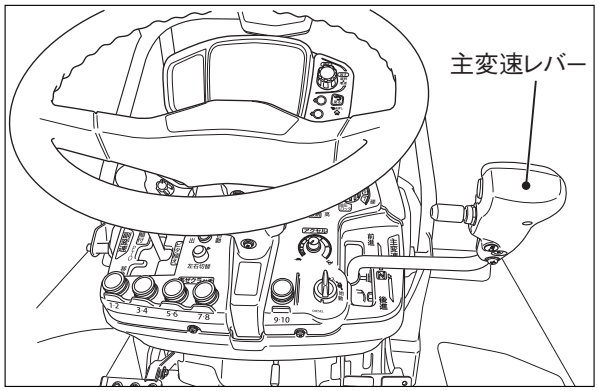


PRJ8_0178

補 足

- **ピタよせ終了時、植付クラッチは自動で「切」になります。**

9 主変速レバーを「N」にし、駐車ブレーキペダルを踏み込みロックしてください。

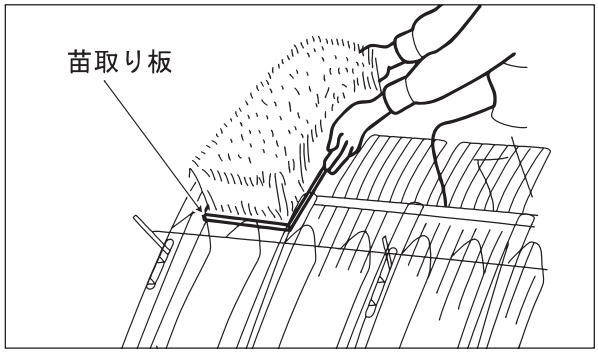


LRA_0035A

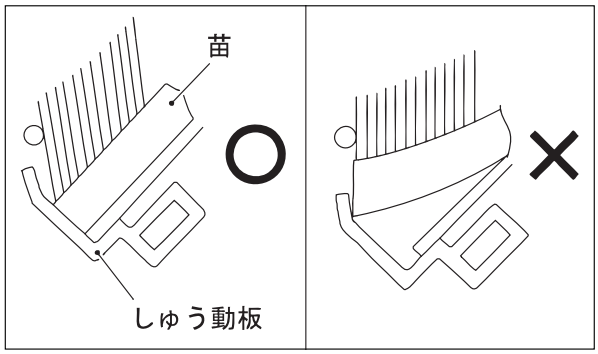
10 苗取り板で取った苗を、苗のせ台にていねいにのせてください。

補 足

- **苗のせ台に苗が2枚搭載できます。**
- **苗がしゅう動板の所で浮き上がらないようにのせてください。**
- **苗のせ台を左または右端に寄せてから苗をのせてください。**
- **根張りの悪い苗は振動で形がくずれてしまうため、育苗箱に入ったままの状態で補助苗枠にのせてください。**



PRJ8_0180

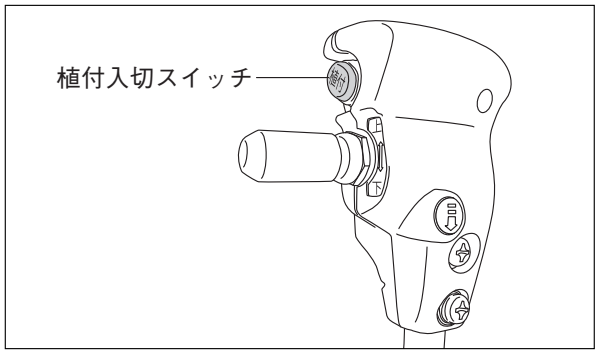


PRJ8_0181

11 副変速レバーを「植付」位置、主変速レバーを前進にして、低速でほ場の端に移動してください。

12 電動マーカを次の行程で植える側に出してください。(☞ 30ページ参照)

13 植付入切スイッチを押して植付クラッチを「入」にしてください。



PRJ8_0183

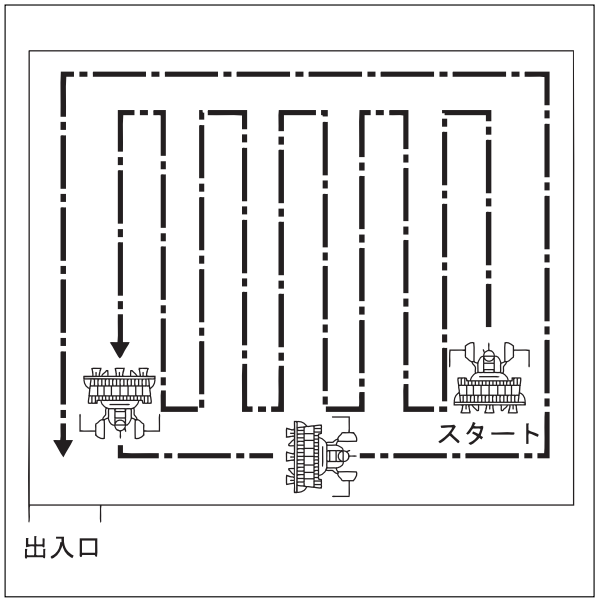
14 主変速レバーをゆっくりと前進側に動かし、植付を始めてください。

補 足

- **植付作業を開始して、植付状態が希望する状態になっているか確認してから、連続作業を行ってください。**
- **ほ場の状態、苗の条件により植付精度は変化します。低速で植付状態を見ながら徐々に速度を上げ、最も良い速度を選んでください。**

6.3.1 枕地のとりかた

枕地はあらかじめ1回り分残して植付ければ、能率的に枕地植えが行えます。



PRJ8_0605

6.3.2 Zターンを使った旋回のしかた

⚠ 警 告

走行するときは、エンジン回転を落とし主変速レバーは低速にしてください。
また、Zターンスイッチは必ず「OFF」にしてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

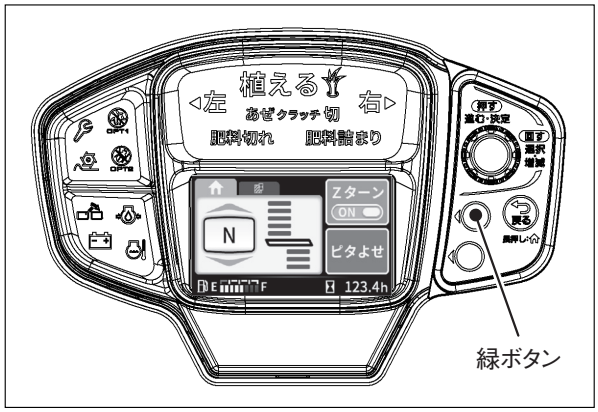
1 モニタパネルをホーム画面にし、緑ボタンを押すと、モニタ内のZターンスイッチが「ON」になり、点滅します。

2 電動マーカ切替スイッチを「自動」「両出」のどちらかにします。
（モニタ内のZターンスイッチが点灯します）

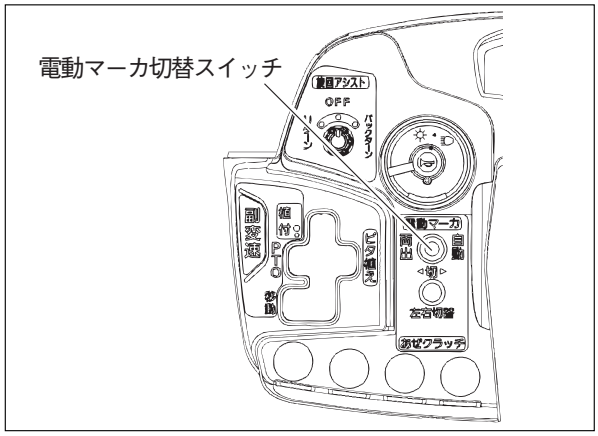
3 あぜに近づいたら、主変速レバーを低速にします。

4 あぜから枕地分手前で、ステアリング（ハンドル）をいっぱい回してください。植付クラッチが自動で「切」になり、植付部が自動で上がります。

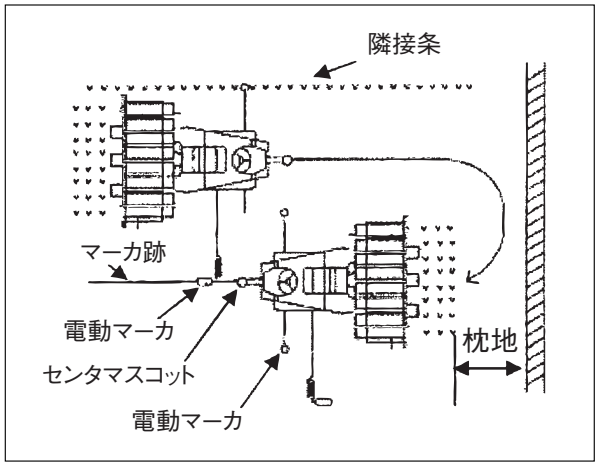
5 センタマスコット、隣接マーカで隣接条との条間をあわせ、機体を進行方向にまっすぐ向けてください。植付部が自動で下がり植付クラッチが自動で「入」になり植付が始まります。(植付が始まる時に、１回センタマスコットが点灯し、ブザーが鳴ります。)
モニタランプの「植える」の点灯と電動マーカが次の植付行程側に出たのを確認して植え進んでください。



モニタパネル（ホーム画面） LRA_00324



PJ10_06325C



PJ10_0190

補 足

- **Ｚターンは変形田、補助車輪をつけた時や深いほ場では正常に作動しないことがあります。**
- **ほ場外の移動の時は、安全のため必ずＺターンスイッチを「OFF」にしてください。**
- **電動マーカ切替スイッチを「切」にしていると、Zターンは作動しません。（モニタ内のZターンスイッチが点滅します）**
- **あぜぎわまで植付し、バックして旋回する場合はバックしすぎると、植付を合わせることができないためステアリング（ハンドル）を回した時にブザーが鳴り、Ｚターンは作動しません。(モニタ内のZターンスイッチが点滅します)**
- **Ｚターンスイッチを「ON」にしてＺターンが作動していれば旋回時、植付部が上がってから下がるまでブザーが鳴ります。**
- **電動マーカは、マーカ左右切替スイッチを操作することで左右交互に倒れます。**
- **センタマスコットは、1行程前に電動マーカでつけたマーカ跡に合わせると隣接条との条間が合います。**
- **隣接マーカは、1行程前に植付けられた隣接条に合わせると条間が合います。**

6.3.3 Ｚターンを使わない旋回のしかた

1 Ｚターンスイッチを「OFF」にします。

2 あぜに近づいたら、主変速レバーを低速にします。

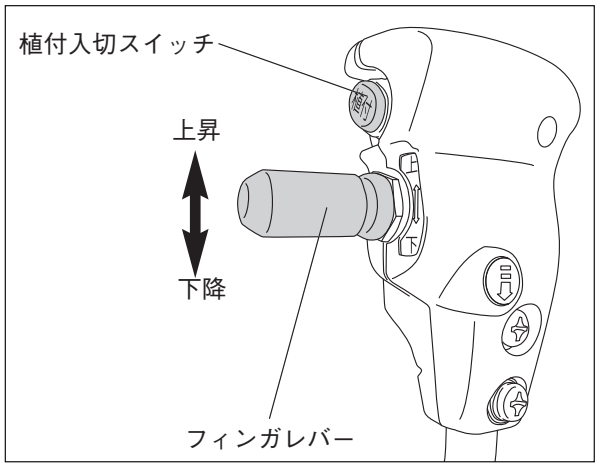
3 あぜから枕地分手前で、フィンガレバーを「上昇」に操作し、ステアリング（ハンドル）をいっぱい回してください。

4 フィンガレバーを旋回後「下降」に操作してください。(電動マーカが次の植付行程側に出たのを確認してください。)

5 枕地分をすぎた所で植付入切スイッチを押して、植付クラッチを「入」にし、モニタランプの「植える」の点灯を確認して、植え進んでください。

補 足

- **Ｚターンスイッチを「OFF」にしても、バックリフトは作動します。**



PRJ8_0191

6.3.4 ミラクルZターンを使った旋回のしかた

植付作業旋回時に後輪による穴掘りや補助車輪間の泥抱きが多いときは、ミラクルZターンを使用することにより、穴掘りや泥抱きを軽減することができます。

1 モニタパネルのポンピング制御画面で、ミラクルZターンの設定変更ができます。
モニタパネルのホーム画面から、設定ダイヤルを押し、メニュー画面の機能設定アイコンで設定ダイヤルを押し、設定ダイヤルを回して「ポンピング」の項目に合わせて設定ダイヤルを押してください。



メニュー画面（機能設定） PRJ8_00327

2 設定ダイヤルを回すとポンピングクラッチ入切の間隔を変更できます。
設定ダイヤルを押すと、表示している設定値に確定します。

補 足

- **ポンピングを使わないときは「OFF」位置にあわせてください。**
- **副変速が「移動」位置のときは、ポンピングは作動しません。**



ポンピング調整画面 LRA_00339

3 植付作業旋回中、旋回内側後輪が止まりそうになると、ポンピングが作動し、旋回内側後輪の動力がつながったり切れたりし、車輪の穴掘りや補助車輪間の泥抱きを軽減します。

4 ほ場条件によって、旋回半径や車輪の穴掘り、補助車輪間の泥抱きの具合は変わりますので、様子を見ながら、ポンピングの強弱を調整してください。

補 足

- **ポンピングを使用する時は、Zターンの作動タイミングが正常に機能しません。Zターンスイッチを「OFF」にし、Zターンを使わない旋回のしかた（☞124ページ）で植付作業してください。**

6.3.5 電動マーカの使いかた

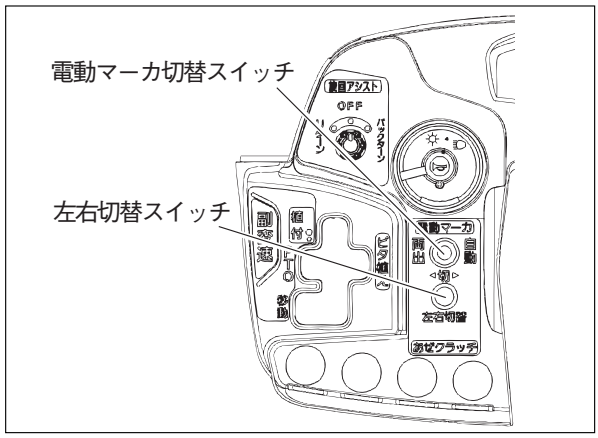
(1) 電動マーカ切替スイッチを「自動」位置にすると、電動マーカが出る側の電動マーカモニタが点灯します。

(2) 電動マーカの出る方向を切り替えるときは、左右切替スイッチを押すと、左右交互に切り替わります。

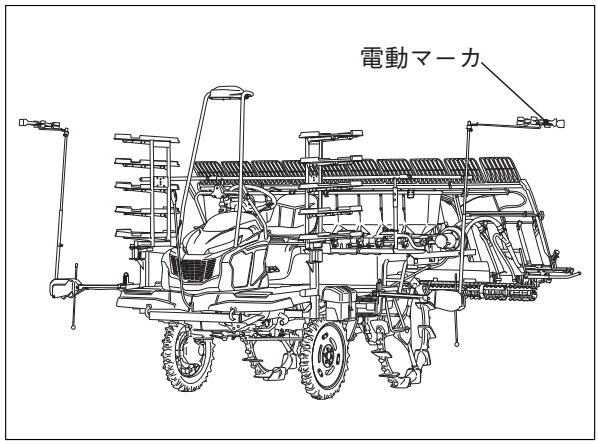
(3) フィンガレバーを操作し、植付部を下げると、電動マーカが出ます。

補 足

- **電動マーカの左右切替えは、左右切替スイッチの操作で切り替えることができます。**



PJ10_06325D



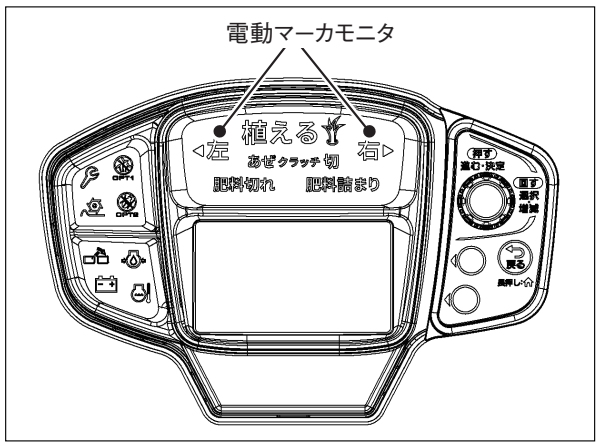
LRA_00313

6.3.6 電動マーカ両出しのしかた

電動マーカ切替スイッチを「両出」位置にすると、左右の電動マーカが同時に出るようになります。このとき、電動マーカモニタが左右とも点灯します。

補 足

- **フィンガレバーを「上昇」に操作するか、電動マーカ切替スイッチを「切」位置にすると、両側の電動マーカは出ません。**



LRA_00353

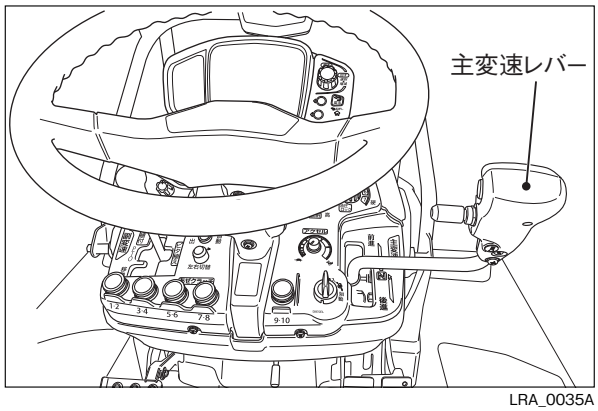
6.3.7 バックリフトの使いかた

(1) 植付部が下降状態のとき、主変速レバーをバック操作（「後進」位置）すると、植付部が上昇します。

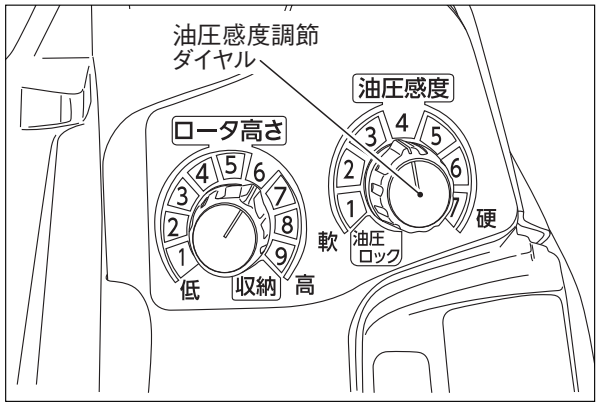
(2) 油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にしているとバックリフトしません。

補 足

- **バックしていても、チョイ下げボタンの下げ操作で、バックリフトより優先して植付部を下降させることができます。**
- **Zターンスイッチを「OFF」にしていてもバックリフトは作動します。**



LRA_0035A



PRJ8_00316

6.3.8 ピタ植えの使い方

⚠ 警 告

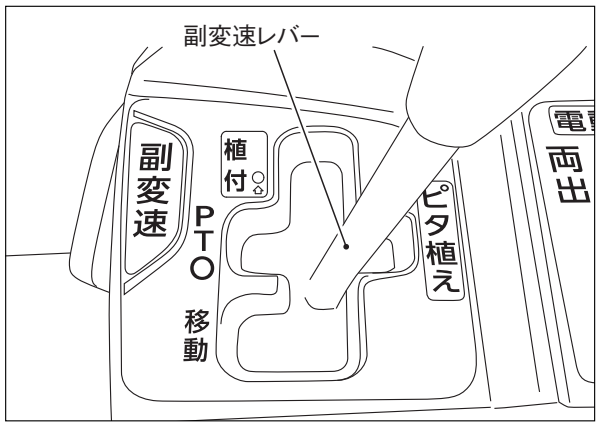
ピタ植え動作時、副変速レバーを植付、移動に入れないでください。
※ 急に走行し、事故を引き起こすおそれがあります。

(1) 植付部下降状態で、苗を植えたい場所に停止してください。

(2) 副変速レバーを「ピタ植え」位置に倒し、ブザーが鳴り終えるまで倒し続けて下さい。その場に1株もしくは2株植え付けます。

補 足

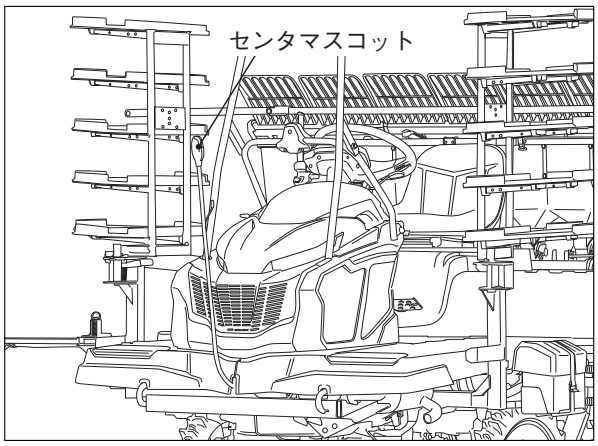
- **レバーを途中で戻すと、植付も途中で止まります。**
- **副変速レバーを「ピタ植え」位置に倒した後は植付クラッチが「入」状態になります。**



PRJ8_00364D

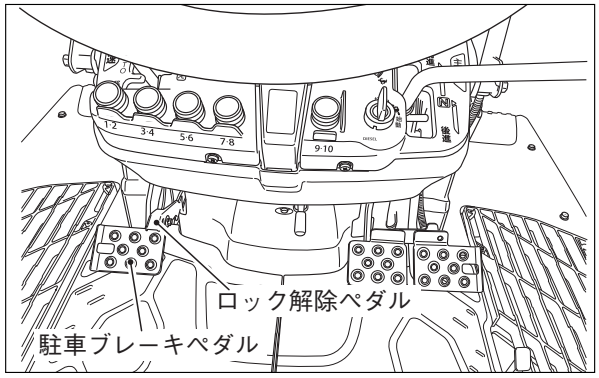
6.3.9 苗の補給

1 苗が一定量まで減少すると、センタマスコットが赤色に点滅します。



LRA_00315

2 駐車ブレーキペダルを踏み込み、ペダルを固定します。

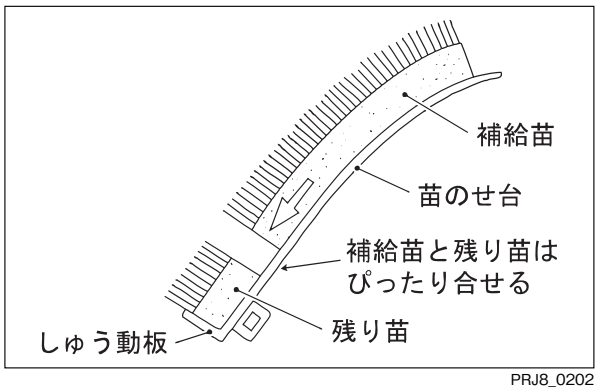


PJ10_00366

3 補助苗を苗取り板で取り、上の方からゆっくりと苗のせ台にすべりこませてください。

補 足

- **苗補給するときには、残り苗と補給苗がぴったり合うように注意してください。**

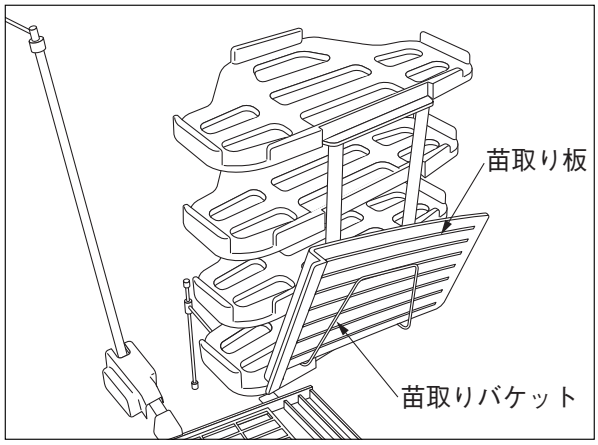


PRJ8_0202

4 駐車ブレーキペダルとロック解除ペダルを同時に踏み、足を離して主変速レバーをゆっくり操作し、発進してください。

補 足

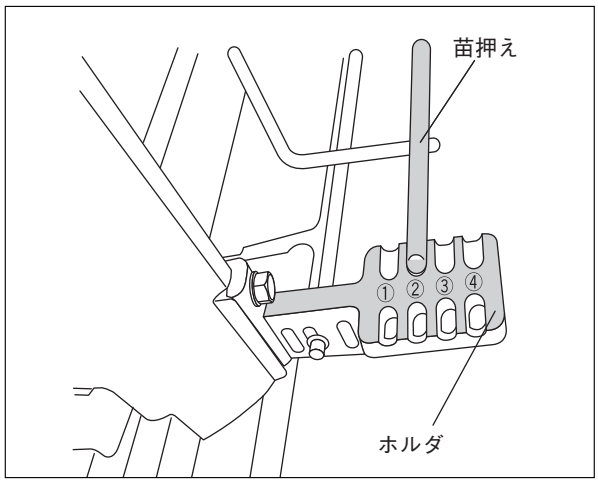
- **苗補給後の苗取り板は苗取りバケットに入れてください。**



PJ10_0191C

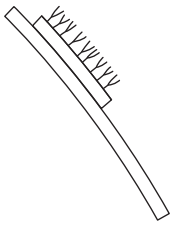
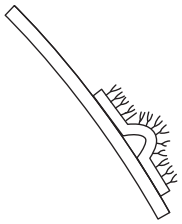
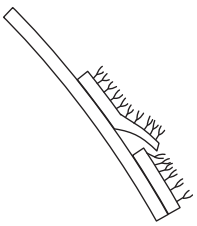
6.3.10 苗押えの調節

使用する苗の条件により、苗押えの調節をしてください。(☞ 63ページ参照)
苗押えの標準（出荷）位置は②の位置です。



PRJ8_0204

標準位置で試し植えをして、不調時は、下記要領で調節してください。

不調な場合の現象		苗押えの位置
●苗のせ台にのせた苗がすべらず落ちていかない。		③又は④
●苗がめくれてつぶれる。		①
●つぎ足した苗が重なる。		①

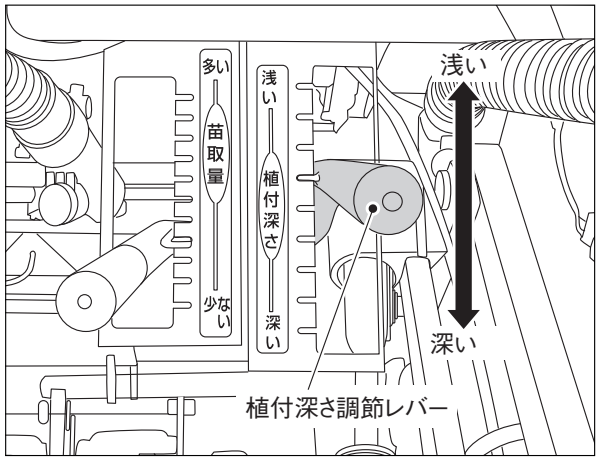
6.3.11 ロータの動かしかた

(1) ロータ高さ調節ダイヤルを植付深さ調節レバーの番号と同じ番号に合わせ、ロータの均平深さを決めます。

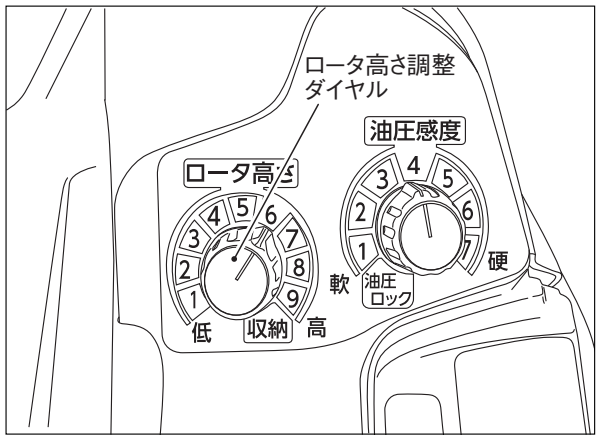
(2) ロータは後車輪と連動しているため、後車輪が回ると、ロータも回転します。

(3) ロータの駆動は植付部の昇降に連動してクラッチの「入」「切」をします。植付部が下るとロータが回り、上るとロータは止まります。

(4) ロータを使用しない場合は、ロータ高さ調整ダイヤルを「収納」位置にして作業してください。



PRJ8_0056



PRJ8_00307C

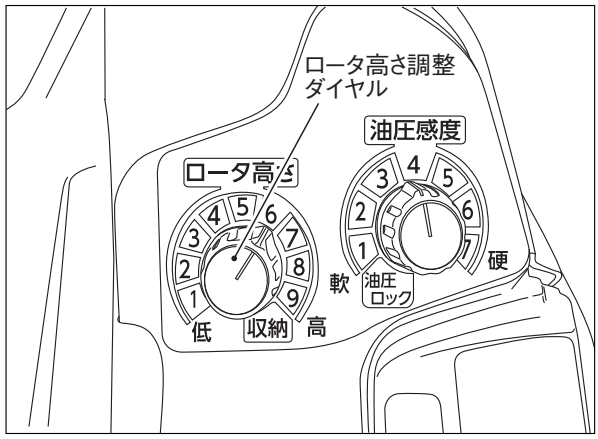
補 足

- **ロータ高さ調節ダイヤルを「収納」位置にしても、ロータは回転します。**

6.3.12 ロータの高さ調整

(1) 植付深さを調節する時はロータ高さも同時に調節してください。

(2) ロータ高さ調整ダイヤルは植付深さ調節レバー位置の番号と同一番号で使用し、表面の仕上がり状態を見ながら、必要であればその位置を基準にロータ高さを調整してください。



PRJ8_00307C

補 足

- **ロータがフロートに対し深くなりすぎると泥押しが多くなり隣接苗を押し倒すことがあります。**
- **ロータがフロートに対し浅くなりすぎると、整地性能が悪くなり、浮き苗になることがあります。**
- **表土の柔かいほ場でロータを使うと苗が浮いたり、流れたりすることがあります。その場合はロータ高さ調整ダイヤルを「収納」位置にしてください。**

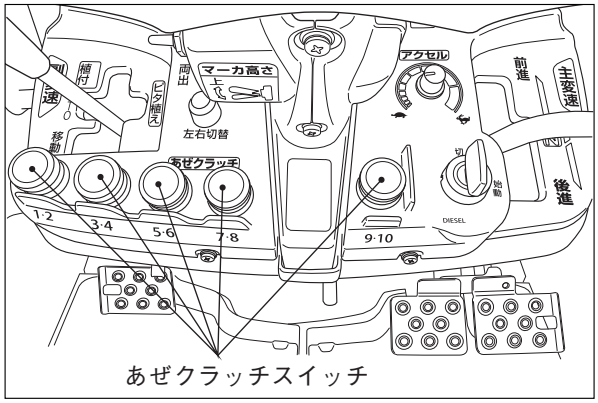
6.3.13 あぜクラッチの操作方法

1 苗を植えない条のあぜクラッチスイッチを押してください。
（スイッチは左端もしくは右端から順番に押してください。）

2 スイッチの点灯を確認して、前進して苗を植え付けてください。
（あぜクラッチスイッチが消灯もしくは点滅の状態の時、あぜクラッチは切れていません。）

補 足

- **植付部を上げたり、一度エンジンを停止すると、自動的にあぜクラッチが切れた状態は解除されます。**
- **スイッチの点滅状態は、「保留」を表し、この状態ではまだあぜクラッチが切れていません。**
- **「保留」状態は、正しい組み合わせでスイッチが押されていないことを表しています。**

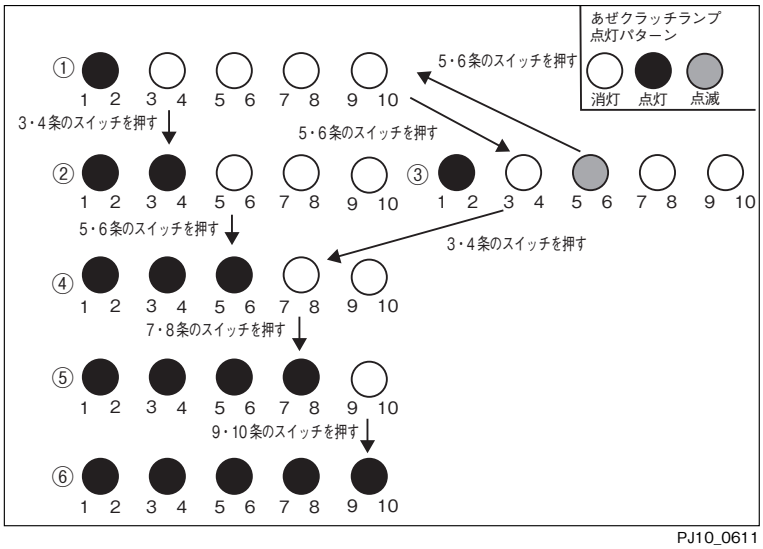


あぜクラッチスイッチ

PJ10_00377

- **「保留」状態は、スイッチを中央条から押してしまった場合や、一つ以上とばしてスイッチを押している場合に起こります。（保留解除方法については下記を参照してください。）**
- **あぜクラッチスイッチの操作は、植込杆が高速で回転している状態では行わないでください。故障の原因になります。**

① 「1·2条」のスイッチが「入」になり、1·2条目の植付が停止された状態です。
② 「1·2条」「3·4条」のスイッチが「入」になり、1·2·3·4条目の植付が停止された状態です。
③ 「3·4条」のスイッチをとばしているので、5·6条目は「保留」状態になり、1·2条目は停止状態ですが、5·6条目の植付は運転状態です。
④ 「1·2条」「3·4条」「5·6条」のスイッチが「入」になり、1·2·3·4·5·6条目の植付が停止された状態です。
⑤ 「1·2条」「3·4条」「5·6条」「7·8条」のスイッチが「入」になり、1·2·3·4·5·6·7·8条目の植付が停止された状態です。
⑥ 全てのスイッチが「入」になり全条の植付が停止します。



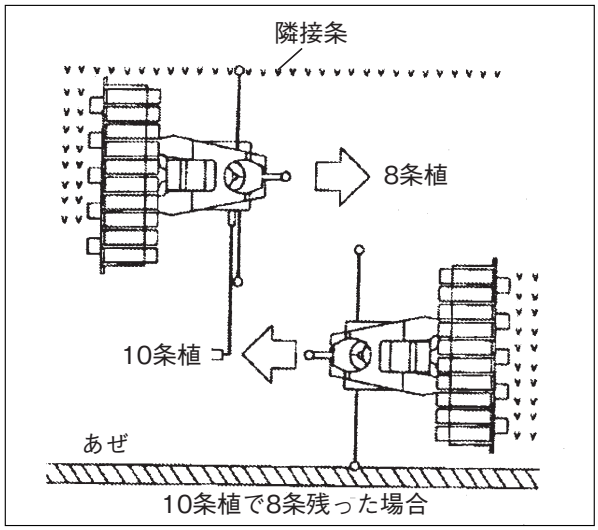
PJ10_0611

6.3.14 植えじまい

植付の最終行程（あぜ際での植付）を使用機械の条数に合せるためには、前行程で植付条数の調整をする必要があります。
任意の条数を植えたいときは、あぜクラッチスイッチと苗ストッパを使って行ってください。

補 足

- **苗の葉を両手で持つと苗がくずれるような弱い苗で、長い距離を特定条のみ植付停止する場合は、苗ストッパを使用してください。**
  あぜクラッチスイッチを使用すると、停止条の苗がくずれ植付再開時、欠株を生じる場合があります。

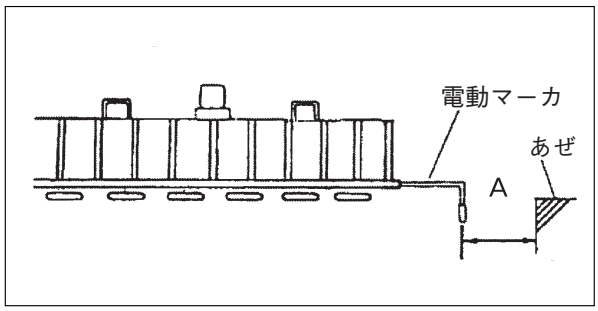


PJ10_0208

■最終行程での植付条数の決めかた

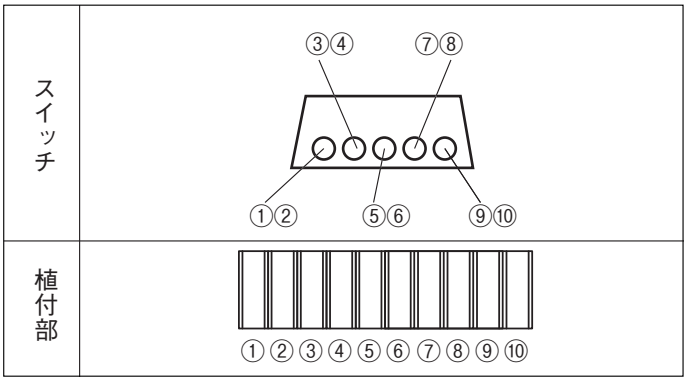
センタマスコットと隣接マーカで条合せした後、電動マーカを出し植付条数を決めてください。

Aの距離	
165 cm程度のとき	10条植え
135 cm程度のとき	9条植え
105cm程度のとき	8条植え
75cm程度のとき	7条植え
45cm程度のとき	6条植え
15cm程度のとき	5条植え
あぜへ15 cm程度のり上げるとき	4条植え
あぜへ45 cm程度のり上げるとき	3条植え
あぜへ75 cm程度のり上げるとき	2条植え
あぜへ105 cm程度のり上げるとき	1条植え

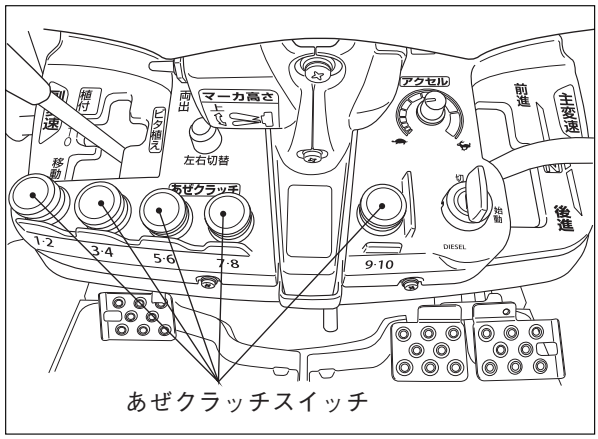


PJ10_0209

あぜクラッチスイッチを「入」にすることにより、下図に示す条の植付を停止することができます。



PJ10_0612

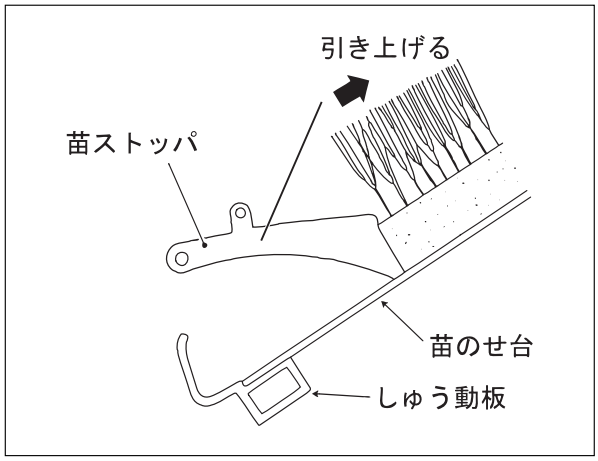


PJ10_00377

補 足

- **あぜクラッチスイッチを「入」で使用した後は、必ず「切」に戻してください。**

1条単位で植付を停止したいときには、植付を止めたい条の苗を上に引き上げ、苗ストッパを右図のように取り付けてください。



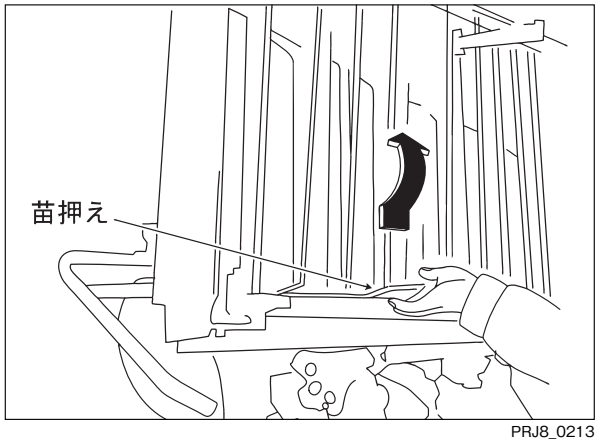
PRJ8_0212

6.3.15 残り苗の取り出し

植付作業が終わり、苗のせ台に残った苗を取り出す場合には、苗押えを上に引き抜き、ガイド穴から外し、上側に回してください。

補 足

- **苗の取り出しが終ったら、苗押えは必ず作業位置（ガイド穴）に戻してください。**



PRJ8_0213

6.3.16 安全クラッチが作動したとき

⚠ 注 意

安全クラッチの確認は、必ずエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

植付作業中、植込杆が止まりカチカチ音がする場合は安全クラッチが働いています。次の処置をしてください。

1 ただちに駐車ブレーキペダルを踏み込み、ロックさせます。

2 副変速レバーを「PTO」位置にし、植付入切スイッチで植付クラッチを「入」にし、エンジンを停止します。

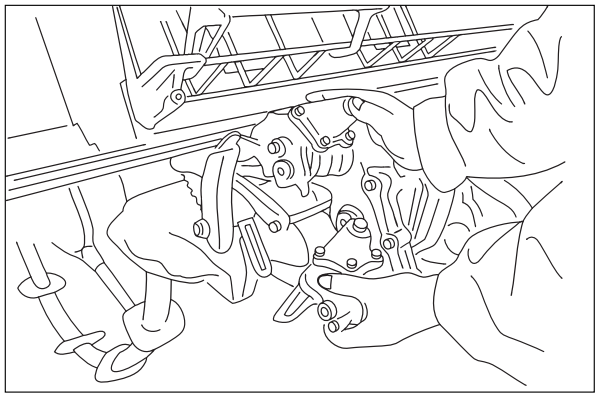
3 苗取口と植付爪の間、植込杆とフロートの間等に石等をかんでいないか確認し、取り除いてください。

4 植込杆が軽く回動するか、しゅう動板との干渉はないか、植付爪は変形していないかを確認してから植付を再開してください。

5 植付爪が変形している場合には、交換してください。

補 足

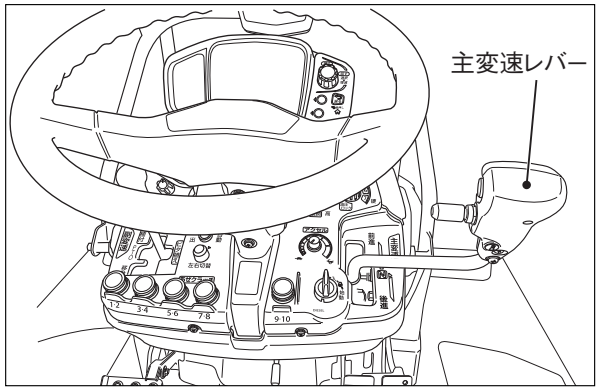
- **植付爪が曲がったり破損したときは、お買いあげ先へご連絡ください。**



PRJ8_0214

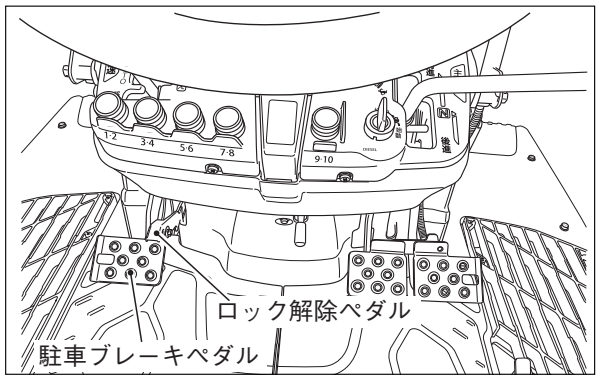
6.4 直進および旋回アシスト機能の準備

1 主変速レバーを「N」位置にします。



LRA_0035A

2 駐車ブレーキペダルを踏み込んでロック状態にしてください。



PJ10_00366

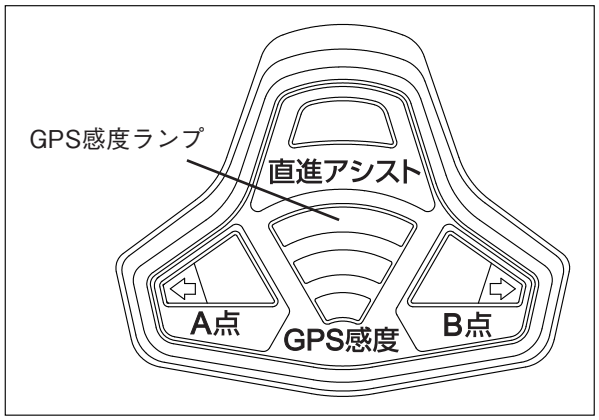
3 メインスイッチを「始動」位置に回し、エンジンを始動します。

補 足

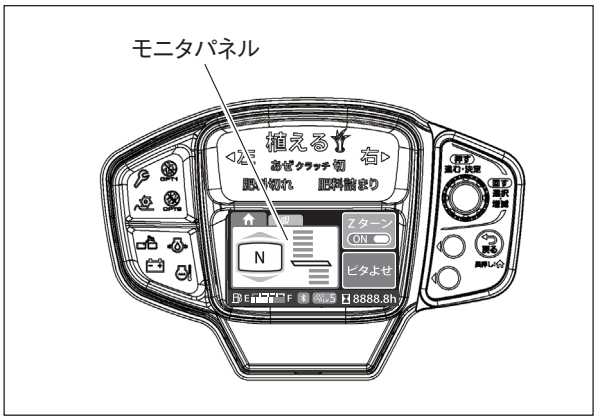
- **直進および旋回アシスト機能の準備ができていない状態の時エンジン始動後、約5秒間各センサ調整を行いますので機体を動かさないでください。**
- **直進アシストレバーを上へ長押しすると、各センサの再調整ができます。エンジン始動直後に機体が揺れる等した場合、センサ調整が正常に出来ていないおそれがあります。平坦な場所で直進アシストレバーを上に長押しして、センサの再調整を行ってください。**

4 モニタパネルに「ＧＰＳ調整中です」が表示され直進アシストモニタのＧＰＳ感度ランプが赤→橙→青の順で点灯します。約５分後､「ピー」とブザーが鳴り、モニタパネルにＧＰＳ電波の受信状態が表示され、直進アシストモニタのＧＰＳ感度ランプが点灯し、準備が完了します。

※直進および旋回アシスト機能の準備が完了後は、エンジン停止しても約2時間はシステム情報を記憶しているため、エンジン再始動後すぐにＧＰＳ感度ランプが点灯し直進および旋回アシスト機能を使用することができます。エンジン停止後2時間以上経過すると、再度直進および旋回アシスト機能の準備が必要です。



PRJ8Z0017

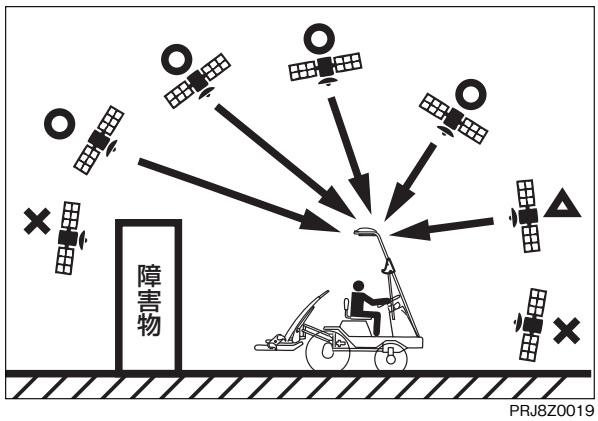


LRA0118

ＧＰＳ感度ランプ表示	モニタ表示	直進精度
青ランプ点灯	LV5	GPS測位レベルは十分です。
青ランプ点滅	LV4	GPS測位レベルは十分ですが、まれに直進精度が悪化する恐れがあります。
橙ランプ点灯	LV3	GPS測位レベルは十分ですが、直進精度が悪化する恐れがあります。
橙ランプ点滅	LV2	GPS測位レベルが不十分です。直進精度が悪化しやすい状態です。
赤ランプ点灯	LV1	GPS測位不能。直進および旋回アシスト機能を使用できません。

補 足

- **衛星とアンテナの間に、建物、山、防風林などがあると受信できません。**
- **地平線から低い角度にある衛星からは、受信できない場合があります。**
- **衛星の配置が偏っていると、測位レベルが低下します。**
- **モニタパネル下部に「LV1」が表示された時は、障害物のない場所へ移動し、しばらくお待ちいただくか、手動運転で作業を行ってください。**



PRJ8Z0019

6.5 直進アシスト機能の使い方

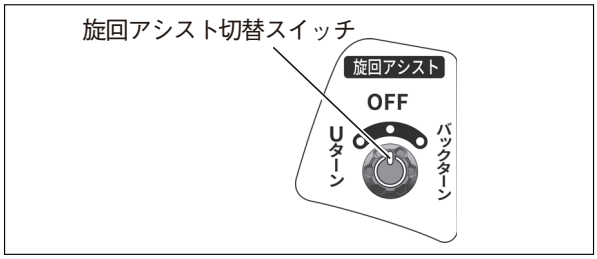
⚠ 警 告

衝突や転倒の恐れがあるため、作業中は必ず運転席に座り前方に注意しながら作業を行ってください。

直進アシスト使用中、障害物など危険を感じた時は手動でハンドルを操作して危険回避してください。

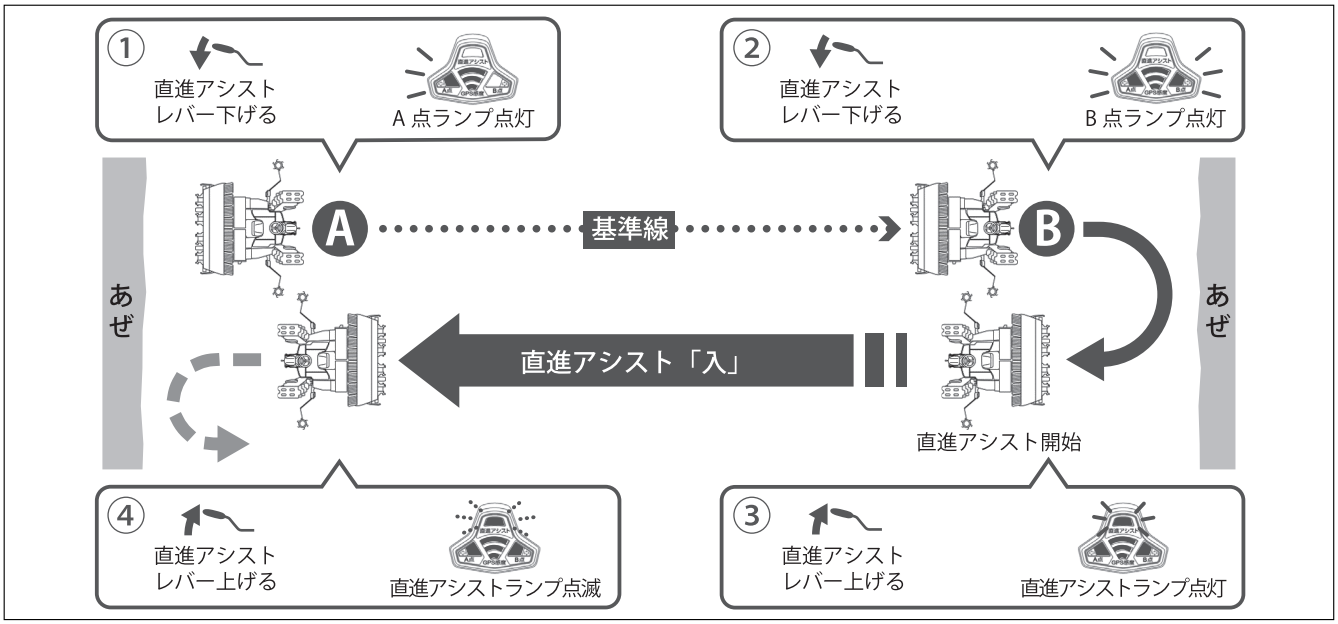
下記のような条件では直進アシスト機能を使用せず、手動運転で作業を行ってください。
●ほ場内に人がいる場合。
●ほ場が変形している場合。
●ほ場のあぜが崩れやすい場合。
●ほ場内に障害物がある場合。
●周り植えを行う場合。

直進アシスト機能は旋回アシスト切替スイッチが「ＯＦＦ」「バックターン」「Uターン」のいずれの位置でも使用できます。直進アシスト機能のみ使用する場合は旋回アシスト切替スイッチを「ＯＦＦ」にしてください。



PJ10_0019

直進アシスト機能の準備完了後は、以下の手順に従って作業を行ってください。
①植付部を下げた状態で直進アシストレバーを下げA点を取得してください。
②直進アシストレバーを下げB点を取得してください。(基準線を決定)
③旋回後基準線に対して平行に植付作業を行いながら、直進アシストレバーを上げると直進アシスト機能「入」となり基準線に対して平行に走行します。
④あぜへ近づいたら直進アシストレバーを上げ直進アシスト「切」とし手動運転にてあぜ際まで植付作業を行う。
⑤以降③④を繰り返し植付作業を行う。



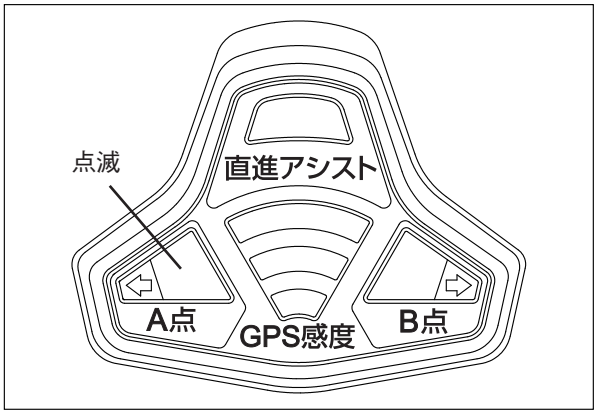
補 足

- **直進アシストレバーを下に長押しすることで基準線を消去することができます。**
- **直進アシスト機能は、GPS電波の受信状態や衛星の切り替わり、ほ場条件により直進精度が低下することがあります。直進アシスト「入」の状態でも植付方向に対して、ずれが発生する場合がありますので隣接条やマーカ跡を見ながら必要に応じて直進アシスト機能を「切」とし、手動運転にて作業を行ってください。**
- **ほ場内の凹凸やわだちの多いほ場では直進精度が低下することがあります。**
- **直進アシスト機能は、植付速度一定の中速で作業を行うと直進精度が向上します。**
- **補助車輪装着時は、補助車輪設定(☞ 177ページ) を行ってください。**
- **ほ場条件に応じて操舵量調節(☞ 46ページ) や車速を調節することで直進精度が向上します。**

1 直進アシストモニタのＡ点ランプが点滅している事を確認し、基準線の始点位置まで移動し、植付部を下げてください。

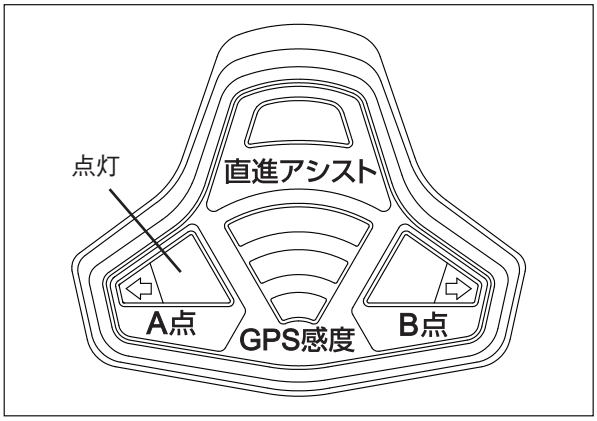
補 足

- **直進アシスト機能の準備ができていないとA点ランプが点滅しません。**

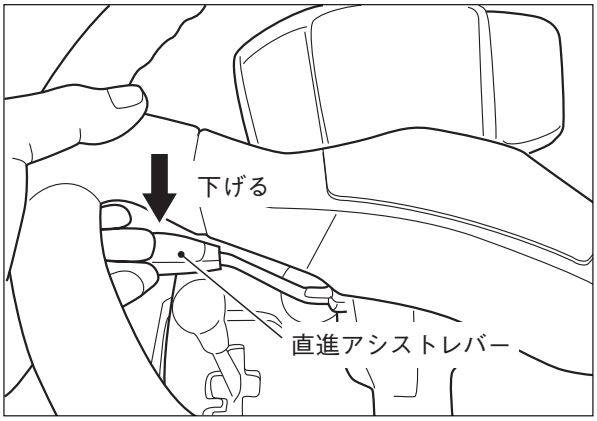


PRJ8Z0021

2 前進しながら直進アシストレバーを下げ、Ａ点を取得してください。この時直進アシストモニタのＡ点ランプが点灯します。

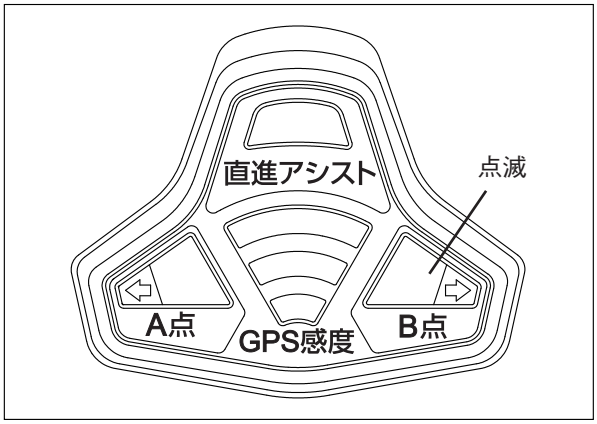


PRJ8Z0022



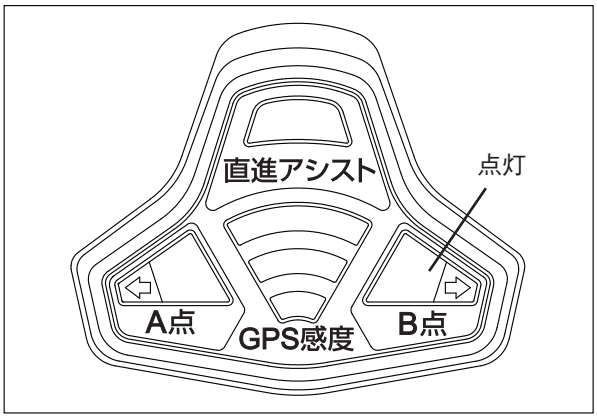
LRA0023

3 A点を取得してから５m以上走行すると直進アシストモニタのＢ点ランプが点滅します。

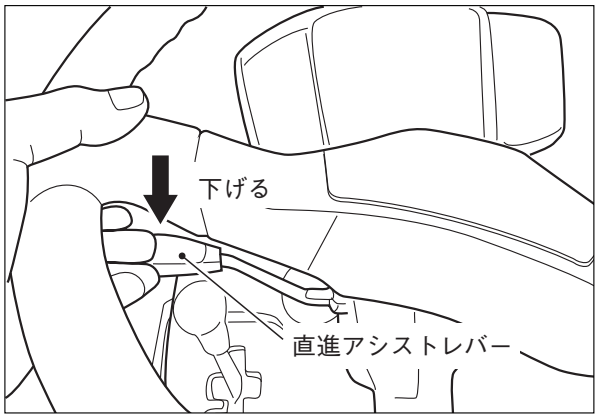


PRJ8Z0024

4 基準線の終点まで移動し、直進アシストレバーを下げ、Ｂ点を取得してください。この時、直進アシストモニタのＢ点ランプが点灯します。



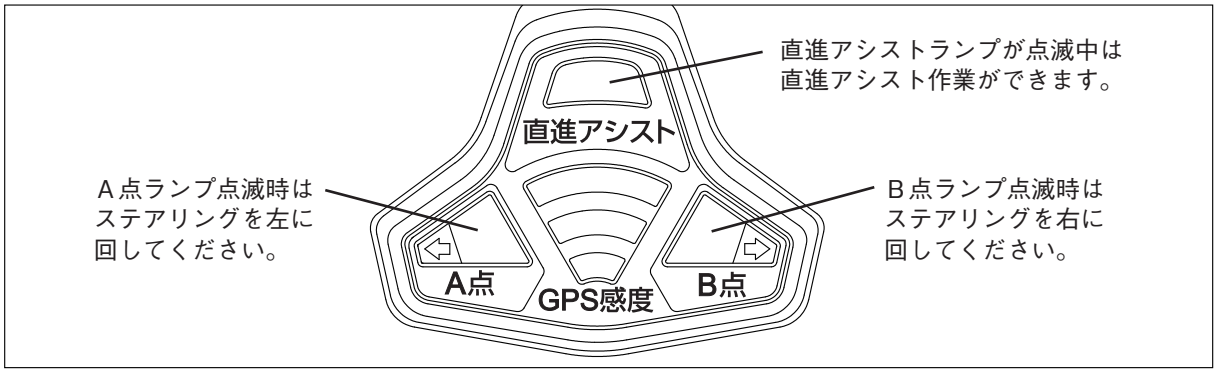
PRJ8Z0025



LRA0023

5 あぜ際まで移動後、植付部を上げ旋回し植付部を下げてください。

6 植付開始位置まで移動し、通常の植付作業を開始すると直進アシストランプが点滅し、直進アシスト「入」することが可能な状態になります。
この時、基準線に対して進行方向のずれが大きい場合、Ａ点またはＢ点ランプが点滅します。Ａ点ランプが点滅している場合は左へ、Ｂ点ランプが点滅している場合は右へステアリングを回し直進アシストランプが点滅する状態に進行方向を修正してください。

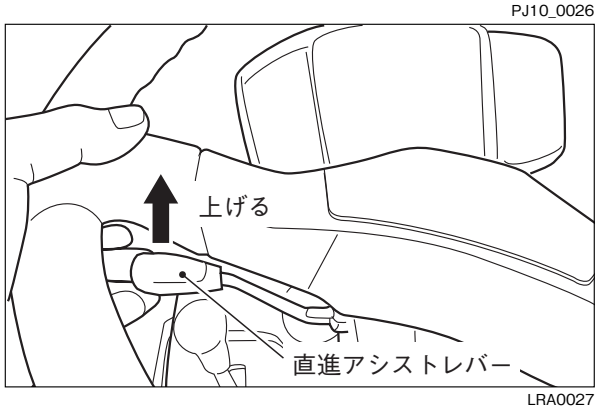


PJ10_0026

7 植付作業を行いながら、直進アシストランプが点滅していることを確認し、直進アシストレバーを上げ直進アシストを「入」にしてください。直進アシストランプが点灯し、ステアリングが自動で動きます。

補 足

- **停車している時は、直進アシストは「入」にできません。**
- **直進アシスト機能使用中に停車すると、直進アシストが「切」になります。**
- **直進アシスト機能使用中にステアリングを操作すると、直進アシストが「切」になることがあります。**



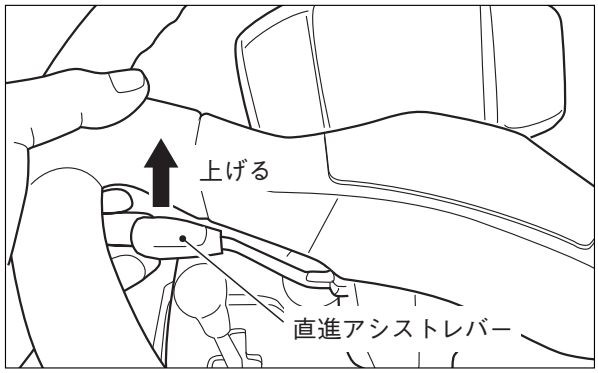
LRA0027

- **１行程の距離が600m以上の場合は直進精度が不安定となり、直進アシストが使用できない場合があります。**

● **直進アシスト作業をすることが不可能な状態で直進アシストレバーを上げると「ピピピ」と警報音が鳴り直進アシスト作業はできません。**

8 あぜが近づいてきたとき、直進アシストレバーを上げ直進アシストを「切」にしてください。直進アシストランプが点滅します。

9 手動運転であぜ際まで植付を行ってください。以降､5～8を繰り返して植付作業を行ってください。



LRA0027

6.6 旋回アシスト機能（Uターン）の使い方

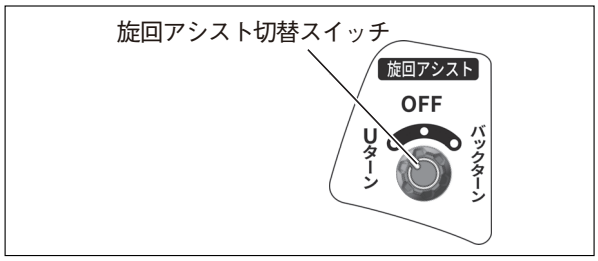
⚠ 警 告

衝突や転倒の恐れがあるため、作業中は必ず運転席に座り前方に注意しながら作業を行ってください。

旋回アシスト使用中、障害物など危険を感じた時は手動でハンドルを操作して危険回避してください。

下記のような条件では旋回アシスト機能を使用せず、手動運転で作業を行ってください。
●ほ場内に人がいる場合。
●ほ場が変形している場合。
●ほ場のあぜが崩れやすい場合。
●ほ場内に障害物がある場合。
●周り植えを行う場合。

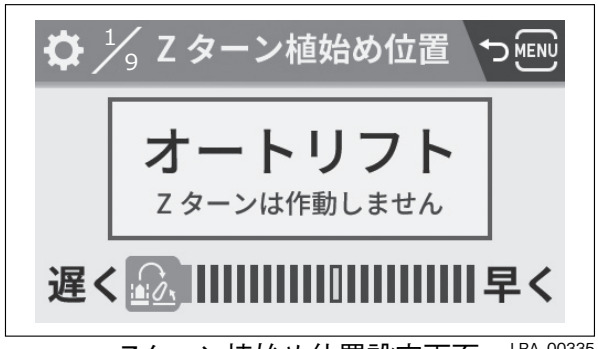
旋回アシスト機能（Uターン）を使用する場合は旋回アシスト切替スイッチを「Uターン」にしてください。



PJ10_0019B

補 足

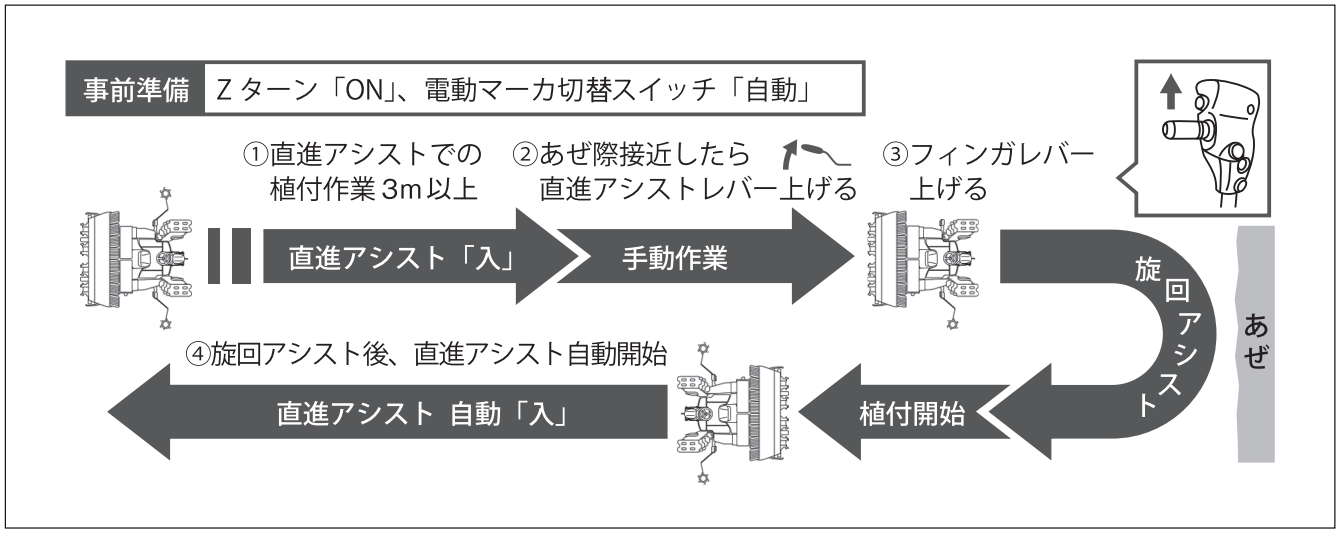
- **デフロックを使用するスリップの多いほ場では大回りするため直進アシストレバーを「上げ」操作し手動で旋回操作してください。旋回後、直進アシスト機能は使用可能です。**
- **ミラクルＺターン搭載型式で旋回アシスト（Uターン）を使用する場合は、ポンピング機能が「ＯＦＦ」になります。ポンピング機能を使用するときは、旋回アシストを「ＯＦＦ」にしてください。**
- **植始め位置設定「オートリフト」のとき、旋回アシストは可能ですが､旋回時の植付部「下げ」､植付「入」操作は手動で行います。**



Ｚターン植始め位置設定画面 LRA_00335

6. 植付作業のしかた

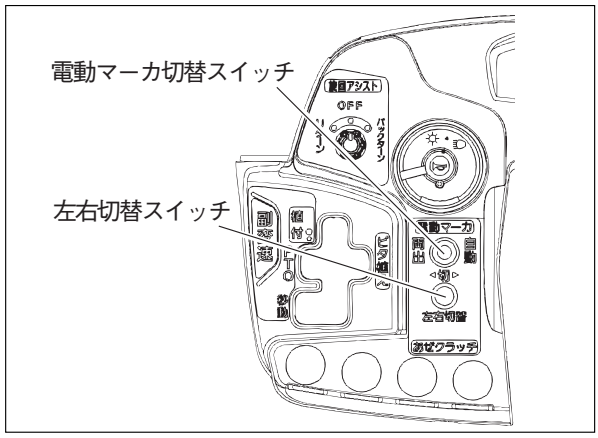
1行程直進アシストで植付作業をおこなった後、以下の手順に従って作業をおこなってください。
①直進アシスト「入」であぜ際まで植付作業を3m以上行います。
②あぜ接近警報(☞ 149ページ)が作動し、旋回する方向の電動マーカモニタが点滅するので、直進アシストレバーを上げ、直進アシストを終了します。
③あぜ際まで手動で植付作業し、旋回したいタイミングで主変速レバーのフィンガレバーを上げます。
④旋回アシストが始まり、旋回・条合わせ・植付・直進アシスト「入」を自動で行います。
⑤以下①～④を繰り返し植付作業を行います。



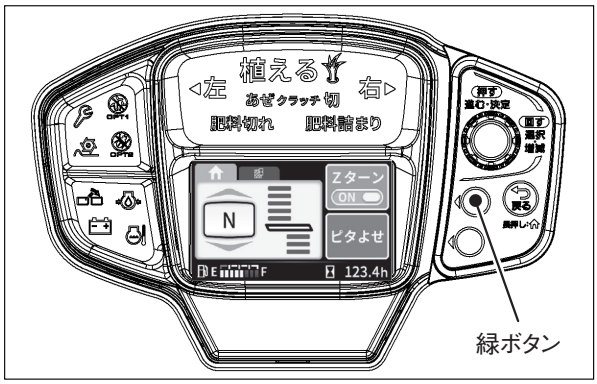
1 Zターンスイッチ「ON」(点灯)、電動マーカ切替スイッチ「自動」にし、直進アシストで3m以上植付してください。

補 足

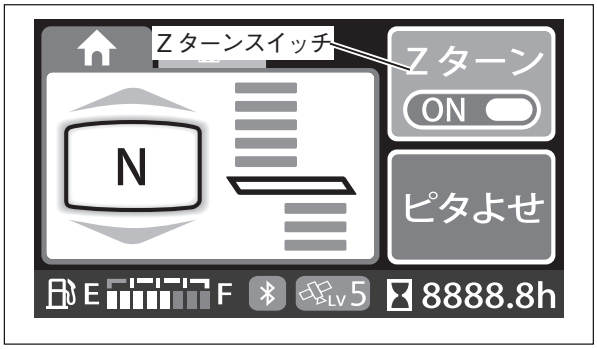
- **電動マーカ切替スイッチ「両出」では旋回方向が判らないため作動しません。**



PJ10_06325D

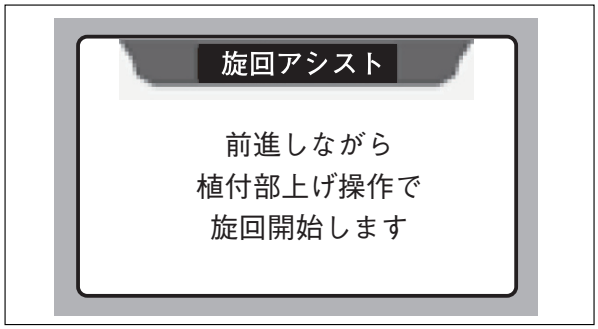


LRA_00324



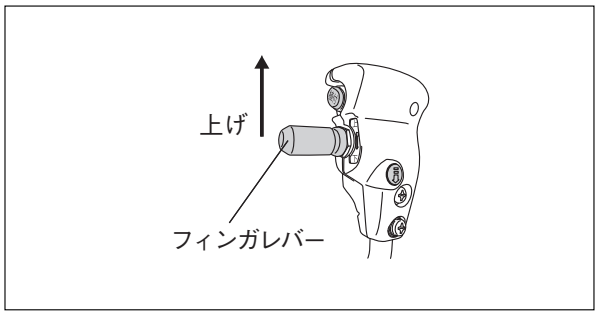
PJ10_0024

2 あぜ接近警報開始後モニタに「前進しながら植付部上げ操作で旋回開始します」と表示され、モニタパネルの電動マーカモニタの旋回する側が点滅します。この状態になると旋回アシストが開始できますので、直進アシストレバー「上げ」操作後、またはあぜ際停車制御で停車後、手動であぜ際まで植付してください。

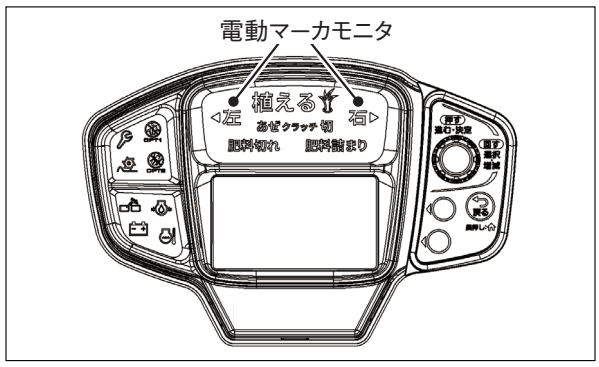


PJ10_0029

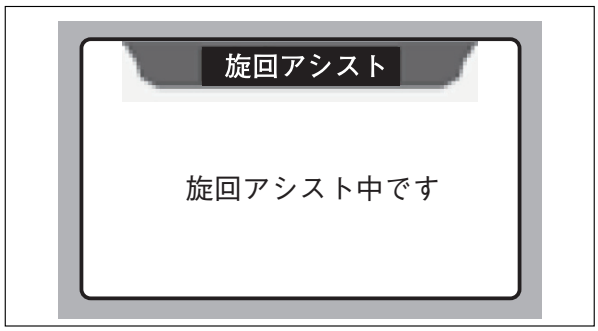
3 あぜ際まで手動で植付作業し、旋回したいタイミングで主変速レバーのフィンガレバー「上げ」操作で、モニタに「旋回アシスト中です」と表示され、ステアリングが自動で回転し、自動で旋回後条合わせしながら植付を行います。以下、次のあぜに近づいたところで最初の操作を繰り返します。



PJ10_0028



モニタパネル全体図 LRA_00353B



PJ10_0030

補 足

- **あぜ際警報が作動する区間より前では旋回アシストは作動しません。**
- **あぜ際停車制御(☞ 149ページ)で自動停車しても、主変速レバー「N」にして再度操作を行なえば旋回アシストは使用可能です。**
- **旋回アシスト（Uターン）はあぜ接近警報中にフィンガレバー「上げ」操作しても作動します。**
- **旋回アシスト（Uターン）は停車状態では開始できません。**
- **旋回アシスト（Uターン）は基準線に対し進行方向がズレると開始できない場合があります。**
- **旋回アシスト中は最高速が規制されますが、旋回アシスト後は徐々に車速が復帰します。**
- **旋回アシスト中は主変速レバーを「N」にし、車体が停車しても旋回アシストは継続します。**
- **旋回アシストにて旋回動作中に主変速レバーで増減速すると旋回精度が低下するおそれがあります。**
- **旋回アシスト中に直進アシストレバーを「上げ」操作、電動マーカ切替スイッチを「自動」以外または旋回アシスト切替スイッチ「ＯＦＦ」にすると旋回アシストが「切」になります。**
- **旋回アシスト中に主変速レバーのスイッチ･フィンガレバーを操作、または副変速レバーを「移動速」(植始め位置調整が「オートリフト」のときは、主変速レバーの植付部「上げ」操作、または副変速レバー「移動速」)にすると、旋回アシストが「切」になり、機体を停車させます。**
- **旋回中3分以上停車した場合時間経過により目標線がズレるおそれがあります。**
- **ほ場内の凹凸やわだちの多いほ場では旋回精度が低下するおそれがあります。**
- **旋回アシスト終了時に隣接条を見て田植機位置を確認してください。位置を修正したい場合は、直進アシスト「切」にし、手動植付で位置修正後、直進アシスト「入」にしてください。**
- **旋回アシスト機能にはデフロックペダルを自動で操作する機能は含まれておりません。**

6.7 旋回アシスト機能（バックターン）の使い方

⚠ 警 告

衝突や転倒の恐れがあるため、作業中は必ず運転席に座り前方に注意しながら作業を行ってください。

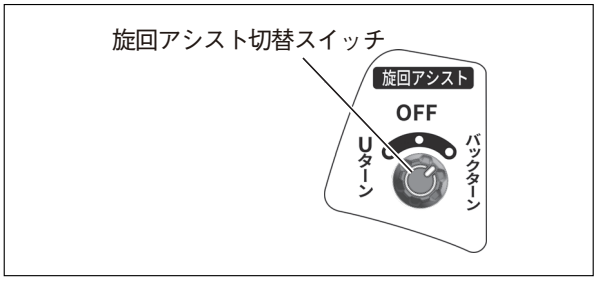
旋回アシスト使用中、障害物など危険を感じた時は手動でハンドルを操作して危険回避してください。

下記のような条件では旋回アシスト機能を使用せず、手動運転で作業を行ってください。
●ほ場内に人がいる場合。
●ほ場が変形している場合。
●ほ場のあぜが崩れやすい場合。
●ほ場内に障害物がある場合。
●周り植えを行う場合。

旋回アシスト機能（バックターン）を使用する場合は旋回アシスト切替スイッチを「バックターン」にしてください。

補 足

- **デフロックを使用するスリップの多いほ場では大回りするため直進アシストレバーを「上げ」操作し手動で旋回操作してください。旋回後、直進アシスト機能は使用可能です。**
- **ミラクルＺターン搭載型式で旋回アシスト（バックターン）を使用する場合は、ポンピング機能が「ＯＦＦ」になります。ポンピング機能を使用するときは、旋回アシストを「ＯＦＦ」にしてください。**
- **植始め位置調整「オートリフト」のとき、旋回アシストは可能ですが、旋回時の植付部「下げ」、植付「入」操作は手動で行います。**

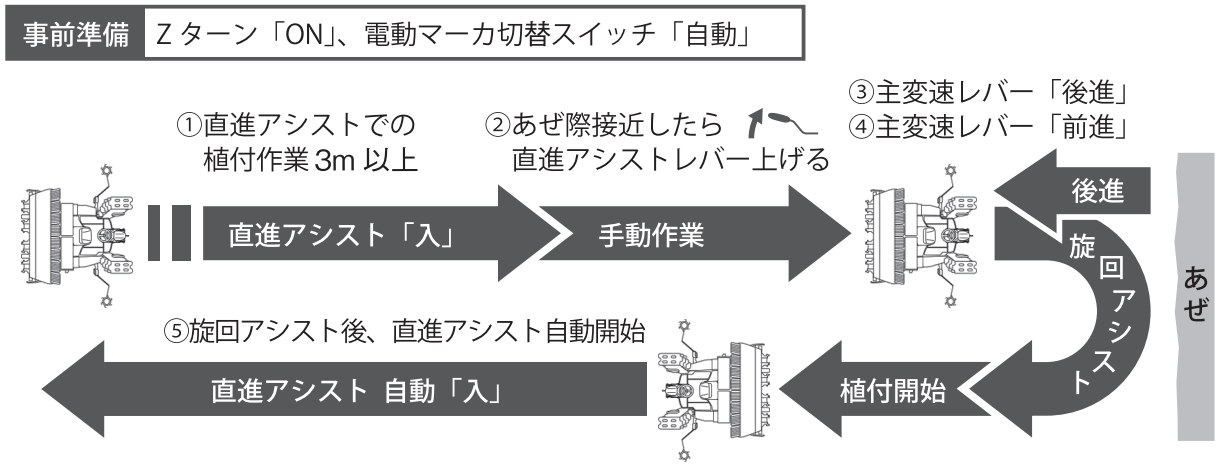


PJ10_0019C



Ｚターン植始め位置設定画面 LRA_00335

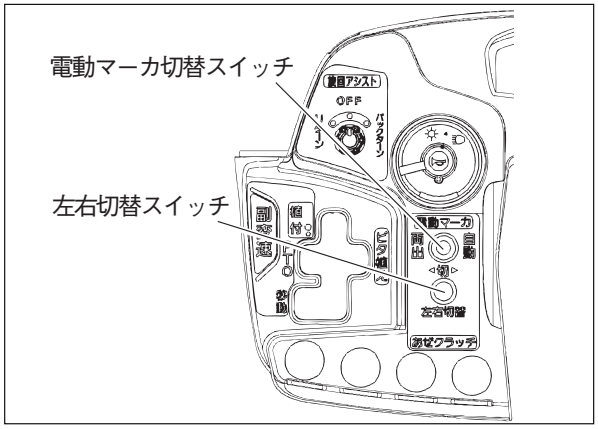
１行程直進アシストで植付作業をおこなった後、以下の手順に従って作業をおこなってください。
①直進アシスト「入」であぜ際まで植付作業を3m以上行います。
②あぜ接近警報(☞ 149ページ)が作動するので、直進アシストレバーを上げ、直進アシストを終了します。このとき、電動マーカモニタが点滅し、旋回アシスト可能であることをお知らせします。
③あぜ際まで手動で植付作業し、端まで植付を行ったら主変速レバーを「後進」に入れます。このとき、主変速レバー「後進」にする前に植付部「上げ」操作を行なうと、旋回アシストは開始しません。
④後進が自動で終了しますので、機体停車後、主変速レバーを「前進」に入れます。
⑤旋回アシストが始まり、旋回・条合わせ・植付・直進アシスト「入」を自動で行います。
⑥以下①～⑤を繰り返し植付作業を行います。



1 Zターンスイッチ「ON」(点灯)、電動マーカ切替スイッチ「自動」にし、直進アシストで3m以上植付してください。

補 足

- **電動マーカ切替スイッチ「両出」では旋回方向が判らないため作動しません。**

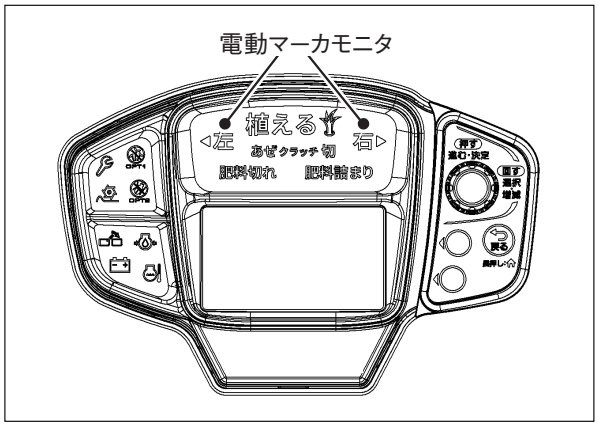


PJ10_06325D

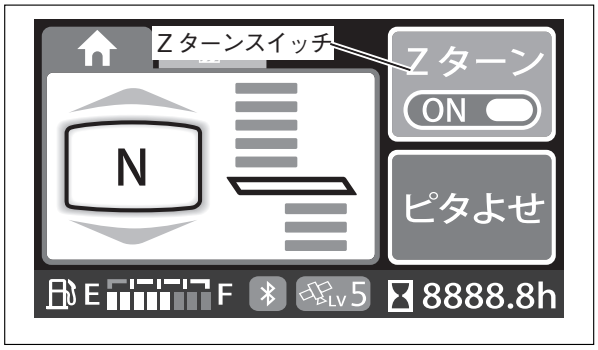
2 あぜ接近警報開始後直進アシストを「切」又はあぜ際停車制御で停車後、手動であぜまで植付けて停車してください。
その際、モニタパネルの電動マーカモニタの旋回する側が点滅します。この状態になると旋回アシストが開始できます。

補 足

- **あぜ接近警報による警報中にあぜに到達し停車した場合にも作動します。**
- **あぜ接近警報が鳴る前にあぜに到達した場合は旋回アシストは作動しません。**

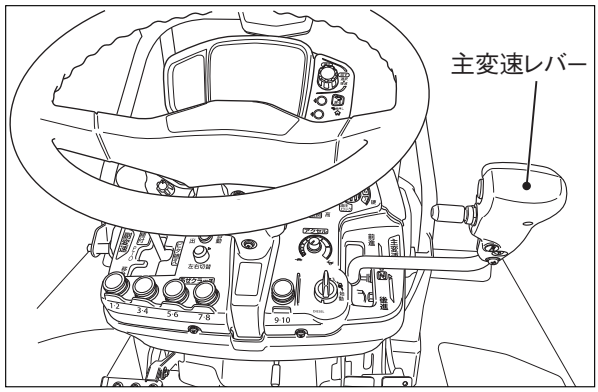


LRA_00353C



PJ10_0024

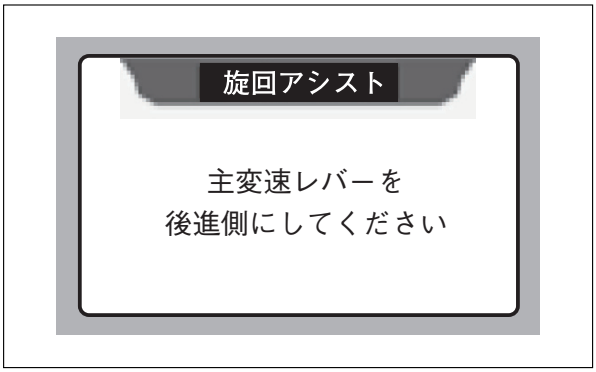
3 主変速レバーを後進側へ操作すると、モニタに「主変速レバーを後進側へ操作してください」と表示されるので、後進を続けてください。
規定距離まで後進した後自動で停車し、モニタに「旋回アシスト中です」と表示されます。



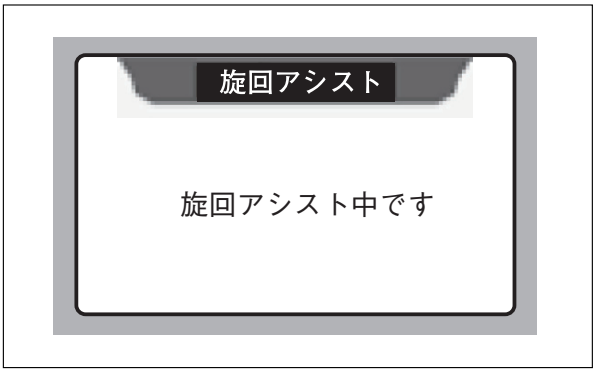
LRA_0035A

補 足

- **主変速レバーを後進側へ操作する前に植付部「上げ」操作を行なうと、旋回は開始しません。**
- **後進終了前に主変速レバーを前進にすると、旋回アシストがキャンセルされます。**



PJ10_0031



PJ10_0030

4 主変速レバーを前進側に操作してください。
ステアリングが自動で回転し、自動で旋回後条合わせし自動で直進アシストしながら植え付けを行います。次のあぜに近づいたところで最初の操作を繰り返します。

補 足

- **あぜ際警報が作動する区間より前では旋回アシストは作動しません。**
- **あぜ際停車制御(☞ 149ページ)で自動停車しても、主変速レバー「N」にして再度操作を行なえば旋回アシストは使用可能です。**
- **旋回アシスト（バックターン）は後進中、自動停車前に前進操作すると解除されます。**
- **旋回アシスト中は最高速が規制されますが、旋回アシスト後は徐々に車速が復帰します。**
- **旋回アシスト中は主変速レバーを「N」にし、車体が停車しても旋回アシストは継続します。**
- **旋回アシストにて旋回動作中に主変速レバーで増減速すると旋回精度が低下するおそれがあります。**
- **旋回アシスト中に直進アシストレバーを「上げ」操作、電動マーカ切替スイッチを「自動」以外または旋回アシスト切替スイッチ「ＯＦＦ」にすると旋回アシストが「切」になります。**
- **旋回アシスト中に主変速レバーのスイッチ･フィンガレバーを操作、または副変速レバーを「移動速」(植始め位置調整が「オートリフト」のときは、主変速レバーの植付部「上げ」操作、または副変速レバー「移動速」）にすると、旋回アシストが「切」になり、機体を停車させます。**

- **旋回中3分以上停車した場合時間経過により目標線がズレるおそれがあります。**
- **ほ場内の凹凸やわだちの多いほ場では旋回精度が低下するおそれがあります。**
- **旋回アシスト終了時に隣接条を見て田植機位置を確認してください。位置を修正したい場合は、直進アシスト「切」にし、手動植付で位置修正後、直進アシスト「入」にしてください。**
- **旋回アシスト機能にはデフロックペダルを自動で操作する機能は含まれておりません。**

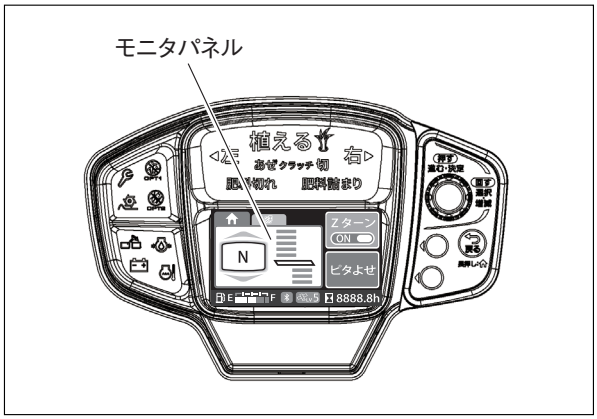
6.8 直進および旋回アシスト使用時の安心機能

直進および旋回アシスト田植機に搭載されている安心機能は、直進および旋回アシスト機能をあやまって使用したり、あぜに衝突、ほ場外へ逸脱したりすることにより事故が発生することを防止する目的で設計していますが、あらゆる状況においてこれらの事故を回避することを保証するものではありません。作業時は、常に周囲やあぜとの距離に注意しながら運転者が、加減速、停車操作を行い安全な作業を行ってください。

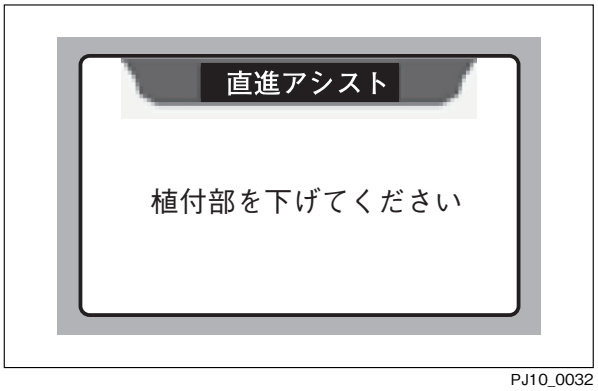
6.8.1 直進アシスト誤操作防止機能

植付部を上げた状態や副変速が「移動」の位置で直進アシスト作業はできません。

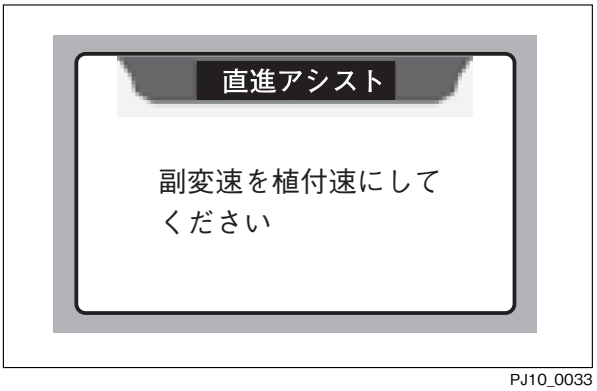
(1) 植付部を上げた状態で直進アシスト「入」操作を行うとモニタパネルに「植付部を下げてください」が表示、警報音が「ピピピ」と鳴り、直進アシスト作業はできません。
(2) 副変速が「移動」の位置で直進アシスト「入」操作を行うとモニタパネルに「副変速を植付速にしてください」が表示、警報音が「ピピピ」と鳴り、直進アシスト作業はできません。
(3) 周り植え作業を行うと、自動的にA・B点が消去され、ほ場外の誤操作を防止します。



LRA0118



PJ10_0032



PJ10_0033

6.8.2 手動運転優先機能

⚠ 警 告

直進および旋回アシスト使用中、障害物など危険を感じた時は手動でハンドルを操作して危険回避してください。

直進および旋回アシスト機能使用中、運転手が危険を感じ手動運転での緊急回避が必要なとき、ステアリングを手動操作すると直進および旋回アシスト「切」となり手動運転に切り替わります。
直進アシスト機能を再開するときは、直進アシストレバーを上げると、直進アシスト機能を再開することが出来ます。

補 足

- **直進アシスト機能を再開するときは、隣接条との条間を合わせてから行ってください。**
- **手動運転優先機能を頻繁に使用すると、直進アシストモータに負荷がかかりモータの寿命を縮める恐れがあります。緊急回避の目的以外では使用しないでください。**
- **手動運転で旋回アシスト機能「切」となった場合、次のあぜまで旋回アシスト使用できません。**

6.8.3 ＧＰＳロスト時自動停車機能

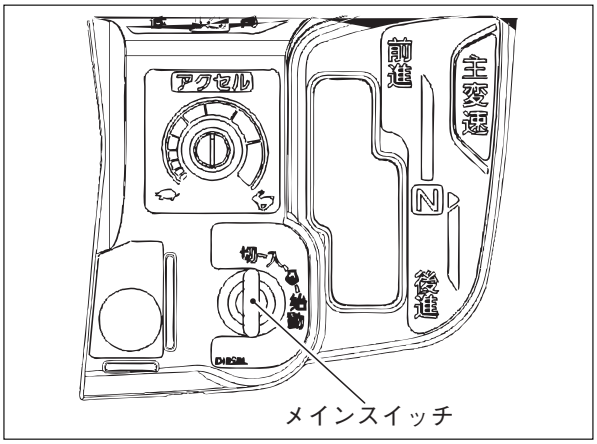
直進および旋回アシスト機能使用中、ＧＰＳの電波受信状態が悪化し直進および旋回アシスト機能が使用できなくなった場合、
「ピーッ」警報音が鳴り自動停車し直進および旋回アシストが「切」となります。

6.8.4 ほ場逸脱防止機能

直進アシスト機能使用中、あぜ等にのりあげ機体が前後左右に大きく傾くとエンジンが自動的に停止します。
メインスイッチを「切」に戻し、駐車ブレーキペダルを踏み込み、ロック状態にしてからメインスイッチを「始動」位置に回して再始動してください。

補 足

- **直進アシスト使用中以外は、機体が大きく傾いてもエンジンは停止しません。**



PJ10_00310

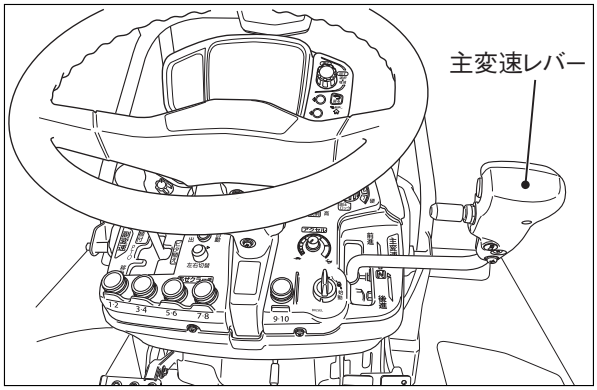
6.8.5 あぜ接近警報およびあぜ際停車制御機能

⚠ 警 告

あぜ際停車制御は条件により停車しない場合があります。
衝突や転倒の恐れがあるため、作業中は必ず着座して前方に注意しながら作業を行ってください。

(1) あぜ接近警報
直進アシスト機能使用中、あぜに接近すると「ピッピッピ・・・」と警報音が鳴ります。
警報音が鳴ったら直進アシストレバーを上げ直進アシスト機能を「切」 にしてから手動運転であぜ際まで植付作業を行ってください。
警報音がはたらいた状態で直進アシスト機能の使用を継続すると、警報音の間隔が狭くなり運転者に注意を促します。

(2) あぜ際停車制御機能
(1)のあぜ接近警報がはたらいた状態で直進アシスト機能の使用を継続すると、警報音の間隔が狭くなり、さらに継続するとあぜ際停車制御がはたらき停車し直進アシスト機能が「切」になります。停車した場合、主変速レバーを「N」の位置に戻すと作業を再開できます。



LRA_0035A

補 足

- **あぜ接近警報および自動停車機能は、前行程の作業距離を測定しあぜの位置を認識します。**
- **前行程より植付作業距離が短くなるようなほ場では、あぜ接近警報、あぜ際停車制御ははたらかない場合があります。**
- **前行程より作業距離が10m以上短くなるようなほ場では、作業距離の測定ができなくなり、次行程以降あぜ接近警報、あぜ際停車制御がはたらかなくなる場合があります。**
  その場合、直進アシストレバーを下に長押しし、基準線を削除してから植付部を上げ、下げすることで作業距離をリセットすることができます。
- **測定距離が８m以下の時あぜ接近警報、あぜ際停車制御ははたらきません。**
- **あぜ際停車制御はコントローラ設定変更（ ☞ 179ページ）項目No. 20で「切」にすることができます。その場合、あぜ接近警報のみがはたらきます。**

7. 点検整備

7.1 定期的な点検整備

⚠ 危険

作業中は火気厳禁です。
※　守らないと、火災の原因となります。

⚠ 警告

点検・整備をするときは、平たんな広い場所で行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検・整備をするときは、十分な明るさを確保してください。
※　暗い所で行っていると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検・整備するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキペダルを踏み込みロックをかけ、植付部を降ろすか油圧感度調節ダイヤルで「油圧ロック」位置にしてから行ってください。
※　守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

点検・整備するときは、マフラ等の過熱部分のゴミ・ホコリは完全に取り除いておいてください。
※　怠ると、作業中に発火して火災を引き起こすおそれがあります。

エンジンを切ってすぐに点検・整備をしないでください。
エンジン等の過熱部分が完全に冷えてから行ってください。
※　守らないと、やけど等の原因となります。

ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。
運転停止後しばらくたってよく冷えてから、注意しながら開けてください。
※　守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。

指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は、絶対にしないでください。
※　守らないと、事故の原因となります。

⚠ 注意

点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。
※　外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となります。

⚠ 注 意

点検・整備を行うときは、適正な工具を正しく使用して行ってください。
※ 守らないと、整備中の傷害事故や整備不良により傷害事故を引き起こすおそれがあります。

傷害や火災のおそれがある場合は、救急箱や消火器を準備してください。
※ 万一、傷害や火災が起きても大事に至ることを防ぎます。

機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
廃液、燃料、冷却水（不凍液）、溶剤フィルタ、バッテリ、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、お買いあげ先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。
※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、健康被害を引き起こすおそれがあります。

注 意

取扱説明書に従って定期点検を実施してください。
※ 田植機を長持ちされるとともに、正しく効率的な作業が行える第一歩です。

7.1.1 点検、給油、調整一覧表

○：点検　△：給油　▲：交換

点検･給油･調整項目一覧		点検時間				備　考	参照ページ
		作業前後	50時間ごとまたは3年	100時間ごとまたは3年	不調時		
エンジン部	エンジンオイル	○ 点検	▲交換 初回のみ20時間で交換			純正油又は、API･CF/SH/GL-4級以上 SAE10W-30　3.5L	154 〜 155
	オイルフィルタ	200時間ごとに交換					155
	エアクリーナエレメント洗浄			○ 点検			159
	ラジエータ冷却水	○ 点検				1年1回交換　約3.4L （リザーブタンク分含む）	156 157
	ラジエータコアの清掃				○ 点検	冷却水交換時	158

点検・給油・調整項目一覧		点検時間 作業前後	50時間ごとまたは3年	100時間ごとまたは3年	不調時	備考	参照ページ
走行部	チェンジミッション ギヤーボックス部(黒色キャップ)	分解時給油(お買いあげ先に依頼) ○ 点検	▲ 交換		○ 点検 初回のみ50時間で交換	純正油又は、API・GL-4級以上、SAE80W 9.5L	72
	チェンジミッション 油圧タンク部(黄色キャップ)	○ 点検	▲ 交換		○ 点検 初回のみ30時間で交換	純正油又は、API・GL-4級以上、SAE80W 約9L (シェルドナックスTD相当品)	72
	油圧オイルフィルタ			▲ 交換	○ 点検 初回のみ30時間で交換		160
	リヤミッションオイル	分解時給油(お買いあげ先に依頼)				純正油又は、API・GL-4級以上、SAE80W 左3.2L 右3L	161
	フロントアクスルグリース	分解時給油 (お買いあげ先に依頼)			○ 点検	ケース上部 ウレアグリスNo.2 各50g ケース下部 ウレアグリスNo.0 各250g	
	駐車ブレーキペダルの点検	○ 点検				毎シーズン始め	58
	注油指定箇所	△ 注油				注油	74 75
	バッテリの点検	○ 点検				毎シーズン始め	163 164
	ブレーキペダル	○ 点検				左右ブレーキが同時に効くよう点検	58
植付部	横送りケース	分解時給油(お買いあげ先に依頼)				純正油又は、API・GL-4級以上、SAE80W 0.4L	67
	サイドフレーム	分解時給油(お買いあげ先に依頼)				純正油又は、API・GL-4級以上、SAE80W 各0.5L	67
	ロータリケース	分解時給油(お買いあげ先に依頼)				リチウムグリス JIS1種0号 各80g	67
	植込杆	○ 点検				ウエコミカングリス各17.5g (ワンルーバー MP No.1相当品)	73
	植付爪の点検・交換 植込フォークの点検・交換	○ 点検			▲ 交換	摩耗、変形時 毎シーズン始め点検	167 168
	リードメタル	○ 点検				リチウムグリス JIS1種0号 180g	73
	注油指定箇所	△ 注油				注油	75 76
その他	電気配線の接続部(カプラ)のゆるみ、損傷、ヒューズ等の点検				○ 点検	毎シーズン終了後	165 〜 167
	各ケーブルの動作点検				○点検	毎シーズン始め	
	後輪車輪の点検				○点検	毎シーズン始め	169

点検項目		部　所	シーズン前	運転前	シーズン後（格納時）	整備内容	備　考	参照ページ
グリース塗布箇所		伝動軸		○		塗　布	リチウムグリス JIS1種0号	74
ロータ	各しゅう動部のガタ、ゆるみ	ロータ部 ロータ支持フレーム部	○	○		点　検	異常がある場合お買いあげ先へご連絡ください。	
	摩　耗	ロータ	○	○	○	点　検		
	注油箇所	各回動支点部	○	○	○	注　油		77
	給油箇所	ロータクラッチケース	分解時給油（お買いあげ先に依頼）			注　油	リチウムグリス JIS1種0号 100cc	65
		ロータ伝動ケース(右前)					リチウムグリス JIS1種0号 50cc	
		ロータ伝動ケース(右後)					リチウムグリス JIS1種0号 50cc	
		ロータ伝動ケース(左前)					リチウムグリス JIS1種0号 50cc	
		ロータ伝動ケース(左後)					リチウムグリス JIS1種0号 120cc	

7.1.2 エンジンオイルの交換

⚠ 危険

オイル交換は、エンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、火災の原因となります。

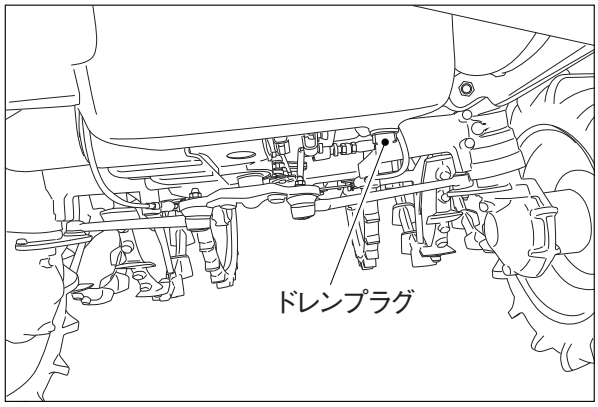
作業中は火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

⚠ 注意

オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却しないでください。
廃棄するときは、お買いあげ先にご相談ください。
※ 廃棄物をみだりに廃却、焼却すると環境汚染につながり、健康被害を引き起こすおそれがあります。

1 エンジン左下側にあるドレンプラグを外しオイルを容器に受けて抜いてください。

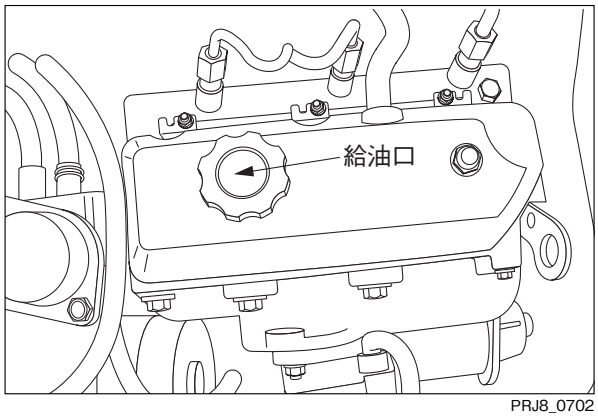
2 ドレンプラグを締め付けてください。



PJ10_1156

3 給油口からエンジンオイルを給油してください。

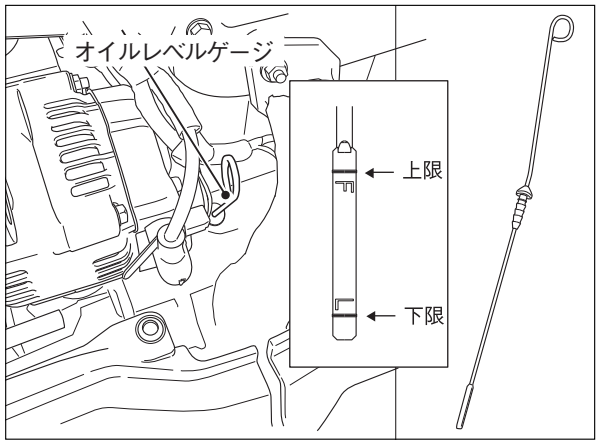
機種	搭載エンジン	オイル量
LRA10	E3112	3.5 L（エンジンオイルフィルタ交換時 3.7 L）



PRJ8_0702

4 オイルレベルゲージ（給油栓）の上下刻線の間に油量があるか確認してください。
（☞ 70ページ参照）

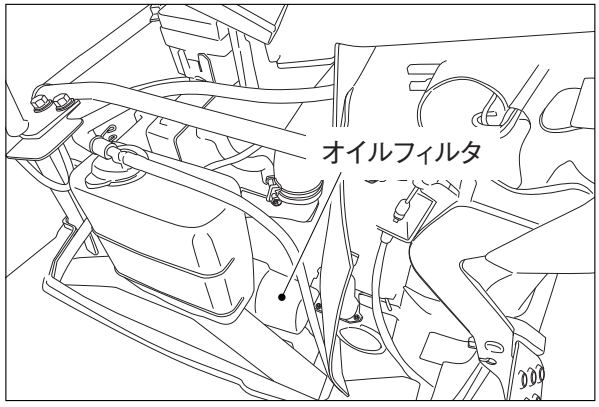
5 オイルレベルゲージ（給油栓）を閉めてください。



PJ10_00410

7.1.3 エンジンオイルフィルタの交換

1 エンジンオイルを排出してください。エンジンオイルの排出の仕方は、エンジンオイルの交換の要領で行ってください。
(☞ 154ページ参照)



PJ10_11572

2 エンジン後方にあるエンジンオイルフィルタを反時計方向にねじって外します。

3 新しいフィルタはゴムシール部にオイルを薄く塗布してから手で締め付けて交換してください。

交換用フィルタ	
部品コード	品　名
9911 0000 660	カートリッジ（オイルフィルタ）

補 足

- **交換後エンジンを回すと、エンジンオイルフィルタに入っていた量だけオイルが減ります。規定量までオイルを追加してください。**
- **オイル交換時は、表記したオイル量が入る容積の容器を準備してください。**

7.1.4 冷却水の点検

⚠ 警 告

エンジン運転中や停止直後に、リザーブタンクのキャップやラジエータキャップを開けないでください。
※ 熱湯が噴出する恐れがあります。十分に冷えてから行ってください。

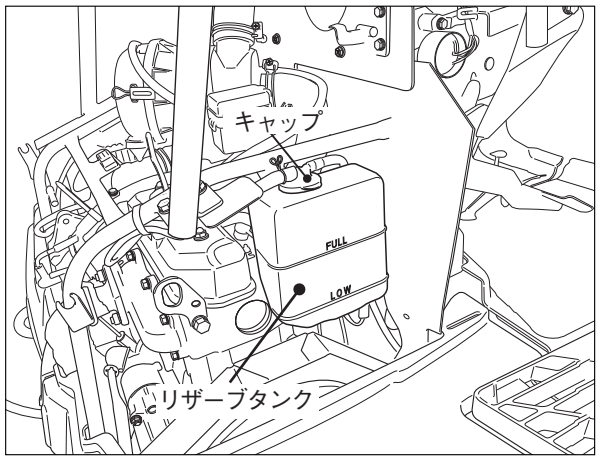
■リザーブタンクの点検

1 エンジン左側にあるリザーブタンクのキャップを外してください。

2 リザーブタンク内の冷却水量が規定範囲内（FULL⇔LOW）にあるかどうか点検し、少ない場合はFULLラインまで補給してください。

補 足

- **冷却水が緑色をしている場合は、不凍液が入っています。**
- **ボンネットを開けて行ってください。**



PJ10_00415B

3 点検後リザーブタンクのキャップを確実に閉めてください。

■ラジエータの点検

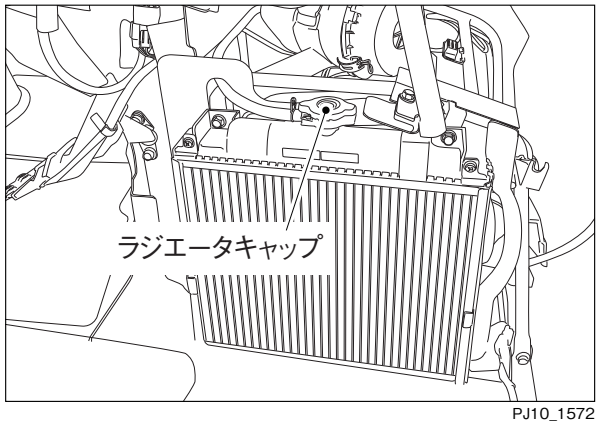
1 ラジエータキャップを外してください。

2 「口元」まで入っているかどうか点検し、少ない場合は補給してください。

補 足

- **冷却水が緑色をしている場合は、不凍液が入っています。**

不凍液
三菱農業機械純正：ロングライフクーラント



PJ10_1572

3 ラジエータキャップを閉めてください。

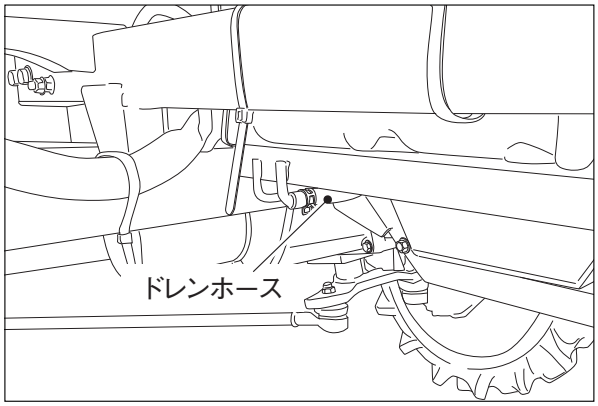
7.1.5 ラジエータ

■交換

1 ラジエータ下側のドレンホースをとめるクリップを緩め、ホースをピンから抜き冷却水を排出してください。

補 足

- **ラジエータキャップを同時に開けると、冷却水は勢いよく排出されます。**
- **冷却水交換時は、表記した冷却水量が入る容積の容器を準備してください。**

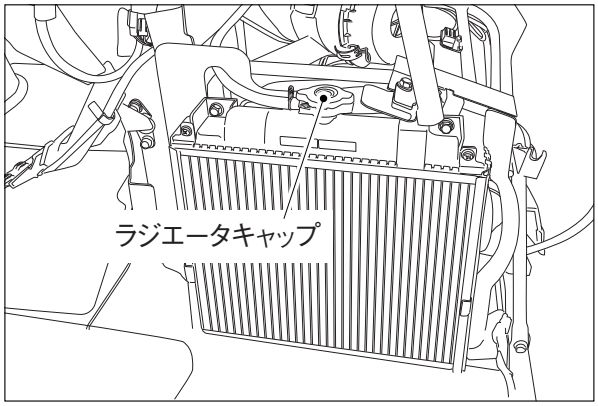


PJ10_0708

2 水道水でラジエータ内部をよく洗浄してください。

3 冷却水は不凍液濃度50%のものを用意してください。

型式	冷却水量	備考
LRA10	約3.4L	リザーブタンク分含む



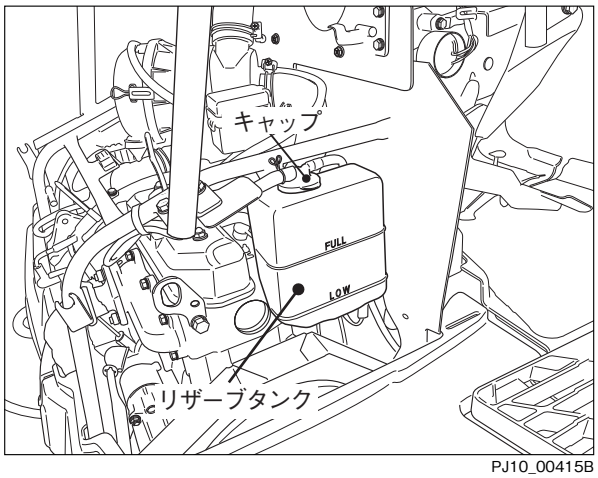
PJ10_1572

4 ドレンホースをピンに挿入し、クリップで固定してください。

5 冷却水を注入し、ラジエータキャップを確実に締めてください。

6 エンジンを始動してください。

7 約5分間ほどアイドリング回転で運転し、再度冷却水の量を確認し不足していれば補給してください。



PJ10_00415B

■不凍液の使い方

⚠ 注 意

不凍液は産業廃棄物にあたります。河川、土壌への廃棄は行わないでください。
廃棄するときは、お買いあげ先にご連絡ください。
※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、健康被害を引き起こすおそれがあります。

注 意

冬期、気温が0℃以下になるようなときは、不凍液を混入してください。
※ 冷却水が凍結すると、エンジンを破損することがあります。

(1) 不凍液を入れる前に、よくラジエータ内部を洗浄してください。
(2) 不凍液の混合は、不凍液メーカや気温により異なります。不凍液メーカの説明書に従ってください。
(3) 不凍液は水とよく混合し、注入してください。
(4) 不凍液の補給
  (a) 蒸発の場合
    冷却水が減った分だけ、水を補給してください。
  (b) ブリーザより漏れた場合
    同じ比率に混合した不凍液を補給してください。

■ラジエータコアの清掃

注 意

強い圧力水をかけないでください。
※ 守らないと、フィンが変形することがあります。

エンジンのまわりの電気配線・電装品には水をかけないでください。
※ 守らないと、故障の原因となります。

フィンの間にゴミが入った場合は、水道水で流してください。
夜間に走行をすると、ラジエータに虫が付着し詰まることがあります。清掃してください。

7.1.6 ラジエータホース

⚠ 警 告

ラジエータホースは使わなくても劣化します。シーズン前には、締付バンドのゆるみ、ホースの傷を必ず点検し、お買いあげ先で2年ごとに交換してください。

※ ラジエータホースが運転中に破損すると、熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

7.1.7 エアクリーナエレメントの洗浄

エアクリーナエレメントが汚れたままで使用していると、エンジンの出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し、エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行い、100時間ごとに清掃してください。

■清掃のしかた

1 ボンネット内にあるエアクリーナの止め金（2箇所）を外してください。

2 カバーを外し、エレメントを抜き取ります。

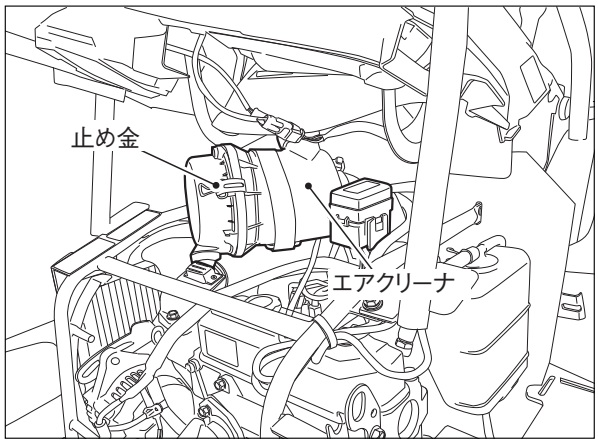
3 エレメントの清掃は、次の要領で行います。

(1) 乾いたホコリがついている場合は、エレメントを傷めないように注意しながら、エレメントの内側からエアで吹き飛ばしてください。

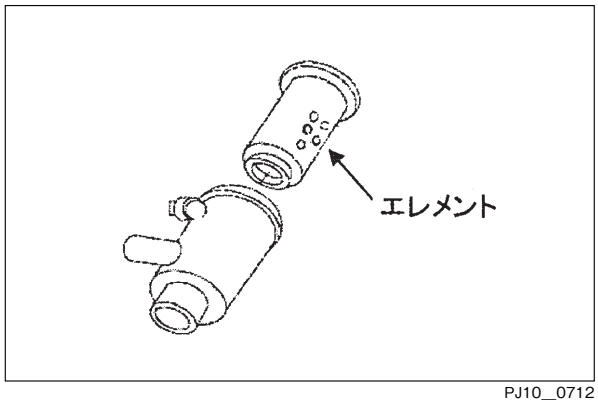
補 足

- **エアの圧力は、205kPa {2.1kgf/cm²} を超えないように注意してください。**
- **エレメントとノズルの間は適度にあけてください。**

(2) カーボンや油分で汚れている場合は、エレメントを交換してください。



PJ10_0711



PJ10__0712

4 エレメント清掃後、確実に組み付けてください。

5 カバーを取り付けます。

補 足

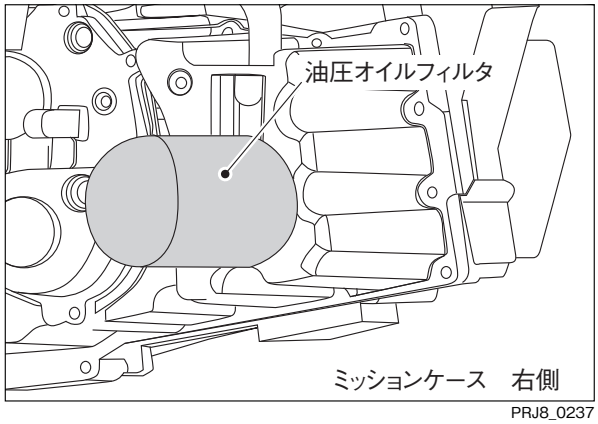
- **ホコリの多い場所では運転前に点検し、早めに清掃してください。**

7.1.8 油圧オイルフィルタの交換

1 植付部を降ろしてください。油圧タンク部のドレンプラグをはずし、油圧オイルを排出してください。(ドレンプラグの位置は ☞ 154ページ)

2 油圧オイルフィルタを反時計方向にねじって外します。

3 新しいフィルタはゴムシール部にオイルを薄く塗布してから手で締め付けてください。



PRJ8_0237

交換用フィルタ	
部品コード	品名
2694 6028 930	カートリッジASSY

補 足

- **交換後エンジンを回すと、オイルフィルタに入っていた量だけ油圧オイルが減ります。規定量まで油圧オイルを追加してください。**
- **オイル交換時は、表記したオイル量が入る容積の容器を準備してください。**
  (純正油又は、API・GL-4級以上、SAE80W)

7.1.9 リヤミッションオイルの交換

⚠ 危 険

オイル交換は、エンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、火災の原因となります。

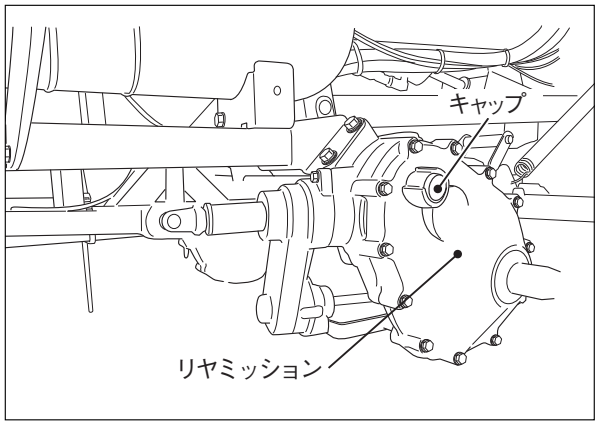
作業中は火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

⚠ 注 意

オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却しないでください。
廃棄するときは、お買いあげ先にご相談ください。
※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、健康被害を引き起こすおそれがあります。

(1) リヤミッション下部にあるドレンプラグを外してオイルを容器に受けて排出してください。
(2) ドレンプラグを締め付けてください。
(3) キャップを外してオイル（純正油又は、API・GL-4級以上、SAE80W）を給油口下面まで給油してください。
(4) 給油後はキャップを閉めてください。

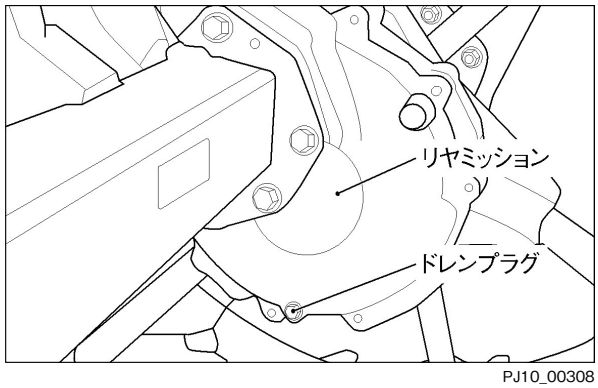
LRA10	左3.2L , 右3L



PJ10_00308B

補 足

● **オイル交換時は、表記したオイル量が入る容積の容器を準備してください。**



PJ10_00308

7.1.10 各種ベルトの点検と調整

⚠ 警 告

各種ベルトの張り具合の調整は、エンジン停止後、十分冷えてから点検を行ってください。
※ 守らないと、マフラー等に当りやけどをすることがあります。

注 意

テンションスプリングの規定を超えて調整しないでください。
※ 守らないと、ベルトの早期破損や機械の破損を引き起こすおそれがあります。

■点検

1 ベルトに亀裂やはがれがないか点検し、損傷があれば新品と交換します。ベルト交換時は下記「調整」を参考に調整してください。

2 右図を参考にベルトの張り量を確認してください。ベルトの張りがゆるいとオーバーヒートや充電不足の原因となります。

3 ベルトの張り量が規定の範囲に収まっていない場合、下記「調整」を参考に調整してください。

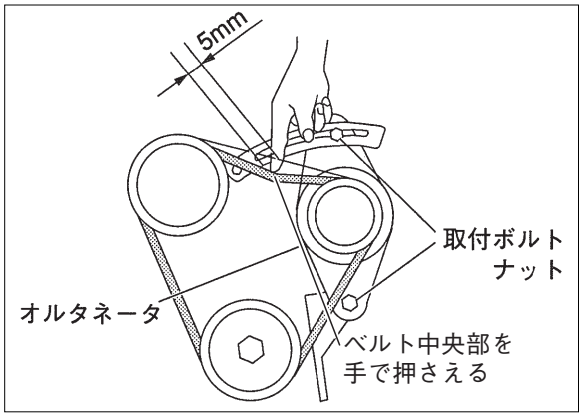
■調整

■ゼネレータベルト

1 オルタネータを取り付けているナットとボルトをゆるめます。

2 オルタネータを動かし、ベルトの中央部を手で押さえます。ベルトの張りが5mmたわむ程度に調整してください。

3 調整後はナットとボルトを確実に締め付けます。



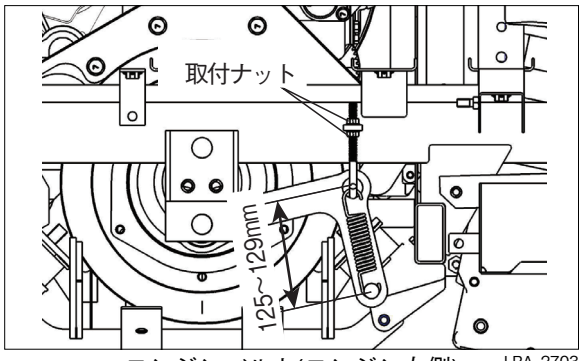
ゼネレータベルト(エンジン右側) PRJ8_1712

■エンジンベルト

1 テンションスプリングを取り付けているナットをゆるめます。

2 ナットを回し、テンションスプリングの長さを125～129mmに調整します。

3 調整後はナットを確実に締め付けます。



エンジンベルト(エンジン左側) LRA_2703

補 足

- **新品のベルトは組み付け直後、運転すると、必ず初期伸びが発生します。交換調整後約1時間運転した後、初期伸び調整を再度行ってください。**
  この調整を行わないと、オーバーヒートや充電不足の原因になります。

7.1.11 バッテリの点検と交換

⚠ 危 険

ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また充電や使用は、通風性のよいところで行ってください。
※ 守らないと、引火爆発の原因となります。

バッテリ液を身体や衣服に付けないようにしてください。
バッテリ液（電解液）は希硫酸で劇物です。
※ 失明や、やけどをするおそれがあります。もし目・皮膚・衣服についたときは直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

補充電をした場合はすぐにエンジンを始動させないでください。
※ 守らないと、引火爆発の原因となります。

バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。
※ 守らないと、静電気により引火爆発の原因となります。

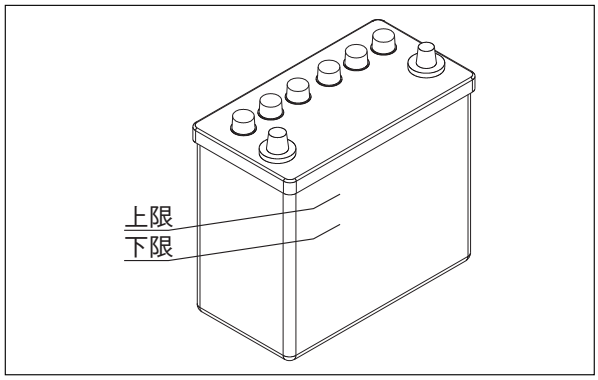
バッテリの充電は、バッテリを本機より、取り外してから補充電してください。
※ 守らないと、引火爆発の原因となります。

⚠ 注 意

バッテリを外すときは、必ず⊖コードから外してください。
※ 守らないと、火花がとび傷害事故のおそれがあります。

バッテリを取り付けるときは、⊕コード、⊖コードを確認して間違わないようにし、必ず⊕コードから取り付けてください。
※ 守らないと、火花がとび傷害事故のおそれがあります。

バッテリは、シーズン前に、点検してください。



PJ10_0241

補 足

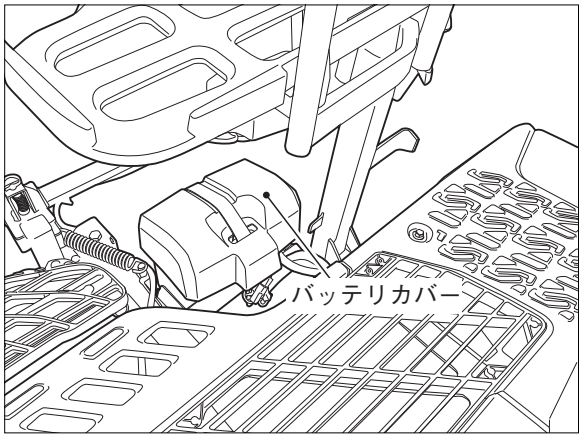
- **バッテリ液は使っているうちに蒸発して減少します。バッテリ前面の2本の線(レベル)の間に液面があるか確認してください。少ないときは上側の線(レベル)まで補給してください。**
- **液が減ったときは、精製水を補給します。**
- **上側の線（レベル）以上に補給すると、液が染み出して機体が腐食してしまう恐れがあります。**
- **補水キャップの排気口にゴミ等が付着している時は取り除いてください。また、排気口はふさがないようにしてください。内圧が上昇し、破損する恐れがあります。**

■取り外し、取り付け

1 バッテリカバーを押さえているゴムバンドを外し、バッテリカバーを取り外します。

2 バッテリコード（端子）を取り外し、バッテリ本体を取外します。このとき、必ず⊖のコードから先に外してください。

3 取り付けの際は、⊕コードから先に取り付けてください。



PJ10_0713

■点検と取り扱い

(1) 気温が低下すると、バッテリの性能も低下します。冬季は特にバッテリの管理に注意してください。

(2) バッテリは使用しなくても自己放電します。
長時間使用しない場合は、補充電を行ってください。
夏期…1ヶ月ごと　冬期…2ヶ月ごと

(3) 田植機を長期格納する場合は、バッテリを外し日光の当たらない乾燥した場所に保存してください。どうしても田植機に取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）を外します。

(4) 新品のバッテリと交換する場合は必ず指定した型式のバッテリを使用します。

各型式の使用バッテリ

	バッテリ型式
LRA10	55B24L

7.1.12 ヒューズの交換

⚠ 警 告

部品交換をするときは、必ずメインスイッチを「切」にして行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

■座席下カバー内

1 座席下カバーを開け、機体左側のシートカバーをはずしてください。ヒューズケースがあり、中にヒューズが入っています。

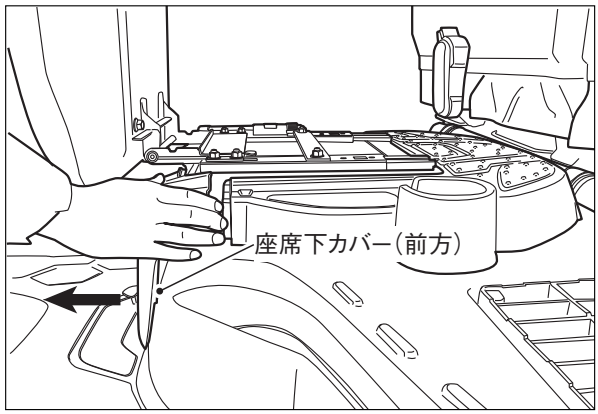
2 ヒューズが切れているかどうか確認し、切れている場合は切れたヒューズをはずします。（5A、10A、20A、25A）

3 同容量のヒューズと交換してください。

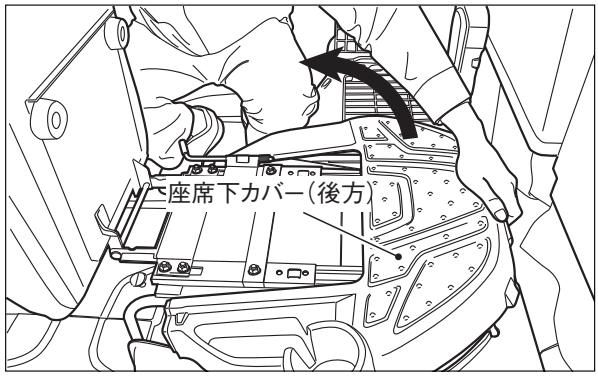
補 足

- **ヒューズを交換しても再びヒューズが切れる場合は、お買いあげ先へご相談ください。**

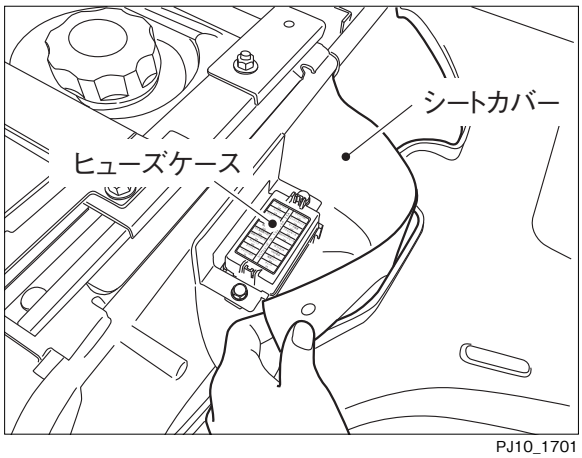
4 ヒューズケースを閉じ、シートカバー、座席下カバーを閉じてください。



PJ10_1045



PJ10_1046



PJ10_1701

メータパネル 10A	スペアヒューズ 5A 10A 20A 25A	マイコン /HST 10A
エンジン 5A		エンジンストップ 10A
ライト / ホーン 10A		モータ電源 10A
パネルコントローラ 10A		アクセルモータ 20A
電動 HST 20A		植付クラッチモータ 20A
セヒ量調整（F 型） 20A		電動ファン 10A
直進コントローラ 10A		DC12-DC24 20A
AS ユニット 10A		GNSS 電源 5A
オプション		電源リレー 10A
マイコン / 出力 5A		チェック 5A

■植付部

1 植付部にあるカバー(ボルト止め)を外してください。

2 植付部にあるヒューズケースを開いてください。
中にヒューズが入っています。

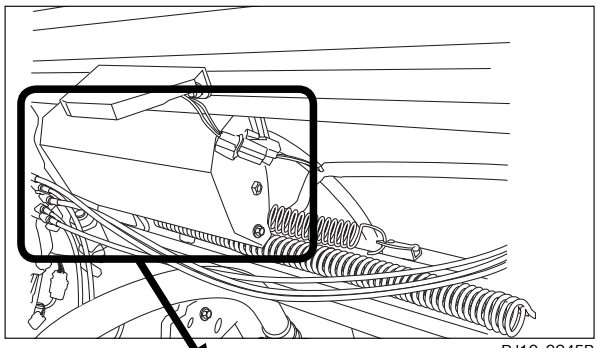
3 ヒューズが切れているかどうか確認し、切れている場合は切れたヒューズをはずします。
（10A、20A）

4 同容量のヒューズと交換してください。

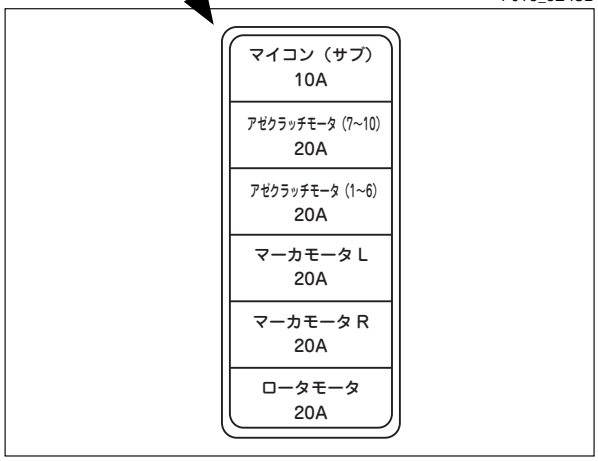
補 足

- **ヒューズを交換しても再びヒューズが切れる場合は、お買いあげ先へご相談ください。**

5 ヒューズケースとカバーを元に戻してください。



PJ10_0245B



PJ10-0716

7.1.13 スローブローヒューズの交換

⚠ 警 告

部品交換をするときは、必ずメインスイッチを「切」にして行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

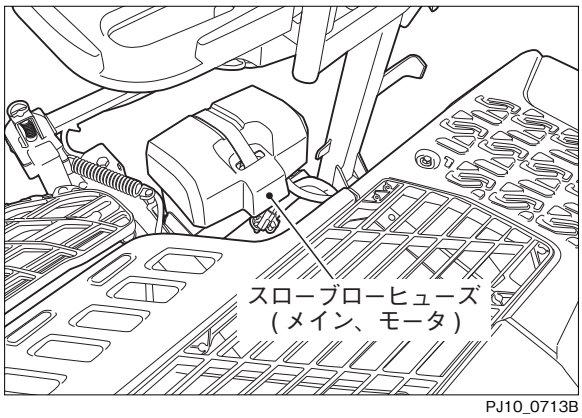
補 足

- **スローブローヒューズが焼損した場合は、お買いあげ先へご相談ください。**

■バッテリ付近

1 バッテリ⊕端子部にスローブローヒューズがあります。スローブローヒューズに焼損が無いか確認してください。焼損がある場合はお買いあげ先へご相談ください。

部品コード	品名	容量
9909 0000 360	ヒューズ（スローブロー）	40A
2694 6010 320	ヒューズ（スローブロー）	60A



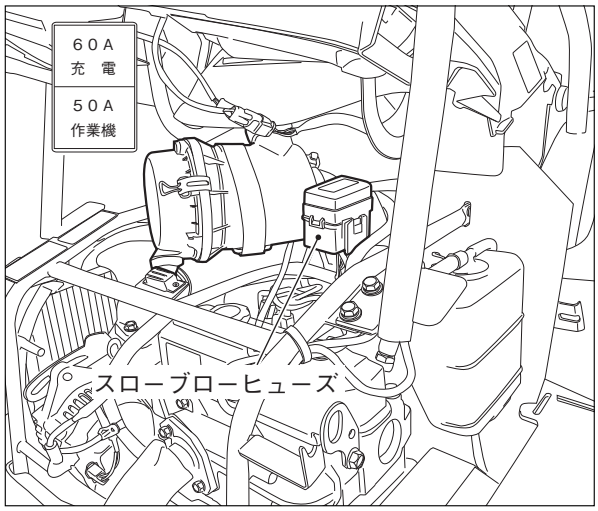
PJ10_0713B

■ボンネット内

1 ボンネットを開けてください。

2 エンジン上部にスローブローヒューズがあります。
スローブローヒューズに焼損が無いか確認してください。焼損がある場合はお買いあげ先へご相談ください。

部品コード	品名	容量
2694 6029 130	ヒューズ（スローブロー）	60A
2694 6028 940	ヒューズ（スローブロー）	50A

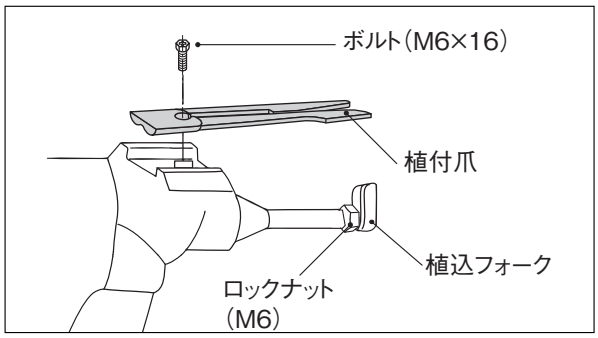


PJ10_0717A

3 ボンネットを閉めてください。

7.1.14 植付爪の点検・交換

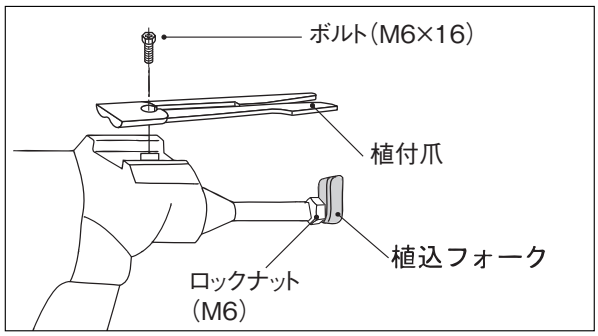
植付爪の先端が摩耗または変形すると植付不良となり、摩耗限度は3mmを目安としておりますので、確認してください。
植付爪の全長寸法が110mm以上あれば摩耗限度内です。標準付属品の苗取口ゲージを使って苗取量の調節（☞ 115ページ）を行ってください。
但し、全長寸法が110mm未満の場合は摩耗限度に達していますので、植付爪を新品に交換してください。



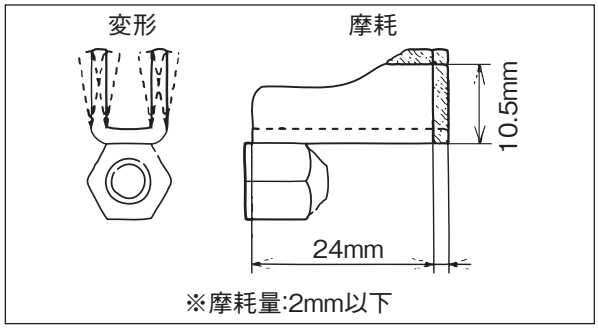
PRJ8_0246

7.1.15 植込フォークの点検・交換

植込フォークが摩耗または変形すると植付姿勢が悪くなります。
植込フォークの摩耗状態が2mm以上（残りが、高さ方向10.5mm、長さ方向24mm）摩耗しているときは、交換してください。
植込フォークが変形、摩耗しているときは、お買いあげ先へご相談ください。



PRJ8_0248



PRJ8_0249

7.1.16 前輪広幅ワイドタイヤの点検・調整（4型）

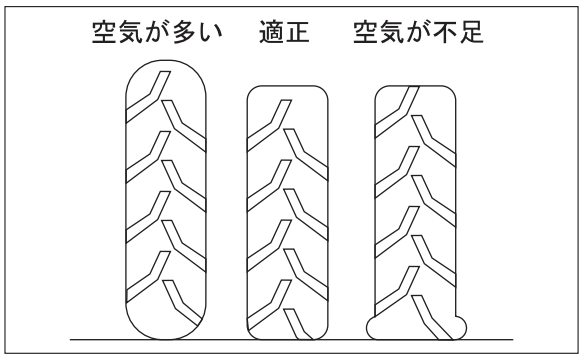
⚠ 警 告

タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。
※ タイヤ破裂のおそれがあります。

タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載されている規定圧を必ず守ってください。
※ 空気の入れ過ぎは、タイヤの破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。

タイヤ・チューブ・リム等の交換・修理は、必ず「お買いあげ先」にご相談ください。
※ 法律で特別教育を受けた人が行うように定められています。

前輪広幅ワイドタイヤの空気圧が適正であるかを調べます。
外観上の目安は右図のとおりです。



PRJ80719

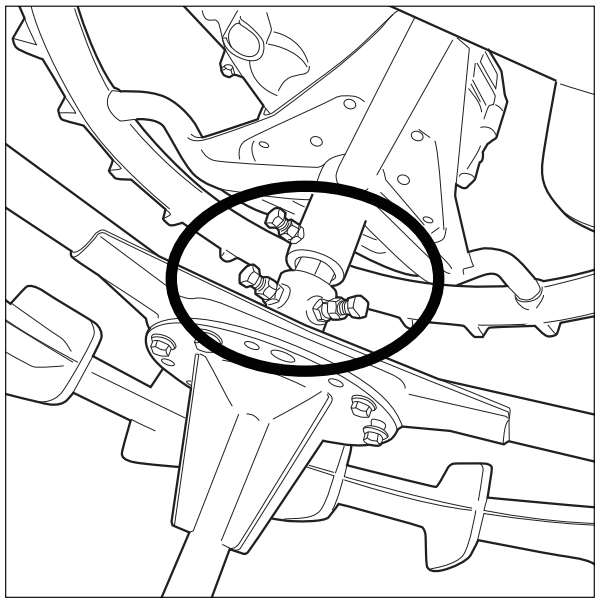
タイヤサイズ	空気圧	
	kPa	kgf/cm^2
4.00-16	314	3.2

補 足

- **タイヤに表記されている空気圧にはしないでください。**
- **タイヤチューブの容量が小さいので、作業前後に空気圧を点検してください。**
- **空気が不足するとパンクの原因になります。**

7.1.17 後輪車輪の点検

後輪車輪にガタつきがある場合、
ナットを一度緩めたのち、ボルトを締め上げて、ガタを抑えたのち、ナットでロックしてください。



PJ10_0720

8. 格納時の手入れ

8.1 日常の格納

⚠ 危険

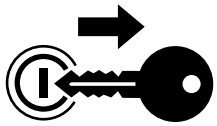
作業が終了して、シートカバー等を田植機にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。

⚠ 警告

格納するときには、メインスイッチのキーを必ず抜いてください。

※ 守らないと、いたずら等で重大な事故になることがあります。



田植機の格納場所は、十分な明るさを確保してください。

※ 点検や移動等のとき、暗い所で行っていると思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

洗車するときは、メータパネル、電装品、給油口、警告ラベル貼付箇所には圧力水をかけないでください。

※ 圧力水をかけると、下記のように機械の故障や傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. ハーネス被覆の損傷・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホース・配管類の破損により、高圧の油が噴出して傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注意

洗車するときは、メータパネル、電装品、給油口、警告ラベル貼付箇所には圧力水をかけないでください。

機械の破損・損傷・故障の原因になります。

例）（1）シール・警告ラベルのはがれ

（2）電気部品、エンジン・トランスミッション内への水侵入による故障

（3）タイヤ、オイルシール等のゴム類、樹脂類の破損

（4）塗装、メッキ面の皮膜のはがれ

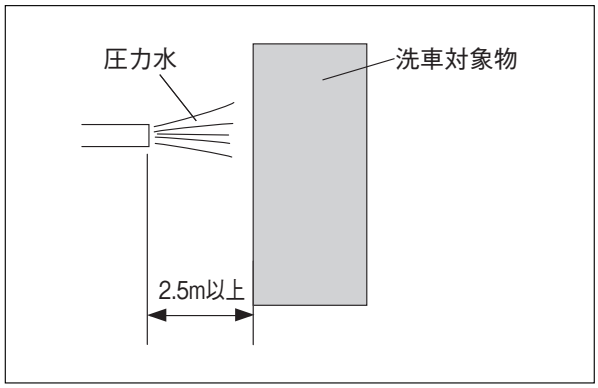
1 水洗いし、回転部等に巻き付いたゴミ等をきれいに取り除いてください。

2 水洗後、水滴を十分ふき取ってください。

3 回転部、しゅう動部にたっぷり油を差し、錆びやすい所にはグリースを塗ってください。

補 足

- **圧力水で洗車するときは、洗車対象物から2.5m以上はなれて行ってください。**
- **圧力水で洗車するときは、メータパネル、ステアリングホイール（ハンドル）周り、操作スイッチ周り、バッテリ、エンジン周りのハーネス・電気部品には圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因となり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。**



PJ10_0250

8.2 長期格納

⚠ 危険

作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、加熱部分が完全に冷えてから行ってください。
※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。

燃料抜取時は火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

⚠ 警告

田植機の格納場所は、十分な明るさを確保してください。
※ 点検や移動等のとき、暗い所で行っていると思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

燃料を放置しないでください。
※ 放置すると燃料が変質するばかりでなく、引火など火災の原因となるおそれがあり、大変危険です。

1 水洗いし、回転部等に巻き付いたゴミ等をきれいに取り除いてください。

2 水洗後、水滴を十分ふき取ってください。

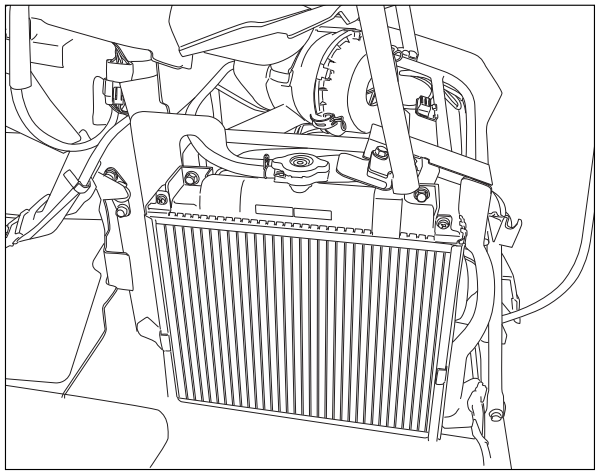
3 回転部、しゅう動部にたっぷり油を差し、錆びやすい所にはグリースを塗ってください。

4 植付部は降ろしてください。

5 駐車ブレーキペダルは踏み込みロックしてください。

6 燃料を満タンにして水の発生を防いでください。

7 ラジエータの冷却水を抜いてください。
排水後「水なし」と書いた札をステアリング(ハンドル）にかかげてください。
(☞ 157ページ参照)


PJ10_00415

8 バッテリは取り外し、補充電を行い日光の当らない乾燥した場所に保管してください。
どうしても田植機に取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）を外してください。
(☞ 164ページ参照)

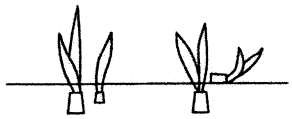
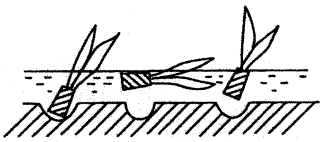
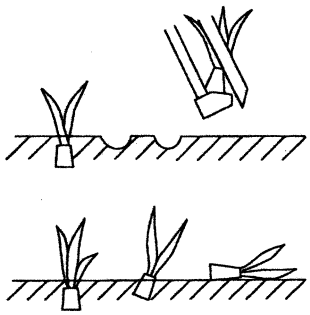
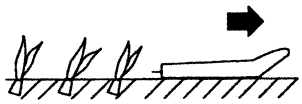
補 足

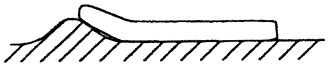
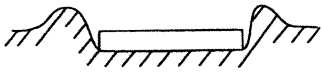
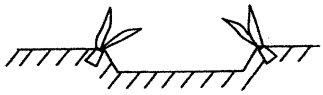
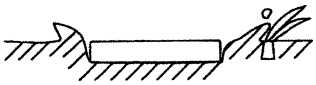
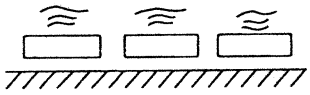
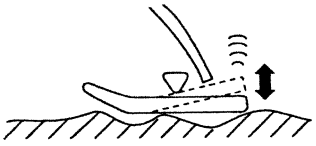
- **夏期には1ケ月、冬期には2ケ月以内に補充電をするとバッテリが長く使用できます。**

9 格納場所は直射日光の当らない風通しの良い場所を選定し、シートを掛けてください。

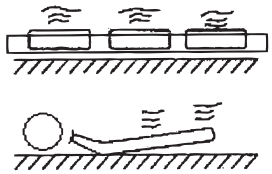
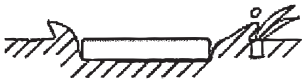
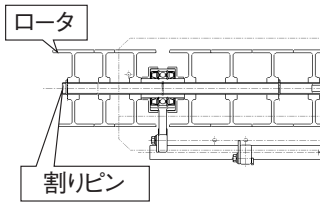
9. 不調時の処置

9.1 不調と処置

不調の内容	原　因	処置方法
苗がバラけて植わる。 	● 苗の根張りが悪い。	● 苗に水をかける。 ● 抵抗棒のセット位置を変える。
	● 苗の床上が砂質で苗床に粘りがない。	● 植付速度を遅くする。 ● 苗に水をかける。
苗が一本、二本だけ離れ植付が乱れる。 	● 苗の床土が乾いている。	● 苗に水をかける。
	● 植付速度が速すぎる。	● 植付速度を遅くする。
	● 抵抗棒のセット位置が悪い。	● 抵抗棒のセット位置を変える。
爪であけた穴がふさがらず、水を入れると浮き苗となる。 	● ほ場が硬い。 ● 砂質系のほ場。	● 水を1～2cm入れ、ほ場の表土を軟らかくして植える。 ● 代かき直後に植える。
苗が植付爪より離れず欠株または苗がころぶ。 	● 苗床が粘土質で粘りが強い。 ● 粘土質のほ場で水が少ない。 ● 抵抗棒のセット位置が悪い。（抵抗のかけすぎ） ● 植込フォークの押し出しが遅い。	● 苗床に十分水が含むよう、水をかける。 ● ほ場に1～2cm程水を入れる。 ● 抵抗棒のセット位置を変える。（☞ 117ページ） ● 植込杆の中にグリースがあるか確認する。（☞ 73ページ）
前進方向に傾き植わる。 	● 抵抗棒のセット位置が悪い。（抵抗のかけすぎ）	● 抵抗棒のセット位置を変える。
前進方向と反対側に傾き植わる。 	● 抵抗棒のセット位置が悪い。（抵抗が弱い）	● 抵抗棒のセット位置を変える。

不調の内容	原　　因	処置方法
フロートで泥を押す。 	● 油圧感度調節がほ場の硬さに合っていない。	● 油圧感度調節ダイヤルを「軟」方向に泥を押さなくなるまで調節する。
フロートが沈み跡が深く付く、または苗が内側に倒れ込む。  	● 植付速度が速すぎる。 ● ほ場の表土がトロトロで軟らかい。	● 植付速度を遅くする。 ● 水を落し表土を硬くする。または硬くなるまで植付を延期する。
サイドフロートで泥を押し隣接苗を倒す。 	● ほ場の表土が軟らかい。	● 油圧感度調節ダイヤルを「軟」方向に泥を押さなくなるまで調節する。
フロートが浮き上がる。  	● 油圧感度調節がほ場の硬さにあっていない。 ● 油圧感度調節ダイヤルが「油圧ロック」位置になっている。	● 油圧感度調節ダイヤルを「硬」方向にフロートが浮き上がらなくなるように調節する。 ● 油圧感度調節ダイヤルを植付できる適正な位置に調節する。
植付部全体がバタバタする。 	● 油圧感度調節が「軟」側によりすぎている。 ● エンジン回転数が高すぎる。 ● ほ場の耕盤が凸凹している。 ● 土のかたまりの上にセンタフロートが乗っている。	● 油圧感度調節ダイヤルを「硬」方向にバタつきがなくなるように調節する。 ● 植付速度を遅くする。 ● 植付速度を遅くする。 ● 土のかたまりを取り除く。
サイドフロートの片方だけが浮き上がる。 	● 植付部の左右のバランスがとれていない。	● モニタパネルを操作し、ローリング制御調整で調整する。（☞45ページ）

9.2 ロータ仕様機の不調と処置

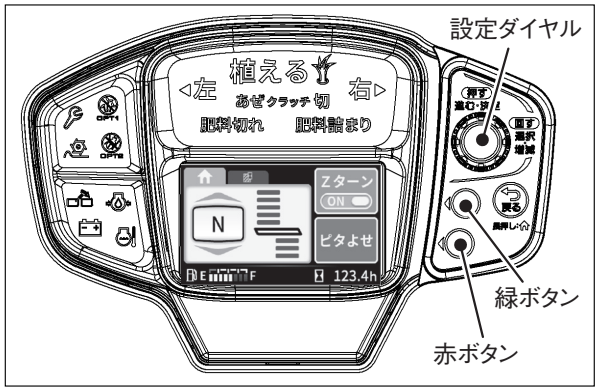
不調の内容	原　　因	処置方法
ロータで泥を押す。 	1）ロータ高さがほ場の硬さにあっていない。 2）油圧感度調節がほ場の硬さに合っていない。	1）ロータ高さ調整ダイヤルを「高」側に調節する。 2）油圧感度調節ダイヤルを「軟」方向に泥を押さなくなるまで調節する。
凸凹跡が消えない 	1）ロータ高さがほ場の硬さにあっていない。 2）油圧感度調節がほ場の硬さに合っていない。	1）ロータ高さ調整ダイヤルを「低」側に調節する。 2）油圧感度調節ダイヤルを「硬」方向にフロートが浮き上がらなくなるまで調節する。
隣接条へ泥を押し、苗を倒す。 	1）ほ場の表土が柔らかすぎる。	1）割りピンを外し両端のロータを外す。  割りピンを内側の穴に差し替える。
ロータが回らない。	1）植付部のフロート底面高さが40cm以上になっている。 2）田植機が止まっている。	1）植付部を下降させる。 2）田植機を前進させる。
ロータが止まらない。	1）植付部が上がっていない。	1）植付部を上昇させる。（45cm以上）

9.3 コントローラによる設定変更と異常表示について

⚠ 警 告

設定変更や点検をおこなうときは、エンジンを必ず止めてください。
※ 守らないと、衝突・転落事故を引き起こすおそれがあります。

モニタパネルの操作により田植機コントローラ設定の確認、変更ができます。



モニタパネル (ホーム画面)

LRA80901

■設定変更

(1) 設定ダイヤルを操作して、ホーム画面→メニュー画面→モニタ設定画面と移動してください。

(2) モニタパネルの赤ボタンと緑ボタンを3秒以上同時押してください。チェックモードメイン画面へ移動します。

(3) コントローラ設定の項目を選び、設定ダイヤルを押してください。

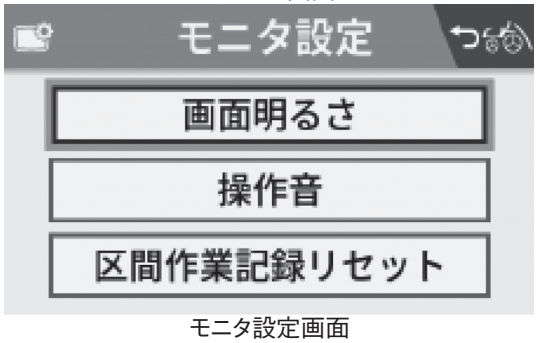
(4) 変更したい設定の項目にカーソルを合わせ、設定ダイヤルを押すと、設定値を変更することができます。設定ダイヤルを回すことで設定値の増減を行い、目的の値で設定ダイヤルを押して変更内容を確定します。

補 足

- **外付補助車輪を装着した際は必ず次項の3～4の設定変更をおこなってください。**
- **内付補助車輪を装着した際は必ず次項の19の設定変更をおこなってください。**
- **チェックモードメイン画面でモニタパネルの戻るボタンを押すと、モニタ設定の画面へ戻ります。**
- **「センサ設定」、「昇降調整」の項目は販売店向けの内容です。変更しないでください。**



メニュー画面



モニタ設定画面



チェックモードメイン画面

PRJ8_0992

項目No.	設定の種類	内　　容	初期値	調整範囲
1	植付ローリング傾き	水平基準値を変更できます。 (+):右下がり	0	-99～99
2	植付ローリング入切	ローリングの「入」「切」を選択できます。 「0」:切、「1」:入	1	0,1
3	外付補助車輪設定	外付補助車輪装着時に選択してください。 「0」:無し、「1」:有り	0	0,1
4	外付補助車輪設定(直進)	「0」:外付補助車輪無し 「1」:外付補助車輪有り	0	0,1
6	バックアップ入切	バックアップの「入」「切」を選択できます。 「0」:切、「1」:入	1	0,1
7	植込杆位置修正	植込杆位置修正の「入」「切」を選択できます。 「0」:切、「1」:入	機種による	0,1
8	植え始め位置基準	植え始めタイミングを変更できます。 (+):早く(植込位置1cmずつ)	0	-99～99
9	旋回時植付部上昇ポイント	植付部の上昇タイミングを変更できます。 (+):遅く(ハンドル角度1. 2°ずつ)	0	-99～99
10	センサフロート感度不感帯	油圧感度を敏感、鈍感に変更できます。 (+):鈍感	10	0～255
11	車速による感度補正幅	感度補正幅の変更ができます。 (+):鈍感	0	0～255
12	Zターン植付部下降ポイント	植付部の下降タイミングの変更ができます。 (+):遅く(5～10を目安に変更してください)	機種による	1～999
13	植込杆位置修正タイミング	植込杆位置修正のタイミングを変更できます。 (+):遅く	200	0～999
14	施肥あぜクラッチ有無	LRA10では「0」で使用してください。 「0」:無し、「1」:有り	0	0.1
15	電動ロータ有無	LRA10では「1」で使用してください。 「0」:無し、「1」:有り	1	0,1
16	ポンピング入切	ポンピングの「入」「切」を選択できます。 「0」:切、「1」:入	1	0,1
17	角速度制御入切	角速度センサによる制御の「入」「切」を選択できます。「0」:切、「1」:入	1	0,1
18	らくまきちゃん警報入切	らくまきちゃん警報ブザーの「入」「切」を選択できます。「0」:切、「1」:入	0	0,1

項目No.	設定の種類	内　　容	初期値	調整範囲
19	内付補助車輪設定	内付補助車輪装着時に選択してください。 「0」:無し、「1」:有り	0	0.1
20	あぜ際停車制御入切	あぜ際停車制御の「入」「切」を選択できます。 「0」:切、「1」:入 ※「切」の時はモニタパネルに警告画面が表示されます。	1	0.1
21	基準線自動消去入切	基準線自動消去の「入」「切」を選択できます。 「0」:切、「1」:入	1	0.1
22	OPT1画面の表示	オプション1電源入切画面の表示を選択できます。 「0」:表示しない、「1」:表示する(☞ 48ページ)	0	0.1
23	OPT2画面の表示	オプション2電源入切画面の表示を選択できます。 「0」:表示しない、「1」:表示する(☞ 49ページ)	0	0.1
24	ピタまき入切	Zターン後、植え始めより先に施肥を行う機能の「入」「切」を選択できます。 「0」:切、「1」:入	1	0,1
25	あぜクラッチ自動復帰	植付部上昇時にあぜクラッチを標準位置に戻す機能の「入」「切」を選択できます。 「0」:切、「1」:入	1	0,1
26	サンバイザ有無	LRA10では「0」で使用してください。 「0」:無し、「1」:有り	0	0,1
27	センタマスコット設定	LRA10では「0」で使用してください。 「0」:LEDタイプ、「1」:2灯式タイプ	0	0,1

■エラーコード

(1) モニタパネルの液晶部に、右図のように割込み画面が表示された場合は表示されている文字を販売店にご連絡ください。

補 足

- **液晶部には、下表のようにエラーコードと、そのコードに対応するセンサ名称が表示されます。**



エラーコード			
コード	内　　容	コード	内　　容
E 101	DXシフトグリップ異常	E 301	植付部ローリング 水平センサ異常
E 201	ステアリングセンサ異常	E 302	植付部ローリング 回転センサ異常
E 202	回転センサ右異常	E 303	角速度センサ異常
E 203	回転センサ左異常	E 502	フロートセンサ異常
E 205	HSTレバー位置センサ異常	E 601	リンク高さセンサ異常
E 206	トラニオンアームセンサ異常	E 701	スロットルセンサ異常
E 207	HST中立センサ異常	E 801	植付クラッチセンサ異常
E 208	株数位置センサ異常	E 804	左あぜクラッチセンサ異常
E 211	直進アシストレバー異常	E 805	右あぜクラッチセンサ異常
E 222	GPSアンテナ異常	E 901	ロータ高さポテンショ異常
E 223	直進アシスト用モータドライバ異常		
E 224	直進アシスト用モータ異常		
E 225	GPSインターフェース通信異常		

10. 付表

10.1 推奨潤滑油一覧表

区分		メーカ名	商品名
エンジンオイル		三菱農農業機械 純正品	スーパーマルチGDオイル (SL/CF/10W-30)
ギヤーオイル	チェンジミッションオイル (ギヤーボックス部)	三菱農業機械 純正品	スーパーマルチGBオイル (GL-4/80W) スーパー LVTオイル (GL-4/75W-75)
	リヤミッションオイル		
	横送りケース		
	サイドフレーム		
主変速オイル	チェンジミッションオイル (油圧タンク部) (油圧無段変速機オイル)	三菱農業機械 純正品	スーパー LVTオイル (GL-4/75W-75) 〔スーパーマルチSTOU2 (CF･CF-4/SF/GL-4/10W-30)〕
グリース	一般グリース		リチウムグリスJIS1種0号
	フロントアクスル		ウレアグリスNo.2 ウレアグリスNo.0
	ロータリケース		リチウムグリスJIS1種0号
	植込杆		ウエコミカングリス
	リードメタル		リチウムグリスJIS1種0号
燃料		有名メーカ品	ディーゼル軽油
不凍液		三菱農業機械 純正品	ロングライフクーラント

10.2 主要諸元

販売型式名			LRA10D			
型式名			ヰセキ　P1060Z			
仕様区分			HB4	PHB4	WHB4	WPHB4
機体寸法	全長 (mm)		3700			
	全幅 (mm)		4240			
	全高 (mm)		2300			
	最低地上高 (mm)		465			
重量 (kg)			1160	1240	1180	1260
エンジン	型式名		E3112			
	種類		水冷4サイクル3気筒立型ディーゼル			
	総排気量 (L)		1.123			
	出力/回転速度(kW {PS} /rpm)		18.0{24.5}/3000			
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量 (L)		33			
	始動方式		セルモータ式			
走行部	かじ取り方式		アッカーマン式			
	車輪 種類個数	前輪	広幅ワイドタイヤ×2			
		後輪	湿田用太リムラグ車輪×2			
	車輪 外径 (mm)	前輪	650			
		後輪	950			
	輪距 (mm)	前輪	1250		1320	
		後輪	1220		1340	
	軸距 (mm)		1330			
	変速段数 (段)		前進2、後進2			
植付部	植付部の位置		後部			
	植付部の昇降方式		油圧式			
	植付部の装着方式		4点リンク			
	植付方式		ロータリ			
	植付条数 (条)		10			
	植付条間 (cm)		30		33	
	植付株数 (株/3.3㎡)		80,70,60,50,42,37		75,65,55,45,40,35	
	植付深さ (cm)		2.0～6.0(9段)			
	一株本数調節方法		横送り10.0、11.7、14.0mm、縦かき取り8～18mm/株			
植付速度 (m/秒)			0 ～ 1.6（疎植植付規制1.4）			
作業能率 (分/10a)			6～			
苗条件	苗の種類		マット苗			
	草丈 (cm)		10～25			
	葉令 (葉)		マット苗2～4			
予備苗搭載枚数 (箱)			14			

○　仕様は改良のため変更する場合があります

10.3 ロータ仕様

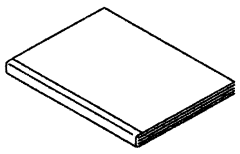
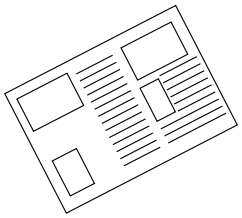
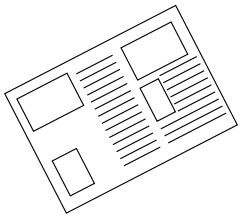
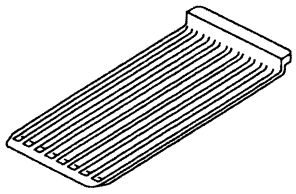
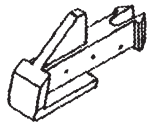
型式	全型式
装着田植機型式	10条
ロータ径（mm）	φ140
ロータ幅（mm）	3100(W型3200)
ロータ高さ調整	9段+収納

○仕様は改良のため変更することがあります。

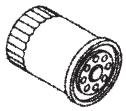
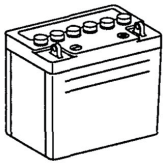
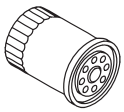
10.4 機能装備一覧表

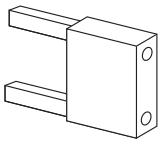
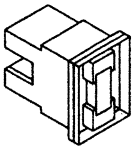
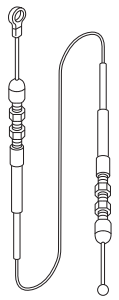
		LRA10D			
		HB4	PHB4	WHB4	WPHB4
エンジン	ディーゼル E3112(最大24.5PS)	○	○	○	○
変速	HST	○	○	○	○
パワーステアリング		○	○	○	○
前輪(mm)	ワイドタイヤ(幅142)	○	○	○	○
後輪(mm)	湿田用太リム(φ950) 12枚ラグ	○	○	○	○
補助車輪	内付補助車輪	○	○	○	○
	外付補助車輪	○	○	○	○
パネルモニタ	燃料計	○	○	○	○
マイコン	DXシフト	○	○	○	○
	ローリング	○	○	○	○
	バックリフト	○	○	○	○
	自己診断	○	○	○	○
ミラクルZターン		○	○	○	○
アクセル制御調節ダイヤル		○	○	○	○
ハイモニタパネル&液晶モニタ		○	○	○	○
DXロータ		○	○	○	○
ピタよせ		○	○	○	○
ピタ植え		○	○	○	○
シートスライド		○	○	○	○
電動あぜクラッチ		○	○	○	○
あぜクラッチ自動復帰		○	○	○	○
植付部エアダンパ		○	○	○	○
フロント電動マーカ		○	○	○	○
補助苗搭載枚数(箱)		14	14	14	14
苗取板枚数		1	1	1	1
条間(cm)		30		33	
ホイルベース(mm)		1330			
直進&旋回アシスト機能		○	○	○	○
ペースト施肥機			○		○

10.5 標準付属品一覧表

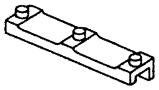
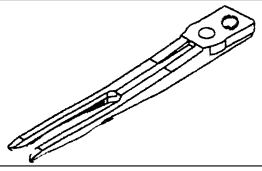
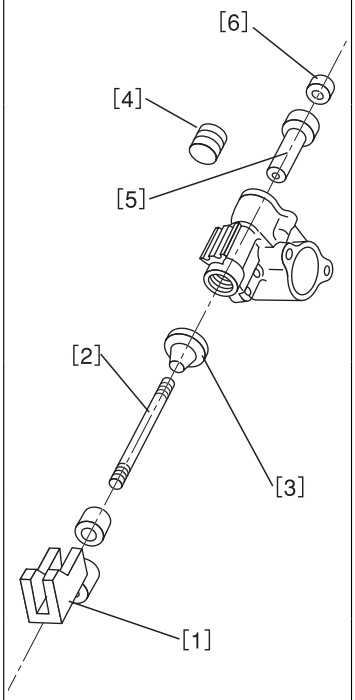
形　　状	型　式	品　　名	部品コード	個数
	全型式	マニュアル （オペレーション）	9573 0000 010	1
	全型式	マニュアル （モニタパネル）		HP掲載
	全型式	マニュアル （オペレスタターン）		HP掲載
	全型式	ナエトリイタ	9020 7153 910	1
	全型式	ナエトリクチゲージ	2694 6000 200	1
	全型式	フォークピース （PZ）	2694 6029 010	条数 ×2

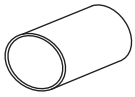
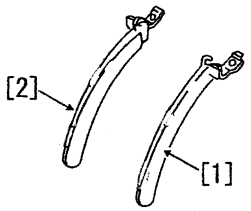
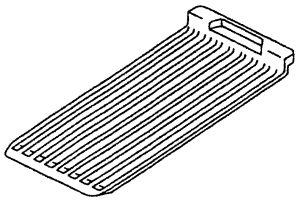
10.6 主な消耗部品一覧表

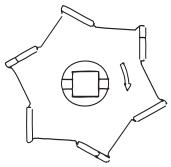
形　　状	型　式	品　　名	部品コード	備　考
〈エンジンオイル用〉 	全型式	カートリッジ （オイルフィルタ）	9911 0000 660	200時間ごとに交換
	全型式	エレメント	9911 0000 750	
	全型式	バッテリ （55B24L）	3684 0001 180	
	エンジンベルト	全型式	ベルト（VC069）	9573 0000 100	亀裂･摩耗時交換
	ゼネレータベルト	全型式	ベルト （VNR5A36）	2694 6044 650	
＜油圧オイル用＞ 	全型式	カートリッジ ASSY	2694 6028 930	初期30時間以降 100時間ごとに交換

形　　状	型　式	品　　名	部品コード	備　考
	全型式	ヒューズ （ブレード/32V05A）	9911 0000 810	ヒューズ切れ時交換
		ヒューズ （ブレード/32V10A）	9911 0000 830	
		ヒューズ （ブレード/32V20A）	9911 0019 040	
		ヒューズ （ブレード/32V25A）	9573 0000 110	
	全型式	ヒューズ （スローブロー）（40A）	9909 0000 360	
		ヒューズ （スローブロー）（50A）	2694 6028 940	
		ヒューズ （スローブロー）（60A） ※ボンネット内	2694 6029 130	
		ヒューズ （スローブロー）（60A） ※バッテリ部	2694 6010 320	
	全型式	各ケーブル		作動が重くなったら交換

10. 付表

形　　状	型　式	品　　名	部品コード	備　考
〈しゅう動板スライダ〉 	全型式	スライダ(E12)	2675 0002 850	摩耗時交換
	全型式	しゅう動板 (マエイタ)		
	全型式	ナエタンクローラ	2675 0001 300	
	全型式	フィンガ(14/G)	2694 6000 392	摩耗時または 変形時交換
	全型式	[1]フォーク (ウエコミ) COMP	2694 6029 020	摩耗時交換
		[2]シャフト (フォーク/ウエコミ/Z)	9514 0000 040	
		[3] ウエコミカンシール	9514 0000 050	
		[4]クッション (アーム/PZ)	2694 6029 050	
		[5]ブッシュ (8×18×36)	9514 0000 060	
		[6]クッション	9020 0292 000	

形　　状	型　式	品　　名	部品コード	備　考
	全型式	ローラクラッチ (HF1816)	9573 0000 070	摩耗時交換
	全型式	[1]ガイド (ナエアンナイ/LH/PZ)	2694 6029 060	
		[2]ガイド (ナエアンナイ/RH/PZ)	2694 6029 070	
	全型式	ナエトリイタ	9020 7153 910	

形　　状	型　式	品　名	部品コード	使用個数	備　考
	全型式	ロータ (36/M)	9514 0000 940	9	摩耗時 交換
		ロータ (72/M)	9514 0000 950	30 (W型　34)	

10.7 注文部品一覧表

No.	区 分		形状	SET品名	部品コード	対象型式	参考情報 資 料
1	植付部	植付爪	24回取用	ブンリバリ(PG)	2694 6028 970	全型式	
2			20回取用	ヒロハバブンリバリ(PG)	2694 6028 980	全型式	
3			取付板	ブンリバリトリツケイタ(PG)	2694 6000 350	ブンリバリまたはヒロハバブンリバリとセットでご使用ください	
4			24回取用	フィンガ(13／ G)	2694 6000 322	全型式	
6		苗詰まり防止関係		フォーククリーナ	2694 6000 380	ブンリバリまたはヒロハバブンリバリ装着機	
7				フォーク(OPT)	2694 6034 830	全型式	条数×2個使用
8		グリース		ウエコミカングリス(150G) ASSY	2694 6000 480	全型式	
9		密播苗移植関係 植付爪関係		ヒロハバブンリバリ(PG)	2694 6028 980	全型式	条数×2個使用
10				ブンリバリトリツケイタ(PG)	2694 6000 350		
11		苗詰まり防止関係		フォーク(OPT)	2694 6034 830	全型式	条数×2個使用
12		苗よじれ防止関係		ナエオサエピース	9573 0000 040	全型式	条数×3個使用
13		苗取口関係		スペーサ(トリクチ/16.5×9)	9573 0000 050	全型式	条数×1個使用
14				トリクチ(マルチ/E) COMP	9573 0000 060	全型式	
15		苗取量レバー規制関係		ストッパ(ナエトリチョウセツ)	2694 6012 140	全型式	苗取口と植付爪の干渉防止
16				プラスナベコネジ(SP)	2694 6007 460		
17				サラバネツキナット	9573 0000 030		

No.	区　分	形状	SET品名	部品コード	対象型式	参考情報 資　料
18	前輪　広幅前輪		ヒロハバゼンリン(650/120) SET	9573 0000 120	全型式	
19	除草剤散布機	粒　剤	こまきちゃんR (SCS-100PJ10)	9573 0000 130	W仕様除く	
20	ウエイト		バンパウエイト(16) SET	2694 6003 131	全型式	

11. 著作権について

11.1　著作権について

本製品は、以下のオープンソースソフトウェアを使用しております。

■「Source Han Sans. otf」
Copyright 2014, 2015, 2018 Adobe (http://www.adobe.com/), with Reserved Font Name 'Source'. Source is a trademark of Adobe in the United States and/or other countries.

This Font Software is licensed under the SIL Open Font License, Version 1.1.

This license is copied below, and is also available with a FAQ at:
http://scripts.sil.org/OFL

SIL OPEN FONT LICENSE Version 1.1 - 26 February 2007

PREAMBLE
The goals of the Open Font License (OFL) are to stimulate worldwide development of collaborative font projects, to support the font creation efforts of academic and linguistic communities, and to provide a free and open framework in which fonts may be shared and improved in partnership with others.

The OFL allows the licensed fonts to be used, studied, modified and redistributed freely as long as they are not sold by themselves. The fonts, including any derivative works, can be bundled, embedded, redistributed and/or sold with any software provided that any reserved names are not used by derivative works. The fonts and derivatives, however, cannot be released under any other type of license. The requirement for fonts to remain under this license does not apply to any document created using the fonts or their derivatives.

DEFINITIONS
"Font Software" refers to the set of files released by the Copyright Holder(s) under this license and clearly marked as such. This may include source files, build scripts and documentation.

"Reserved Font Name" refers to any names specified as such after the copyright statement(s).

"Original Version" refers to the collection of Font Software components as distributed by the Copyright Holder(s).

"Modified Version" refers to any derivative made by adding to, deleting, or substituting -- in part or in whole -- any of the components of the Original Version, by changing formats or by porting the Font Software to a new environment.

"Author" refers to any designer, engineer, programmer, technical writer or other person who contributed to the Font Software.

PERMISSION & CONDITIONS
Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Font Software, to use, study, copy, merge, embed, modify, redistribute, and sell modified and unmodified copies of the Font Software, subject to the following conditions:

1) Neither the Font Software nor any of its individual components, in Original or Modified Versions, may be sold by itself.

2) Original or Modified Versions of the Font Software may be bundled, redistributed and/or sold with any software, provided that each copy contains the above copyright notice and this license. These can be included either as stand-alone text files, human-readable headers or in the appropriate machine-readable metadata fields within text or binary files as long as those fields can be easily viewed by the user.

3) No Modified Version of the Font Software may use the Reserved Font Name(s) unless explicit written permission is granted by the corresponding Copyright Holder. This restriction only applies to the primary font name as presented to the users.

4) The name(s) of the Copyright Holder(s) or the Author(s) of the Font Software shall not be used to promote, endorse or advertise any Modified Version, except to acknowledge the contribution(s) of the Copyright Holder(s) and the Author(s) or with their explicit written permission.

5) The Font Software, modified or unmodified, in part or in whole, must be distributed entirely under this license, and must not be distributed under any other license. The requirement for fonts to remain under this license does not apply to any document created using the Font Software.

TERMINATION
This license becomes null and void if any of the above conditions are not met.

DISCLAIMER
THE FONT SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF COPYRIGHT, PATENT, TRADEMARK, OR OTHER RIGHT. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INDIRECT, INCIDENTAL, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE FONT SOFTWARE OR FROM OTHER DEALINGS IN THE FONT SOFTWARE.

純正部品を使いましょう。

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式 _____

機械番号（製造番号） _____

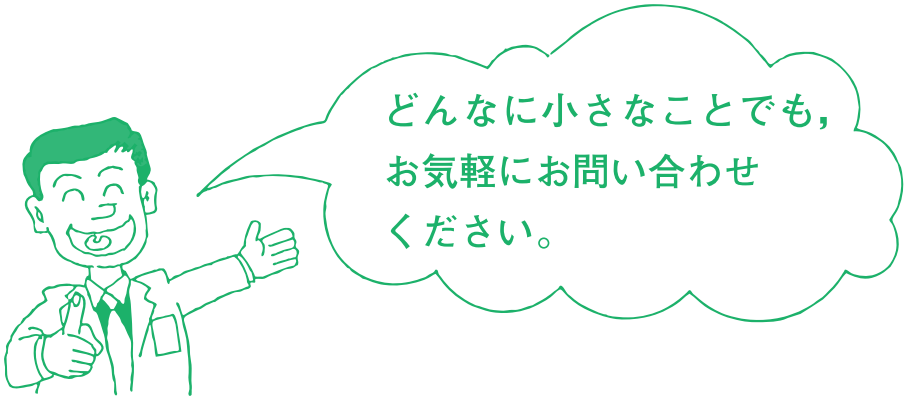
●ご使用状況は…？

（どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

TEL　　（　　）

No.9573 0000 010